種類			警戒管制 乙	警戒管制 甲	空襲管制	遮光條件
漁業用燈類	水中集魚燈	消燈 減光且遮光 一隻合計二〇〇燭以下トスルコト	消燈 減光且遮光 一隻合計一〇〇燭以下トスルコト	消燈 但シ訓練ノ場合ニ於テハ一隻合計五〇燭以下ニ減光且遮光シテ殘置スルコトヲ得	光源ノ下端ヨリ遮光具ノ下端ニ引キタル線ガ光源ノ下方ニ向ヒ且水平面ト二〇度以上ノ角ヲナスコト	
	水上集魚燈				光源ヨリ發スル直射光及水面ヨリノ反射光ガ上空ニ向ハザルコト	
	流網、延縄定置網其ノ他之ニ類スルモノノ標識燈	消燈 減光且遮光 漁具ノ長サ一、〇〇〇米ニ付一燈トシ一燈五燭以下トスルコト	消燈 減光且遮光 漁具ノ長サ一、〇〇〇米ニ付一燈トシ一燈二燭以下トスルコト	消燈	燈器水平ノトキ光源ノ下端ヨリ遮光具ノ下端ニ引キタル線ガ三〇度以上ノ上空ニ向ハザルコト	
作業燈		消燈 減光且遮光 一燈五燭以下トシ一隻合計三〇燭以下トスルコト	消燈 減光且遮光 一燈二燭以下トシ一隻合計一〇燭以下トスルコト	消燈	直射光ガ紫外及上空ニ向ハザルコト	

燈火管制下ニ於ケル漁業用燈類ノ取扱ニ關スル件

（昭和十六年十二月二十九日　防第六二七三號）

各廳府縣長官宛

首題ノ件ニ關シテハ昭和十五年一月十八日付内務省發畫第四號内務次官通牒「漁業用燈類ノ取扱ニ關スル件」及同年一月十九日付第六一六八號内務省計畫局長農林省水産局長通牒「漁業用燈火管制及海上漁船ニ對スル警報傳達一般指導要領ニ關スル件」ニ基キ所要ノ措置ヲ講ゼラレツヽアルコト、存候處防空實施ノ問始後ニ於ケル之ガ狀況ヲ顧ルニ漁業用燈火管制具ノ設備不完全或ハ漁業用燈火管制ニ對スル認識充分ナラザル爲夜間出漁セザルモノ又ハ前記通牒ニ依ル燈火ノ秘匿程度ニテハ操業困難ナル向モアリ爲ニ漁獲高減少ノ傾向ニ有之候條左記ニ依リ措置シ戰時下水産食料ノ確保ニ萬遺憾ナキ樣御配慮相成度此段及通牒候也

記

一、昭和十五年一月十八日付内務省發畫第四號内務次官通牒「漁業用燈類ノ取扱ニ關スル件」及同年一月十九日付第六一六八號内務省計畫局長、農林省水産局長通牒「漁業用燈火管制及海上漁船ニ對スル警報傳達一般指導要領ニ關スル件」ノ趣旨徹底ニ努メ管制用具ノ不備ナルモノニ付テハ急速ニ之ガ整備ヲ促進スルコト

二、前號通牒ニ依ル秘匿程度ニテハ操業困難ナルモノニ付テハ關係海軍當局ト協議ノ上警戒管制甲及乙ノ場合ヲ通ジ集魚燈ニ限リ暫定措置トシテ一隻合計五百燭ヲ限度トシ秘匿程度ヲ緩和スルコト

前項ニ依リ集魚燈ノ秘匿程度ヲ緩和シタルトキハ關係海軍司令官ト連絡シ之ニ因ル燈火管制上及漁獲上ノ影響等ヲ調査スルコト

前二項ノ場合ニ於テハ其ノ結果ヲ内務省防空局長及農林省水産局長ニ報告スルコト

三、防禦海面内ニ於ケル漁業用燈火ノ取扱ニ付テハ個々ニ付關係海軍司令官ト緊密ナル連絡協議ヲ爲スコト

燈火管制規則ノ施行ニ關シ遞信官署、國有鐵道ノ燈火及地方鐵道軌道ノ燈火ノ取扱ニ關スル件

（昭和十三年四月四日　計第二千三百五十四號）

各廳府縣長官宛

燈火管制ノ施行ニ關シ標記ノ件關係省ト協議ノ上左記要領ニ依リ取扱フコトト可致ニ付御了知ノ上指導上萬遺漏ナキヲ期セラレ度

追テ燈火管制ノ性質上國ニ於テ管理スル施設ニ關スル燈火管制ノ取扱ヲ原則的ニ一般民間ノ取扱ト異ニスル趣旨ニアラザルハ勿論ノ義ニ有之規則ノ運用ニ付テハ特ニ留意セラレ度

記

第一

遞信官署ニ關スル事項

一、防空訓練ヲ爲ス場合ニ於ケル燈火管制ノ程度ハ第一號表乃至第七號表ニ依ルヲ原則トスルモ之ニ依リ難キ場合ハ遞信省ニ於テ內務、陸軍、海軍三省ト協議ノ上別ニ定メタルモノニ依リ得ルコト

前項ノ場合ニ於テ訓練上必要アルトキハ遞信局長ハ地方長官及陸、海軍司令官ト協議ノ上實施ノ場合ノ秘匿程度ニ依ルコトアルベキコト

二、防空訓練ニ關シ別ニ定ムルモノ左ノ如シ

郵便遞送、集配用、電報配達用及電信、電話障害修理用ノ自動車燈、自轉車燈、手車燈及携帶燈（其ノ他ノ通信業務上必要ナル携帶燈ヲ含ム）ニシテ防空訓練ノ場合空襲管制ニ於テ特ニ殘置ヲ必要トスルモノハ警戒管制ノ程度ニ於テ之ヲ點燈シ得ルコト

三、前項ニ掲グル燈火ニシテ防空實施ノ場合空襲管制ニ於テ特ニ必要アルモノニ付テハ別ニ定ムル種類、程度ニ於テ之ヲ殘置シ得ルコト

第二

國有鐵道ニ關スル事項

一、左ノ各項ハ國有鐵道ニ關スル規則準用ノ場合ノ例外トスルコト

（一）第一號表中屋外作業燈類ニ含マルル工事用屋外燈警戒管制ノ（甲）ノ「許可ヲ受ケ」ヲ削除スルコト

（二）第三號表中自動車燈類ニ關シテハ省營自動車燈類ノ前照燈等ニ付キ其ノ程度ヲ左記ノ通リ追加スルコト

乙及甲程度ハ自動車燈類ノ前照燈等ト同一ニスルコト

空襲程度ハ「合計二燈以下トシ各燈ハ燈器ヨリ一〇米ノ地點ニ於テ光軸ニ垂直ナル面ニ於ケル最大照度ヲ〇・五「ルクス」以下ニ減光シ且遮光」トスルコト

遮光條件ハ「地表上三〇〇米以上ノ高サヲ有スル何レノ點ヨリモ光源ヲ認メ得ザルコト、但シ警戒管制ノ遮光具ハ空襲管制ノモノヲ用フルコトヲ得」トスルコト

同燈類、尾燈等ノ空襲管制ノ程度ハ自動車燈類ノ同燈甲程度ト同一トシ甲及乙管制ノ程度ハ該燈ノ各々ノ程度ト同一ニスルコト、

尙空襲管制ニ於テ之等ノ消燈ヲ必要トスル場合ニ於テ地方長官又ハ陸海軍司令官ヨリ協議アリタル場合ハ鐵道局長ニ於テ之ニ應ジ得ルコト

（三）第四號表中

1　信號合圖燈類、場內信號機燈等中甲及空襲管制ノ欄ニ於テ「線區ヲ指定シ確認距離八〇〇米以下ニ減光シ且遮光」ヲ追加スルコト、其ノ指定セル線區ハ內務大臣及陸海軍司令官ニ通報スルコト

2　信號合圖燈類、地上標識燈類及車輛標識燈類中遮光條件ノ欄ヲ何レモ「地表上三〇〇米以上ノ高サヲ有スル何レノ點ヨリモ光源又ハ其ノ反射光等一切ノ光ヲ認メ得ザルコト、但シ警戒管制ノ遮光具ハ空襲管制ノモノヲ用フルコトヲ得」ト改ムルコト

3　車輛燈類、車內照明燈中遮光條件ノ欄ニ於テ「特ニ指定スルモノニ限リ」及「其ノ他ハ（イ）ニ同ジ」トアルヲ削除スルコト

同燈空襲管制ノ欄ニ於テ「室ノ廣サ三平方米ニ付〇・一燭光以下ニ減光シ又ハ之ニ準ズル方法」ヲ追加スルコト

4　特殊照明燈類、入換作業用構內照明燈中「許可ヲ受ケ」トアルヲ削除シ「〇・三」トアルヲ「〇・二」ト改ムルコト、尙「協議ノ上被照面ニ於ケル最大照度ヲ〇・三「ルクス」以下ニ減光シ且遮光」ヲ追加スルコト

5　特殊照明燈類、各種詰所屋外燈等及乘降場屋外燈等中「許可ヲ受ケ」トアルヲ削除スルコト

6　特殊照明燈類、屋外各種表示燈中「特ニ指定シタルモノハ」トアルヲ削除スルコト

（四）以上ノ外各表中地方長官ノ許可ヲ要スル事項ハ「官廳防空令ニ依リ本令ヲ準用スル場合ノ取扱」ノ如ク協議ヲ爲スモノトス尙第五號表中埠頭燈類ノ「特ニ指定シタルモノハ」トアルヲ「協議ノ上」トシテ取扱フコト

二、第一號表ノ屋外燈（標識燈類、街路燈類及屋外作業燈類ヲ除ク）ニシテ警戒管制ノ程度ニ秘匿スベキ光ノ種類及其ノ期間ヲ地方長官ニ於テ指定ヲ爲シタルトキハ其ノ旨鐵道局長、大臣官房文書課長及建設、改良、電氣各事務所長ニ通知スルコト

三、特別ノ事情ニ因リ燈火管制規則ノ制限ニ依リ難キ光ニシテ豫メ定メ得ルモノニ付テハ鐵道省ニ於テ內務、陸軍、海軍各省ト協議ノ上之ヲ定ムルコトトシ、豫メ定メ得ザルモノニ付テハ「鐵道局長、大臣官房文書課長及建設、改良、電氣各事務所長」ニ於テ地方長官ト協議ノ上之ヲ定ムルコト

四、特別ノ必要ニ因リ燈火管制規則ノ規定ニ拘ラズ必要最小限度ノ光ヲ使用スル場合ニ於テ其ノ使用ガ「重大ナル事故發生シ又ハ發生ノ虞アル」事由ニ因ルトキハ使用後直チニ陸海軍司令官及所轄警察署長ニ通報スルコト、但シ空襲管制ニ於テハ豫メ協議シタル事項ヲ除クノ外陸海軍司令官ト協議スルコト、其ノ他ノ事由ニ因ル場合ハ所轄警察署長ト協議スルコト

五、警戒管制中甲ノ程度ヲ適用スベキ區域ハ地方長官ニ於テ之ヲ定ムル場合國有鐵道ニ關係アルトキハ鐵道局長ニ協議スルコト

地方長官ニ於テ前項ノ區域ヲ指定シタルトキハ鐵道局長、大臣官房文書課長及建設、改良、電氣各事務所長ニ通報スルコト

六、第一號表、第二號表、第四號表及第五號表中ニ於テ「協議ノ上」特別ノ管制程度ニ依リ得ル場合ニ於ケル當該協議ハ鐵道局長ト地方長官トノ間ニ於テ之ヲ爲スコト、尙此ノ場合ニ於テ陸海軍司令官ニ對スル協議ハ地方長官ニ於テ之ヲ爲スコト

七、防空訓練ヲ爲ス場合ニ於ケル燈火管制ノ程度ハ第一號表乃至第七號表（二項ノ各號ニ依リ改正セラレタルモノ）ニ依ルヲ原則トスルモ之ニ依リ難キ場合ハ鐵道大臣ニ於テ別ニ定メタルモノニ依リ得ルコト

防空訓練ガ內務大臣ノ命ズル訓練ト共同シテ施行スル場合ニ於テ必要アルトキハ協議ノ上防空實施ノ管制程度ニ依ルコト、但シ此ノ場合ニ於テ鐵道局長ノ必要上右ノ何レニモ依リ難キ場合ハ協議ノ上「三項」ノ取扱ヲ爲シ得ルコト

八、防空訓練ニ關シ鐵道大臣ノ別ニ定ムル燈火及其ノ管制程度ハ左記ノ通トスルコト

1　特殊屋外燈類（屋外作業燈類）工事用屋外燈中甲及空襲管制ノ程度ヲ該燈火ノ乙程度ト同一ニスルコト

2　車輛燈類、車内照明燈中空襲管制ノ程度ヲ該燈火ノ甲程度ト同一ニスルコト

3　省營自動車燈類中空襲管制ノ程度ヲ該燈火ノ甲程度ト同一ニスルコト、尙空襲管制ニ於テ該燈火ノ消燈ヲ必要トスル場合ニ於テ地方長官又ハ陸海軍司令官ヨリ協議アリタル場合ハ鐵道局長ニ於テ之ニ應ジ得ルコト

4　點檢燈類中空襲管制ノ程度ヲ該燈火ノ甲程度ト同一ニスルコト

5　特殊屋内燈類（普通屋内燈類）中空襲管制ノ程度ヲ該燈火ノ甲程度ト同一ニスルコト

6　特殊屋外燈類（特殊照明燈類）入換作業用構内照明燈中甲及空襲管制ノ程度ヲ該燈火ノ乙程度ト同一ニスルコト

7　特殊屋外燈類（入換作業用構内照明燈ヲ含マズ）中空襲管制ノ程度ヲ該燈火ノ甲程度ト同一ニスルコト

8　踏切燈類、踏切照明燈中甲及空襲管制ノ程度ヲ該燈火ノ乙程度ト同一ニスルコト

第三

地方鐵道及軌道ニ關スル事項

一、防空訓練ノ場合ニ於テハ規則第五條第二號ヲ適用シ左記ニ依リ取扱フコト

1　左記燈火ハ空襲管制中ト雖運轉上特ニ殘置ヲ必要トスルモノニ付テハ警戒管制ノ甲程度ニ依ルコト

屋外作業燈類中、荷物積卸場屋外燈

車輛燈類中、車内照明燈

點檢燈類中、點檢燈等及巡檢燈

特殊照明燈類中、列車投構内照明燈、入換作業用構内照明燈、乘降場屋外燈等、屋外各種表示燈、出札口屋外燈等

2　踏切燈類中踏切照明燈ニシテ特ニ殘置ヲ必要トスルモノニ付テハ警戒管制ノ甲又ハ空襲管制ニ於テ警戒管制ノ乙程度ニ依ルコト

二、地方鐵道及軌道ノ燈火管制ニ付テハ其ノ運營ニ密接ナル關係アルヲ以テ成ルベク本省土木局及鐵道省監督局ヨリモ係官ヲ現地ニ派遣スルコト

地方長官ハ本省土木局及鐵道省監督局並ニ右係官トモ充分連絡ノ上指導監督ニ當ルコト

燈火管制規則ノ施行ニ關スル國有鐵道ノ燈火取扱ニ關スル件

（昭和十三年六月十一日計第五千百三十二號）

各廳府縣長官宛

四月四日計第二三五四號ヲ以テ燈火管制規則ノ施行ニ關シ運信官署、國有鐵道ノ燈火及地方鐵道軌道ノ燈火ノ取扱ニ關スル件通牒致置候處右通牒第二國有鐵道ニ關スル事項中「一ノ（三）第四號表中1」ノ線區ノ指定ニ關シテハ別紙第一號表ノ通リ指定シタル旨申越有之、「二及五」ノ地方長官ニ於テ通知又ハ協議ヲ受クベキ關係鐵道局長等（大臣官房文書課長トアルヲ鐵道調査部長ニ改ム）ハ別紙第二號表ノ通ニ有之候條御了知相成度

第一號表

場内信號機等ニ對スル線區指定表

1　東海道本線（東京、神戸間）

2　福知山線（神崎・福知山間）

3　北陸本線（米原・直江津間）

4　山陽本線（神戸・下關間）

5　呉線

6　柳井線

7　山陰本線（福知山・米子間）

8　關西本線（名古屋・柘植間、木津湊町間）

9　參宮線

10　草津線

11　東北本線（上野・青森間）

12　常磐線（日暮里・岩沼間）

13　上越線

14　奥羽本線（秋田・青森間）

15　羽越本線（新津・秋田間）

16　信越本線（高崎・新潟間）

17　總武本線（兩國・千葉間）

18　鹿兒島本線（門司・八代間）

19　長崎本線（鳥栖・肥前山口間）

20　日豐本線（小倉・大分間）

21　函館本線（函館・旭川間）

22　室蘭本線（長者部・岩見澤間及室蘭・東室蘭間）

備考　上記線區内ノ連絡驛ニ於テ他ノ線ニ對スル當該信號機燈ヲモ必要ニ應ジ該標準ニナスコトアリ

第二號表

燈火管制規則施行ニ伴フ通知又ハ協議箇所表

府縣名	關係箇所名		
北海道廳	鐵道調査部	札幌鐵道局	北海道建設事務所
東京府	同	東京鐵道局	東京改良事務所
神奈川縣	同	東京鐵道局	名古屋鐵道局
千葉縣	同	東京鐵道局	東京改良事務所
埼玉縣	同	東京鐵道局	東京建設事務所
群馬縣	同	東京鐵道局	東京電氣事務所
栃木縣	同	東京鐵道局	東京建設事務所
茨城縣	同	東京鐵道局	東京建設事務所
福島縣	同	東京鐵道局	仙臺鐵道局
			新潟鐵道局
			東京建設事務所
			長岡建設事務所

宮城縣	鐵道調査部	仙臺鐵道局	新潟鐵道局	盛岡建設事務所
岩手縣	同	仙臺鐵道局	新潟鐵道局	盛岡建設事務所
青森縣	同	新潟鐵道局	秋田建設事務所	秋田建設事務所
秋田縣	同	新潟鐵道局	仙臺鐵道局	秋田建設事務所
山形縣	同	新潟鐵道局	仙臺鐵道局	秋田建設事務所
新潟縣	同	新潟鐵道局	東京鐵道局	長岡建設事務所
長野縣	同	東京鐵道局	新潟鐵道局	東京電氣事務所
山梨縣	同	東京鐵道局	名古屋鐵道局	信濃川電氣事務所
靜岡縣	同	東京鐵道局	名古屋鐵道局	名古屋鐵道局
愛知縣	同	名古屋鐵道局	熱海建設事務所	熱海建設事務所
岐阜縣	同	名古屋鐵道局	岐阜建設事務所	東京電氣事務所
富山縣	同	名古屋鐵道局	新潟鐵道局	
石川縣	同	名古屋鐵道局	長岡建設事務所	長岡建設事務所
福井縣	同	名古屋鐵道局	長岡建設事務所	岐阜建設事務所
滋賀縣	同	名古屋鐵道局	大阪鐵道局	大阪改良事務所
三重縣	同	名古屋鐵道局	大阪鐵道局	岐阜建設事務所
奈良縣	同	大阪鐵道局	岐阜建設事務所	大阪改良事務所
和歌山縣	同	大阪鐵道局	岐阜建設事務所	大阪改良事務所
大阪府	同	大阪鐵道局	大阪改良事務所	大阪改良事務所
京都府	同	大阪鐵道局	名古屋鐵道局	岐阜建設事務所
兵庫縣	同	大阪鐵道局	廣島鐵道局	岡山建設事務所

岡山縣	鐵道調査部	廣島鐵道局	大阪鐵道局	米子建設事務所
鳥取縣	同	大阪鐵道局	廣島鐵道局	米子建設事務所
島根縣	同	大阪鐵道局	廣島鐵道局	米子建設事務所
廣島縣	同	大阪鐵道局	廣島鐵道局	米子建設事務所
山口縣	同	廣島鐵道局	下關改良事務所	山口建設事務所
香川縣	同	廣島鐵道局		
愛媛縣	同	廣島鐵道局	山口建設事務所	
德島縣	同	廣島鐵道局	岡山建設事務所	
高知縣	同	廣島鐵道局	岡山建設事務所	岡山建設事務所
福岡縣	同	門司鐵道局	下關改良事務所	
大分縣	同	門司鐵道局	熊本建設事務所	熊本建設事務所
熊本縣	同	門司鐵道局	熊本建設事務所	
佐賀縣	同	門司鐵道局	熊本建設事務所	
長崎縣	同	門司鐵道局	熊本建設事務所	
宮崎縣	同	門司鐵道局	熊本建設事務所	
鹿兒島縣	同	門司鐵道局	熊本建設事務所	

備考

一、燈火管制規則第四條ノ指定事項及第七條ノ甲ノ程度ヲ適用スベキ區域ヲ地方長官ニ於テ定ムル場合通知スベキ箇所

二、○印ハ警戒管制甲ヲ適用スベキ區域ヲ地方長官ニ於テ定ムル場合ニ協議スベキ箇所

燈火管制ノ訓練ニ關スル告示

（昭和十三年四月九日 逓信省告示第千八十號）

シテハ燈火管制規則第五號表備考ノ規定（警戒管制ノ場合及空襲管制ノ場合ヲ通ジ警戒管制ノ乙ノ程度ニ依ルコト）ヲ適用ス但シ事情ノ許

燈火管制ノ訓練ヲ爲ス場合ニ於テ海上衝突豫防法ニ規定スル船燈ニ關

ス限リ同表本欄ノ規定ニ從フベレ

防空訓練ト燈火管制規則第四條ノ適用ニ關スル件

（昭和十三年六月二十七日 計第五千九百三十七號）

各廳府縣長官宛

燈火管制ノ訓練ニ際シ燈火管制規則第四條ノ規定ヲ適用スルハ防空法第十條第一項ノ規定ニ依リ內務大臣ノ命令ニ基キ防空ノ訓練ヲ爲ス場合ニ限ラルル儀ニ有之爲念

航路標識燈火管制訓練ニ關スル件

（昭和十四年五月十八日 計第八千百八十七號）

警視總監、北海道廳長官、大阪府、福岡縣知事宛

標記ノ件ニ關シ燈臺局長ヨリ別紙寫シノ通照會越有之候條御參考迄ニ此段及通牒候也

（參考）

照會

（昭和十四年五月十日 燈臺甲第一千三百八十四號 燈臺局長通牒）

航路標識燈燈火管制ニ關スル陸軍、海軍、內務、鐵道、遞信省間ニ於ケル協定ニ依リ燈火管制訓練ノ場合ノ航路標識ノ管制ハ當局ヨリ地方長官及地方官廳ニ對シ通牒ヲ可致コトト相成候處航路標識ノ燈火管制ハ航路ノ安寧上船舶ニ對シ事前ニ十分周知徹底スルコトヲ要シ從來ノ實績ニ徴スルニ遲クモ訓練實施約三十日以前ヨリ手配ニ着手セザレバ之ガ完璧ヲ期シ難キ實狀ニ付チハ今後燈火管制ヲ含ム防空訓練ヲ御計畫ノ場合ハ右事情御了承ノ上十分ノ餘裕ヲ以テ訓練要綱ノ御送達ヲ得ル樣可然御配意相煩度得貴意候

航路標識ノ燈火管制ニ關スル件

（昭和十四年十二月十九日 船航第九百九號 遞信次官、內務次官）

各廳府縣長官宛（東京府ヲ除ク）

燈火管制ヲ實施シ又ハ其ノ訓練ヲ爲ス場合ニ於ケル航路標識燈ノ光ノ秘匿ノ程度ニ關シテハ燈火管制規則第五號表中「別ニ指示スル所ニ依ル」旨規定シアル處今般貴管內航路標識ノ燈火管制計畫ニ付チハ別冊ノ通決定致候條右ニ基キ貴管內公設航路標識ノ燈火管制方措置相成度尙右計畫ニ關シ必要ナル設備又ハ資材ノ整備、管制ノ方法其ノ他具體的事項（訓練ノ場合ニ在リテハ管制ノ程度ヲモ併セ）ニ關シテハ爾今直接燈臺局長ニ照會有之度依命及通牒候也

追テ右計畫ハ極秘事項トシ之ヲ各公設航路標識ニ指示セラルルニ際シテハ當該航路標識ノミノ計畫ヲ指示スルニ止メ計畫ノ全貌ヲ指示セザル樣御留意相成度尙別冊ノ通決定後ニ於タル新設並改廢ニ係ル公設航路標識ニ關シテハ直接燈臺局長ト協議相成樣致度

燈火管制規則第十條ニ依ル東部軍司令官ト地方長官及警察署長トノ協議事項改正ノ件

（昭和一六年一二月二六日 東軍參防第七二號）

第一、第一號表、第二號表、第四號表又ハ第五號表ニ依ル許可又ハ指定ハ左記範圍ニ於テ地方長官之ヲ實施シタル後關係陸軍司令官ニ通報スルモノトス

但シ迅速ニ消燈シ得ル施設ノ促進ヲ圖ルモノトス

一、第一號表

1 街路燈類並ニ街路燈類ニ代用スル門軒燈類ニシテ交通又ハ治安維持ノ爲特ニ必要ナルモノハ警戒管制ノ甲ノ程度ヲ適用スヘキ區域ニ於テハ當該燈類ノ制限內ニ於テ之ヲ殘置スルコトヲ得

2 屋外作業燈類ニシテ防空法第三條ニ依リ指定セラレタル防空計畫設定者ノ使用スルモノ並ニ特ニ重要ナル生產ニ關係ヲ有スル事業又ハ施設ニ使用スルモノハ警戒管制ノ甲ノ程度ヲ適用スヘキ區域ニ於テハ當該燈類ノ制限內ニ於テ之ヲ殘置スルコトヲ得但シ當分ノ間作業面ニ於ケル最大照度ヲ〇・六「ルクス」以下ト爲スコトヲ得

二、第二號表

警戒管制ノ乙ノ程度ヲ適用スヘキ區域ニ於テハ漏光制限ヲ許可シ得ルモノハ防空法第三條ニ依リ指定セラレタル防空計畫設定者ノ作業ニ直接必要ナル燈火ノ外特ニ重要ナル生產ニ關係ヲ有スル事業又ハ施設ノ作業ニ直接必要ナル燈火トス

三、第四號表

1 警戒管制ニ於ケル車內照明燈ノ遮光條件ニ關シテハ其ノ都度關係陸軍司令官トノ協議ニ依ル

2 各種諸所屋外燈ニシテ頻繁ニ使用スルモノ並ニ電車柱燈ハ警戒管制ノ甲ノ程度ヲ適用スヘキ區域ニ於テハ當該燈類ノ制限內ニ於テ之ヲ殘置スルコトヲ得

3 特殊照明燈類中入換作業用構內照明燈ハ操車場組成驛ニ限リ警戒管制ニ於テ電壓ヲ六〇「ボルト」ニ又乘降場屋外燈ハ警戒管制ノ甲ノ程度ヲ適用スヘキ區域ニ於テ當該燈火ノ制限內ニ於テ之ヲ殘置スルコトヲ得但シ入換作業用構內照明燈ハ一齊ニ消燈シ得ル設備ヲ有スルモノニ限ル

4 特殊照明燈類中屋外各種表示燈ノ警戒管制ノ甲ノ程度ヲ適用スヘキ區域ニ於ケル指定ニ關シテハ其ノ都度關係陸軍司令官トノ協議ニ依ル

四、第五號表

船舶照明燈類中一般船室外照明燈及起重機ヲ用フル荷役用船室外照明燈並ニ埠頭燈類中埠頭上屋倉庫屋外燈及埠頭起重機外燈ニシテ警戒管制ノ甲ノ程度ヲ適用スヘキ區域ノ港內ニ在ルモノハ當該燈火ノ制限內ニ於テ之ヲ殘置スルコトヲ但シ當分ノ間被照面ニ於ケル最大照度ヲ〇・六「ルクス」以下ト爲スコトヲ得

第二、第四條第一項ノ規定ニ依ル屋外燈ノ指定又ハ其ノ光ヲ秘匿スヘキ期間ニ關シテハ其ノ都度關係陸軍司令官トノ協議ニ依ル

第三、第五條第二號ノ規定ニ依ル左記事項ハ地方長官之ヲ指定シタル後關係陸軍司令官ニ通報スルモノトス

一、關係陸軍司令官ヨリ直接ニ防空警報ノ傳達ヲ受クルモノニ於テ統一的ニ減光又ハ消燈シ得ル街路燈類ハ警戒管制ノ乙ノ程度ヲ適用スヘキ區域ニ於テハ一燈ヲ三燭光以下ニ減光シタル場合之カ遮光ヲ省略スルコトヲ得

二、三馬以上ノ移動式起重機外燈ノ燈火管制ハ警戒管制ノ甲ノ程度ヲ適用スヘキ區域ニ於テハ船舶關係埠頭起重機外燈ノ燈火管制ニ準ス

三、空襲管制ノ場合ニ於テ消防自動車、救急自動車ハ警戒管制ノ乙ノ程度ニ、防空ニ從事スル自動車及警察用自動車ハ警戒管制ノ甲ノ程度ニ燈火管制ヲ實施シ且左記標識ヲ車輛ノ前後ニ附スルモノトス但シ防空ニ從事スル自動車ノ指定數ハ關係陸軍司令官トノ協議ニ依ル

講防自動車	ヘ
救急自動車	ト
防空ニ從事スル自動車	ホ
警察用自動車	〒

四、「警業中」又ハ「警業休止」ヲ標示スルモノハ警戒管制ノ場合ニ於テハ透視距離一〇〇米以下、被照面積〇・二平方米以下トス

第四、空襲管制ノ場合ニ於テ第六條第二號ノ規定ニ依ル許可ハ人命ニ關スルガ如キ特別緊急ナル事故ノ發生セル場合トス

燈火管制規則第十條協議事項認定ノ件通則

（昭和十三年八月一日中部防衛司令部
昭和十三年十一月一日中防參第三百八十四號追加）

第一 方針

一、規則第五條第二號、第六條第二號又ハ第八條ノ規定ニ依リ光ノ秘匿ノ緩和ヲ認ムルハ特ニ必要アル場合ニ限定シ便宜主義ヲ避ケ規則ノ遵行ニ努ムルコト

二、光ノ秘匿ノ緩和ヲ認ムルハ努メテ防空訓練又ハ實施前豫メ陸、海軍司令官ト協議決定シ置クコトトシ訓練又ハ實施ニ際シ之ヲ認ムルハ特ニ已ムヲ得ザル場合ニ限ルコト

三、光ノ秘匿ノ緩和ヲ認ムルハ成ルベク統一方針ニ依ルコトトシ地方的例外ヲ認ムルハ特殊ノ事情アル場合ニ限ルコト

四、防空訓練ノ場合ニ於ケル光ノ秘匿ニ就テハ成ルベク實施ノ場合ト同一方針ヲ堅持スベキモ治安維持上必要ナルモノ又ハ眞ニ緊急已ムヲ得ズト認メタルモノニ就テハ緩和ヲ認ムルコト

第二 規則第五條第二號ノ指定事項

一、實施又ハ訓練ノ場合ヲ通ジ

1、規則第一號表屋外作業燈類中起重機ヲ用フル作業燈火ニシテ特ニ已ムヲ得ザルモノニ就テハ關係者ノ申請ニ依リ規則第五號表埠頭起重機外燈ニ準ジ處置ス

2、規則第三號表自動車燈類中前照燈及普通車輛燈類中自轉車燈ニシテ左記ニ屬スル車輛ノ該燈火ハ空襲管制時消者ニ在リテハ所定ノ記號ヲ附シ警戒管制ノ程度、後者ニ在リテハ總テ警戒管制甲程度ニ於テ點燈スルコトヲ得

但シ實施ノ場合ト訓練ノ場合トハ自ラ其ノ取扱ヲ異ニスルモノトス

イ、防空實施又ハ訓練ノ指導監督並ニ警報傳達等ノ爲府縣市町村ノ使用スル必要最小限度ノ車輛

ロ、其ノ他ノ官公衙ニ屬スル車輛ニシテ緊急業務執行上必要最小限度ノ車輛

3、規則第三號表交通標識燈類及第四號表信號合圖燈類並ニ地上標識燈類中接近標示燈及信號機附隨ノ識別燈ノ光ノ秘匿ハ季節及天候上運轉ニ支障アリト認ムルトキハ日沒後二十分迄ハ平常ノ儘存置スルコトヲ得

4、第四號表車輛燈類中車內照明燈警戒管制（ロ）ノ場合ノ指定ハ其ノ都度陸、海軍司令官トノ協議ニ依ル

5、規則第四號表特殊照明燈類中屋內各種表示燈ニ屬スル信號所「モデル」盤ノ燈火ハ空襲管制時警戒管制程度ニ減光シ且閃口部ノ上部三分ノ二以上ヲ蔽ヒ遮光シタル場合ハ殘置スルコトヲ得

6、商店ニシテ完全ニ隱蔽シタルモノニ限リ警戒管制中下記文字部ヨリ漏光ヲ認ム

（イ）「入口」「營業中」「營業中止」ノ內何レカ一箇所ノ標示ニシテ透視距離五〇米以下被照面〇・一平方米以下タルコト

（ロ）標示位置ハ入口附近トシ空襲管制ニ際シ迅速ニ消燈シ得ルコト

二、訓練ノ場合ニ限リ

1、鐵道、軌道（國有鐵道ヲ除ク）關係ノ左ノ燈火ハ運營上特ニ殘置ヲ必要トスルモノニ限リ空襲管制時警戒管制甲程度ニ於テ殘置スルコトヲ得

イ、規則第一號表屋外作業燈中荷物積卸場屋外燈

ロ、規則第四號表車輛燈類中車內照明燈「（ロ）ノ指定ヲ受ケタル車輛ノ車內照明燈ハ空襲管制時警戒管制甲ノ（ロ）ノ程度ト爲スコト得」

ハ、規則第四號表點檢燈類中點檢燈及巡檢燈

ニ、規則第四號表特殊照明燈類中列車表燈內無蓋燈、入換作業用構內照明燈、乘降場屋外燈、屋外各種標示燈、出札口屋外燈及車輛ノ入換作業ニ必要ナル車庫屋外燈

2、規則第四號表踏切燈類中踏切照明燈ニシテ特ニ殘置ヲ必要トスルモノニ就テハ警戒管制ノ甲及空襲管制ヲ通ジ警戒管制乙ノ程度ト爲スコトヲ得

3、漁火ニ就テハ其ノ都度指定スルモノトス

4、規則第一號表屋外作業燈類ニ屬スル誘蛾燈（警戒管制甲程度ヲ實施スル區域內ニ在ルモノニ限ル）ニシテ迅速ニ消燈シ得ル裝置ヲナセルモノハ警戒管制時ニ限リ乙程度ノ管制ト爲スコト得

5、規則第七號表火焰類ニ就テハ昭和十五年三月末日迄ニ燈火管制ノ施設ヲ完備スルモノトシ關係者ノ申請ニ依リ上記期限迄規則ノ制限ヲ緩和ス

第三 規則第六條第二號ノ許可事項

當分ノ間左ノ場合ニ限定ス

但シ自動車、自轉車ヲ用フル時ノ管制程度ハ第二ノ一ノ(5)ニ同ジ

一、實施及訓練ヲ通ジ左ノ燈火

1、鐵道、軌道、道路、橋梁、堤塘、水道、下水道、電氣工作物又ハ瓦斯工作物ノ損壞ノ應急復舊工作ニ必要ナル燈火

2、動員、徵發上又ハ軍需品輸送上緊急ノ必要アル場合使用スル燈火

3、特ニ重要ナル犯罪捜査ノ爲必要ナル燈火

二、訓練ノ場合ニ限リ左ノ燈火

1、醫師ノ往診ノ爲使用スル自動車又ハ自轉車ノ燈火（來診出迎、患者護送用車輛ヲ含ム）

2、新聞社情報蒐集用及新聞紙運送用自動車ノ燈火

3、第一項(3)以外ノ犯罪捜査ノ爲必要ナル燈火

燈火管制規則第四條ノ管制緩和ニ關スル件

（昭和十三年七月五日
福岡縣防空課長）

照會

青年學校訓練用運動場照明燈ハ特別屋外燈類トシテ準備管制中ナル緩和ノ必要アリト被認ヲ以テ貴官ノ御意見承ハリタシ

回答

（昭和十三年七月五日
內務省防空課長）

緩和ノ必要ノ有無ハ現地ノ實狀ニ依リ陸海軍司令官ト打合ノ上決定セ

ラレ度尙緩和スル場合ハ第四條ノ告示ヨリ除クヲ本則トスルモ場合ニ依リ第五條第二項ヲ適用スルモ支障無シト認ム

標識燈、自動車前照燈ノ記號統一ニ關スル件

（昭和十三年七月十三日 内務省發警第六十一號）

各廳府縣長官宛

燈火管制ノ實施又ハ訓練ヲ爲ス場合ニ於テ標記燈火ノ記號ニ關シテハ本年四月四日内務省發警第二八號通牒ノ次第モ有之候處不取敢左記燈火ニ關シテハ左記各欄ノ記載ニ依リ統一相成樣致度

追テ右以外ノ燈火ニ付之ガ記號ヲ定メタルトキハ其ノ旨報告相成度申添候

各標識燈ノ記號

種類	記號	種類	記號
火災報知機燈	火	警察官署標識燈	警
非常報知機燈	非	消防官署標識燈	消
避難所標識燈	ヒ	消火栓標識燈	消
救護所標識燈	十	障碍注意燈	赤色

自動車前照燈ノ記號

種類	記號	種類	記號
官公署	公	救急	十
警察	警	郵便	〒
消防	消		

燈火管制規則ニ關スル件

（昭和十三年七月二十五日
船航第九百三十五號
遞信省管船局長）

各廳府縣長官宛

船舶ハ昭和十三年四月内務、陸軍、海軍、遞信、鐵道省令第一號燈火管制規則第五號表ノ規定ニ依リ其ノ船燈ヲ海上衝突豫防法ノ規定ニ依ル最少限度ノ光力ニ調節シ又上空ニ對シ遮光スルコトヲ要スル處右ニ付テハ別紙ニ依リ措置スル樣貴管下一般船舶ヘ周知方御取計相成度

（別紙）

燈火管制規則ニ依リ船燈ノ光力調節並ニ上空遮光ニ關スル件

第一　油船燈ニ付テハ其ノ光力大體海上衝突豫防法ニ定ムル最小限度ニ相當スルモノト看做シ得ルヲ以テ平常ノ儘ト爲シ置キ差支ナキコト但シ船舶設備規程第九號表及漁船特殊規定第三號表ノ摘要又ハ備考中ニ示ス上級ノ船燈ヲ使用スル場合、甲種又ハ乙種白燈ヲ以テ船尾燈ニ代用スル場合若ハ別表第一號ニ掲グル乙種檣燈又ハ船尾燈ヲ夫々檣燈又ハ船尾燈トシテ使用スル場合ニ於テハ使用船燈ノ光力ガ海上衝突豫防法ニ定ムル限度ニ比シ餘裕アルコトヲ考慮シ適當ニ蓋ヲ調節スルコト

第二　電氣船ニ付テハ左ノ各號ノ何レカノ方法ヲ採ルコト

（イ）當該電氣船燈ヲ油船燈ニ取換ヘ第一ニ依ルコト

（ロ）電球ヲ海上衝突豫防法ニ定ムル光達距離ニ對スル最小所要燭光數又ハ之ニ相當スル「ワツト」數ノ電球ヲ取換フルコト此ノ場合ニ於テ最小所要燭光數ハ左ノ算式ニ依リ之ヲ算定シ又「ワツト」數ハ燭光數ノ一・二五倍ト看做スコト

$$C = \frac{S^2}{2.5} \times K$$

C ハ求ムル燭光數

S ハ海上衝突豫防法ニ定ムル光達距離（浮標ニテ）

K ハ係數ニシテ下表ニ依ル

船燈ノ種類	K
燈蓋ニ圓筒形硝子ヲ使用シタル紅燈、其ノ他ノ着色燈	10.0
燈蓋ニ圓筒形硝子ヲ使用シタル緑燈其ノ他ノ白色燈	1.0
燈蓋ニ透鏡ヲ使用シタル紅燈其ノ他ノ着色燈	5.0
燈蓋ニ透鏡ヲ使用シタル緑燈	0.5

（ハ）實際ノ燭光數ガ（ロ）ニ依リ算定シタル所要最小燭光數トナル迄使用電壓ヲ減ズルコト此ノ場合ニ於テ所要ノ低減電壓ハ左ノ算式ニ依リ算定スルコト

$$V^{3.6}{}_1 = V^{3.6} \times \frac{C_1}{C}$$

V_1 ハ求ムル低減電壓（ヴォルト）

V ハ使用電球ニ對スル所定ノ電壓（ヴォルト）

C ハ V ニ對スル燭光數

C_1 ハ所要最小燭光數

第三　別表第二號ハ各種電氣船燈ニ於テ使用電球ニ對スル所定ノ電壓ガ一〇〇「ヴォルト」又ハ二二〇「ヴォルト」、「ワツト」數ガ二〇「ワツト」又ハ四〇「ワツト」ナル場合ニ付所要最小燭光數及低減電壓ヲ第二ノ（ロ）及（ハ）ニ依リ算定例示シタルモノニシテ表ニ掲グル條件ニ該當スル電氣船燈ニ付テハ之ニ依リ低減電壓ヲ定メ差支ナキコト尚一般ニ電球ノ燭光數ハ正負一四％程度ノ公差ヲ認メラレ居ルモノナルヲ以テ低減電壓ニ付テモ自然適當ノ斟酌ハ之ヲ承認シ可然モノトス

第四　上空遮光ニ付テハ左記構造ノ遮蔽具ヲ使用スルコト

（イ）遮蔽具ノ外緣ハ燈窓ヨリ前方ヘ甲種鼓燈、甲種檣燈及甲種白燈ニ在リテハ約三〇糎其ノ他ノ船燈ニ在リテハ約一五糎突出シ且ツ燈窓ノ上端ヨリ下方ヘ燈窓ノ三分ノ一迄ヲ掩フ如キ構造ナルコト

（ロ）遮蔽具ハ「ブリキ」又ハ「トタン」類ヲ使用シ全部黑色ニ塗裝スルコト

別表第一號、

製造免許證書番號	製造免許品名	免許製造人
第一〇七四號	乙種檣燈（油用）第二號	合資會社日本燈具製造所
第一一一二五號	同　（油用）第一號	松原與三郎
第一一四一號	同　（油用）第一號	大谷增太郎
第一一六三號	同　（油用）第二號	原善造
第一一六九號	同　（油用）第二號	株式會社本多商店
第一二一四號	同　（油用）第一號	日本船燈株式會社
第一〇七八號	船尾燈（油用）第二號	合資會社日本燈具製造所
第一〇九〇號	同　（油用）第二號	株式會社本多商店
第一〇九四號	同　（油用）第一號	大谷增太郎
第一一二一號	同　（油用）第一號	柴田武司
第一一三九號	同　（油用）第一號	松原與三郎
第一一六六號	同　（油用）第二號	原善造
第一二〇〇號	同　（油用）第一號	日本船燈株式會社

別表第二號

船燈種類	海上衝突豫防法ニ定ムル光達距離（海里）	所要最小燭光數	低減電壓 (A) 圓筒形硝子使用 100V ノ場合	200V ノ場合	(B) 無色透鏡使用 100V ノ場合	220V ノ場合	使用電球
甲種檣燈	5	(A) 10 (B) 5	72 (72.4)	159 (159.3)	60 (59.7)	131 (131.4)	100V—40W 又ハ 200V—40W
乙種檣燈	2	(A) 1.6	53 (52.8)	115 (116)	—	—	100V—20W 又ハ 220V—20W
甲種舷燈	2	(A) 16 (B) 8	83 (82.5)	182 (181.5)	28 (68.4)	150 (149.7)	100V—40W 又ハ 220V—40W
乙種舷燈	1	(A) 4	68 (68.4)	150 (149.7)	—	—	100V—20W 又ハ 220V—20W
船尾燈	1	(A) 0.4	36 (35.9)	79 (79.0)	—	—	100V—20W 又ハ 220V—20W
碇泊燈 甲種白燈	1	(A) 0.4	30 29.6)	65 (65.1)	—	—	100V—40W 又ハ 220V—40W
碇泊燈 乙種白燈	1	(A) 0.4	36 (35.9)	79 (79.0)	—	—	100V—20W 又ハ 220V—20W
紅燈	2	(A) 16	83 (82.5)	182 (181.5)	—	—	100V—40W 又ハ 220V—40W
三色燈	2	(A) 16	83 (82.5)	182 (181.5)	—	—	100V—40W 又ハ 220V—40W
甲種兩色燈	1	(A) 4	68 (68.4)	150 (149.7)	—	—	100V—20W 又ハ 220V—20W

燈火管制規則ニ關ス件

（昭和十三年八月二十日 千五百十八號）

各廳府縣長官宛（東京府ヲ除ク）

標記ノ件ニ關シ別紙ノ通リ照復候條及通牒候

（別紙）

關　會（昭和十三年七月二十六日 書發第一號）

燈火管制規則ニ依レバ鑑匠燈ハ燈火管制規則第一條表庫外作業燈類ノ一種トシ若船庫內燈類ニ比シ殺減セル燈火管制ヲ爲スヤウ規定セラレタルモ一般ニ所謂鑑匠中ニモ天幕、木材等ノ光ヲ透過セザル材料ヲ以テ上屋ヲ設ケ三方ニ壁ヲ圍シ其ノ部分ヨリ內部ノ光ガ外部ニ漏レザル設備ヲ爲ウ設備アルモノアルガ如ク燈火ハ設備內ノ燈火ハ燈火管制ノ趣旨ヨリ考フレバ鑑匠燈ニ非ズシテ若船庫內燈ト認メラレザルノミナラズ若船庫內燈ト解シ給ヘバ鑑匠燈ノ區別モ有ツテ以テ斯ル燈火ハ之後從何分ノ御指示相成度此段素議參考也

回　答（昭和十三年八月 計第五百八號 內務省計畫局長）

昭和十三年七月二十六日附書第七號ヲ以テ素何ニ係ル標記ノ件御質見ノ通リ解シ可給モノト認ム

燈火管制規則ニ關ス件

（昭和十三年八月二十日 計第六百十八號 防空課長）

各廳府縣警察部長宛（警視廳ニ在リテハ警務部長）

標記ノ件ニ關シ別紙ノ通照復候條及通牒候

關　會（昭和十三年十月十日 文第五百八號 內務省防空課長）

通信官署ノ標燈ハ防空ノ實施及關係ニ鑑シ燈火管制規則第六條中第六項ノ新燈ナリヤヤニ付疑義アリタルヲ以テ同標燈ハ大正六年十一月十六日公達第六百六十七號ヲ以テ制定セラレタル通信用通信官署標札標燈指示規程中ニ定メアルモノニ有之尚本文各トシテハ此種ノ燈火ハ標燈指示トシテ取扱ヒ來レル次第モ有之且ツ通信業務ノ性質ヨリ見ルモ尚本通リシテ取扱ノ要アルモノニ付右御合ミノ上御參考中午中午恐縮有之御意見至急御回答相煩度候

回　答（昭和十三年八月二十日 計第六百八號 防空課長）

燈ハ防空ノ實施及關係上必要ナルモノト認メラルルヲ以テ標燈燈類ニ包含セシメ可給ト存候

燈火ノ種別ニ關スル疑義ノ件

（昭和六年十二月二十三日 計第六千四百九號）

各廳府縣長官宛（東京府ヲ除ク）

標記ノ件ニ關シ別紙ノ通照復候條及通牒候

（別紙）

關　會（昭和十三年八月四日 逓第六百十八號 逓信書記長號）

左記燈火ハ燈火管制規則各號表中何レノ種類ニ關スベキヤ疑義有之ニ付何分ノ御同示相煩度此段素何參也

記

一、山間ニ所在スル社寺等所參ニ通ズル參道ノ照明燈

二、警鐘臺上ニ警鐘臺昇降ノ便ニ供スル爲ニ設ケタル照明燈
三、河川中ニ設ケタル漁魚用ノ燈火（船舶ト全ク關係ナキモノ）
四、渡船上兩岸ニ照明及標識ノ用ニ設ケタル燈火
五、公園內ニ在ル住家ニ通ズル道ノ照明ヲ兼ネテ設ケタル公園燈
六、漁港ノ入港スル目標トシテ陸上高所ニ設ケタル燈火
七、街路ノ照明ト裝飾トヲ兼ネタル鈴蘭燈ノ類（從來其ノ一部ヲ街路燈トシテ建設ヲ認メ大部分ヲ裝飾燈トシテ取扱ヒ中ナリ）
八、誘蛾燈、警察燈等田園中ニ設ケタル農業用燈火
九、埠頭棧橋ニ類スル廣場ニ設ケタル照明燈
十、理髮店頭ニ設ケタル紅白燈（アルヘイ燈）
十一、屋上看板ノ照明ヲ兼ネタル門軒燈
十二、文字着色圖畫入リノ門軒燈（單ニ屋號姓名ヲ記載シタルモノヲ除ク）
十三、軒下ニ設ケタル廣告文字圖畫入リノ燈火
十四、門柱ニ取付ケタル廣告裝飾文字着色入リノ燈火
十五、二階三階等ノ軒下ニ設ケ裝飾ヲ主トスル燈火（遊廓ニ其ノ例多シ）

回答

（昭和十三年八月十三日計第六千四百九十三號 內務省計畫局長）

八月四日附警空第六一九號ヲ以テ禀何ニ係ル標記ノ件ハ具體的ノ場合ニ付キ認定スルノ外無キモ概ネ左記ニ依リ取扱フヲ適當ト存候

記

一、街路燈類
二、屋外作業燈類
三、漁業用ノモノハ屋外作業燈類ニ、然ラザルモノハ特別屋外燈類ト解ス
四、航行スル船舶ニ對スル標識用ナルトキハ航路標識燈類ト、渡船所ノ標識用ナルトキハ交通標識燈類ト、單ニ公衆ノ乘降並交通上必要ナル照明用ナルトキハ街路燈類ト解ス
五、特別屋外燈類但シ其ノ證ガ一般交通ノ用ニ供セラルルモノナルトキハ街路燈類ト解ス
六、航路標識燈類
七、通常ハ街路燈類ニ屬スルモ裝飾燈類ト認メラルルモノアルヲ以テ具體的ノ場合ニ付キ判斷スルヲ要ス、情況ニ依リテハ鈴蘭燈ノ數箇ノ內一部ヲ消燈シ街路燈ノ程度ニ殘置スルヲ適當ト認ムル場合アルベシ
八、屋外作業燈類
九、埠頭棧橋ト同樣ナリト認メラルル場合ニハ埠頭燈類ナルモ其ノ他ノ場合ニ於テ一般交通用廣場ノ照明用トシテ街路燈類ニ屬スルモノアルベシ
一〇、廣告看板裝飾燈類
一一、通常ハ看板燈類ニ屬スルモ其ノ使用目的ノ主從關係並程度等ニ依リ具體的ノ場合ニ付キ判斷スルヲ要ス
一二、通常ハ廣告看板裝飾燈類
一三、通常ハ廣告看板裝飾燈類ニ屬スルモ具體的ノ場合ニハ店先燈類ニ屬スルモノアルベシ
一四、廣告看板裝飾燈類
一五、廣告看板裝飾燈類

自動車前照燈ノ記號統一ニ關スル件

（昭和十三年九月七日計第五千百八十三號 各廳府縣長官宛（東京府ヲ除ク））

燈火管制ノ實施又ハ訓練ヲ爲ス場合ニ於ケル宮內、陸軍及海軍各省關係自動車前照燈ノ記號ハ別紙ノ通統一相成候樣通報有之候條御了知相成度

（別紙）

種類	記號	備考
宮內省		
宮家		王公家ヲ含ム
宮內省消防		
陸軍省		統監部、憲兵等ヲ明ニスル必要アル場合ハ標識ヲ適宜前窓ニ貼布ス
海軍省		黑地ニ紫色錨トシ錨ノ大キサハ前照燈ノ大キサニ應ジ適宜トス

燈火管制規則中街路燈類ノ取扱ニ關スル件

（昭和十四年九月十四日
計第五千四百七十號）

各廳府縣長官宛（東京府ヲ除ク）

標記ノ件ニ關シ別紙ノ通リ照復候條及通報候

照　會（昭和十四年六月八日
四防第百六十號京都府警察部長）

管下京都市ニ於ケル路面電車ニ附帶セル電車柱燈（燈火管制規則第一號表街路燈類中街路照明ヲ兼ヌル電車柱燈）ノ警戒管制時ノ殘置ニ就テハ昨年第三次防空訓練時ノ實績ニ鑑ミ將來燈火管制規則第五條第二號ニ依リ左ノ如ク指定シ統一的ノ減光並ニ遮光ニ必要ナル恒久的設備ヲ爲サシメ度存候處右減光程度及遮光條件ノ決定ニ付テハ他都市トノ關係モ有之何分ノ御指示仰度

右及禀伺候也

一、減光程度　街路面百平方米ニ付一燭光以内且一燈五燭光以下

二、遮光條件　規則ノ二〇度ヲ五度トシ燈器及遮光具ヲ電柱ニ固定セルモノ

三、統一的ニ減光又ハ消燈ヲ爲シ得ルモノ

回　答（昭和十四年九月十四日
計第五千四百七十號
内務省計畫局長）

本年六月八日附四防第一六〇號ヲ以テ禀伺ニ係ル標記ノ件警戒管制乙ノ程度ヲ適用スベキ地域内ノ街路燈類ハ左記（一）ノ條件ヲ具備スルニ於テハ燈火管制規則第五條第二號ノ規定ニ依リ左記（二）ノ通リ遮光條件ヲ緩和シ可然モノト被認候ニ就テハ燈火管制規則第十條ノ規定ニ依リ關係陸海軍司令官ト協議ノ上適當措置相成度

追テ本件ハ陸海軍省ト協議濟ニ有之

記

（一）構造設備

1　燈器ヲ支持物ニ堅固ニ取付クルコト

2　統一的ニ減光又ハ消燈シ得ルコト

（二）遮光條件

光源ヨリ直接發スル射光ガ水平以上ノ上空ニ向ハザルコト

警戒管制中ニ於ケル屋内燈ノ反射光制限ニ關スル件

（昭和十四年十一月十五日
計第六千七百五十五號内）

各廳府縣長官宛（東京府ヲ除ク）

標記ノ件ニ關シ別紙ノ通照復候條及通報候

照　會（昭和十四年十一月四日
十四警防發第四八五號
福島縣知事）

防空訓練ノ實驗ニ徴シ屋内ノ燈火特ニ商店等ニ於テ室ノ廣サト燭光ノ關係ニ於テ法規上支障ナキモ室内ノ照明ヲ有效ナラシムル目的ヲ以テ遮光具ノ内面ヲ銀白色ニシ或ハ室内ニ陳列シタル「ガラス」器鏡等ニ依リ强烈ナル反射光ノ外部ニ出ヅル向モ有之此等ハ燈火管制規則ノ目的ヨリシテ適當ナラザルモノト認メ鏡面ニ映寫シタル電光ノ外部ヨリ直視セラルルモノ等ニ付テハ夫々警告ヲ與ヘ居ル次第ニ有之候ヘ共該反射光ノ外部ニ洩ルノ照度（ルクス）ニ關シ如何ニ指導スベキヤ何分ノ御回示相煩度此段禀申候也

回　答（昭和十四年十一月十五日
計第六千七百五十五號
内務省計畫局長）

本月四日附十四警防發第四八五號ヲ以テ禀伺ニ係ル標記ノ件室内ノ照明ヲ有效ナラシムル爲遮光具ノ内面ヲ銀白色トシタルモノ及單ナル硝子等ノ反射光ハ支障無之モ鏡面及之ト同樣ノ反射面ニシテ强烈ナル反射光ヲ外部ヘ洩スガ如キモノニ對シテハ覆ヲ用ヒシムル等適宜指導相成度

警戒管制中ニ於ケル氣象特報暴風警報等ノ取扱ニ關スル件

（昭和十四年十一月二十二日
計第七千四百四十八號）

各廳府縣長官宛（大阪府ヲ除ク）

標記ノ件ニ關シ別紙ノ通リ照復候條及通報候也

（別紙）

照　會（昭和十三年十一月十日
防親第千六百九十二號
大阪府知事）

大阪府立測候所天氣豫報、氣象特報、暴風警報規定（昭和十年九月大阪府告示第六三五號）ニ依リ府下沿岸碇泊又ハ航行中ノ船舶ニ對シ氣象特報暴風警報ヲ周知セシムル爲紅燈二個ヲ以テ夜間信號トナシ氣象特報及暴風警報ノ發セラレタルトキヨリ其ノ解除セラルヽ迄終夜之ヲ揭揚スルコトト相成居候處燈火管制規則各號表中明確ナル規定ナキ爲メ從來ノ訓練ニ於テハ警戒管制中ハ暴風警報發セラルヽモ該信號ハ之ヲ揭揚セシメザルコトニ指示致居候得共斯クテハ長期ニ亘ル防空實施ニ際シ警戒管制中夜間航行中ノ船舶ニ對シ暴風襲來災害大ナラントスルコトヲ周知セシムルノ方途無之暴風警報周知上支障尠カラズ、然シテ右暴風警報信號ハ燈火管制規則第一號表ノ標識燈類中其ノ他之ニ類スル燈火ニ屬スルモノトモ解セラルヽモ、然ルトキハ減光程度嚴ニ過ギ該信號燈點出ノ目的ヲ達成シ得ザルヲ以テ同規則第五條第二號ノ規定ニ依リ特別ノ事情ニ因リ必要アリト認メ地方長官ガ指定スルニ於テハ透視距離ヲ制限セズ揭揚セシムルモ支障ナキヤ聊カ疑義相生ジ候條何分ノ御指示相煩度此段及照會候也

尙當府下沿岸ニ於テハ該信號燈十二ケ所ニ常置セルモノニシテ防空訓練ニ際シ該信號燈ヲ利用シ紅燈三個ヲ以テ夜間沿岸航行中ノ船舶漁船ニ對シ空襲警報傳達ノ爲メ之ヲ十回以上點滅後消燈致シ居ルモノニ付爲念申添候

同　答（昭和十四年十一月二十二日
計第七千四百四十八號
内務省計畫局長）

十一月十日附防親第一六九二號ヲ以テ御照會ニ係ル標記ノ信號燈ハ燈火管制規則第一號表中ノ特別屋外燈類ニ應スルモ點燈ノ必要アリト認メラルヽニ於テハ同規則第五條第二號ニヨリ指定相成可然ト存ジ候尙之ガ光度ハ貴官ニ於テ可然御取計相成度

船舶關係燈類中疑義ニ關スル件

（昭和十七年一月三十一日
防第三一一號）

各廳府縣長官宛（北海道ヲ除ク）

標記ノ件ニ關シ別紙ノ通照復候條及通報候

照　會（昭和十六年十二月二十九日
北海道廳長官
區警防秘第五八四號）

標記ノ件ニ關シ左記ノ通疑義相生ジ候條至急何分ノ御回示相煩度此段及禀義候也

記

一、町村設置ニ係ル埠頭（船入潤内）ノ船舶發着處ニ設置セル燈火ニシテ外方ニ投光シ出入ノ船舶（主トシテ漁船）ニ對シ埠頭ノ所在ヲ示シ且又一面埠頭面ヲ照明シ之等船舶ノ乘降並ニ荷捌等ノ便ヲ圖リツツ

アル燈火ハ規則第一號表屋外作業燈類中ノ「作業ニ必要ナル屋外燈火」ナルヤ又第五號表埠頭標識燈類中ノ「其ノ他之ニ類スル燈火」ト解スベキヤ

二、船入潤ノ防波堤突端ニ設置セル（町村設置ニシテ漁船ノ出入ノ目標タラシムル）燈火ハ規則第五號表航路關係燈類中ノ「航路標燈ニ類スル燈火」ナルヤ又同表埠頭標燈類中ノ「波除堤突端標識燈」ナルヤ

問　答

（昭和十七年一月三十一日　防第三一一號　內務省防空局長）

昭和十六年十二月二十九日己警防祕第五八四號ヲ以テ標何ニ係ル標記ノ件左記ニ依リ取扱相成度此段及回答候

記

一、第五號表埠頭標識燈類中ノ「其ノ他之ニ類スル燈火」ト解ス

二、第五號表航路關係燈類中ノ「航路標識燈ニ類スル燈火」ト解ス

消　防

特設消防署及警防團ノ用ニ供スル大型自動車消防ポンプ、小型手輕消防ガソリンポンプ、小型腕用消防ポンプ及附屬器具類ノ規格ニ關スル件

（昭和十六年十月二日内務省發警第六七號）

各廳府縣長官宛

昭和十六年十月二日内務省告示第五百五十五號ヲ以テ標記規格制定相成候處之ガ實施ニ關シテハ概ネ左記ニ準據シ御處理相成度

追テ隣組ノ用ニ供スル小型腕用消防ポンプ及之ガ附屬器具類ニ在リテモ標記規格ニ據ラシムル樣御配意相煩度爲念

記

一　本規格ノ實施ハ現下ノ情勢ニ鑑ミ特ニ緊要ナルモノヲ以テ今後製造ニ着手スベキ此ノ種消防ポンプハ總テ本規格ニ據ラシムベキモノナルモ現ニ製造中ニ係ルモノニシテ設計變更ノ不可能ノモノ又ハ之ガ爲ニ多額ノ費用若ハ材料ヲ要スルモノ等ニ付テハ必要ノ限度ニ於テ可然緩和スルモ差支ヘナキコト

二　特設消防署及警防團ニ於テ現ニ使用シツツアル此ノ種消防ポンプニ在リテモ本規格ニ合致セザルモノハ非常應援等ノ場合ヲ考慮シ相互ニ水管ヲ連結シ又ハポンプノ中繼送水ヲ可能ナラシメ得ル樣成ルベク異形媒介金具（規格別記第五十六圖參照）ヲ設備セシムルコト

三　此ノ種消防ポンプニシテ今後資材、用途其ノ他ノ關係等ヨリシテ本規格ニ據リ難キ事情ヲ生ジタル場合ハ豫メ禀議スルコト

四　本規格ノ實施ニ當リテハ必要ニ依リ更ニ細部ノ規準ヲ設ケラルルモ差支ヘナキコト

C内務省告示第五百五十五號

警視廳官制及特設消防署規程ニ依リ設置スル消防署及警防團ノ用ニ供スル大型自動車消防ポンプ、小型手輕消防ガソリンポンプ、小型腕用消防ポンプ及附屬器具類ノ規格別冊ノ通之ヲ定ム

昭和十六年十月二日

内務大臣　田邊治通

（別冊）

大型自動車消防ポンプ、小型手輕ガソリンポンプ、小型腕用消防ポンプ及附屬器具類ノ規格

第一章　大型自動車消防「ポンプ」

第一條　大型自動車消防「ポンプ」ノ車輛ノ構造裝置ハ左ニ依ルモノトス

一　「ボデー」ノ構造ハ左ニ依ルコト

イ　「ボデー」ハ鋼板ヲ以テ箱形ニ組ミ上部周邊ハ平鋼ヲ以テ緣付シ下部内側ニハ山形鋼ヲ附シ「ボデー」ヲ緊著シ上緣ニハ筒管製手摺ヲ附ス（別記第一圖、第二圖、第三圖）

ロ　「ボデー」ノ内部ハ手輕水管車一輛及水管（内徑六三粍、長二〇米）二〇本以上ノ積載裝置トス

ハ　手輕水管車ノ積卸裝置ハ引出「レール」（壓延溝形鋼又ハ溝形鋼ニシテ溝深二五粍以上）式トス（別記第四圖、第五圖）

ニ　後部「ステップ」ハ路面ヨリ四〇〇粍以上ノ間隔ヲ保チ得ル樣裝置ス

二　「ボデー」ノ左側ニハ吸管一本及小吸管一本右側ニハ梯子一脚及吸管一本ノ積載裝置ヲ設クルコト

三　吸管掛ノ内側ハ「フェルト」張トシ且其ノ構造ハ別記第六圖、第七圖及第八圖ニ依ルコト

四　運轉座席ハ良質ノ「レザークロース」張一列三人掛トシ且前方ニ倒シ得ル構造トスルコト

五　車輛ニハ左ノ設備ヲ施スコト

イ　運轉座席ノ前面ニハ「ウキンドグラス」ヲ裝置シ且之ニ「ウキンドクリーナー」二箇及方向指示器左右各一箇ヲ備フ

ロ　操作ニ便ナル位置ニ「サイレン」（一五〇粍以上）一箇及警鈴一箇ヲ取付ク（別記第九圖）

ハ　適當ナル箇所ニ探照燈（直徑二〇〇粍、五〇「ワット」電球使用）一箇及「ポンプ」用計器照明燈二箇ヲ取付ク（別記第十圖）

ニ　點檢用電燈ノ接續口ヲ「ダツシュボート」ニ設ク

ホ　外部ハ完全ナル防銹ヲ施シ赤色「ラツカー」仕上トシ「ポンネット」ニハ「ポンプ」所屬ヲ表ハス文字ヲ記入ス

第二條　原動機ハ水冷式四「サイクル」「ガソリン」機關ニシテ「シリンダー」ノ容積ハ三三〇〇立方糎以上トシ其ノ構造ハ左ニ依ルモノトス

一　蓄電池ノ取付位置ハ原動機ノ熱ニ依リ過熱セラレザル箇所ニシテ且點檢、手入、著脱ニ容易ナル場所トスルコト

二　氣化器ハ原動機ト同一ノ製作所ニ於テ製作又ハ設計シタルモノヲ取付クルコトトシ且「ガソリンタンク」ノ下部ニハ「コツク」ヲ附スルコト

三　「ポンプ」運轉用「絞てこ」ハ車體ノ兩側「ポンプ」用計器ノ附近ニ振動ニ依リ移動セザル樣裝置スルコト（別記第十一圖）

四　「ポンプ」運轉用冷却裝置ハ外徑一〇粍以上ノ筒管ヲ以テ「ポンプ」放水管ヨリ「シリンダー」水套部ニ送リ其ノ送水量ヲ調節スル爲別記第十二圖ニ依ル特殊構造ノ止栓（一〇粍）ヲ設クルコト

五　排水管ハ外徑二〇粍ノ筒管ヲ使用シ捨水用「ゴムホース」一米以上ヲ附スルコト

六　「クランク」室「モビールオイル」ノ冷却ニハ任意主「ポンプ」ヨリ冷却水ヲ送水シ「クランク」室内ノ蛇管ヲ通ジ冷却セシメ得ル裝置ヲ爲スコト

第三條　「ポンプ」ハ二段式「バランスタービンポンプ」トシ（放水量ハ「ポンプ」壓力八・四瓩毎平方糎ニ於テ毎分一六〇〇立以上）其ノ構造ハ左ニ依ルモノトス（別記第十三圖）

一　「タービンポンプ」ノ羽根車及「ブツシュ」ハ青銅鑄物第三種、「ガイドベーン」ハ鑄鐵鑄物第三種、眞空「ポンプ」ノ外筐ハ青銅鑄物第二種、廻轉體及「ブレード」ハ青銅鑄物第三種又ハ之ト同等以上ノ材料タルコト

二　「タービンポンプ」ノ吐水部ト放水管トノ間ニ逆止栓ヲ設クルコト（別記第十三圖）

三　眞空「ポンプ」ハ自働式ノモノ（「クラツチ」ヲ設ケ眞空作用完了シタルトキハ眞空「ポンプ」ノ廻轉ヲ自働的ニ停止スルモノ）一箇及機關ノ排氣「ガス」ニ依ル補助眞空裝置（最高眞空度ハ附屬吸管全部ヲ結合シテ一分以内ニ於テ水銀柱五〇〇粍以上トス）一箇ヲ備フルコト（別記第十四圖、第十五圖）

四　自働式眞空「ポンプ」ハ最高眞空度ハ附屬吸管全部ヲ結合シテ水銀柱六八〇粍以上トス）毎分一二〇〇回轉以下ニ於テ第五條所定ノ眞空度ヲ作製シ得ル構造（「絞てこ」ニ其ノ位置ヲ明示ス）トスルコト

五　自働式眞空「ポンプ」用油槽ノ容量ハ一立入トシ外徑一〇粍ノ筒管ヲ通ジ眞空「ポンプ」ノ吸引ニ依リ供給スル裝置トスルコト（別記第十四圖）

六　「ポンプ」外筐ハ鑄鐵鑄物第三種又ハ之ト同等以上ノ材料ヲ以テ製作シタルモノナルコト

七　「ポンプ」部ニ屬スル動力ノ傳導軸ハ總テ肌焼鋼第七種又ハ之ト同等以上ノ材料タルト共ニ「ポンプ」軸ト水ト接觸スル部分ハ水ニ依リ腐蝕セザル材料ヲ以テ包覆スルコト

八　「ポンプ」ノ動力傳導用ノ齒車ハ「ニツケルクローム」鋼（含分ノ間肌焼鋼第七種ヲ以テ之ニ代フルコトヲ得）ヲ使用シ且齒車ハ總テ齒切ノ後適當ナル熱處理ヲ施シタルモノナルコト

九　「ポンプ」部ニ屬スル動力傳導裝置ハ總テ別記第十六圖、第十七圖及第十八圖ニ依ルコト

十　「ポンプ」吸口（内徑一〇〇粍、接合部ハ「雄ねぢ」トス）ハ二箇トシ覆冠（連結送水ヲ可能ナラシムル爲覆冠ニハ小吸管ノ結合孔ヲ設ケ更ニ小覆冠ヲ備フ）ヲ附スルコト（別記第十九圖）

十一　「ポンプ」放口　開閉九〇度ノ「コツク」ヲ附ス）ハ水管内徑六三粍（二吋二分ノ一）用「雄ねぢ」式ノモノトシ之ニ雄三鈎式媒介金具ヲ裝置スルコト（別記第二十圖）

十二　放口ノ途中ニ徑二〇粍ノ蛇口（「コツク」附）ヲ附シ「ゴムホース」三米ヲ附屬セシムルコト

十三　「バルブ」、「コツク」、「ハンドル」、「レバー」及計器類ニハ各其ノ名稱及開閉又ハ調整ノ記號ヲ明示スルコト（別記第二十一圖）

十四　管鉤、替口、水管接手ノ形狀、寸法ハ別記第二十二圖ニ依ルコト

十五　「ポンプ」各段下部ニハ口徑一〇粍以上ノ排水「コツク」ヲ附シ其ノ開閉ハ「ポンプ」動力ノ切替操作ニ聯關セシムルコト（別記第二十三圖）

十六　吸管ハ内徑一〇〇粍、全長八・二米（長五・一五米ノモノ一本、長三・〇五米ノモノ一本）トシ「ねぢ」式接手ト「ゴム」部トハ「エキスパンダー」ニ依リ緊著シ且「ゴム」部ハ埋線式優良品トスルコト（別記第二十四圖）

十七　小吸管ハ内徑六三粍、長三米ノモノ一本トシ雄雌ねじ式接手ト「ゴム」部（埋線式優良品トス）ノ取付ハ外卷ニ依ル緊著法タルコト（別記第二十五圖）

十八　「ポンプ」壓力計ハ徑一〇〇粍目盛二〇瓩毎平方糎（封度目盛併記ノコト）ノモノ二箇トシ「パイプ」ノ取付口ハ吐水部ノ近クニ設クルコト

十九　「ポンプ」聯成計ハ徑一〇〇粍、壓力目盛五瓩毎平方糎、眞空目盛七六糎（吋目盛併記ノコト）ノモノ二箇トシ「パイプ」ノ取付口ハ吸口ノ近クニ設クルコト

二十　「ポンプ」壓力計及聯成計ハ運轉中見易キ場所ニ取付ケ「ポンプ」ト計器トヲ連結スル「パイプ」ニハ水勾配ヲ附シ「パイプ」内ニ殘留水ヲ殘サザル樣取付クルコト

二十一　各「ポンプ」計器ノ直下ニハ「コツク」及振止用針栓ヲ設クルコト（別記第二十六圖）

第四條　大型自動車消防「ポンプ」ニハ左ノ物品ヲ常備スルモノトス但シ第二項備品及豫備裝置ニ付テハ土地ノ狀況其ノ他必要ニ要ジ備付クモノトス

一　附屬品　管鉤二本（別記第二十二圖）、替口「スムースノグル」五箇（二二粍以上二箇、二〇粍（四分ノ三吋）二箇、一五粍（八分ノ五吋）一箇）（別記第二十二圖）、塵除一箇（別記第二十四圖）、篠籠一箇（別記第二十四圖）、二聯成木製梯子一脚（別記第二十七圖）、手繞水管車一輛（別記第二十八圖）、長柄鉤（柄ハ樫材トス）一本（別記第二十九圖）、長柄斧口（柄ハ樫材トス）二本（別記第二十九圖）、

斧(柄ハ樫材トス)一箇(別記第二十九圖)、金挺子一箇(別記第二十九圖)、吸管枕木一箇(別記第二十九圖)、麻綱(麻製徑一六粍、長一五米)一本、點檢用移動燈(コード三米附)一箇、手提「ランプ」(ナショナル型)二箇、消火器(四塩化炭素二立入(一箇、市火栓用具一揃、水管結合金具(内徑六三粍水管用、別記第五十八圖)一五組、同上口卷用鐵線(一六番手、二二五瓦)一五本分、銅鋲六〇本

二 附屬工具 自動車附屬工具一揃(「ポンプ」附屬工具一揃(長二〇〇粍「モンキレンチ」)一箇、主「ポンプグランドスパナー」)一箇、「ガソリン」漏斗(飾目〇・二五粍、針金直徑〇・一六粍ノ眞鍮濾網附)一箇

三 豫備品 「タイヤー」(「チューブ」、「リム」ヲ含ム)一組、點火栓四箇、「ポンプグランドパッキン」一組、水管用「パッキン」五箇、吸管用革「パッキン」三箇

四 第二豫備品、豫備裝置 「タイヤーチェーン」一組、「ラヂエーターカバー」一枚、「モビール」油(一「ガロン」入)一罐、極寒地用保温裝置一組

第五條 大型自動車消防「ポンプ」ノ試驗ハ左ニ依リ之ヲ行フモノトス

一 「ポンプ」放水能力試驗ハ眞空度試驗、放水量試驗及高壓放水試驗ノ三種トシ左ニ依ルコト

イ 眞空度試驗ハ附屬吸管全部ヲ結合シテ四五秒以内ニ於テ水銀柱六八〇粍以上トス

ロ 放水量試驗ハ「ポンプ」壓力八・四瓩毎平方糎ニ於テ放水量毎分一六〇〇立以上タルモノニシテ放水量測定後同上ノ壓力及放水量ニ於テ一五分間連續放水ヲ行フ

ハ 高壓放水試驗ハ「ポンプ」壓力一四瓩毎平方糎以上ニ於テ放水量毎分五三〇立以上タルモノニシテ放水量及壓力測定後同上ノ壓力及放水量ニ於テ二〇分間連續放水ヲ行フ

二 放水量試驗及高壓放水試驗ニ於テハ「ポンプ」放口ニ試驗用管鎗ヲ直結シ其ノ先端ニ附セル試驗用替口ノ口徑及管鎗壓力ニ依リ左式ヲ用ヒ放水量ヲ定ムルコト

$$Q=0.653\,D^2\sqrt{P}$$

Qハ毎分放水量(立)

Dハ替口口徑(粍)

Pハ管鎗壓力(毎平方糎瓩)

三 放水量試驗及高壓放水量試驗ニ於テハ吸水側ニ吸管ヲ附シ吸水高(水面ト「ポンプ」中心トノ垂直距離ヲ以テ測定ス)ヲ二・五米以上五米以内トスルコト

四 原動機「シリンダー」ノ壓縮壓力試驗ハ放水能力試驗終了後「シリンダー」ノ點火栓孔ニ壓縮壓力計ヲ裝著シタル上箇々ニ其ノ壓力ヲ測定シ各「シリンダー」ノ壓縮壓力ハ均等ニシテ其ノ差〇・七瓩毎平方糎未滿タルコト

第二章 小型手曳消防「ガソリンポンプ」

第六條 小型手曳消防「ガソリンポンプ」ノ車輛ノ構造ハ左ニ依ルモノトス

一 車輛ハ溝型鋼(五×三・五×三・三粍)製トシ全長一八〇〇粍前方ニ筒管製轅木及木製管鎗立二本ヲ附スルコト(別記第三十圖)

二 原動機部ニハ鋼板製「ボンネット」ヲ設クルコト(別記第三十一圖)

三 原動機部ト「ポンプ」部トノ間ニハ鋼板製隔板ヲ設クルコト

四 車輪ハ外徑六六糎、輻五糎ノモノ二箇ヲ備ヘ二輪間ノ中心距離八六糎トスルコト(別記第三十二圖)

五 車輪材料「ハブ」ハ砲車型轉子入トシ「リム」ハ樺材「スポーク」ハ樫材ヲ用ヒ(其ノ數一二本)輪帶ハ帶鋼トスルコト(別記第三十二圖)

六 車軸ハ軟鋼製丸形或ハ角形トシ丸形ノ場合ハ徑四四粍、角形ノ場合ハ三八粍角トスルコト(別記第三十二圖)

七 發條ハ半楕圓形ニシテ堅牢ナルモノタルコト(記別第三十一圖)

八 車輪ニハ制動裝置ヲ設クルコト(別記第三十圖、第三十一圖)

九 支柱ハ内徑三二粍筒管製トシ前部一本後部二本トスルコト

十 道具箱ヲ別記第三十一圖及第三十三圖ノ如ク取付クルコト

十一 吸管掛ノ内側ハ「フェルト」張トシ且其ノ構造ハ別記第三十四圖ニ依ルコト

十二 「ガソリン」槽ノ構造裝置ハ左ニ依ルコト(別記第三十五圖)

イ 容量一八立ニシテ堅牢ナル美裝鋼板(厚サ〇・四粍)製トシ内面ニハ銹止ヲ施ス

ロ 槽ノ下部ニ塵除ケ付「コック」及側面ニ「ガソリン」量ノ測定用指尺ヲ附ス

ハ 槽ノ表面ニハ「容量一八立運轉時間約三時間」ノ文字ヲ記入ス

ニ 槽ノ取付位置ハ「ポンプ」部ノ上部トス

十三 水管ノ積載裝置ハ「ポンプ」部ノ上部ニ設ケ其ノ積載能力ハ内徑六三粍、長二〇米ノ水管五本タルコト(別記第三十一圖)

十四 彝報裝置ハ手廻シ「サイレン」(別記第三十六圖)トシ別記第三十圖ノ位置ニ取付クルコト

十五 外部ハ完全ナル防銹ヲ施シ赤色「ラッカー」仕上トシ「ボンネット」ニハ「ポンプ」所屬ヲ表ハス文字ヲ記入スルコト

第七條 原動機ハ水冷式四「サイクル」「ガソリン」機關ニシテ「シリンダー」(四氣筒)ノ容積ハ七五〇立方糎内外トシ其ノ構造ハ左ニ依ルモノトス

一 點火裝置ハ蓄電池點火法又ハ「マグネトー」點火法ヲ採用スルコト但シ「マグネトー」點火法ヲ採用シタル場合ニ在リテハ「インパルススターター」ヲ附スルコト(別記第三十七圖)

二 點火裝置ハ原動機ノ熱ニ依リ過熱セザル樣取付クルコト

三 氧化器ハ原動機ト同一製作所ニ於テ製作又ハ設計シタルモノヲ取付クルコト

四 點火「レバー」及「絞てこ」ハ同一箇所ニ於テ容易ニ動カシ得且振動ニ依リ移動セザルモノタルコト(別記第三十八圖)

五 冷却裝置ハ外徑一〇粍以上ノ筒管ヲ以テ「ポンプ」放水管ヨリ「シリンダー」水套部ニ送リ其ノ送水量ヲ調節スル爲別記第三十九圖ニ示サレタル特殊構造ノ止栓(一〇粍)ヲ設クルコト

六 始動裝置ハ蓄電池點火法ニ在リテハ始動釦及手動把手ヲ、「マグネトー」點火法ニ在リテハ手動把手ヲ設ケ手動把手操部ニハ筒管ヲ嵌入スルコト(別記第四十圖)

七 動力ノ傳導裝置ハ「インターナルギヤ」ニ依リ接續スルコト(別記第四十一圖)

第八條 「ポンプ」ハ二段式「バランスタービンポンプ」トシ(放水量ハ「ポンプ」壓力五・六瓩毎平方糎ニ於テ毎分四五〇立以上)其ノ構造ハ左ニ依ルモノトス(別記第四十二圖、第四十三圖)

一 「タービンポンプ」ノ吐水部ト放水管トノ間ニ逆止栓ヲ設クルコト

二 眞空「ポンプ」ハ自働式ノモノ(「クラッチ」ヲ設ケ眞空作用完了シタルトキ眞空「ポンプ」ノ廻轉ヲ自働的ニ停止スルモノ)一

筒ヲ備フルコト（別記第四十四圖）

三　自働式眞空「ポンプ」（最高眞空度ハ附屬吸管全部ヲ結合シテ水銀柱六三五粍以上トス）ハ毎分一五〇〇回轉以下ニ於テ第十條所定ノ眞空度ヲ作成シ得ル（「絞てこ」ニ其ノ位置ヲ明示ス）構造トスルコト

四　自働式眞空「ポンプ」用油吸ノ容量ハ〇・五立入トシ外徑六粍ノ筒管ヲ通ジ眞空「ポンプ」ノ吸引ニ依リ供給スル裝置トスルコト（別記第四十四圖）

五　「ポンプ」吸口（內徑六三粍、接合部ハ「雄ねぢ」トス）ハ二箇トシ覆冠ヲ附スルコト（別記第四十五圖）

六　「ポンプ」放口（開閉九〇度ノ「コツク」ヲ附ス）ニハ接手（水管內徑六三粍用「雄ねぢ」式接手ト同一ノモノ）二箇ヲ備ヘ之ニ雄三鈎式媒介金具ヲ裝置スルコト（別記第四十六圖）

七　「バルブ」、「コツク」、「ハンドル」、「レバー」及計器類ニハ各其ノ名稱及開閉又ハ調整ノ記號ヲ明示スルコト（別記第四十七圖）

八　管鉛、替口ノ形狀寸法ハ別記第四十八圖ニ依ルコト

九　「ポンプ」各段ノ下部ニハ口徑一〇粍ノ排水「コツク」ヲ附スルコト

十　吸管ハ內徑六三粍全長七・二米長（一・八米ノモノ四本）トシ「ねぢ」式接手ト「ゴム」部トハ外卷ニ依リ緊著シ且「ゴム」部ハ埋線式優良品トスルコト（別記第四十九圖）

十一　「ポンプ」壓力計ハ徑七五粍、目盛一五瓩每平方糎封度（目盛併記ノコト）ノモノ一箇トシ「パイプ」ノ取付口（別記第二十六圖）ハ吐水部ノ近クニ設クルコト（別記第五十圖）

十二　「ポンプ」驅成計ハ徑七五粍、壓力目盛五瓩每平方糎眞空目盛七六糎（吋目盛併記ノコト）ノモノ一箇トシ「パイプ」ノ取付口（別記第二十六圖）ハ吸口ノ近クニ設クルコト（別記第五十圖）

十三　第三條第一號、第六號乃至第八號、第二十號及第二十一號ノ規定ハ小型手纔消防「ガソリンポンプ」ノ「ポンプ」ノ構造ニ之ヲ適用スルコト

第九條　小型手纔消防「ガソリンポンプ」ニハ左ノ物品ヲ常備スルモノトス但シ第二豫備品ニ付テハ土地ノ狀況其ノ他必要ニ應ジ備フルノトス

附屬品　管鉛二本（別記第四十八圖）、替口三箇（二〇粍（四分ノ三吋）一箇、一三粍（二分ノ一吋）二箇）（別記第四十八圖）、塵除一箇（別記第四十九圖）、籐籠一箇（別記第四十九圖）、吸管枕木一箇（別記第四十九圖）、麻綱一本、水管結合金具五組（內徑六三粍水管用、別記第五十八圖）、同上口卷用鐵線（一六番手、二二五瓦）五本分、銅鋲二〇本

一　附屬工具　兩口「スパナー」（三本組）一組、「モンキレンチ」（長二〇〇粍）一箇、「ペンチ」（長一五〇粍）一箇、「プライヤー」（長一五〇粍）一箇、本「ねぢ廻し」（長一五〇粍）一箇、點火栓拔キ一箇、主「ポンプグランドスパナー」一箇、「マグネートスパナー」（「マグネトー」著火法ニヨルモノニ限ル）一箇、油差シ一箇、「ガソリン」漏斗（篩目〇・二五粍、針金直徑〇・一六粍ノ眞鍮濾網付）一箇

二　豫備品　點火栓二箇、「グランドパツキン」一組、水管用「パツキン」三箇、吸管用「パツキン」三箇

四　第二豫備品「モビール」油（一「ガロン」入）一罐

第十條　小型手纔消防「ガソリンポンプ」ノ試驗ハ左ニ依リ之ヲ行フモノトス

一　「ポンプ」放水能力試驗ハ眞空度試驗、放水量試驗及高壓放水試驗ノ三種トシ左ニ依ルコト

イ　眞空度試驗ハ附屬吸管全部ヲ結合シテ三〇秒以內ニ於テ水銀柱六三五粍以上トス

ロ　放水量試驗ハ「ポンプ」壓力五・六瓩每平方糎ニ於テ放水量每分四五〇立以上タルモノニシテ放水量測定後同上壓力及放水量ニ於テ一五分間連續放水ヲ行フ

ハ　高壓放水試驗ハ「ポンプ」壓力一〇・五瓩每平方糎以上ニ於テ放水量每分一五〇以上タルモノニシテ放水量及壓力測定後同上ノ壓力及放水量ニ於テ二〇分間連續放水ヲ行フ

二　第五條第二號乃至第四號ノ規定ハ小型手纔消防「ガソリンポンプ」ノ試驗ニ之ヲ適用スルコト

第三章　小型腕用消防「ポンプ」

第十一條　小型腕用消防「ポンプ」ノ車輛ノ構造ハ左ニ依ルモノトス

一　車輛ハ四輪（外徑一二一粍）トシ左右二輪間ノ中心距離ハ四四八粍、「ホイルベース」ハ六四〇粍トスルコト（別記第五十一圖）

二　車輪ノ「スポーク」ハ鑄鐵製ノモノ四本、車軸ハ徑二二粍軟鐵製トシ且後車輪ニハ制動裝置ヲ設クルコト（別記第五十二圖）

三　「ポンプ」車臺ハ檜材又ハ堅材ヲ使用シ長七六〇粍、幅四〇〇粍トシ其ノ上面ニ水函及「ポンプ」ヲ緊著シ車臺前方ニハ曳綱用環二箇ヲ附スルコト（別記第五十二圖）

四　吸管ハ水函上部ニ卷付ケ搭載スルコト

五　水函內ニ管鉛ノ挾金具ヲ設クルコト

第十二條　「ポンプ」ハ單働二水筒「ピストン」式トシ（放水量ハ吸水高一米以內ニテ筒先口徑八粍ヲ使用シ片水筒ノ「ピストン」往復行程一分間四五回合計九〇回ニ於テ四〇立以上）其ノ構造ハ左ニ依ルモノトス

一　水筒ハ青銅製トシ其ノ內徑六〇粍、行程一六〇粍トスルコト（別記第五十三圖）

二　「ピストン」ハ青銅製トシ外徑五九・五粍、高三七粍トスルコト（別記第五十三圖）

三　「ピストン」ノ「パツキン」ハ絹絲若ハ麻絲ヲ油煮シタルモノタルコト

四　「ピストンロツド」ハ平棒銅製ニシテ厚五粍、幅二二粍二枚合セトシ「ピストン」トノ連結部ハ挿込栓式自由關節トスルコト（別記第五十三圖）

五　鞴ノ口徑ハ三二粍、揚高ハ八粍トシ鞴及鞴座ノ材料ハ青銅製トスルコト（別記第五十三圖）

六　空氣室ハ容積約二二八〇立方糎ノ鑄鐵製トシ其ノ上部ニハ搖桿ノ支鐵ヲ設クルコト（別記第五十四圖）

七　吸口ハ內徑三八粍トシ水函內外ニ「雄ねぢ」式ノモノ各一箇ヲ備ヘ水函內ノ吸口部ニハ塵除竝ニ覆冠ヲ附スルコト（別記第五十三圖）

八　放口ハ內徑三八粍ノ「雄ねぢ」式ノモノトスルコト（別記第五十三圖）

九　吸管ハ優良「ゴム」製ノ露線式トシ內徑三八粍トスルコト（別記第五十五圖）

十　水函ハ厚サ一粍以上ノ銅板製（內徑寸法深三〇五粍、長四五〇粍、幅三六〇粍）、接合部ハ鋲止トシ水函內底部ニ排水栓ヲ附スルコト（別記第五十四圖）

十一　水函ハ完全ニ銹落ヲ行ヒ優良ナル光明丹其ノ他ノ塗料ヲ以テ防銹シタル上入念ニ塗裝ヲ施スコト

十二　搖桿ハ軟鋼製トシ其ノ取付ハ橫振レ少キモノタルコト

十三　「ピストンロツド」ト搖桿トノ結合部ノ「ピン」ハ動搖ノ爲離脫

セザル樣割「ピン」ヲ挿入スル等ノ方法ヲ講ズルコト（別記第五十三圖）

第十三條　小型腕用消防「ポンプ」ニハ左ノ附屬品ヲ常備スルモノトス

吸管（內徑三八粍、長三米）一本、水管（內徑三八粍、長一〇米）三本、水管接手金具（三八粍水管用）三組（別記第五十五圖）、同上口卷用鐵線（一六番手、二二五瓦）三本分、銅鋲六本、管鎗一本（別記第五十五圖）、著口（口徑八粍）一本、塵除一箇（別記第五十五圖）、籠龍一箇、蟹目「ねぢ廻し」一箇、「イギリススパナー」（長一五〇粍）一箇、木「ねぢ廻し」（長一五〇粍）一箇、油差一箇、曳綱（徑一〇粍、長四米）一本

第十四條　小型腕用消防「ポンプ」ノ試驗ハ最高眞空度試驗、氣密持續試驗及耐壓試驗ノ三種トシ左ニ依リ之ヲ行フモノトス

一　最高眞空度試驗ハ吸管ヲ結合シ水銀柱五〇〇粍以上ヲ作成シ得ルモノタルコト

二　氣密持續試驗ハ吸管ヲ結合シテ眞空度五〇〇粍ニ到リタル際其ノ運轉ヲ停止シ一〇秒以內ニ於テ三八〇粍以下ニ低下セザルモノタルコト

三　耐壓試驗ハ「ポンプ」放口ニ壓力計ヲ取付ケ入力ニテ運轉シ「ポンプ」壓力六・三瓩每平方糎迄上昇セシメタル際其ノ運轉ヲ停止シ一分間ヲ經過スルモ四・四瓩每平方糎以下ニ低下セザルモノタルコト但シ最高使用壓力ハ四・四瓩每平方糎ト定ムルヲ要スルコト

第四章　附屬器具類

第十五條　水管、吸口、放口及吸管ノ關係結合金具ノ緣式ハ三鈎式トシ別記第五十六圖乃至第五十八圖ニ依ルモノトス

第十六條　別記第五十六圖乃至第五十八圖ノ三鈎式接手ノ構造、材料等ハ左ニ依ルモノトス

一　堅牢ニシテ作用確實ナルト共ニ簡單ニ分解手入ヲ行ヒ得ルコト

二　結合ハ勢クモ二〇瓩每平方糎ノ內壓力ニ堪ヘ而モ〇・七噸以上ノ衝擊的引張荷重ヲ加フルモ變形離脫又ハ破損セザルコト

三　別記第五十八圖ノ雌部ヲ基準トシ雌部（鈎ノ保持器ノ內徑ハ七一・二粍）ハ之ニ適合スルモノナルコト

四　著脫容易ニシテ全部ノ重量ハ二・二瓩以下ナルコト

五　鈎出入ノ距離ハ三粍以上タルコト

六　鈎ニ附屬シタル發條ハ二枚合セノ鑄鋼板製トシ雌發條室內ニ於ケル最大彈壓力ハ二瓩乃至二・五瓩タルコト

七　鈎室內ニ容易ニ砂其ノ他ノ異物ガ侵入セザル構造トスルコト

八　「パツキング」ハ有效ナル「ゴム」製ニシテ「ゴム」ノ含有量、硬度、抗張力及伸張率ハ左表ニ依ルコト

護謨ノ含有量	重量ノ六〇パーセント以上	
硬度	九〇—一四〇	
抗張力	二〇〇瓩每平方糎以上	
伸張率	五〇〇パーセント以上	
備考	硬度ハ不銹鋼又ハ之ト同等以上ノ材質ヲ以テ作リタル徑三・二粍ノ球面ヲ附シタル針ヲ有スル硬度計ヲ用ヒ一瓩ノ荷重ヲ加ヘ一分後針ノ沈下スル深サノ粍數ノ百倍ヲ以テ表ハシタルモノ	

九　鈎ノ材質ハ日本標準規格第一三五號青銅鑄物第三種以上ノ抗張率ヲ有スルモノタルコト

十　口金ニハ外側ノ定メラレタル場所ニ製造所ノ記號及製造年月日ヲ刻印スルコト

第十七條　結合金具ノ檢査ハ構造檢査及耐壓檢査ノ二種トシ左ニ依リ之ヲ行フモノトス

一　構造檢査ハ各部ノ構造及寸法ヲ檢査ノ上更ニ模範ヲ各雌雄ノ金具ニ嵌合セシメ其ノ適否ヲ檢査スルコト

二　耐壓檢査ハ雌雄ノ金具ヲ嵌合シテ水壓二〇瓩每平方糎ニ於テ水壓檢査ヲ行フコト

（別記圖面省略）

價格等統制令第七條ノ規定ニ依リ家庭用防火水槽ノ最高販賣價格ノ指定

（昭和十六年十月二日　商工省告示第八百八十七號）

種別	規格	最高販賣價格（單位一個）
角型一〇八リットル入ノモノ又ハ圓型一三七リットル入ノモノ	角型ノモノハ上長內法六三糎底長內法五七糎上幅內法四三糎底幅內法三七糎側壁厚五糎底厚五糎圓型ノモノハ內徑六〇糎高內法四九糎厚機械製ノモノハ五糎機械製ニ非ザルモノハ六糎	圓　七・五〇

（一）　本表價格ハ角型ノモノニ在リテハポルトランドセメント二五％以上、砂二五％未滿、砂利五〇％未滿、圓型ノモノニ在リテハポルトランドセメント三三％以上、砂三三％未滿、砂利三四％未滿ノ容積割合ニ配合シタルモノノ價格トシ、角型ノモノニシテポルトランドセメント二五％未滿、圓型ノモノニシテポルトランドセメント三三％未滿ノモノノ價格ハ本表價格ノ三〇％下ゲトス

（二）　本表價格ハ買主庭先渡價格トス

（三）　荷造費ハ賣主負擔トス

防

毒

防毒資材取締規則

（昭和十三年五月二日内務厚生省令第一號
改正　昭和十四年内務厚生省令第一號
昭和十六年内務厚生省令第二號
昭和十七年内務厚生省令第三號）

第一條　本令ニ於テ防毒具ト稱スルハ毒性ノ瓦斯、煙霧、液體、粉塵等ニ對スル防護具ヲ謂フ

防毒具ハ左ノ二種トス

第一種　防毒面、酸素呼吸器、防毒衣、防毒手袋、防毒靴、防毒濾函、防毒面ノ覆面、呼吸囊及呼吸罐並ニ酸素呼吸器ノ覆面、空氣更新罐、酸素發生劑罐、減壓囊、氧囊、過壓安全囊及吸排氣囊函

第二種　其ノ他ノ防毒具

本令ニ於テ防毒檢定器ト稱スルハ毒性ノ瓦斯、煙霧、液體、粉塵等ヲ檢和スル器具及防毒具ノ性能ヲ檢査スル器具ヲ謂フ

本令ニ於テ防毒藥物ト稱スルハ防毒面吸收罐又ハ防毒濾函ニ使用シ防毒ノ效能アリトスル藥物、毒性ノ瓦斯、煙霧、液體、粉塵等ノ檢知ノ效能アリトスル藥物及防毒ノ效能アリトスルモノニシテ内務大臣及厚生大臣ノ指定スル藥物ヲ謂フ

本令ニ於テ防毒具材料ト稱スルハ防毒具ノ製造又ハ修覆ニ使用スル物ニシテ内務大臣ノ指定スルモノヲ謂フ

第二條　本令ハ販賣ノ用ニ供スル防毒具、防毒檢定器、防毒藥物及防毒具材料ニ付之ヲ適用ス但シ第十一條及第十二條ノ規定ハ販賣ノ用ニ供セザルモノニ付テモ之ヲ適用ス

第三條　第一種防毒具又ハ防毒檢定器ヲ製造セントスル者ハ左ノ各號ニ掲グル事項ヲ、輸入又ハ移入セントスル者ハ第一號乃至第三號及第六號ニ掲グル事項ヲ具シ見本品ヲ添ヘ主タル業務所所在地ノ地方長官（東京府ニ在リテハ警視總監以下之ニ同ジ）ヲ經由シ内務大臣ノ許可ヲ受クベシ

一　氏名（法人ニ在リテハ其ノ名稱）、商號及業務所所在地

二　製造所ノ名稱及所在地

三　第一種防毒具又ハ防毒檢定器ノ種類、型式、構造及性能

四　製造方法及製造設備（製品檢査設備ヲ含ム）ノ概要並ニ一年ノ製造能力

五　主任技術者ノ氏名及履歴

六　第一種防毒具又ハ防毒檢定器ニ添附スル性能說明書

前項第三號乃至第六號ノ事項ヲ變更セントスルトキハ前項ニ準ジ許可ヲ受クベシ

第一項第一號又ハ第二號ノ事項ヲ變更セントスルトキハ第一項ニ準ジ内務大臣ニ届出ヅベシ

第四條　第一種防毒具又ハ防毒檢定器ノ製造者、輸入者又ハ移入者ハ其ノ製造、輸入又ハ移入シタル第一種防毒具又ハ防毒檢定器ニ其ノ型式及製造年並ニ製造者ノ氏名（法人ニ在リテハ其ノ名稱）又ハ商號ヲ明記シ且防毒面吸收罐又ハ防毒濾函ニ別表ニ掲グル性能標識ヲ附スベシ

第五條　第一種防毒具又ハ防毒檢定器ノ製造者、輸入者又ハ移入者ハ其ノ製造、輸入又ハ移入シタル第一種防毒具又ハ防毒檢定器ニ付内務大臣ノ定ムル所ニ依リ檢定ヲ受クベシ

第一項ノ檢定ニ合格シタル第一種防毒具又ハ防毒檢定器ニハ第一號樣式ノ檢定證印ヲ附ス

前項ノ規定ニ依リ檢定ヲ受ケントスル者ハ檢定申請書ヲ提出スベシ

第六條　第二種防毒具、防毒藥物又ハ防毒具材料ヲ發賣セントスル者ハ左ノ各號ニ掲グル事項ヲ具シ見本品ヲ添ヘ主タル營業所所在地ノ

地方長官ノ許可ヲ受クベシ

一　氏名（法人ニ在リテハ其ノ名稱）、商號及營業所所在地

二　製造所ノ名稱及所在地

三　第二種防毒具ニ在リテハ其ノ種類、型式、構造及性能

四　防毒藥物ニ在リテハ其ノ品名、品質及效能（製劑ニ在リテハ原料品名及其ノ分量竝ニ製造方法ノ概要ヲ併記スルコト）

五　防毒具材料ニ在リテハ其ノ品名、品質及性能

六　第二種防毒具、防毒藥物又ハ防毒具材料ニ添附スル性能又ハ效能說明書

前項第三號乃至第六號ノ事項ヲ變更セントスルトキハ前項ニ準ジ許可ヲ受クベシ

第一項第一號又ハ第二號ノ事項ヲ變更セントスルトキハ第一項ニ準ジ地方長官ニ屆出ヅベシ

第七條　第二種防毒具ノ發賣者ハ其ノ發賣スル第二種防毒具ニ其ノ型式及發賣者ノ氏名（法人ニ在リテハ其ノ名稱）又ハ商號ヲ明記スベシ

防毒藥物ノ發賣者ハ其ノ發賣スル防毒藥物ノ容器又ハ被包ニ防毒藥物ナル文字、品名及發賣者ノ氏名（法人ニ在リテハ其ノ名稱）又ハ商號ヲ明記スベシ

第八條　防毒具、防毒檢定器、防毒藥物又ハ防毒具材料ノ請賣營業ヲ爲サントスル者ハ營業所毎ニ營業所所在地ノ地方長官ニ屆出ヅベシ

第九條　第五條第二項ノ規定ニ依ル檢定證印ナキ第一種防毒具若ハ防毒檢定器又ハ第四條若ハ第七條ノ規定ニ依ル表示若ハ性能標識ナキ防毒具、防毒檢定器、防毒藥物若ハ防毒具材料ハ之ヲ販賣スルコトヲ得ズ

第十條　防毒具、防毒檢定器、防毒藥物又ハ防毒具材料ハ第三條第一項第六號ノ性能說明書又ハ第六條第一項第六號ノ性能若ハ效能說明書ヲ添附スルニ非ザレバ之ヲ販賣スルコトヲ得ズ

第十一條　第一種防毒具又ハ防毒檢定器ノ修覆營業ヲ爲サントスル者ハ營業所毎ニ營業所所在地ノ地方長官ノ許可ヲ受クベシ

第十二條　第一種防毒具又ハ防毒檢定器ノ修覆營業者ハ其ノ修覆シタル第一種防毒具又ハ防毒檢定器ニ付內務大臣ノ定ムル所ニ依リ檢定ヲ受クベシ

前項ノ規程ニ依リ檢定ヲ受ケントスル者ハ檢定申請書ヲ提出スベシ

第一項ノ檢定ニ合格シタル第一種防毒具又ハ防毒檢定器ニハ第二號樣式ノ檢定證印ヲ附ス

前項ノ規定ニ依ル檢定證印ナキ第一種防毒具又ハ防毒檢定器ハ之ヲ修覆シタルモノトシテ交附スルコトヲ得ズ

第十二條ノ二　第五條及前條ノ規定ニ依リ檢定ヲ受ケントスル者ハ左ノ手數料ヲ納付スベシ

一　防毒面（隔離型ノモノ）　一箇ニ付　金五錢

二　防毒面（直結型ノモノ）　一箇ニ付　金二錢

三　壓縮酸素式酸素呼吸器　一箇ニ付　金一圓

四　酸素發生式酸素呼吸器　一箇ニ付　金四十錢

五　防毒衣　一着ニ付　金十錢

六　防毒手袋　一組ニ付　金五錢

七　防毒靴　一足ニ付　金五錢

八　防毒濾函　一箇ニ付　金二圓

九　防毒面（隔離型ノモノ）及酸素呼吸器ノ覆面　一箇ニ付　金二錢

十　防毒面（直結型ノモノ）ノ覆面　一箇ニ付　金一錢

十一　防毒面ノ呼氣鞴　一箇ニ付　金一錢

十二　防毒面（隔離型ノモノ）ノ吸收罐　一箇ニ付　金二錢

十三　防毒面（直結型ノモノ）ノ吸收罐　一箇ニ付　金一錢

十四　酸素呼吸器ノ空氣更新罐　一箇ニ付　金五錢

十五　酸素呼吸器ノ酸素發生劑罐　一箇ニ付　金十錢

十六　酸素呼吸器ノ減壓鞴　一箇ニ付　金七十錢

十七　酸素呼吸器ノ氣囊　一箇ニ付　金十錢

十八　酸素呼吸器ノ過壓安全鞴　一箇ニ付　金二錢

十九　酸素呼吸器ノ吸排氣鞴函　一箇ニ付　金八錢

二十　防毒檢定器

イ　毒性ノ瓦斯、煙霧、液體、粉塵等ヲ檢知スル器具　一箇ニ付　金二十錢

ロ　防毒具ノ性能ヲ檢査スル器具　一箇ニ付　金一圓

前項ノ手數料ハ收入印紙ヲ用ヒ檢定申請書ニ之ヲ貼付スベシ既納ノ手數料ハ之ヲ還付セズ

第十三條　地方長官ハ當該官吏ヲシテ防毒具、防毒檢定器、防毒藥物若ハ防毒具材料ヲ製造、貯藏若ハ販賣スル場所ヲ巡視セシメ又ハ防毒具、防毒檢定器、防毒藥物若ハ防毒具材料ヲ檢査セシムルコトヲ得

第十四條　第一種防毒具又ハ防毒檢定器ノ製造者、輸入者又ハ移入者其ノ業務ニ關シ犯罪若ハ不正ノ行爲アリタルトキ又ハ本令ノ規定ニ違反シタルトキハ內務大臣ハ其ノ許可ヲ取消スコトヲ得

第十五條　第二種防毒具、防毒藥物若ハ防毒具材料ノ發賣者、防毒具防毒檢定器、防毒藥物若ハ防毒具材料ノ請賣營業者又ハ第一種防毒具若ハ防毒檢定器ノ修覆營業者其ノ業務ニ關シ犯罪若ハ不正ノ行爲アリタルトキ又ハ本令ノ規定ニ違反シタルトキハ地方長官ハ其ノ許可ヲ取消シ又ハ營業ヲ禁止若ハ停止スルコトヲ得

第十六條　第三條第一項ノ規定ニ違反シタル者ハ三月以下ノ懲役ニ處ス

第十七條　第六條第一項ノ規定ニ違反シタル者ハ三月以下ノ懲役又ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

第十八條　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

一　第三條第二項、第四條、第六條第二項、第七條乃至第九條、第十一條又ハ第十二條第三項ノ規定ニ違反シタル者

二　第十三條ノ規定ニ依ル巡視又ハ檢査ヲ拒ミ、妨ゲ又ハ忌避シタル者

三　第十五條ノ規定ニ依ル營業ノ停止中其ノ營業ヲ爲シタル者

第十九條　第三條第三項、第六條第三項又ハ第十條ノ規定ニ違反シタル者ハ科料ニ處ス

第二十條　防毒具、防毒檢定器、防毒藥物又ハ防毒具材料ノ製造者、輸入者、移入者、發賣者、請賣營業者又ハ修覆營業者ハ其ノ代理人戶主、家族、同居者、雇人其ノ他ノ從業者ニシテ其ノ業務ニ關シ本令ニ違反シタルトキハ自己ノ指揮ニ出ザルノ故ヲ以テ處罰ヲ免ルルコトヲ得ズ

第二十一條　本令ニ依リ適用スベキ罰則ハ其ノ者ガ法人ナルトキハ理事、取締役其ノ他法人ノ業務ヲ執行スル役員ニ、未成年者又ハ禁治產者ナルトキハ其ノ法定代理人ニ之ヲ適用ス但シ營業ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有スル者ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

第二十二條　本令ハ陸海軍ノ用ニ供スル防毒具、防毒檢定器、防毒藥物及防毒具材料ニ付テハ之ヲ適用セズ

附　則

本令ハ昭和十三年六月一日ヨリ之ヲ施行ス

本令公布ノ際現ニ防毒具、防毒檢定器若ハ防毒藥物ヲ製造若ハ發賣スル者又ハ其ノ請賣營業ヲ爲ス者ハ本令施行後一月以内ニ第三條、第六條又ハ第八條ノ規定ニ依ル手續ヲ爲スベシ

前項ノ規定ニ依リ第三條又ハ第六條ノ許可ヲ申請シタル者ニ付テハ其ノ申請ニ對スル許可又ハ不許可ノ處分ノ日迄第四條、第五條及第七條ノ規定ハ之ヲ適用セズ

本令施行ノ際現ニ存スル防毒具、防毒檢定器若ハ防毒藥物又ハ第二項ノ規定ニ依リ第三條若ハ第六條ノ許可ヲ申請シタル者ガ其ノ申請ニ對スル許可若ハ不許可ノ處分ノ日迄ニ製造若ハ發賣シタル防毒具防毒檢定器若ハ防毒藥物ニ付テハ昭和十四年十二月三十一日迄第九條及第十條ノ規定ハ之ヲ適用セズ

（別表）

防毒面吸收罐及防毒濾函種類	性能標識標識色	性能標識標識記號
普通瓦斯用	灰色及黑色	イ
酸性瓦斯用	灰色	ロ
有機瓦斯用	黑色	ハ
粉塵用	白色	ホ
一酸化炭素用	紅色	ヘ
消防用	白色及紅色	ト
金屬煙氧用	白色及黑色	チ
アンモニア用	綠色	リ
亜硫酸及硫黃用	橙色	ヌ
青酸用	青色	ル
硫化水素用	黃色	ヲ
燐化水素及砒化水素用	藍色	ワ
各種瓦斯及煙霧用	暗赤色	カ
防空用	樺色	ヨ

備考

一、標識色ハ外部全面一樣ニ塗色シ二色ノ場合ハ上下二層ニ塗色スルコト

二、標識記號ハ白字ヲ以テ表スコト但シ標識色白色ナルトキハ黑字ヲ以テ表スコト

第一號樣式

外圓
直徑一五粍

第二號樣式

外圓
直徑一五粍

附則

本令ハ昭和十六年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス（昭和十七年三月十日）

毒物劇物營業取締規則（抄）（明治四十五年五月十日 内務省令第五號）

第八條　毒劇物營業者ハ業務上、學術上又ハ技藝上必要アリト認ムル者ヨリ左ノ各號ノ一ニ依リ其ノ從事スル業務、學術若ハ技藝ヲ證明シ且ツ品名、數量、使用ノ目的、年月日、住所、氏名、法人ニ在リテハ其ノ名稱及職業ヲ記シ捺印シタル證書ヲ提出スルニ非ザレバ之ヲ販賣讓與スルコトヲ得ズ

一　毒劇物營業者知人ノ證明

二　官公署又ハ學校ノ證明其ノ他徵證トナルベキ官公文書

毒劇物營業者自己ノ知人ニ毒物劇物ヲ販賣讓與スル場合ニ付テハ前項ノ證明ヲ要セズ

家事上必要ナル毒物劇物ニシテ別ニ指定スルモノニ付テハ前二項ノ規定ヲ適用セズ

前項ノ毒物劇物ハ品名、數量、年月日、住所、氏名、法人ニ在リテハ其ノ名稱ヲ記シ捺印シタル證書ヲ提出スルニ非ザレバ之ヲ販賣讓與スルコトヲ得ズ

毒劇物營業者ハ農業上必要ナル毒物劇物ニシテ別ニ内務大臣ノ指定スルモノハ其ノ定ムル方法ニ依リ着色シタルモノニ非ザレバ之ヲ販賣讓與スルコトヲ得ズ

第一項及第四項ノ證書ハ其ノ日附ヨリ十箇年間之ヲ保存スベシ

第八條ノ二　賣藥部外品トシテ發賣ノ免許ヲ受ケ又ハ防毒藥物トシテ發賣ノ許可ヲ受ケタル毒物劇物ニ付テハ前條ノ規定ハ之ヲ適用セズ

毒劇物營業者賣藥部外品トシテ發賣ノ免許ヲ受ケタル毒物劇物ヲ交附スル場合ニ於テハ其ノ容器又ハ被包ニ第七條ノ規定ニ依ル其ノ營業所、氏名、法人ニ在リテハ其ノ名稱ノ名記ヲ要セズ

防毒資材檢定ニ關スル告示（昭和十四年八月一日 内務省告示第四百十六號）

昭和十三年六月内務省告示第二百九十一號ハ之ヲ廢止ス

（參照）

昭和十三年六月内務省告示第二百九十一號ハ防毒資材ノ檢定ニ付當分ノ内陸軍科學研究所之ヲ行フ件ナリ

防毒資材檢定ニ關スル告示（昭和十四年八月一日 内務省告示第四百十七號）

防毒資材取締規則第五條及第十二條ノ檢定ハ内務省防空研究所之ヲ行フモノトス

防毒資材檢定ニ關スル告示ノ件（昭和十四年八月一日 計第五千四百三十號）

各廳府縣長官宛（東京府ヲ除ク）

防毒資材取締規則第五條及第十二條ノ檢定ニ付テハ客年六月一日内務省告示第二百九十一號ヲ以テ當分ノ内陸軍科學研究所之ヲ行フコトト相成居候處今般別紙寫ノ通内務省防空研究所ニ於テ之ヲ行フ旨告示變更相成候ニ付テハ右御了知相成度

（別紙ハ昭和十四年八月一日内務省告示第四百十七號ノ通リ）

防毒資材取締規則施行ニ關スル件

（昭和十三年五月二十三日
内務省發畫第四十四號）

各廳府縣長官宛

今般防毒資材取締規則公布相成候處之ガ施行ニ付テハ左記御留意ノ上關係部課ノ連絡ヲ圓滑ニシテ遺憾ナキヲ期セラレ度依命此段及通牒候也

記

一、本令ハ一般ニ販賣スル防毒具、防毒檢定器、防毒藥物及防毒具材料ニ適用スルモノニシテ陸海軍ノ用ニ供スルモノニ對シテハ之ヲ除外スル趣旨ナルニ付留意スルコト

二、本令ニ於テ防毒ト稱スルハ毒性ノ瓦斯、煙霧、液體、粉塵等ヲ吸入シ又ハ此等ガ身體ニ附着スルガ爲ニ生ズル中毒等ヲ防止スル趣旨ナルコト

三、防毒具ニハ工場等ニ於テ單ニ防塵等ノ爲ニ使用セラルルガ如キ器具ハ之ヲ包含セザルモノナルコト

第二種防毒具トハ防毒敷帳、防毒眼鏡ノ如ク防毒ノ性能アリトスル器具ヲ指稱スルモノナルコト

四、第一種防毒具中酸素呼吸器トハ酸素ヲ發生シ外氣ト隔絶シテ呼吸シ得ル裝置ヲ有シ防毒ノ性能アリトスル器具ヲ指稱シ、防毒濾函トハ防毒室等ノ濾過換氣裝置ニ使用シ防毒ノ性能アリトスル器具ヲ指稱スルモノナルコト

五、防毒藥物トシテ內務大臣及厚生大臣ノ指定スルヲ要スト認メラルルモノ又ハ防毒具材料トシテ內務大臣ノ指定スルヲ要スト認メラルルモノアリタルトキハ其ノ都度現品ヲ添ヘ具申スルコト

六、第三條ノ許可申請書ヲ受理シタルトキハ申請書ノ具備事項其ノ他許否ニ關シ參考ト爲ルベキ事項ニ付調査ヲ遂ゲ意見ヲ附シ申進スルコト

七、第一種防毒具及防毒檢定器ニ付テハ本令所定ノ檢定證印ヲ附スルコトトナリタルヲ以テ此ノ旨一般ニ周知セシムルコト

八、第六條第一項ノ許可ヲ爲サントスルトキハ當分ノ間許可申請書及見本品ヲ添ヘ內務省計畫局長（防毒藥物ニ付テハ內務省計畫局長及厚生省衞生局長）ニ協議スルコト

第六條ノ許可ヲ爲シタルトキ又ハ同條第三項ノ屆出アリタルトキニ於テ營業所及製造所ガ他ノ道府縣ニ所在スル場合ハ關係地方長官ニ其ノ旨通報スルコト

九、防毒藥物ニシテ其ノ原料ニ毒劇藥又ハ毒劇物ヲ使用スルトキハ其ノ發賣者ハ公衆衞生上ノ危害防止ノ見地ヨリ成ル可ク藥劑師、製藥者又ハ藥事ニ關シ此等ト略同等ノ知識經驗ヲ有スル者ヲシテ之ヲ爲サシムル樣致シタキコト

十、藥品ニ非ザル防毒藥物ノ名稱ハ藥局方藥品ニ紛ハシキ名稱ヲ附セシメザルコト

十一、發賣ノ許可ヲ受ケタル防毒藥物ニシテ同時ニ毒物劇物タルモノニ對シテハ其ノ販賣交付ノ手續ヲ簡易ナラシムル爲毒物劇物營業取締規則ノ改正アルベキニ付此ノ點特ニ留意スルコト

十二、第十一條ノ許可ヲ爲サントスル場合ハ當分ノ間內務省計畫局長ニ協議スルコト

第三條ノ許可ヲ受ケタル者ト雖モ修覆營業ヲ爲サントスルトキハ許可ヲ要スルヲ以テ注意スルコト

十三、第十三條ノ規定ニ依リ當該官吏ヲシテ巡視又ハ檢査ヲ爲サシムルトキハ其ノ身分ヲ證スルニ足ルベキ證票ヲ携帶セシメ且防毒藥物ニ關シテハ其ノ營業者ノ種別ニ應ジ藥品巡視又ハ賣藥檢査等ト之ヲ兼ネシムルコト

十四、第十四條ノ規定ニ依リ許可ヲ取消ス必要アリト認メラルルトキハ其ノ事由ヲ具申スルコト

十五　本令公布ノ際現ニ防毒具、防毒檢定器若ハ防毒藥物ヲ製造若ハ發賣スル者又ハ其ノ請賣營業ヲ爲ス者ニ對シテハ本令施行後一月以內ニ所定ノ手續ヲ爲ス樣本令ノ趣旨ヲ周知セシムルコト

防毒資材取締規則施行ニ關スル件

（昭和十四年二月二十日
內務省發畫第六號
內務次官、厚生次官）

各廳府縣長官宛（東京府ヲ除ク）

客年五月二十三日內務省發畫第四四號標記通牒第八ニ依リ第六條第一項ノ許可ヲ爲サントスルトキハ當分ノ間許可申請書及見本品ヲ添ヘ夫々協議スル取扱ト相成居候處爾今右ノ中許可申請書ニ付テハ同寫ヲ進達セラルル樣致度依命此段及通牒候也

防毒資材取締規則ノ解釋ニ關スル件

（昭和十五年三月二十三日
計第六千二百十三號
內務省計畫局長）

各廳府縣長官宛（東京府ヲ除ク）

防毒資材取締規則ノ解釋ニ關シ左記ノ通決定相成候ニ付御了知ノ上取締上遺憾ナキヲ期セラレ度此段及通牒候也

記

一、防毒資材取締規則ノ適用ヲ受クベキ防護具トハ毒性ノ瓦斯、煙霧、液體、粉塵等ニ對シ防毒ノ效能アリトシ又ハ形態其ノ他ヨリ防毒ノ效能アリトスルモノヲ謂ヒ、毒性ナキ粉塵等ニ對スル保護ノ爲使用スル口覆等ハ本規則ノ適用範圍外ナルコト（昭和十三年五月二十三日內務省發畫第四十四號依命通牒參照）

二、呼吸器及眼又ハ呼吸器ノミノ防毒具ニ付テハ左ノ如ク取扱フコト

（一）主トシテ毒性ノ瓦斯、煙霧、液體、粉塵等ニ對シ防毒ノ效能アリトシ又ハ形態其ノ他ヨリ防毒ノ效能アリトスルモノハ第一種防毒具ニ屬スルモノトシテ取扱フコト

（二）其ノ構造比較的簡易ニシテ且稍々防毒ノ效能アリトスル程度ノモノ（例ヘバ稀薄ナル毒瓦斯ニ效能アリトシ或ハ極メテ短時間防毒ノ效能アリトスルモノノ如シ）ハ第二種防毒具ニ屬スルモノトシテ取扱フコト

前項以外ノ防毒具ニ付テハ防毒資材取締規則第一條第二項ノ規定ニ依ルコトトシ右ノ如キ區別ヲ爲サザルコト

三、前號第一項ノ防毒具ニハ左ノ名稱ヲ用フルコトトシ且之ヲ防毒具ニ明確ニ表示セシムルコト

種別	名稱
第一種防毒具	防毒面、防毒口覆、防毒面用覆面、防毒面用呼氣囊、防毒面用吸收罐、
第二種防毒具	防護（覆）面、防護口覆、防護面用覆面、防護面用呼氣囊、防護面用吸收罐、

四、防毒資材取締規則ノ適用ヲ受ケザル防塵具（保護具）ニハ前號ノ名稱ハ之ヲ用ヒシメズ夫々防塵面（保護面）、防塵口覆（保護口覆）、防塵面（保護面）用呼氣囊等ノ名稱ヲ用ヒシメ且之ガ名稱ヲ防塵具（保護具）ニ明確ニ表示セシムルコト、若シ之ガ名稱ヲ表示セズ又ハ前號ノ名稱ヲ用フルモノアルトキハ防毒ノ效能アリトスルモノト認メラルルモノトシテ本規則ニ依ル取締ヲ爲スコト

防毒面吸收罐及防毒濾函ノ性能ニ關スル件

（昭和十三年五月二十七日
計第五千百十六號
内務省計畫局長）

各廳府縣長官宛（東京府ヲ除ク）

防毒資材取締規則第四條別表ニ掲グル各種防毒面吸收罐及防毒濾函ノ性能ニ付テハ概ネ左記ノ通ニ有之候條御了知ノ上周知方御取計相成度

記

防毒面吸收罐及防毒濾函種類	性能
普通瓦斯用	鹽素、弗素、ブロム、ホスゲン、ヨード等ニ有效
酸性瓦斯用	亞硫酸、鹽素、硝氣（硝酸及亞硝酸）、炭酸ガス、ハロゲン化水素酸、硫酸等ニ有效
有機瓦斯用	アクロレン、アセトン、アニリン及パラニトロアニリン類、アルコール、鹽化硫黃、エーテル、蟻酸、蟻酸エステル類、キシロール、クロルピクリン、醋酸、醋酸アミル類、四鹽化炭素、松根油類、樟腦、石炭酸石油類（石油エーテル、石油ベンゼン）、ソルベントナフサ、ヂメチル硫酸、テトラクロルエタン、テトラエチル鉛、ニツケルカーボニル、ニトログリセリン、ニトロベンゾール、ニトロクロルベンゾール類、二硫化炭素、ピリヂン、ブロムエチル及ブロムメチル、頁岩油、ベンゾール、ホルマリン、メタノール、瀝青物及タール等ニ有效
粉塵用	亞鉛化合物、アンチモン化合物、クロム化合物、マンガン化合物、水銀化合物、鉛化合物、砒素化合物等ニ有效
一酸化炭素用	一酸化炭素ニ有效
消防用	火災瓦斯ニ有效
金屬煙氣用	亞鉛、アンチモン、水銀、鉛、砒素、燐等ニ有效
アンモニア用	アンモニアニ有效
亞硫酸及黃硫用	亞硫酸及硫黃ニ有效
青酸用	青酸、青酸製劑（サイローム、チクロンB等）等ニ有效
硫化水素用	硫化水素ニ有效
燐化水素及砒化水素用	燐化水素、砒化水素、アセチレンニ有效
各種瓦斯及煙霧用	各種有毒瓦斯及煙霧ニ有效
防空用	ホスゲン、イペリツト、クロルピクリン、ヂフエニールクロールアルシン、ヂフエニールシアンアルミン等ニ有效

第一種防毒具修覆營業ニ關スル件

（衛發第一五、一七五號
三重縣知事）

照會

第一種防毒具ノ修覆營業ニ關シテハ防毒資材取締規則第十一條ニヨリ許可ヲ要シ且修覆品ニ就テハ同第十二條ニ依リ檢定ヲ要スル事ト相成居リ候處防毒面ノ機能ニ直接影響ナキ部分例ヘバ締紐ノ縫付又ハ取換若クハ締金具ノ修理ノ如キモ之ヲ包含スル義ニ候哉何分ノ御回答相煩度此段及照會候也

回答

（昭和十三年九月二十九日
計第五千八百八十九號
計畫局長）

九月十九日衛發第一五、一七五號照會ニ係ル標記ノ件右ハ第一種防毒具ノ修覆ニ包含セシメザル義ニ有之候

應急防毒面ニ關スル件

（昭和十四年十二月五日
計畫局防空課長）

各廳府縣警察部長宛
（警視廳ニ在リテハ警務部長）

標記ノ件ニ關シ別紙寫ノ通照復致シ候條御了知相成度

照會

（昭和十四年八月一日
警防發第一二二二號
福岡縣警察部長）

防毒資材取締規則實施以來市場ニ販賣セル防毒面ハ高級品ニ限ラレテ高價ナル爲、一般家庭ニ於テ購求シ得ルモノ少ク之ガ供給量モ極メテ微々タルモノニシテ警防團用トシテノ需要ヲモ充シ得ザル狀況ナルヲ以テ之ガ對策トシテ内務省計畫局編「國民防空讀本」及陸軍技師山田櫻氏著「市民ノ應急防毒」收載ニ係ル應急防毒面ヲ奬勵スル方針ヲ採リ居レリ然ルニ應急防毒面ニ使用スベキ活性炭ノ製造ハ一般民ノ良ク爲シ能ハザル所ナルヲ以テ縣ニ於テ監修シ福岡縣國防化學協會ヲシテ製造ノ上實費ヲ以テ配布スルハ防毒資材取締規則ニ違反セザルハ勿論極メテ時宜ニ適スルモノト思料セラルルモ爲念御意向承リ度此段及伺候也

活性炭製造方法

一、品質

破壞木炭、小丸樫炭、優良品

二、製法

硬質木炭ヲ硝酸三〇%溶液ニ二十四時間浸シ置キ爐内ニ入レ九百度ノ高熱ニテ燒キ米粒大ニ破壞シ素燒ノ壺ニ入レテ再度九百度ノ高熱ニテ二時間蒸シ燒キシタルモノヲ冷却シテ使用ニ供スルモノナリ

三、性能

（一）クロールピクリン試驗

（別添クロールピクリン試驗法ノ構造圖ニヨル）

吸着劑ノ粒ノ大キサ　八—十四目

吸着劑ノ層ノ厚サ　一〇糎

吸收試驗管ノ直徑　二糎

クロールピクリンノ連流　五〇〇瓩　一平方糎一分

標準試驗ニヨル使用時限　（分）五六（五〇—六〇）

（二）ホルマリン試驗方法

八疊（高サ一〇尺）ノ防毒室ニ二五〇〇瓩ノ瓦斯中ニ於テ活性炭九〇瓦ニ對シ四時間使用シタルモ破過反應ナシ

回答

（昭和十四年十二月五日
計畫局防空課長）

八月一日附警防發第一二二二號ヲ以テ照會ニ係ル標記ノ件左記ニ依リ御取扱相成度此段及回答候

記

一、應急防毒面ノ勸奬ニ當リテハ不完全ナル虞アルモ無キニ優ル意味ニ於ケル應急對策ナルコトヲ充分認識セシメ且各自ノ責任ニ於テ製作使用セシムルコト

二、防毒面用活性炭ハ防毒資材取締規則第一條及第二條ノ規定ニ依ル販賣ノ用ニ供スル防毒藥物ニ該當シ從ツテ同令第六條ノ規定ニ依リ發賣ノ許可ヲ受クルヲ要スルコト

價格等統制令第七條ノ規定ニ依リ防空用防毒面及防空用防毒服ノ最高販賣價格ノ指定

（昭和十六年八月六日 商工省告示第六百八十三號）

番號	品名	摘要	單位	最高販賣價格
一	防空用防毒面圓用一號甲型	收容函及携行袋附	一箇	一四、五〇
二	〃　乙型	〃	〃	一二、〇〇
三	防空用防毒面圓用二號甲型	〃	〃	一〇、五〇
四	〃　乙型	〃	〃	八、五〇
五	防空用防毒面家庭用	收容函附	〃	四、七〇
六	〃　小兒用隔離式	收容函及携行袋附	〃	一一、〇〇
七	防空用防毒面小兒用直結式（昭和化工株式會社製ノモノ）	收容函附	〃	五、七〇
八	〃　（藤倉工業株式會社製ノモノ）	〃	〃	四、七〇
九	防空用防毒面家庭用又ハ小兒用直結式携行袋	特免綿織物帆布一〇號使用生地其ノ他ノモノ	〃	八〇
一〇	〃　雲板	枠附	〃	三〇
一一	〃	枠無	一組	四三
一二	防空用防毒服	防毒手袋及防毒靴附	〃	二一
一三	〃	〃	〃	三五、〇〇

（イ）本表價格ハ九號乃至一一號ノモノヲ除キ昭和十三年五月内務、厚生省令第一號防毒資材取締規則ニ依ル檢定ヲ受ケ檢定證印ヲ附シタルモノノ價格トス

（ロ）五號ノモノニシテ收容函ヲ附セザルモノノ價格ハ本表價格ノ二〇錢下ゲトス

（ハ）運賃ハ賣主負擔トス但シ樺太、朝鮮、臺灣、關東州、南洋群島、滿洲又ハ支那向ノ場合ニ在リテハ本表價格ハ賣主最寄港船積渡又ハ最寄驛貨車乘渡價格トス

（ニ）荷造賃及包裝賃ハ賣主負擔トス

避難、救護

空襲時ニ於ケル退去及事前避難ニ關スル件

（昭和十六年十二月七日
防第五七八一號）

各廳府縣長官宛

標記ノ件ニ關シテハ爾今左記ノ方針ニ依ルコトニ決定相成候條御了知ノ上之ガ指導ニ關シ萬遺憾ナキヲ期セラレ度依命此段及通牒候也

記

一、退　去

（一）退去ハ一般ニ之ヲ行ハシメザルコト

（二）老幼病者等ノ退去ニ付テモ現下ノ空襲判斷上全般的計畫的退去ヲ行ハシメザルハ勿論、左ニ依リ努メテ之ヲ抑制スル樣一般ヲ指導スルコト

（イ）老幼病者ニ對シテ絶對ニ退去ヲ慫慂セザルコト

（ロ）現在豫想セラルル敵ノ空襲ハ老幼病者等ノ全部ガ都市ヲ退去スルヲ要スル程度ニ非ズ寧ロ退去ニ伴フ混亂、人心ノ不安等ニ因ル影響大ナルベキコトヲ一般ニ徹底セシムルコト

（三）前二號ニ依ルモ尙退去セントスル者アル場合ハ適宜統制ヲ加ヘ混亂ヲ未然ニ防止スル樣努ムルコト

二、事前避難

（一）事前避難ニ就テハ防護力低キ施設ニ多數集團的ニ避難セシムルヨリモ寧ロ各戸ノ簡易待避施設ニ分散待避セシムル方實害少キコトヲ認識セシムルコト

（二）現在ノ公共防護室又ハ公共防空壕ノ整備ノ狀況ニ鑑ミ之ニ避難ヲ認ムルハ其ノ近隣ニ在住スル老幼病者等ニ限ルコトトシ其ノ他ノ老幼病者ハ各戸ノ簡易待避施設ニ分散待避セシムルコト

（三）事前避難ノ場所及之ニ收容スベキ避難者ニ關シテハ具體的ニ調査確定シ置クコト

（四）通行人等ハ公共防護室又ハ公共防空壕ニ待避セシメザルコト
尙地下鐵ハ事前避難又ハ待避ノ場所ニ充用セザルコト

防空救護組織要綱ニ關スル件

（昭和十四年十月十四日
內務省發畫第百二十四號
計畫局長、警保局長）

各廳府縣長官宛（東京府ヲ除ク）

防空救護ニ關シ今般別紙ノ通之ガ組織要綱決定相成候ニ付テハ左記事項ニ留意ノ上速ニ防空救護組織ヲ整備シ空襲ニ因ル傷病者ノ救護上遺憾ナキヲ期セラレ度依命此段及通牒候也

追テ本件ニ關シテハ別添ノ通日本醫師會長、日本齒科醫師會長、日本藥劑師會長宛通牒致置候條御了知相成度

記

一、本要綱ハ防空救護組織ノ一標準ヲ示セルモノナルニ付各地方ノ實情ニ鑑ミ之ニ適應スル如ク計畫スルコト

二、防空救護組織ニ付テハ道府縣防空計畫ニ其ノ大綱ヲ規定シ之ニ基キ警察署長又ハ市町村長ヲシテ細目的具體的事項ヲ定メシムルコト

三、本要綱ニ基ク計畫ノ實施ニ當リテハ關係方面特ニ醫師會、齒科醫師會、藥劑師會等トノ連絡協調ヲ緊密ニシ其ノ積極的協力ヲ得ルニ努ムルコト

四、防空救護機關ノ業務要領ニ關シテハ追テ之ガ指導要領ヲ定メ通牒ノ見込ナルモ取取ヘズ各道府縣ニ於テ適宜之ヲ定メ指導教養ノ徹底

ニ努ムルコト

防空救護組織要綱

第一　總　論

一、空襲ニ因ル傷病者（毒瓦斯被毒者ヲ含ム以下之ニ同ジ）ノ救護ハ左ノ救護機關ニ於テ之ヲ行フコト

（一）警防團救護部（班）

（二）救　護　所

（三）特設救護班

二、各救護機關ノ組織、編成、擔任區域、業務等ニ關シテハ法令及本要綱ニ依ルノ外道府縣防空計畫又ハ市町村防空計畫ノ定ムル所ニ依ルコト

三、本要綱ハ原則トシテ防空法第二條ノ規定ニ依ル指定市町村ノ區域ニ之ヲ適用スルモノナルコト

第二　警防團救護部（班）

一、警防團救護部（班）ハ空襲時現場ニ於ケル傷病者ノ救急處置、收容等ノ應急救護業務ニ從事スルコト

二、警防團救護部（班）ハ必要ニ應ジ其ノ區域內ニ應急處置所ヲ設置スルコト

三、警防團救護部（班）ハ常ニ救護所、特設救護班等ト緊密ナル連絡ヲ保持シ傷病者ノ救護上遺漏ナキヲ期スルコト

四、警防團救護部（班）ハ消防機關、防毒機關ト特ニ緊密ナル連絡ヲ保持スルコト

五、地方長官ハ道府縣醫師會ト協議ノ上警防團救護部（班）ノ部（班）長等ニハ成ルベク醫師ヲ以テ之ニ充ツルコト

第三　救　護　所

一、救護所ハ主トシテ空襲ニ因ル傷病者ノ治療、收容ヲ擔當スルコト

二、救護所ハ成ルベク既存ノ救護所防護室、官公署ノ管理スル診療所一般診療所及之ニ所屬スル醫師、齒科醫師、藥劑師、看護婦等ヲ以テ之ニ充ツルコト

尙一時ニ多數患者ノ救護ヲ要スル場合アルベキヲ豫想シ學校、寺院其ノ他適當ト認ムル場所ヲ救護所トシテ指定シ置クコト

三、救護所ハ敏速ニ救護ノ處置ヲ講ジ得ル樣成ルベク多數之ヲ配置スルコト

四、警察署長又ハ市町村長ハ道府縣防空計畫又ハ地方長官ノ指示ニ基キ關係官公署及醫師會、齒科醫師會又ハ藥劑師會ト協議シ當該市町村ノ區域內適當ナル箇所ニ救護所ヲ開設シ區域內ノ醫師、齒科醫師、藥劑師、看護婦其ノ他ノ者ヲシテ救護ニ從事セシムル計畫ヲ設定スルコト

五、警察署長又ハ市町村長ハ前項ノ計畫ニ基キ看護婦會、女子青年團等ト空襲時救護ニ從事スベキ者ノ出動等ニ關シ豫メ協議ヲ爲シ置クコト

六、醫師會、齒科醫師會ハ第四項ノ計畫ニ基キ所屬ノ醫師、齒科醫師ヲシテ救護所ヲ開設セシメ救護業務ニ從事セシムルコト

藥劑師會ハ第四項ノ計畫ニ基キ所屬ノ藥劑師ヲシテ救護所ニ於テ調劑ノ業務ニ從事セシムルコト

七、救護所ノ所有者又ハ管理者ハ警戒警報發令アリタルトキハ直ニ救護所ヲ開設シ何時ニテモ救護ヲ爲シ爲ル如ク設備資材其ノ他諸般ノ準備ヲ爲スコト

八、救護所ノ所有者又ハ管理者前項ノ準備完了シタルトキハ救護所ノ所在及人口ヲ著明ニ標示シ夜間ハ標識燈ヲ掲グルコト

第四　特設救護班

一、道府縣、市町村竝ニ地方長官又ハ市町村長ヨリ指定セラレタル者ハ救護所ニ於テ救護ニ從事スル者以外ノ所屬ノ現有機關ヲ以テ直屬救護班ヲ設ケ地方長官、警察署長又ハ市町村長ノ指示ヲ受ケ警防團救護部（班）又ハ救護所ノ應援ニ從事セシムルコト

二、醫師會、齒科醫師會ハ警防團救護部（班）又ハ救護所ニ於テ救護ニ從事スル者以外ノ所屬ノ醫師、齒科醫師ヲ以テ適宜救護班ヲ設ケ地方長官、警察署長又ハ市町村長ノ指示ヲ受ケ他ノ救護機關ノ應援其ノ他救護業務ニ從事セシムルコト

防空救護組織ニ關スル件

（昭和十四年十月十四日　內務省發衞第一二四號）

日本醫師會長
日本齒科醫師會長
日本藥劑師會長　宛

空襲ニ因ル傷病者ノ救護ニ遺憾ナキヲ期スル爲別紙ノ通防空救護組織要綱設定致シ候ニ付テハ各廳府縣長官、警察署長、市町村長等ト連絡協調ヲ緊密ニシ之ガ實施ニ格段ノ御協力相成度

追テ各醫師會ニハ救護事務ノ連絡統制ヲ圖ル爲成ルベク適當ナル機關ヲ設ケラルル樣御配意相成度

防空建築

市街地建築物法（抄）

（大正八年四月五日法律第三十七號）
（改正昭和十三年三月二十八日法律第二十九號）

第十二條　主務大臣ハ建築物ノ構造、設備又ハ敷地ニ關シ衛生上、保安上又ハ防空上必要ナル規定ヲ設クルコトヲ得

防空建築規則

（昭和十四年二月十七日內務省令第五號）
（改正昭和十七年三月二十七日內務省令第十五號）

第一條　市街地建築物法第十二條ノ規定ニ依ル建築物ノ構造、設備又ハ敷地ニ關シ防空上必要ナル事項ハ本令ノ定ムル所ニ依ル

第二條　削除

第三條　本令ニ於ケル用語ハ左ノ例ニ依ル

一　耐火木材トハ耐火液ヲ注入シタル木材ニシテ內務大臣ノ定ムル規格ニ適合シタルモノ（甲種耐火木材又ハ乙種耐火木材）ヲ謂フ

二　防火塗料トハ木材等ニ塗布スル塗料ニシテ內務大臣ノ定ムル規格ニ適合シタルモノヲ謂フ

三　床又ハ屋根ノ耐彈構造トハ鐵筋「コンクリート」造（鐵骨鐵筋「コンクリート」造ヲ含ム以下之ニ同ジ）ニシテ左ノ各號ノ一ニ該當スルモノヲ謂フ

イ　版ノ厚ハ四十センチメートル以上ニシテ各部分ニ於ケル鐵ト「コンクリート」トノ容積比ハ〇・〇四以上且複筋及繫筋ヲ配置シ主筋ノ間隔ハ十五センチメートル以下ト爲シ上下ノ鐵筋ハ千鳥ニ配シ適當ニ熔接シタルモノ

ロ　版ノ厚特ニ大ナルモノ等ニシテ地方長官（東京府ニ在リテハ警視總監以下之ニ同ジ）前號ト同等以上ノ耐彈效力アリト認ムルモノ

四　防護扉トハ左ノ各號ノ一ニ該當スルモノヲ謂フ

イ　鐵製ニシテ鐵板ノ厚ノ合計三ミリメートル以上且防毒上有效ナル構造ヲ有スルモノ

ロ　木造ニシテ厚六センチメートル以上且防毒上有效ナル構造ヲ有スルモノ

ハ　其ノ他地方長官前各號ニ準ズト認ムルモノ

五　防彈扉トハ左ノ各號ノ一ニ該當スルモノヲ謂フ

イ　鐵製ニシテ鐵板ノ厚ノ合計十ミリメートル以上ノモノ

ロ　「コンクリート」製ニシテ「コンクリート」ノ厚十センチメートル以上ノモノ

ハ　其ノ他地方長官前各號ニ準ズト認ムルモノ

六　防護壁トハ左ノ各號ノ一ニ該當スルモノヲ謂フ

イ　鐵筋「コンクリート」造ノ壁體ニシテ厚二十センチメートル以上且爆風ニ因リ倒壞セザル構造ヲ有スルモノ

ロ　堰板間ニ土砂、砂利ノ類ヲ充塡セル壁體ニシテ厚五十センチメートル以上且爆風ニ因リ倒壞セザル構造ヲ有スルモノ

ハ　土嚢、砂嚢ノ類ヲ積上ゲタル壁體ニシテ厚七十センチメートル以上且爆風ニ因リ倒壞セザル構造ヲ有スルモノ

ニ　其ノ他地方長官前各號ニ準ズト認ムルモノ

第四條　木造（鐵骨木造ヲ含ム以下之ニ同ジ）建物ニシテ隣地疆界線又ハ道路ノ中心線ヨリノ水平距離三メートル未滿ノ位置ニ在ル部分ニ付テハ左ノ構造ト爲スベシ

一　外壁、軒、庇、軒蛇腹ノ類又ハ出格子、肘掛、戸袋其ノ他建物ノ突出部ハ準耐火構造ト爲シ又ハ左ニ掲グルモノヲ以テ構成若ハ被覆スルコト

	水平距離二米未滿ノトキ	水平距離二米以上ノトキ
イ	鐵網「モルタル」、漆喰等ニシテ塗厚二糎以上ノモノ	鐵網「モルタル」、漆喰等
ロ	塗土ニシテ裏返塗ヲ施シタルモノ	塗土
ハ	耐火木材ニシテ厚一糎以上ノモノ（水平距離〇・五米未滿ノトキ又ハ外壁庇若ハ軒蛇腹ニ用フルトキヲ除ク）	耐火木材ニシテ厚一糎以上ノモノ
ニ		石綿板又ハ金屬板ニシテ木部ト適當ニ隔離セルモノ
ホ	「マグネシヤセメント」板、張瓦等ニシテ厚一・五糎以上ノモノ 木毛「セメント」板ノ上ニ「モルタル」又ハ漆喰ヲ塗リタルモノニシテ厚合計二・五糎以上ノモノ	「マグネシヤセメント」板、張瓦等ニシテ厚一糎以上ノモノ 木毛「セメント」板ノ上ニ「モルタル」又ハ漆喰ヲ塗リタルモノ
ヘ		
ト	其ノ他地方長官前各號ニ準ズト認ムルモノ	同上 〃

一　外壁、戸袋、破風、鼻隧等多量ノ雨雪ヲ受クル部分ニ使用スル耐火木材ハ甲種耐火木材トス

二　地方長官防火上支障ナシト認ムルトキハ雨雪ヲ防グ爲

「ロ」ノ材料ヲ以テ構成シタル外壁ヲ他ノ材料ヲ以テ被覆スルコトヲ得

二　窓、又ハ出入口ニハ防火戸又ハ左ニ掲グルモノヲ以テ構成シタル戸ヲ設ケ其ノ周圍部ハ前號ニ規定スル構造ト爲スコト

	水平距離二米未滿ノトキ	水平距離二米以上ノトキ
イ	耐火木材ニシテ厚一糎以上ノモノ	耐火木材
ロ		金屬板又ハ石綿板
ハ	「マグネシヤセメント」板ニシテ厚一糎以上ノモノ	「マグネシヤセメント」板
ニ	網入ガラス	同上
ホ	其ノ他地方長官前各號ニ準ズト認ムルモノ	同上

三　金屬板ヲ以テ被覆シタル屋根ノ野地ハ適當ナル厚ノ不燃材料又ハ耐火木材ヲ以テ之ヲ構成スルコト

地盤面ヨリノ高四メートルヲ超ユル木造建物ノ部分ニシテ隣地境界線又ハ道路ノ中心線ヨリノ水平距離五メートル未滿ノ位置ニ在ルモノニ付テハ前項ノ規定ヲ適用ス

同一敷地内ニ於テ隣接スル木造建物ニ在リテハ互ニ相面スル外壁間ノ中心線ヲ以テ隣地境界線ト看做シ前二項ノ規定ヲ適用ス但シ建築面積ノ合計六百平方メートル以下ノ建物ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

第四條ノ二　地方長官ハ門、塀ノ類ニ付其ノ規模、構造、周圍ノ狀況等ヲ參酌シ前條ノ規定ニ準ジ防火上必要ナル規定ヲ設クルコトヲ得

第五條　左ノ各號ノ一ニ該當スルモノニ付テハ地方長官第四條ノ制限ヲ輕減又ハ免除スルコトヲ得

一　建物ノ屋階及地階ヲ除キタル部分ノ床面積ノ敷地面積ニ對スル割合ノ限度十分ノ五以下ノ空地地區内ニ在ル建物

二　床面積四平メートル以下ノ平家建ノ建物

三　公園、廣場、河、海ノ類ニ面スル建物ノ部分

四　擁壁、防火壁又ハ防火上有效ナル墻塀ノ類ニ面スル建物ノ部分

五　防火上有效ナル袖壁ノ類ヲ設ケタル場合ニ於ケル其ノ後方ノ建物ノ部分

六　適當ニ「ドレンチヤー」ヲ設備スル建物ノ部分

七　第四條第一項第一號ニ規定スル構造ヲ有スルモノニ依リ絶縁セラルル建物ノ突出部

八　柱、桁其ノ他木材ヲ使用スル建物ノ部分

九　其ノ他地方長官防火上支障ナシト認ムル建物又ハ建物ノ部分

第五條ノ二　木造建物ニシテ床面積六百平方メートル軒高五メートルヲ超ユルモノニ在リテハ左ノ構造ト爲スベシ

一　外壁、軒、庇、軒蛇腹ノ類ハ準耐火構造ト爲スコト

二　主要ナル間壁ハ鐵網「モルタル」、塗土、漆喰ノ類又ハ耐火木材ヲ以テ構成又ハ被覆スルコト

三　桁行十二メートルヲ超ユルトキハ小屋裏及天井裏ヲ間隔十二メートル以内毎ニ鐵網「モルタル」、塗土、漆喰ノ類ヲ以テ區劃スルコト

四　長十二メートルヲ超ユル廊下ニハ長十二メートル以内毎ニ鐵網「モルタル」、塗土、漆喰ノ類ヲ以テ構成又ハ被覆シタル垂壁ヲ設クルコト

五　木造天井ニハ防火塗料ヲ塗布スルコト但シ不燃材料又ハ耐火木材ヲ以テ構成又ハ被覆シタル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

防火壁ヲ以テ區劃セラルル建物ノ部分ハ前項ノ適用ニ關シ之ヲ別ノ建物ト看做ス

地方長官防火上支障ナシト認メ又ハ建物ノ用途ニ依リ已ムヲ得ズト認ムルトキハ第一項ノ制限ヲ輕減又ハ免除スルコトヲ得

第五條ノ三　第四條第一項第一號若ハ第二項又ハ前條第一項ノ規定ニ依ル壁體ノ主要ナル構造用木材ノ腐蝕ノ虞アル部分ニハ適當ナル防腐方法ヲ施スベシ

第五條ノ四　木造建物ノ屋根瓦葺ナルトキハ其ノ野地ニ土居塗ヲ爲スベシ但シ野地ヲ適當ナル不燃材料、耐火木材等ヲ以テ構成シタルトキ其ノ他地方長官防火上支障ナシト認ムルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第六條　木造ノ長屋ニ在リテハ地盤ヨリ屋根ニ達スル迄土塗壁又ハ金屬板ノ類ヲ以テ各戸ヲ區劃スベシ

木造ノ長屋ニシテ其ノ建築面積百五十平方メートルヲ超ユルモノハ百五十平方メートル以内毎ニ準防火壁ヲ設クベシ

第七條　準防火壁ノ構造ハ左ノ規定ニ依ルベシ但シ準防火壁面ヨリ一・五メートル以上ニ亘リ建物ノ外周部又ハ野地ヲ第四條第一項ノ構造ト爲シタルトキハ第二號又ハ第三號ノ規定ニ依ラザルコトヲ得

一　厚三センチメートル以上ノ鐵網「モルタル」造ノ類ニシテ倒壞ノ虞ナキモノト爲スコト

二　兩端ハ之ニ近接スル木部ヨリ三十センチメートル（地盤面上二・五メートル以内ノ部分ハ十五センチメートル）以上突出セシムルコト

三　上端ハ屋根面ニ直角ニ測リ四十五センチメートル以上屋上ニ突出セシムルコト

第八條　木造建物ノ開口ニシテ隣地疆界線ニ面シ且隣地疆界線ヨリノ水平距離一メートル未滿ノモノニ付テハ地方長官防火上ノ必要ニ依リ之ガ設置ヲ禁止又ハ制限スルコトヲ得

金屬板ヲ以テ屋根ヲ被覆シタル木造建物ニ在リテハ前項ノ距離ヲ二メートル未滿トス

第八條ノ二　木造建物ニ在リテハ防火庫ノ用ニ供シ得ベキ容量一立方メートル以上ノ地窖ヲ設クベシ但シ地方長官建物ノ用途若ハ土地ノ狀況ニ依リ必要ナシト認メ又ハ之ニ代ルベキ適當ナル設備アルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第九條　鐵筋「コンクリート」造ノ建物又ハ建物ノ部分ニシテ階數六以上ノモノ又ハ階數五且其ノ床面積三千平方メートルヲ超ユルモノニ在リテハ其ノ屋根ヲ耐彈構造ト爲スベシ但シ最上階ニ集會室ノ類アル爲其ノ屋根ヲ耐彈構造ト爲シ難キ場合ニ於テハ床ヲ耐彈構造ト爲シ之ニ代フルコトヲ得

前項ノ建物又ハ建物ノ部分ニハ其ノ居室ノ床面積ノ十分ノ一以上ノ收容面積ヲ有スル防護室ヲ設クベシ

第十條　鐵筋「コンクリート」造ノ建物ニシテ其ノ床面積六百平方メートルヲ超ユルモノニ在リテハ其ノ居室ノ床面積ノ十分ノ一以上ノ收容面積ヲ有スル防護室又ハ準防護室ヲ設クベシ

第十一條　外壁木造又ハ鐵造ノ建物ニシテ床面積六百平方メートルヲ超ユルモノハ其ノ居室ノ床面積ノ十分ノ一以上ノ面積ヲ有シ且周壁鐵筋「コンクリート」造若ハ之ト同等以上ノ防彈效力ヲ有スル室、地窖其ノ他防護ノ施設ヲ設クベシ

第十一條ノ二　前三條ノ防護室、準防護室、其ノ他防護ノ施設ハ地方長官ノ許可ヲ受ケ當該建物ノ外ニ之ヲ設クルコトヲ得

第十二條　壁體ヲ以テ遮斷セラルル建物ニ付テハ第九條乃至第十一條ノ規定ハ其ノ區劃セラルル部分ニ付之ヲ適用ス

第十三條　地方長官ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル建築物ニ付防護室、準防護室其ノ他防護ノ施設ニ關シ第十條又ハ第十一條ノ規定ニ準ジ必要ナル命令ヲ爲スコトヲ得

一　公共團體ノ公用ニ供スルモノ

二　學校

三　病院

四　停車場、停留場又ハ航空機若ハ汽船ノ發着場

五　卸賣市場

六　常時五十人以上ノ職工ヲ使用スル工場

七　劇場、映畫館、演藝場、觀物場、公會堂又ハ集會場

八　前各號ニ掲グルモノノ外地方長官命令ヲ以テ指定スルモノ

第十四條　防護室ノ構造設備ハ左ノ規定ニ依ルベシ

一　收容室ト前室トニ區劃シ又ハ臨時區劃ノ設備ヲ爲シ得ルモノト爲スコト但シ地方長官防護室ノ位置其ノ他ノ狀況ニ依リ支障ナシト認ムルトキハ此ノ限ニ在ラズ

二　收容室ノ床面積ハ百平方メートルヲ超エザルコト但シ地方長官建物ノ用途其ノ他ノ狀況ニ依リ己ムヲ得ズト認メ又ハ支障ナシト認ムルトキハ此ノ限ニ在ラズ

三　上部ノ床又ハ屋根ハ耐彈構造ト爲スコト但シ防護室ノ上部ニ二以上ノ版アル場合ニ於テ地方長官支障ナシト認ムルトキハ耐彈構造ノ條件ヲ輕減スルコトヲ得

四　周壁、鐵筋「コンクリート」造ト爲スコト周壁ニシテ建物ノ第一階以下ノ階ノ外壁ヲ爲スモノニ在リテハ特ニ耐彈效力大ナル構造ト爲スコト但シ其ノ周壁地中ニ在ル場合ニ於テ地盤面ニ周壁ヨリノ水平距離四メートル以上ニ亙リ耐彈構造ノ版ヲ設クル等適當ナル防護施設ヲ爲シタルトキハ此ノ限ニ在ラズ

五　防護ニ際シ使用スル出入口ニハ防護扉ヲ設ケ且外氣ニ面スルモノニ在リテハ其ノ前面ニ出入ニ支障ナキ距離ヲ隔テ防護壁ヲ設ケ又ハ之ヲ設クル準備裝置ヲ爲スコト

前項ノ防護壁ノ高ハ出入口ノ高以上、幅ハ出入口ノ幅ニ出入口ト防護壁トノ水平距離ノ二倍ヲ加ヘタルモノ以上ト爲スコト

六　外壁ニ設クル開口ハ其ノ面積ヲ三平方メートル以下ト爲シ且前號ニ該當スルモノヲ除クノ外防彈扉ヲ設ケ又ハ之ニ代ル臨時設備ヲ爲シ得ルモノト爲スコト

建物ノ第一階ニ在リテハ外壁ノ窓ハ床面ヨリ高一・五メートル未滿ノ位置ニ之ヲ設クルコトヲ得ザルコト

七　外壁ニ非ザル周壁ノ開口ニハ防護扉ヲ設クルコト

八　出入口一ナル場合ニ於テハ適當ナル位置ニ非常脫出口ヲ設クルコト

九　防毒上有效ナル構造ト爲スコト

第十五條　準防護室ノ構造設備ハ左ノ規定ニ依ルベシ

一　收容室ノ床面積ハ五十平方メートルヲ超ヱザルコト但シ地方長官建物ノ用途其ノ他ノ狀況ニ依リ己ムヲ得ズト認メ又ハ支障ナシト認ムルトキハ此ノ限ニ在ラズ

二　上部ノ床又ハ屋根及周壁ハ鐵筋「コンクリート」造又ハ之ト同等以上ノ耐彈效力アルモノト爲スコト

三　防護ニ際シ使用スル出入口ニハ防護上支障ナキ位置ニ在ルモノヲ除クノ外防護扉ヲ設クルコト

四　外壁ニ設クル開口ハ其ノ面積ヲ三平方メートル以下ト爲シ且防護扉ノ類ヲ設ケ又ハ之ニ代ル臨時設備ヲ爲シ得ルモノト爲スコト

五　外壁ニ非ザル周壁ノ開口ニシテ面積四平方メートルヲ超ユルモノニハ防護扉ノ類ヲ設クルコト

六　出入口一ナル場合ニ於テハ適當ナル位置ニ非常脫出口ヲ設クルコト

七　防毒上有效ナル構造ト爲スコト

第十六條　地方長官ハ建物ノ用途其ノ他ノ狀況又ハ特別ナル事由ニ因リ己ムヲ得ズト認メ又ハ支障ナシト認ムルトキハ第九條乃至第十一條ノ耐彈構造、防護室、準防護室其ノ他防護ノ施設ニ關スル制限ヲ輕減スルコトヲ得

第十七條　地方長官ハ第九條乃至第十一條ノ防護室、準防護室其ノ他防護ノ施設又ハ空地ノ配置ニ關シ必要ナル命令ヲ爲スコトヲ得

第十七條ノ二　地方長官ハ內務大臣ノ指定スル種類ニ屬スル重要ナル工場又ハ事業場ニ於ケル動力設備其ノ他作業上特ニ重要ナル設備ヲ收容スル建築物ニ付テハ其ノ周壁及屋根又ハ床ヲ特ニ耐彈效力大ナル構造ト爲サシムルコトヲ得

地方長官ハ前項ノ建築物ニ付重要設備ノ防護ニ關シ防護壁ノ設置其ノ他必要ナル措置ヲ命ズルコトヲ得

第十七條ノ三　地方長官ハ燈火管制ノ爲建築物ノ開口部ノ隱蔽其ノ他ノ設備ニ關シ必要ナル命令ヲ爲スコトヲ得

第十八條　地方長官ハ僞裝ノ爲建築物ノ形態、色彩又ハ僞裝準備裝置ニ關シ必要ナル命令ヲ爲スコトヲ得

第十九條　石油「タンク」ニシテ其ノ容量三千キロリツトルヲ超ユルモノハ之ヲ地下ニ設クベシ但シ地方長官土地ノ狀況又ハ適當ナル防護施設ノ設置ニ依リ支障ナシト認ムルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第二十條　一時ノ使用ニ供スル建築物ニシテ地方長官支障ナシト認ムルモノニ付テハ本令ノ規定ニ拘ラズ存續期限ヲ附シ其ノ建築ヲ許可スルコトヲ得

第二十一條　第四條乃至第十二條、第十六條及第十七條ノ規定ハ內務大臣ノ指定スル區域ニハ之ヲ適用セズ

附　則

本令ハ昭和十四年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

附　則

本令ハ昭和十七年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

防火改修規則（昭和十七年三月二十七日內務省令第十六號）

第一條　防空法第五條ノ二第一項ノ區域ハ防空建築規則第二十一條ノ規定ニ依ル區域ヲ除ク市街地建築物法第二十三條ノ規定ニ依ル區域ノ全部又ハ一部ニ付地方長官（東京府ニ在リテハ警視總監以下之ニ同ジ）之ヲ指定スベシ

第二條　防空法第五條ノ二ノ木造建築物ハ左ニ掲グルモノトス

一　床面積六百平方米軒高五米ヲ超ユル木造（鐵骨木造ヲ含ム以下之ニ同ジ）建物但シ防空建築規則第五條ノ二ノ規定ニ依リ建築シタルモノヲ除ク

二　前號ニ掲グルモノ以外ノ木造建物但シ市街地建築物法施行規則ノ定ムル乙種防火地區ニ關スル規定又ハ防空建築規則ノ規定ニ依リ建築シタルモノヲ除ク

第三條　前條ノ木造建物ノ防火改修ニ付テハ本令ニ別段ノ定アル場合ヲ除クノ外防空建築規則第三條、第四條（第一項第三號ヲ除ク）、第五條、第五條ノ二（第一項第二號ヲ除ク）及第五條ノ三ノ規定ヲ準用ス

第四條　地方長官ハ防空建築規則第四條ノ規定ノ準用ニ關シ數地ヲ異ニスル木造建物ヲ其ノ建築面積ノ合計百五十平方米以內毎ニ同一敷地內ニ在ルモノト看做スコトヲ得

第五條　地方長官已ムヲ得ズト認ムルトキハ第二條第二號ノ木造建物ノ窓又ハ出入口及其ノ周圍部ニ付防空建築規則第四條第一項ノ規定ノ準用ニ關シ五米未滿ヲ三米未滿トシ同條第二項ノ準用ニ關シ三米未滿ヲ二米未滿トシ同條第二項ノ準用ニ關シ五米未滿ヲ三米未滿トナスコトヲ得

第六條　防空建築規則第四條ノ規定ノ準用ニ關シ隣地疆界線明瞭ナラザルトキハ互ニ相面スル建物ノ外壁間ノ中心線ヲ以テ隣地疆界線ト看做ス

第七條　木造ノ長屋ニシテ建築面積百五十平方米ヲ超ユルモノハ百五十平方米以內毎ニ地盤ヨリ屋根ニ達スル延防火上有效ナル土蔵壁ノ類ヲ以テ區劃スベシ

第八條　地方長官ハ防火改修工事ノ施行ノ爲必要アリト認ムルトキハ當該建物ニ付補强其ノ他必要ナル措置ヲ命ズルコトヲ得

第九條　第二條第二號ノ木造建物ノ防火改修ハ地方長官ノ定ムル所ニ依リ街區毎ニ一群トシテ之ヲ施行スベシ

第十條　防空法施行令第十一條第一項ノ費用ハ防空法第五條ノ二ノ規定ニ依ル工事ニ在リテハ當該工事ヲ施行シタル建物ノ所有者ノ負擔トシ同法第五條ノ三ノ規定ニ依ル工事ニ在リテハ工事完了ノ時ニ於ケル當該建物ノ所有者ノ負擔トス

防空法施行令第十一條第二項ノ費用ハ當該工事ヲ施行シタル街區內ニ在ル第二條第二號ニ該當スル各建物ノ所有者ノ負擔トス

第十一條　防空法第五條ノ二ノ規定ニ依リ防火改修ヲ命ゼラレタル建物ノ所有者ハ地方長官ノ定ムル期間內ニ其ノ設計ニ付地方長官ノ認可ヲ受クベシ

前項ノ認可申請ハ當該建物所在市町村ノ市町村長ヲ經由スベシ

第十二條　市町村長防空法第五條ノ三ノ規定ニ依リ防火改修工事ヲ施行スルトキハ其ノ設計ニ付地方長官ノ認可ヲ受クベシ

第十三條　前二條ノ防火改修工事竣功シタルトキ又ハ地方長官ノ特ニ指定シタル工程ニ達シタルトキハ地方長官ニ届出ヅベシ

前項ノ届出ハ當該建物ノ所在市町村ノ市町村長ヲ經由スベシ

第十四條　地方長官土地ノ狀況又ハ建物ノ用途ニ依リ必要アリト認ムルトキハ內務大臣ノ認可ヲ受ケ第三條乃至第五條及第七條ノ規定ニ拘ラズ命令ヲ以テ別段ノ定ヲ爲スコトヲ得

第十五條　町村組合ニシテ町村ノ事務ノ全部又ハ役場事務ヲ共同處理スルモノハ本令ノ適用ニ付テハ之ヲ一町村、其ノ組合管理者ハ之ヲ町村長ト看做ス

町村制ヲ施行セザル地ニ於テハ本令中町村ニ關スル規定ハ町村ニ準ズベキモノニ、町村長ニ關スル規定ハ町村長ニ準ズベキ者ニ之ヲ適用ス

附　則

本令ハ昭和十七年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

耐火木材取締規則（昭和十六年六月二十七日內務省令第一一九號）

第一條　防空建築規則第三條ノ規定ニ依ル耐火木材ヲ製造セントスル者ハ左ノ各號ニ掲グル事項ヲ、輸入又ハ移入セントスル者ハ第一號及第二號ニ掲グル事項ヲ具シ見本品ヲ添ヘ主タル業務所所在地ノ地方長官（東京府ニ在リテハ警視總監以下之ニ同ジ）ノ許可ヲ受クベシ

一　氏名（法人ニ在リテハ其ノ名稱）、商號及業務所所在地

二　製造所ノ名稱及所在地

三　注入セントスル耐火液ノ內容及調製法

四　製造方法及製造設備（製品檢査設備ヲ含ム）ノ概要並ニ一年ノ製造能力

五　主任技術者ノ氏名及履歷

前項第三號乃至第五號ノ事項ヲ變更セントスルトキハ前項ニ準ジ許可ヲ受クベシ

第一項第一號又ハ第二號ノ事項ヲ變更セントスルトキハ第一項ニ準ジ內務大臣ニ届出ヅベシ

第二條　前條ノ規定ニ依リ許可ヲ受ケタル耐火木材ノ製造者、輸入者又ハ移入者ハ其ノ製造、輸入又ハ移入シタル耐火木材ニ付內務省防空研究所ノ檢定ヲ受クベシ

前項ノ規定ニ依リ檢定ヲ受ケントスル者ハ別記第一號樣式ノ檢定申請書ヲ內務省防空研究所ニ提出スベシ

第一項ノ檢定ニ合格シタル耐火木材ニハ別記第二號樣式乃至第五號樣式ノ檢定證印ヲ附ス

第三條　檢定ヲ受ケントスル者ハ手數料トシテ木材一石ニ付金十錢ヲ納付スベシ

前項ノ手數料ハ收入印紙ヲ用ヒ檢定申請書ニ之ヲ貼附スベシ

既納ノ手數料ハ之ヲ還付セズ

第四條　第二條ノ規定ニ依ル檢定證印ナキ木材ハ之ヲ耐火木材ト稱シ

又ハ之ニ類似ノ名稱ヲ用ヒテ販賣スルコトヲ得ズ

第五條　地方長官ハ當該官吏ヲシテ耐火木材ヲ製造、貯藏若ハ販賣スル場所ヲ巡視セシメ又ハ耐火木材ヲ檢査セシムルコトヲ得

第六條　耐火木材ノ製造者、輸入者又ハ移入者其ノ業務ニ關シ犯罪若ハ不正ノ行爲アリタルトキ又ハ本令ノ規定ニ違反シタルトキハ內務大臣ハ其ノ許可ヲ取消スコトヲ得

第七條　第一條第一項ノ規定ニ違反シタル者ハ三月以下ノ懲役又ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

第八條　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

一　第一條第二項又ハ第四條ノ規定ニ違反シタル者

二　第五條ノ規定ニ依ル巡視又ハ檢査ヲ拒ミ、妨ゲ又ハ忌避シタル者

第九條　第一條第三項ノ規定ニ違反シタル者ハ科料ニ處ス

第十條　耐火木材ノ製造者、輸入者、移入者又ハ販賣者ハ其ノ代理人、戶主、家族、同居者、雇人其ノ他ノ從業者ニシテ其ノ業務ニ關シ本令ニ違反シタルトキハ自己ノ指揮ニ出デザルノ故ヲ以テ處罰ヲ免ルルコトヲ得ズ

第十一條　本令ニ依リ適用スベキ罰則ハ其ノ者ガ法人ナルトキハ理事取締役其ノ他法人ノ業務ヲ執行スル役員ニ、未成年者又ハ禁治產者ナルトキハ其ノ法定代理人ニ之ヲ適用ス但シ營業ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有スル者ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

第十二條　本令ハ陸海軍ノ用ニ供スル耐火木材ニ付テハ之ヲ適用セズ

附　則

本令ハ昭和十六年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

本令公布ノ際現ニ耐火木材ヲ製造スル者ハ本令施行後一月以內ニ第一條ノ規定ニ依ル手續ヲ爲スベシ

前項ノ規定ニ依リ許可ヲ申請シタル者ニ付テハ其ノ申請ニ對スル許可又ハ不許可ノ處分ノ日迄第二條ノ規定ハ之ヲ適用セズ

本令施行ノ際現ニ存スル耐火木材又ハ第二項ノ規定ニ依リ第一條ノ許可ヲ申請シタル者ガ其ノ申請ニ對スル許可又ハ不許可ノ處分ノ日迄ニ製造シタル耐火木材ニ付テハ昭和十六年十二月三十一日迄第四條ノ規定ハ之ヲ適用セズ

第一號樣式

檢定申請書

一、耐火木材ノ品種別及材種別ノ數量

一、耐火木材ノ製造所ノ名稱及所在地

右ニ依リ耐火木材ノ檢定相受ケ度耐火木材取締規則第二條第一項ノ規定ニ依リ及申請候

年　月　日

業務所所在地

申請者　商號　氏名（法人ニ在リテハ其ノ名稱）印

內務省防空研究所長宛

備考

輸入又ハ移入スル耐火木材ニ付テハ製造所ノ記載箇所ニ輸入先又ハ移入先ヲ記載スルコト

第二號樣式

（外円直径六十粍）

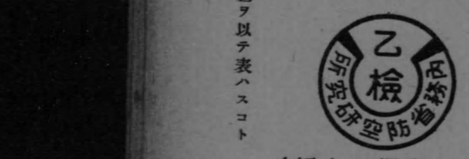
第三號樣式

（外円直径六十粍）

第四號樣式

（外円直径二十粍）

第五號樣式



（外円直径二十粍）

「備考」檢定證印ハ黑色ヲ以テ表ハスコト

防空建築規則ノ施行ニ關スル告示

（昭和十四年三月二十九日內務省告示第百三十八號）

左ノ區域ニ昭和十四年四月一日ヨリ防空建築規則ヲ適用ス

東京市

防空建築規則ノ施行ニ關スル告示

（昭和十四年七月二十日內務省告示第四百四號）

左ノ區域ニ昭和十四年八月一日ヨリ防空建築規則ヲ適用ス

橫濱市、橫須賀市、川崎市、名古屋市、京都市、東鋼鶴市、大阪市神戶市、廣島市、呉市、下關市、門司市、小倉市、戶畑市、八幡市若松市（福岡縣）、福岡市、佐世保市

耐火木材取締規則施行ニ關スル件

（昭和十六年八月九日
内務省防畫第七號）

各廳府縣長官宛

今般耐火木材取締規則公布相成候處之ガ施行ニ付テハ左記ニ依リ御取計相成度依命此段及通牒候

記

一、規則第一條ノ規定ニ依ル願屆書ハ總テ二通宛提出セシムルコト

二、規則第一條ノ規定ニ依ル耐火木材製造許可申請書ヲ受理シタルトキハ申請書ノ具備事項其ノ他許否ニ關シ參考ト爲ルベキ事項ニ付調査ヲ遂ゲ意見ヲ附シ進達スルコト

三、前項ノ申請ニ際リ添附スベキ見本品ハ總テ同質ノ杉板ヲ用ヒ左ノ三種トシ願人ヨリ直接内務省防空研究所宛送附セシムルコト但シ特別ノ事由ニ依リ添附不能ノ場合ハ一應其ノ事由ヲ具シ指示ヲ受ケシムルコト

（一）厚〇・九一糎（三分）巾一八・二糎乃至二四・二糎（六寸乃至八寸）長一八二糎（六尺）ニシテ耐火處理セルモノ　三枚

（二）厚一・八二糎（六分）巾一八・二糎乃至二四・二糎（六寸乃至八寸）長一八二糎（六尺）ニシテ耐火處理セルモノ　三枚

（三）厚一八・二糎（六分）巾一八・二糎乃至二四・二糎（六寸乃至八寸）長一八二糎（六尺）ノ素材　一枚

耐火木材規格

（昭和十四年五月四日内務省告示第二百七十號
昭和十六年十二月二十二日内務省告示第六百七十號改正）

第一條　耐火木材ハ之ヲ甲種耐火木材及乙種耐火木材ノ二種トス

第二條　甲種耐火木材トハ左ノ各號ニ該當スル木材ヲ謂フ

一　材料ノ中心部ヨリ厚及幅各五ミリメートルノ棒狀ノ試料ヲ採リ攝氏七十度ニテ二十四時間乾燥シ其ノ端部ヲ「ブンゼンバーナー」ノ青色還元焰ノ最頂部ニ十秒間挿入シ靜カニ取出シタル後ニ於テ之ニ焰ノ殘ラザルコト

二　長三十センチメートルノ材料ヲ二十四時間攝氏二十五度ノ清水中ニ浸漬セシメタル後長ノ中央部ニ於ケル表面ヨリ深五ミリメートル乃至十ミリメートルノ部分ガ前號ニ該當スルコト

三　五センチメートル角厚二センチメートルノ板狀ノ試料ヲ採リ同寸法ノ無處理試料ト共ニ攝氏五十度ニテ四十八時間乾燥シタル後二十四ミリメートル乃至三十ミリメートルノ鐵釘各五本ヲ垂直ニ頭部迄打込ミタルモノヲ清水ヲ入レタル「デシケーター」中ニ鐵釘ノ頭部ヲ上ニシテ靜置シ攝氏六十度ニテ十日間放置シタル後鐵釘ヲ試料ヨリ取出シ五十パーセント苛性「ソーダ」溶液中ニテ十分間同一條件ノ下ニ煮沸シタル後鐵錆ヲ充分除去シ此ノ場合鐵釘ノ減量ガ無處理ノモノニ比シ同量以下タルコト

第三條　乙種耐火木材トハ左ノ各號ニ該當スル木材ヲ謂フ

一　前條第一號及第三號ニ該當スルコト

二　前條第二號ニ於テ浸漬時間ヲ八時間トナシタルモノニ該當スルコト

第四條　乙種耐火木材ニ別ニ防水處理ヲ施シタルモノニシテ第二條第二號ニ該當スルモノハ之ヲ甲種耐火木材ト見做ス

防空訓練

防空訓練事務處理ニ關スル件

（昭和十二年十二月十四日
内務省發畫第二十七號）

各廳府縣長官宛

標記ノ件ニ關シテハ爾今別紙要領ニ依リ處理致スコトト相成候條右御了知ノ上事務處理上萬遺憾ナキヲ期セラレ度

（別　紙）

一、内務省ハ必要アルトキハ關係各省ノ意見ヲ徵シタル上、陸海軍省ト協議シ其ノ年度ニ於テ施行スベキ防空訓練ノ計畫ヲ定ム

臨時ニ施行スル防空訓練ノ計畫ハ地方長官ノ上申ニ依リ前項ニ準ジ之ヲ定ム

二、内務省ヨリ關係各省ニ防空訓練計畫ヲ通知シ其ノ參加協力ヲ求ム

三、數道府縣ノ區域ニ跨ル防空訓練ニ關シテハ連絡廳ヲ指定ス但シ其ノ必要ナシト認ムルトキハ此ノ限ニ在ラズ

四、連絡廳（連絡廳ナキトキハ地方長官以下之ニ同ジ）ハ必要アルトキハ關係官廳ノ意見ヲ徵シタル上、關係陸海軍司令官ト協議シ防空訓練ノ細部計畫案ヲ定ム此ノ間地方的交渉困難ナル事情生起セバ之ヲ中央部ノ交渉ニ移ス

細部計畫案ヲ定ムルニ當リ連絡廳ハ關係地方長官、關係官廳、市町村長ノ意見ヲ取纏メ必要ニ依リ關係者ノ參集ヲ求ムル等連絡ニ任ズルモノトス

五、細部計畫案ヲ定メタルトキハ連絡廳ヨリ訓練ノ下命方内務大臣ニ申請ス

六、内務大臣ハ防空訓練ノ命令ヲ發スルトキハ同時ニ内閣總理大臣及各省大臣ニ其ノ旨通知ス

七、防空訓練ノ統監ハ各道府縣每ニ地方長官ヲ以テ之ニ充テ數道府縣ノ區域ニ跨ルモノニシテ特ニ必要ト認ムルトキハ内務大臣ヲ統監トス

（同時ニ軍防空訓練ヲ行フ場合ニ於テハ別ニ軍統監ヲ定メラル）

指導要領

防空指導一般要領

一、防空ノ重點ハ軍防空ニ則應シ國土防衛ノ完璧ヲ期スルニ在ルコト勿論ナリト雖モ防空實施ニ際シテモ國民生活ノ平常性ヲ保持シ國内各般ノ業務ノ運營ヲ阻害スルコトナク以テ防空ノ永續性ヲ保持スルコトヲ要ス

斯ル見地ヨリ防空ハ國民全般ノ國家ニ對スル義務タルコトヲ認識セシメ教育訓練ノ徹底ヲ圖リ防空上必要ナル設備並ニ資材ヲ合理的ニ整備スルヲ要ス

二、防空機關ニ付テハ防空ノ實施ノ整齊圓滑ヲ期スル爲軍防空機關トノ連繫及國民防空ノ機關相互ノ連絡ヲ緊密ナラシムルト共ニ合理的ナル組織ト統制トヲ必要トス尚防護團體ニ關シテモ叙上ノ趣旨ニ合致スル如ク指導スベキモノトス

三、防空ニ關スル教育ニ付テハ國民一般ヲシテ防空ニ深キ理解ト協力トヲ得シムルニ重點ヲ置キ、講習、講演、映畫、讀本、册子等各種ノ手段ニ依リ防空思想ノ啓發ニ努ムルヲ肝要トス

尚防空機關特ニ其ノ幹部タルベキ者ノ識能ノ向上ノ必要ナルハ言ヲ俟タザルヲ以テ講習機關ノ創設又ハ特別講習ノ施行等考慮スベキモノトス

四、防空訓練ニ付テハ防空ニ關スル國民一般ノ理解ト關心トヲ徹底シ有事ニ際シテノ覺悟ニ資スルト共ニ防空機關ノ有效ナル活動ト設備資材ノ充實トヲ促スニ最モ適切ナルモノナルヲ以テ周到ナル計畫ト剛切ナル指導トノ下ニ所期ノ效果ヲ發揮スル樣眞摯ナル施行ヲ必要トス

五、設備並ニ資材ノ整備ニ付テハ防空ガ國民全般ノ自衛行爲ヲ基調トスルモノナルコトヲ認識セシメ努メテ自發的ニ整備セシムルト共ニ可及的平戰兩時ヲ通ジ使用シ得ベキコトヲ考慮シ指導スベク、緩急順序ノ選定ニ當リテハ土地ノ狀況ヲ充分ニ考慮スルヲ要ス

六、監視ニ付テハ監視哨ハ僻遠ノ地ニ配置セラルルモノ少カラズ且相當長期ニ亙リ繼續勤務スルモノナルヲ以テ之ニ任ズル者ハ特ニ旺盛ナル責任觀念ト耐忍持久ノ精神トヲ必要トスルノミナラズ航空機ノ識別及通信ニ關スル智能ヲ具備セザルベカラザルヲ考慮シ之ガ人員ノ選定及教育訓練ヲ爲シ置クコトヲ要ス

監視ニ關スル設備並ニ資材ノ整備ニ付テハ防空ノ實施ニ際シ利用シ施設スベキ土地建物等ニ付計畫シ置クヲ主眼トスベキモノナルモ航空機ノ識別及通信ニ關シ平素ノ教育資材ノ整備モ亦肝要ナリトス

七、通信ニ付テハ其ノ種類ハ警報用、情報用及指揮連絡報用トシ所屬（公衆電話、警察電話、鐵道電話、防空專用電話等）ノ如何ニ拘ハラズ通信網ヲ連結シ防空機關相互間並ニ防空機關ト軍防空機關トヲ密接ニ連絡シ得ル方法ヲ講ジ置クベキモノニシテ通信ノ完璧ヲ期スルニハ專用電話ニ依ルヲ可トス

公衆通信ノ取扱ヲ受クルモノニ在リテハ順位ヲ定メ優先的ニ取扱ハルルモノナルヲ以テ特ニ指揮連絡報用通信ニ付テハ其ノ相當廣範圍ナルニ注意シ警報用及情報用通信ハ勿論他ノ重要ナル通信ヲ阻害セザル如ク嚴ニ濫用ヲ戒ムルコトヲ要ス

防空通信網ノ構成ヲ計畫スルニ當リテハ利用スベキ通信系統ヲ明ニシ專用電話ニ付テハ防空機關ノ配置ヲ基礎トシ防空實施間之ガ配置ノ變更ヲ要セザル如ク爲スベク、之ガ爲平時ヨリ設備スベキモノ（防空通信ノ根幹トナルベキモノ又ハ戰時ニ急施シ得ザルモノ等）ト資材ノミヲ整備シ置キ防空實施ニ際シ施設スベキモノトニ分チ計畫スベキモノトシ、先ズ情報通信ニ支障ナカラシムル如ク措置ヲ講ジ逐次他ノ通信ノ完成ヲ圖ル樣考慮スルヲ要ス又同一通信ガ系統ヲ

異ニスル通信系統ニ依リ連絡セラルルトキハ其ノ連絡ノ迅速且正確ニ行ハルル如ク意ヲ用フルモノトス

尙防空實施ニ際シテ通信網ノ破壞又ハ通信ノ輻輳等ヲ考慮シ之ガ對策ニ關シ豫メ計畫ヲ設定スルヲ必要トス

八、警報ニ付テハ警報ヲ發スル者、警報傳達ノ責任者及警報ノ受領者相互ノ連絡ヲ緊密ニシ必要ナル通信組織ヲ整備シ警報ヲ最モ迅速且正確ニ洩レナク發受シ且傳達シ得ル方法ヲ講ジ置クモノトス

警報ニ關スル設備ニ付テハ土地ノ實情ニ應ジ統一シテ同時ニ信號ヲ發シ得ル如キ號報器ヲ設置シ又ハ既存ノ施設ヲ適當ニ改善シテ利用スル如ク指導スルト共ニ重要地域ニ於テハ速ニ之ガ整備ヲ爲サシムルコトヲ要ス

九、燈火管制ニ付テハ其ノ重要性ト國民ノ普遍的義務ナルコトヲ認識セシメ、指導ニ當リテハ業態又ハ燈火ノ種類ニ應ジ管制ノ程度及方法ヲ明ニシテ其ノ目的ヲ達成スルコトヲ要ス

燈火管制中ト雖モ警戒管制ニ在リテハ一般ニ就業シ日常生活ヲ保持スルヲ本旨トシ、空襲管制ニ在リテハ就業ノ繼續ヲ必要トスルモノニ對シテ可及的ニ所要ノ施設ヲ爲シ就業スル如ク指導スルモノトス

燈火管制ニ關スル設備並ニ資材ノ整備ニ付テハ一般國民ヲシテ進ンデ整備セシムルコトヲ本旨トシ冗費ヲ省キ合理的ニ施設セシムル如ク指導スルヲ必要トスト雖モ重要地域又ハ重要施設ニ在リテハ嚴ニ管制ノ目的ヲ達シ得ル樣充分ナル整備ヲ爲サシムルコトヲ要ス

尙重要地域ニ在リテハ警戒管制時ニ於ケル街路燈殘置ノ設備ヲ速ニ整備セシムベキモノトス又重要地域及甲程度管制地域ニ在リテハ點滅裝置及減光裝置ヲ努メテ統一的ニ行ヒ管制目的達成上遺憾ナキヲ期セザルベカラズ

十、消防ニ付テハ火災ガ空襲ヲ原因トシテ發生スル外諸種ノ原因ニ依リ頻發スルモノナルト特ニ我國ノ都市ノ構成ガ火災ニ對シ薄弱ナル狀態ニ在ルトニ鑑ミ本然ノ消防機關ノ整備充實ヲ計ル外自衞消防（家庭消防）ヲ發達セシムル如ク指導スルヲ要ス即チ各家庭ニ防火思想ヲ普及シ防火方法ヲ訓練シ自治的ニ隣保共助ノ精神ニ依リ各種火災ノ發生ニ際シ應急消防ニ遺憾ナキヲ期セザルベカラズ

消防ニ關スル設備並ニ資材ノ整備ニ付テハ消防機械器具ノ充備、水源ノ涵養、水利ノ調整及貯水設備ノ增設ヲ圖ルト共ニ簡易ナル自衞消防用器具ヲ合理的ニ備付セシムル如ク指導スルヲ要ス

十一、防毒ニ付テハ一般ノ防毒知識ノ向上ヲ計リ簡易ニ自衞ノ措置ヲ講ジ得ル如ク指導スルト共ニ重要地域ニ在リテハ防空ノ要務ニ從事スベキ者ニ付個人防護ノ外被毒者ノ救急處置、消毒法、被毒地ノ交通制限、被毒物ノ使用制限等ヲ教育訓練スルヲ要ス

防毒ニ關スル設備並ニ資材ノ整備ニ付テハ重要地域及重要施設所在地ニ於テ考慮セラルベキモノニシテ一般ニハ簡易ナル防毒手段ヲ講ゼシメ、避難所等ノ施設ニ對シテハ防毒設備ヲ爲シ、尙防空ノ要務ニ從事スベキ者ニハ防毒面ノ類ヲ用意シ置クモノトス

十二、避難ニ付テハ原則トシテ自衞防空ノ精神ニ依リ建物毎ニ護ルベク、老幼者、病者或ハ空襲ニ依ル破壞、火災、被毒等ノ爲己ムヲ得ズ避難スル者及屋外通行者等ノ避難ニ關シテハ一定ノ計畫ノ下ニ統制ヲ保チ混亂ヲ來サザル樣指導セザルベカラズ

避難ニ關スル設備並ニ資材ノ整備ニ付テハ前項ノ趣旨ニ基キ密集區域、重要施設所在地等ニ付考慮セラルベク、之ガ爲公園、綠地、廣場等ニ付テハ火災時ノ避難ニ、學校、地下室、隧道、地下鐵道等ニ付テハ耐彈防毒ノ避難ニ利用シ得ル設備ヲ爲シ區域毎ニ配當スルモノトス

特ニ學校、劇場、集會場、市場等一堂ニ多衆集合スル施設ニ付テハ努メテ掩護ノ設備ヲ爲シ、其ノ設備ヲ爲シ得ザルモノニ付テハ避難ヲ爲地下室其ノ他ノ設備ヲ施スル如ク指導スルモノトス

十三、救護ニ付テハ一般ニ救急法ノ知識ヲ普及セシメ、醫師、藥劑師等特殊技能者ニ對シテハ空襲時發生スル傷病者ニ對スル應急手當又ハ防毒ニ關スル處置ノ技能ヲ修得セシムルモノトス

救護ニ關スル設備並ニ資材ノ整備ニ付テハ重要地域及重要施設所在地ニ於テ考慮セラルベキモノトス

十四、都市計畫法、市街地建築物法等ノ活用或ハ改正ニ依リ過大都市ノ防止、都市形態ノ改善、市街地ノ疎開、公園綠地ノ增設、都市ノ防火的構造ヲ考慮スルノ外、土木施設ニ付テハ防空上有效ナル道路廣場、鐵道、軌道、飛行場、水利施設等ヲ充實シ、重要ナル鐵道、軌道、上下水道、通信、發送電設備等ニ防護設備ヲ爲シ、建築施設ニ付テハ耐火建築ノ促進、重要建築物及特殊建築物ノ分散並ニ防護一般建築物ヲ改善スル等ノ諸般ノ措置ヲ必要トス

防空監視及情報通信指導要領

第一章　總　則

第一　防空監視ノ目的

防空監視ノ目的ハ主トシテ航空機ヲ速ニ發見識別シテ迅速確實ニ之ヲ所定ノ防空機關ニ報告シ且爾後ノ行動ヲ明確ニシ以テ防空ノ實施ヲ適確ナラシムルニ在リ

第二　防空監視隊員ノ精神的要素

一、防空監視ハ防空ノ第一線ニシテ國土防衞上極メテ重要ナルコトヲ認識シ義勇奉公ノ精神ヲ以テ之ニ當ルコト

二、防空監視ノ適否ハ直ニ防空ノ成果ヲ左右スルコトヲ認識シ旺盛ナル責任觀念ヲ以テ熱心且眞劍ニ服務スルコト

三、防空監視哨ハ僻遠ノ地ニ配置セラルルモノ勤カラズ又相當長期間ニ亘リ寒暑雨雪ヲ克服シテ勤務セザルベカラザルヲ以テ堅忍持久ノ精神ヲ堅持スルコト

第二章　防空監視隊ノ位置、編成及要員ノ選定

第一　防空監視隊ノ位置

一、防空監視隊本部ノ位置選定ニ當リテハ左ノ事項ニ留意スルコト

(一)　陸海軍防空擔任官及所屬監視哨トノ通信連絡ニ便ナルコト

(二)　通信ニ支障ヲ來スガ如キ騷音ナキコト

二、防空監視哨ノ位置選定ニ當リテハ左ノ事項ニ留意スルコト

(一)　上空四圍ノ視界廣ク且監視ヲ要スベキ方向ヲ見透シ得ルコト但シ左ノ事項ニ留意スルコト

イ、山頂、高塔其ノ他高層建築物ノ屋上等ハ一般ニ視界廣濶ナルモ防風施設ナキ箇所ハ一般地上ニ比シ爆音ノ反響勤キノミナラズ風當リ强クシテ爆音ノ聽取困難ナルコト

ロ、己ムヲ得ザレバ監視哨ノ任務ニ基キ特ニ監視スベキ方向ニ對シ所望ノ視界ヲ得ルヲ以テ滿足セザルベカラザルコトアルコト

(二)　附近ハ靜肅ニシテ成ルベク風當リ少キコト

例ヘバ交通頻繁ナル道路、工場、鐵道、軌道等騷音ヲ發スル地域ノ附近ニ在リテハ成ルベク之等ヨリ約五〇〇米以上、海岸附近ニ在リテハ成ルベク諸ヨリ約五〇〇米以上、特ニ船舶ノ出入頻繁ナル所ニ在リテ約一、〇〇〇米以上ヲ距リタル地點ヲ選定スルヲ可トスルコト

(三)　通信連絡ニ便ナルコト

(四)　成ルベク監視哨員ノ交代、休憩、給與等ニ便ナルコト

第二　防空監視隊ノ編成

防空監視隊ノ編成ハ防空監視隊本部三交代、防空監視哨五交代ヲ標準トシ外ニ所要ノ豫備員ヲ定メ置クコト

第三　防空監視隊要員ノ選定

一、防空監視隊員ハ第一章第二ノ精神的要素ノ外左ノ要件ヲ具備スルコト

(一)　身體强健ナルコト

(二)　特ニ監視哨員ニ在リテハ視力、聽力大ナルト共ニ成ルベク聽力左右均等ナルコト

二、防空監視隊員ハ成ルベク頻繁ニ異動セズ長期ニ亘リ勤務シ得ル者ヲ選定スルコト

第三章　防空監視隊ノ服務

第一　防空監視隊服務一般要領

一、防空監視隊長（副隊長）及防空監視哨長（副哨長）ノ指揮上留意スベキ事項

(一)　指揮ノ要訣ハ部下ヲ確實ニ掌握シ明確ナル意圖ノ下ニ嚴肅ニ適時適切ナル命令指示ヲ與フルト共ニ部下ヲシテ其ノ能力ヲ充分發揮セシムルニ在ルコト

(二)　常ニ部下ノ志氣ヲ振作シ積極的ニ勤務セシムルト共ニ部下ノ狀況ヲ詳知シ溫情ヲ以テ臨ミ適當ナル休憩、休養ヲ與フルコト

監視哨ニ在リテハ部下ノ能力特ニ視力聽力ノ狀況ヲ詳知シ勤務員ノ組合セニ留意スルコト

(三)　部下ヲ行動セシムル時ハ常ニ明快ナル號令又ハ命令ヲ以テ指揮シ且時々規律的訓練ヲ行フコト

(四)　常ニ自己ノ業務及部下ノ指揮教育ニ必要ナル研究ヲ遂ゲ自信ヲ以テ指揮指導スルト共ニ自ラ率先範ヲ示スコト

(五)　地方長官及關係陸海軍防空擔任官ヨリノ指示命令ニシテ必要アル事項ハ文書又ハ口達ヲ以テ確實ニ周知徹底セシムルコト

(六)　電話、ラヂオ等ニ依リ承知セル防空情報、氣象通報、友軍飛行機ノ飛行通報等ハ係員ニ於テ記錄セシメタル後掲示スベキ事項及關係者ノミニ知ラシムベキ事項等ニ區分シ之ヲ傳達周知セシメ以テ迅速適切ナル處置ニ資セシムルコト

(七)　監視哨長ハ監視哨一般守則及特別守則ヲ全哨員ニ指示シ充分理解記憶セシメ置クコト

(八)　監視哨長ハ監視員ノ監視區域ヲ明瞭ナル目標ニ依リ區分シ監視區域ノ境界附近ハ一部重複シテ監視セシムルコト、特ニ重要ナル方向ハ重複シテ監視セシメ又ハ監視員ノ監視區域ヲ狹少ナラシムル如ク監視區域ヲ定ムルコト

(九)　監視哨長ハ敵航空機又ハ疑ハシキ徵候發見ノ場合速ニ監視位置ニ至リ報告ノ正否ヲ監督シ之ヲ迅速確實ニ通信セシムルト共ニ控員ニ適宜監視ノ補助ヲ爲サシムルコト

二、防空監視隊員ノ遵守スベキ事項

(一)　任務ノ重大性ニ鑑ミ緊張且積極的ニ服務スルコト

(二)　嚴肅ナル規律ヲ恪守シ上長ノ指揮命令ヲ遵來シ以テ和衷協力忠實ニ任務ヲ遂行スルコト

(三)　機密事項ニ關與スル事多キヲ以テ特ニ秘密ノ嚴守ニ努ムルコト

(四)　勤務ハ敏捷確實ナル監視及適切迅速ナル情報通信ヲ主眼トシ事務ハ之ニ便ナル樣進渉セシムルコト

(五)　服務中ハ素リニ所定ノ位置ヲ離レザルコト、用務ノ爲其ノ位置ヲ離ルルトキハ上長ニ申告承認ヲ受クルコト

(六)　監視哨ノ監視員ハ姿勢動作ヲ正シクシ特ニ喫煙私語ヲ爲サザルコト

(七)　監視哨員ハ監視哨ノ一般守則、特別守則及情報通信要目ヲ充分熟知スルコト

(八)　關係書類ハ監視隊ノ服務ノ狀況ヲ明ニシ且後日ノ參考トナルモノナルヲ以テ服務規程ノ記載例ニ依リ其ノ都度主要事項ヲ洩レナク簡明ニ記載スルコト

(九)　關係書類及備付物件ハ叮嚀ニ取扱ヒ亡失毀損セザル樣留意スルコト

(一〇)　關係書類及備付物件ノ一覽表ヲ作成シ置キ隨時照合點檢スルコト

(一一)　監視隊本部及監視哨ハ無用ノ者ヲ立寄ラシメザルコト

三、防空監視隊員ノ勤務及交代

(一)　監視隊本部員ノ勤務及交代

イ、監視隊本部員ノ勤務ハ通常一晝夜勤務トシ概ネ三分ノ一ヲ通信係、三分ノ一ヲ事務係、三分ノ一ヲ控員トシ通信係、事務係、控員ノ順序ニ依リ交代勤務セシムルヲ例トスルモ業務ノ繁閑ニ依リ隊長ニ於テ勤務員ヲ適宜增減變更シ得ルコト

ロ、通信又ハ事務ニ從事スル本部員ノ交代ハ監視隊長又ハ監視隊副隊長ノ監督ノ下ニ勤務ヲ停滯セシメザル樣ニ留意シ被交代員ヨリ交代員ニ引繼ガシムルコト

ハ、全監視隊本部員ノ交代ニハ監視隊長又ハ監視隊副隊長ヨリ交代員全員ニ對シ最近ノ狀況、所屬監視哨ノ服務狀態、通信疎通ノ狀況、地方長官又ハ關係陸海軍防空擔任官ヨリ特ニ指示サレタル事項等ヲ指示シ前號ニ準ジ交代セシムルト共ニ關係書類、備付物件等ヲ詳細且確實ニ引繼ガシムルコト

(二)　監視哨員ノ勤務及交代

イ、監視哨員ノ勤務ハ概ネ一晝夜勤務トシ監視（立哨）員、通信員、控員ノ順序ニ依リ交代勤務スルヲ例トスルモ天候氣象ノ關係ニ依リ哨長ハ適宜順序ヲ變更シ得ルコト

ロ、立哨長時間ニ亘ルトキハ監視ニ缺陷ヲ生ジ易キヲ以テ監視哨長ハ左ニ依リ適宜時間ヲ定メ交代セシムルコト

(1)　立哨時間ハ通常一時間ヲ適度トシ二時間ヲ超過セザルコト

(2)　寒冷、炎暑又ハ雨雪時ハ立哨時間ヲ二十分乃至三十分トスルヲ可トスルコト

ハ、監視員ノ交代ニハ監視哨長又ハ監視哨副哨長之ニ立會シ監視ヲ中絕スルコトナク監視位置ニ於テ被交代員ヨリ交代員ニ對シ勤務中見聞シタル事項及特別守則等ヲ實地ニ就キ具體的ニ指示シ引繼ガシムルコト

前項ニ依リ交代シタル後ト雖茍監視員ハ新監視員ガ監視ニ馴ルル迄（約五分間）監視ヲ繼續スルコト

ニ、通信員ノ交代ハ監視哨長又ハ監視哨副哨長ノ監督ノ下ニ被交代員ヨリ交代員ニ對シ通信機ノ狀況通信連絡上特ニ留意スベキ事項等ヲ指示シ引繼ガシムルコト

ホ、全監視哨員ノ交代ニハ監視哨長又ハ監視哨副哨長ヨリ交代員全員ニ對シ最近ノ狀況及特ニ指示セラレタル事項ヲ指示シ前二號ニ準ジ監視員、通信員、控員ノ順序ニ交代セシムルト共ニ關係書類、通信機其ノ他ノ備付物件等事務上ノ引繼ヲ爲サシムルコト

ヘ、前號ノ交代ヲ完了シタルトキハ監視哨長ハ其ノ旨監視隊長ニ報告スルコト

四、防空監視隊員ノ休憩及給與

(一) 監視隊長及監視隊副隊長ハ適宜交互ニ休憩スルコト

(二) 監視哨長及監視哨副哨長ハ適宜交互ニ休憩スルコト

(三) 控員ハ成ルベク雑談、讀書ヲ避クル等心身殊ニ耳目ヲ充分休マシムルコト

(四) 控員ハ晝間ノ休憩時間中簡易ナル體操ヲ行ヒ心身ヲ爽快ナラシメ又ハ教育訓練ノ一部ヲ行フ等休憩時間ノ活用ニ努ムルコト

(五) 監視隊員ニ對スル給與ハ勤務能率ノ向上ニ留意シ特ニ給食ハ衛生及榮養ニ關シ考慮スルコト

第二 防空監視ノ要領

一、監視ノ要領

(一) 監視員ハ視力聽力ヲ充分發揮シ注意力ヲ耳目ニ集中シテ定メラレタル監視區域ノ上空ヲ監視スルコト

(二) 監視員ハ漫然空域ヲ監視スルコトナク右ヨリ左ヘ下ヨリ上ヘ或ハ其ノ反對ニ逐次周密ニ監視シ重要ナル方面ハ特ニ注意スルコト

(三) 監視員ハ敵航空機來襲ノ虞アル方向ヲ主トシテ監視スルヲ要スルモ之ニ捉ハレ他方面ノ監視ヲ等閑ニ附セザルコト

(四) 敵航空機ハ大高度ニテ侵航スルコト多キヲ以テ大高度ノ航空機發見特ニ其ノ爆音聽取ニ注意スルコト

(五) 監視員ハ微細ナル徴候ト雖モ之ヲ見逃サズ異狀ヲ發見シタルトキハ一層注意スルコト

(六) 一度航空機ヲ發見シタルトキハ之ヲ端緒トシテ他ノ機ノ發見ニ努ムルコト

(七) 森林、山ノ稜線等ト天空トノ接際部及地平線附近ハ注意シテ監視スルコト

(八) 夜間ハ音響ニ注意スルノ外排氣管ヨリ排出スル火焔ニ注意スルコト

(九) 双眼鏡ハ視界狹少ニシテ最初ノ航空機發見ノ爲ニハ有利ナラザルモ發見後監視ヲ持續スル爲ニハ有利ナルヲ以テ通常發見後之ヲ使用スルコト

双眼鏡ヲ使用スルトキハ發見シタル航空機ヨリ目ヲ離サザルコト

(双眼鏡ノ取扱ニ付テハ附錄第一參照)

(一〇) 監視哨員航空機ヲ一度發見シタルトキハ眼ヲ離サズ監視ヲ持續シツツ直ニ通信員ニ對シ大聲ニテ「報告」ト呼ビ所定ノ事項ヲ報告スルコト、尚航空機ナリヤ否ヤ不確實ナルトキハ「航空機ラシキモノ」「黑キモノ」等ノ用語ヲ用ヰテ報告シ注意ヲ喚起スルコト

前項ノ場合ニ於テハ他ノ監視員ハ航空機又ハ疑ハシキモノヲ發見シタル監視員ノ監視區域ヲモ監視スルコト

(一一) 監視員航空機ヲ發見シタルトキハ分明シタル事項ノミニテモ速ニ報告スルモノトシ不明ナル報告事項ヲ正確ニ判斷セントシテ機ヲ失セザル樣注意スルコト

(一二) 監視員爆音ヲ聽取シタルトキハ(一〇)ニ準ジ速ニ所定ノ報告ヲ爲シ逐次判明スルニ從ヒ前報告ヲ補正スルコト

(一三) 不明ナル報告事項判明セル場合又ハ航空機脫去セル場合ノ報告ヲ粗漏ニセザルコト

二、天候氣象ニ關シ監視上留意スベキ事項

(一) 晴天ニシテ視程(視界)大ナルトキハ地平線ニ近ク航空機ヲ發見シ得ルコト多キコト、但シ大高度ノ航空機ハ必ズシモ然ラザルコト、又大高度ノ航空機ハ航跡ニ曇霧ノ如キモノヲ形成スル場合アルコト

(二) 斷雲ノ際ハ雲ノ下際部及其ノ中間ニ於テ航空機ヲ發見シ得ルコト多キコト

(三) 航空機ハ日出後及日沒前ハ地平線ニ近ク太陽ヲ背景トシ晝間ハ太陽又ハ光輝アル青空ヲ背景トシ、月夜ハ月明ヲ利用シテ接近スル場合アルヲ以テ注意スルコト

(四) 航空機ハ日出直前及日沒直後ハ太陽ト相反スル方向ヨリ空際不明瞭ヲ利用シテ接近スル場合アルヲ以テ注意スルコト

(五) 航空機ハ雲、霧、霧ノ多キトキハ之ニ隱レテ飛行スルヲ以テ特ニ爆音ニ注意スルコト

(六) 雨天其ノ他天候不良ノトキト雖モ敵航空機來襲ノ虞アルヲ以テ注意スルコト

三、其ノ他監視能力向上ニ關シ留意スベキ事項

(一) 睡眠不足、身體ノ異狀等ハ監視能力ヲ低下スルヲ以テ規則正シキ生活ヲ爲シ健康ニ留意スルコト

(二) 控員ハ交代前少クモ五分間位眼ノ調應ヲ待チ交代スルヲ可トスルコト

(三) 晝間監視スル場合狀況ニ依リテハ着色眼鏡ヲ使用スル等眼ノ疲勞防止ニ努ムルコト

(四) 監視員ハ寒暑雨雪ニ耐ヘ得ル樣着裝ノ準備ヲ充分ナスコト

四、航空機ノ高度測定上留意スベキ事項

(一) 航空機ノ高度ハ航空機ト監視地點ノ水平面トノ垂直距離ヲ以テ測定スルコト

(二) 高度ハ附近ノ山ノ高サ等ヲ基準トシテ測定スルコト

尙高度ハ仰角ト航空機ノ見ニ具合トニ依リ有效ニ判定シ得ル場合アルコト

情報通信

情報通信要領

一、情報通信ハ監視員又ハ監視哨ヨリ航空機ニ關スル報告ヲ受ケタルトキハ取捨選擇スルコトナク直ニ所定ノ順序及略號ニ依リ迅速確實ニ報告スルコト

(一) 情報通信ハ呼出信號及應答方法ヲ嚴守シ簡明ナル小聲ヲ以テ行ヒ不必要ナル語句ヲ用ヰザルコト

(二) 防空情報ノ送話ハ相手ヲシテ聽キツヽ筆記セシムルヲ本旨トシ受話ハ必ラズ復唱シ洩レナク筆記スルコト

(三) 通信要目中不明ナルモノアルトキト雖モ之ヲ省略スルコトナク所定ノ通リ通信スルコト

(四) 通信要目中不明ナル事項判明セル場合及航空機脫去セル場合ノ通信ヲ粗漏ニセザルコト

(五) 情報通信系統圖、通信方法(副通信方法)及情報通信要目等ヲ通信員ノ見易キ場所ニ掲出シ置クコト

二、通信施設ノ設置及取扱

(一) 通信ニ必要ナル設備及資材ヲ整備シ應急ニ施設シ得ザルモノハ平時ヨリ之ガ施設ヲ爲シ置クコト

(二) 通信機ハ監視位置ヨリ通常ノ音聲ノ到達シ得ル樣近クニ設置シ雨露ノ害ヲ防グ爲電話機收容箱ヲ用ウル等之ガ取扱ニ注意スルコト

(三) 監視位置ノ近クニ通信機ヲ設ケ得ザル場合ハ監視位置ト通信機設置位置トノ間ニ傳聲管等ヲ以テ迅速ニ連絡シ得ル樣施設スルコト

(四) 電話機及情報送信機ハ迅速確實ニ通信シ得ル樣適宜之ヲ施

設シ且筆記シツツ通話シ得ル設備トスルコト

（五）監視隊本部ニ在リテハ他ノ通信ヲ妨ゲザル樣一通信機毎ニ成ルベク障壁等ヲ設クルコト

（六）監視哨勤務員ニ對シ雨雪時ニ於ケル電話機ノ使用及手入保存法ヲ習得セシメ置クコト

（七）監視哨勤務員ノ一部ニ對シ左ノ事項ヲ理解會得セシメ置クコト

イ、電話機ヲ線路ニ接續スル要領特ニ保安器ノ絶緣及各接續部ノ抵抗

ロ、連絡線路ガ單線式ナル場合ニ於ケル地線ノ設備ニ關スル施工要領

ハ、電話機故障ノ場合其ノ故障ガ電話機內ニ在リヤ線路ニアリヤノ判別方法

ニ、線路故障ノ場合ハ其ノ故障ガ地氣ナリヤ、混線又ハ斷線ナリヤノ區別ノ判定要領

ホ、磁石式電話機就中携帶電話機ノ各部ノ良否ノ判別方法

更ニ爲シ得レバ監視哨電話機ノ中簡易ニ故障修理ヲ施シ得ルモノニ關シ左ノ要領ヲ會得セシメ置クコト

イ、保安器內ノ可熔片及避雷用炭素片ノ取換方法

ロ、送話用電池ノ取換及電池端子ノ締直シ方法

ハ、發電機及「フックスキッチ」ノ接點部調節方法

ニ、近距離ニ於ケル簡易ナル線路ノ補修方法

（八）通信機及通信線路ハ技術員ヲシテ隨時點檢補修セシムルコト

第四　氣象觀測

一、氣象觀測結果ハ敵航空機ノ行動ノ豫測、防空飛行隊ノ活動、射擊部隊ノ射擊等ノ爲重要ナル情報トナルヲ以テ努メテ正確ニ觀測シ且迅速ニ之ヲ報告スルコト

二、觀測ニ從事スル者ハ成ルベク適任者ヲ選定シ觀測ニ習熟セシムルト共ニ興味ヲ持タシムルコト

三、氣象觀測位置選定ニ當リテ留意スベキ事項

（一）四隣廣闊ニシテ家屋、樹木等ノ爲天空ノ觀測ニ支障ナキコト

（二）水平方向ノ遠望良好ナルコト

（三）一般風向ヲ偵倚セシムルガ如キ建物、地物等ナキコト

（四）通信施設トノ連絡ニ便ナルコト

四、氣象觀測上留意スベキ事項

（一）大氣現象ハ時々刻々ニ變化スルモノナルヲ以テ正確ニ所定ノ時間ヨリ觀測ヲ開始シ概ネ五分以內ニ觀測ヲ終了シ速ニ報告スルコト

（二）氣象ノ觀測ハ局部ニ眩惑セラルヽコトナク附近ノ氣象ノ全般ヲ大觀シテ判斷スルコト

例ヘバ風向風速ノ觀測ニ當リテハ風向ハ多少移動シ風速モ強弱アルヲ通常トスルヲ以テ平均値ヲ以テ表ハスコト

（三）附近ノ測候所等ト連絡シ觀測技能ノ向上習熟ニ努ムルコト

（四）「ラヂオ」ニ依ル天氣豫報ヲ聽取シ防空監視ニ實用スルヲ可トスルコト

（五）觀測結果及「ラヂオ」ニ依ル天氣豫報ト古老ノ判斷トヲ比較セシムルハ觀測ニ從事セシムル者ノ興味ヲ誘起スルヲ以テ幹部ハ指導上留意スルヲ可トスルコト、

（六）氣象觀測器材ノ取扱ニ注意シ常ニ機能ヲ完全ナラシメ愛護スルコト

（七）氣象ハ前各號ニ依ルノ外附錄第二「氣象觀測ノ要領」ニ依リ之ヲ行フコト

第五　空地連絡

空地連絡ハ陸海軍司令官ニ於テ其ノ必要ヲ認メ指定シタル監視隊本部ニ於テ附錄第三「監視隊本部空地連絡要領」ニ依リ之ヲ行フコト

第四章　防空監視隊ノ設備資材

第一　防空監視隊本部ノ設備資材

一、防空監視隊本部ハ成ルベク隊長室、通信及事務室、控員室ニ區分スルコト、已ムヲ得ズ彼我機通使用スル場合ト雖通信及事務室ト控員室トニ區分スルコト

二、通信及事務室ニハ騷音ヲ防止スル爲適當ナル方法ヲ講ズルコト

三、控員室ハ靜肅ニシテ短時間ニ充分假眠休憩シ得ル樣設備スルコト

第二　防空監視哨ノ設備資材

一、防空監視哨ノ設備ハ立哨設備ト休憩舍トニ區分シ通信設備ハ休憩舍又ハ立哨設備ニ附設スルコト

二、立哨設備ハ左ノ事項ニ留意スルコト

（一）立哨位置ハ相當ノ廣サ（少クモ一坪以上）ヲ有スルコト

（二）立哨位置ノ四隅ニハ方位判定ノ爲杭等ヲ樹テ夜間ニ於テモ判別シ得ル樣設備スルコト

（三）立哨位置ニハ成ルベク高度及距離測定ノ基準トナル山岳等ヲ適宜寫眞標示スルコト

（四）己ムヲ得ズ防空監視哨ノ位置ヲ騷音多キ場所ニ選定シタルトキハ立哨位置ニ騷音防止ノ工夫ヲ講ズルコト

（五）立哨臺ヲ特設シ又ハ寒暑風雨雪ニ對スル障蔽設備ヲ爲ス場合ニ於テハ堅牢ニ爲スト共ニ視聽ヲ妨ゲザル樣留意スルコト

三、休憩舍ノ設備ハ地方ノ狀況ニ依リ創意工夫スルヲ要スルモ左ノ事項ニ留意スルコト

（一）休憩舍ハ監視員ノ勤務ニ支障ナキ限リ成ルベク立哨位置ニ接近シテ之ヲ設クルコト

（二）休憩舍ノ爲監視員ノ視界ヲ妨ゲザル樣留意スルコト

（三）休憩舍ニ通信設備ヲ附設スル場合ハ控員ノ休憩ヲ妨ゲザル樣留意スルコト

（四）休憩舍ハ燈火ノ隱蔽、採暖、假眠、便所等ノ設備ヲ爲スコト

附錄　第一　双眼鏡ノ取扱

一、双眼鏡ハ成ルベク倍率六倍以上ノモノヲ使用スルコト

二、双眼鏡ヲ使用スル場合ハ概ネ左ノ順序方法ニ依ルコト

（一）隻眼ニシテ個々ニ遠距離ニ在ル物體（夜間ハ二千米以上ノ距離ニ在ル燈火、星等）ヲ見ツヽ接眼鏡ヲ回轉シ最モ明瞭ニ視認シ得ル位置ヲ求メ兩眼ヲ使用シテ調整シ視度ヲ合スコト

（二）左右ニ開閉シ左右兩視野ガ正シク合致シテ一體ヲ爲シ最モ明瞭ニ視認シ得ル樣視幅ヲ調整スルコト

（三）調整シタル視幅及視度ノ目盛ノ數字ヲ記憶シ置クコト

（四）觀測ニ當リテハ兩足ヲ適當ニ開キ身體ヲ安定スルコト、但シ狀況ニ依リテハ身體又ハ兩端ヲ物ニ託スルモ可ナルコト

（五）觀測ニ當リテハ接眼部ノ上緣ヲ眼ニ密着セシムルコト

（六）一旦調整シタル双眼鏡ニテ三十分以上物體ヲ注視シ頭痛、眩暈又ハ眼ノ疲勞ヲ感ズルトキハ調整不充分ナルヲ以テ更ニ調整スルコト

三、双眼鏡ノ取扱ニ付テハ左ノ諸點ニ留意スルコト

(一) 調整ニ當リテハ廻轉部ガ殆聲セザル樣靜ニ取扱ニ衝撃ヲ與ヘザルコト

(二) 日光ノ直射及雨露ヲ避クルニ努ムルコト

(三) 使用セザル時ハ必ズ接眼部ヲ押込メ置クコト

(四) 接眼鏡及對物鏡ノ拭淨ハ先ヅ清潔柔軟ニシテ乾燥セル毛筆又ハ刷毛ニテ鏡面ノ塵埃ヲ除去シタル後、軟キ布片ニ酒精又ハ「エーテル」ヲ滴下シテ輕ク拭淨シ將ニ乾燥セムトスル時攪ニ他ノ乾燥セル布片ヲ以テ鏡面ニ曇ヲ留メザルニ到ルマデ數回反覆シテ拭淨スルコト

拭淨ニ用ウル布片ハ「ガーゼ」又ハ極メテ軟キ木綿ヲ用ウルヲ可トシ絶對ニ脂肪又ハ糊氣ノ附着セザルモノヲ使用スルコト

尙拭淨ニ付テハ左ノ事項ニ留意スルコト

(イ) 絹布、「フランネル」類、紙、鹿革等ハ鏡面ヲ擦傷セシムルコトアルヲ以テ之ヲ使用セザルコト

(ロ) 酒精、「エーテル」ノ如キ溶劑ハ鏡面ニ於ケル汚垢ノ除去困難ナル場合ニノミ用ウルコト、此ノ際特ニ氣密劑ノ塡實シアル「ガラス」ノ周緣及鏡體ニ酒精「エーテル」ヲ附着セシメザルコト

(五) 故障ヲ生ジタル場合ハ分解スルコトナク專門工場ニ於テ修理セシムルコト

四、双眼鏡ノ保存ニ付テハ左ノ點ニ留意スルコト

(一) 使用後ハ鏡面ヲ拭淨シ且濕氣ヲ除キ充分乾燥ノ上格納保存スルコト

(二) 格納位置ノ選定要件概ネ左ノ如シ

(イ) 溫度ノ變化甚ダシカラザルコト

(ロ) 濕氣少ナキコト

(ハ) 採光及通風良好ナルコト

附錄第二

氣象觀測ノ要領

一、觀測開始時刻

(一) 天氣急變シタル場合ノ觀測ニハ其ノ起時ヲ正確ニ記錄シ報告スルコト

(二) 測候所等ニ於テハ二十四時制ヲ採用シヲルヲ以テ注意スルコト

二、風向

(一) 風向トハ風ノ吹キ來ル方向ヲ謂ヒ、之ヲ左ノ如ク八方位ニ分チ數字ヲ以テ報告スルコト

例

風ノ吹キ來ル方向 ↓ 北風

(註) 相隣レル方位ノ中間ノ風向ハ近キ方位ヲ以テ表スコト

(二) 風向風速計ニ依ル風向ノ觀測法ハ說明第一ニ依ルコト

(三) 風向ヲ目測ニ依リ概測スル場合ハ風旗、吹流シ或ハ煙ヲ以テ判定スルコト

(四) 風向一定セザル場合ハ通常約二分間注視シ此間ニ於テ最モ多ク示セル風向ヲ以テ判定スルコト

(五) 風向計ヲ使用スルモ風速小ナルトキハ必シモ眞ノ風向ヲ示サザルコトアルヲ以テ注意スルコト

(六) 風向ハ附近ノ建物、地物等ノ影響ヲ受クルコトアルヲ以テ、成ルベク建物ノ屋上、附近ノ空地等ニ於テ測定スルコト

三、風速

(一) 風向風速計ニ依ル風速ノ觀測法ハ說明第一ニ依ルコト

(二) 風旗ニ依リ目測ヲ以テ風速ヲ概測スル場合ハ左表ヲ標準トスルコト

風速番號	風旗ノ狀態	風速米／秒
〇	垂下セル旗ノ尖端少シク桿ヨリ離レ僅カニ靡ク動ク	約一・〇
一	旗ノ尖端約四十五度ヲ爲ス如ク桿ヨリ離レ辛ウジテ延ビタル形ニ大キク徐々ニ動ク	約三・〇
二	旗ハ殆ド延ビ其ノ尖端「ヒラヒラ」動ク	約五・〇
三	旗ハ全ク延ビ其ノ尖端ハ縺レル如ク頻繁ニ小サク動搖ス	約七・〇
四	旗强ク延ビ其ノ前半部ハ烈シク銳敏ニ振動ス	約一〇・〇

(註) 風速約一〇米／秒以上ノ場合ハ風旗ニ依ル觀測困難ナルヲ以テ樹木等ニ依ルコト

風旗ハ左圖ノ如ク通常柔軟ナル木綿布ヲ長サ三〇糎底邊約一〇糎ノ三角形ニ裁斷シ桿ヲ附シ使用スルコト

桿ノ長サハ周圍ノ狀況ニ依リ適當ノ長サトスルコト

四、雲量

(一) 雲ガ天空ヲ蔽フ度合ヲ雲量ト謂フ

(二) 雲量ヲ目測スルニハ天空ヲ東、西、南、北ニ四等分シ(目測ニ便ナル如ク適宜之ヲ分ツコト)各部分ニ就キ天空ノ幾割ガ雲ニ蔽ハレタルカヲ目算シ、之ヲ綜合平均シテ全天空ノ雲量トスルコト特ニ一割以下ナルトキハ雲量ヲ零トスルコト

(三) 雲量ハ雲ノ濃淡高低ニ依リ區別スルコトナシ、從ツテ淡雲ガ全天ノ二分ノ一ヲ蔽フトキモ密雲ガ二分ノ一ヲ蔽フトキモ雲量トシテハ何レモ五ナルコト

(四) 暗夜ニ於テ雲量ヲ觀測スル際ハ星ノ見エザル部分ハ天空ガ雲ニ蔽ハレタルモノト看做シテ目測スルコト

(五) 濃霧ノ爲空ガ全ク見エザル場合ハ之ヲ雲ト同樣ニ看做シテ雲量ヲ目測スルコト、若シ多少ニテモ天空ヲ望ミ得ベキトキハ其ノ程度ニ應ジ雲量ヲ「九」トシ或ハ「八」トスル等凡テ實際ノ雲量ヲ目測スルトキノ例ニ依ルコト、而シテ此ノ場合ニハ報告用紙ノ「其ノ他」ノ欄ニ「濃霧」ト記入シ報告スルコト

五、雲高

(一) 雲ノ底面ノ高サヲ雲高ト謂フ

(二) 雲高ハ觀測地點ノ水平面ト雲ノ底面トノ垂直距離ヲ以テ測定スルコト、但シ各種ノ雲ノ出現シ居ル場合ハ雲量一以上ノ雲ノ雲高ノ中最低ノモノトスルコト

(三) 雲高ハ附近ノ標高既知ナル山ト比較シ又ハ雲ノ種別其ノ他ノ方法ニ依リ測定シ得タル場合ニ報告スルコト

(四) 雲ノ種別ニ依ル雲高概ネ左ノ如シ、而シテ一般ニ夏季ニ於テハ比較的高ク、冬季ニ於テハ比較的低キヲ例トスルヲ以テ注意スルコト

	雲ノ高サ	名稱		俗名	解說
上層雲	六、〇〇〇米以上 一〇、〇〇〇米内外迄	卷雲		すぢ雲 はね雲	白色、薄ク、淡ク、纖維狀
		卷層雲		うす雲	白色ノ小塊群又ハ列ヲナシ波狀ヲ現ハス
		卷積雲		まだら雲 さば雲	白色又ハ灰色デ稍々陰影ヲ現ハシ大キナ丸ミアル
中層雲	二、〇〇〇米以上 六、〇〇〇米迄	高積雲		むら雲	灰色ノ濃イ層狀「うす雲」ノ濃クナツタ如キモノ
		高層雲		おぼろ雲	暗灰ノカサバツタ塊デ屢々全天ヲ蔽フコトアリ
下層雲	二、〇〇〇米以下	層積雲		かさばり雲 くもり雲	割合三樣ナ雲デ霧ノ高イヤウナモノ
		層雲		きり雲	雨ヲ降ラセル濃イ層狀ノ雲
		亂層雲		あま雲	羊毛ノ堆積セル如キ雲
其ノ他	一、四〇〇米以下	積雲		すわり雲、はた雲 むく〳〵雲	山ノ如ク塔ノ如ク高ク立ツ大塊雲ニシテ其ノ底ハ「あま雲」ト同樣ナリ
		積亂雲		立ち雲 入道雲	

シ、豫メ之等ノ距離ヲ測定シ左圖ノ如キ視程圖ヲ作製シ置キ之等地物中ヨリ肉眼ヲ以テ認メ得ルモノヲ求メテ視程ヲ判定スルコト

(五) 夜間ニ於ケル視程ノ觀測ハ困難ナルモ一定ノ燈火アル場合ハ之ヲ利用スルコト、勿論之ハ晝間ノ目標ト一定ノ關係ヲ持タシメ置ク必要アリ

七、天氣

(一) 雲量七以下ナルトキハ晴、雲量八以上ナルトキハ曇トスルコト

(二) 山ト雲トノ間ノ間隙ノ有無、特ニ遠方ノ山ノ雲ト空トノ間ニ於ケル青空ノ有無ニ注意スルコト

六、視程

(一) 視程トハ肉眼ヲ以テ微カナガラモ認メ得ル水平方向ノ最大距離ヲ謂ヒ粁(端數ハ四捨五入)ヲ以テ示シ、其ノ數値ヲ以テ報告スルコト、例ヘバ〇・四粁以下ハ零、一五・五粁ハ一六ト報ズルガ如シ

(二) 視程ノ良否ハ明暗ニ依ルハ勿論ナルモ、雲、霧、雨、雪、煙霧、細塵等ニ原因スル空氣ノ混濁ノ程度ニ依ルモノナルコト

(三) 方位ニ依リ視程異ナルコトアル場合ハ視程ノ最大ナルモノヲ報告スルコト

(四) 視程ヲ觀測スルニハ觀測地點ノ周圍ニアル遠近ノ地物ヲ選定

視程圖

(三) 濃度大ナル霧ノ觀測ハ比較的容易ナルモ千米乃至四千米程度迄通視シ得ルモノハ煙霧トノ區別困難ナルヲ以テ注意スルコト

(四) 霧ハ白色ニ霞ムモ煙霧ハ細塵、煙末等ガ空中ニ浮游シテ天空ヲ汚濁セル現象ニシテ都市及工場地帶等ニ於テ靜穏ナルトキ發生シ黄灰色、茶色、又ハ黄ニ霞ムモノナルヲ以テ注意スルコト

八、天氣變化ノ見込

局地ノ天氣變化ハ其地方ノ地形ニ依リ特異ノ前兆アルヲ以テ注意スルコト、特ニ古老ノ言ハ往々天氣變化ノ參考トナルモノアルコト

九、氣溫

(一) 溫度計ニ依リ氣溫ヲ測定スルニハ直射日光及反射熱ヲ避ケ通風良好ナル屋外ノ地點ヲ選ブコト、又溫度計ハ雨露ニ濡スコトヲ避クルコト

(二) 携帶溫濕計ニ依ル觀測ハ附錄第二ニ依ルコト

說明 第一

風向風速計

一、構造

(一) 風向風速計ハ本體、脚、支線及控杭ヨリ成ル

(二) 本體ハ矢羽根、風速器及風向目盛板ヨリナル

(三) 風車ノ回轉ハ回轉計ノ指針ニ傳ヘラレ、回轉計ノ長針ノ一周ハ百米ニ短針ノ一周ハ千米ニ相當スル如ク標示セラル

(四) 制動紐ヲ矢標ノ方向ニ引クコトニ依リテ回轉計ヲ始動セシメ反對ニ引クコトニヨリ停止セシム

(五) 風向ハ風向指針ニ依リ風向目盛板上ニ於テ觀測スルモノトス

(六) 羅針ハ風向目盛板ノ下面ヨリ操作シ得ル制動裝置ヲ備フ

二、操法

(一) 風向風速計ヲ地上ニ整置スルニハ脚下端ノ螺糸、支線及控杭ヲ使用スレドモ屋上等ニ整置スル場合ハ脚ヲ豫メ適宜ナル方法ニテ所定ノ位置ニ固定シ置クヲ便トス

(二) 風向風速計ニ依リテ風速ヲ觀測スルニハ左ノ順序方法ニ依ルコト

(イ) 回轉計ノ停止セルコトヲ確メタル後、短針、長針ノ順序ニ現在目盛ヲ看讀スルコト

(ロ) 時計ヲ注視シツツ其ノ秒針ノ零秒ヲ指ス瞬時ニ制動紐ヲ引キテ回轉計ヲ始動セシムルコト、回轉計ノ發動ヲ確メタル後風下約三乃至四米ニ位置スルコト

(八) 百秒ヲ經過スル直前風向風速計ニ近ヅキ左方(回轉計ニ面シ)ノ制動紐ヲ引キ指針ヲ停止セシムルコト

(ニ) 再ビ回轉計目盛ヲ短針、長針ノ順序ニ看讀スルコト

(ホ) 最初ノ目盛ト最後ノ目盛トノ差ハ百秒間ニ於ケル風程ナルヲ以テ之ヲ百分シタル値ハ毎秒時ノ風速ナリ、此ノ際最後ノ目盛ガ最初ノ目盛ヨリ小ナルトキハ最後ノ目盛ニ二千(二周シタルトキハ二千)ヲ加ヘタルモノヨリ最初ノ目盛ヲ減ズルコト

(三) 風向風速計ニ依リテ風向ヲ觀測スルニハ矢羽根ノ後方三乃至四米ニ位置シテ約二分間風向指針ノ移動ヲ注視シ其ノ平均方向ヲ概測スルコト

現用風向風速計ノ風向目盛板ハ諸種アルモ適宜ノ方法ヲ以テ八方位ヲ標示シテ看讀スルコト

三、取扱、手入及保存

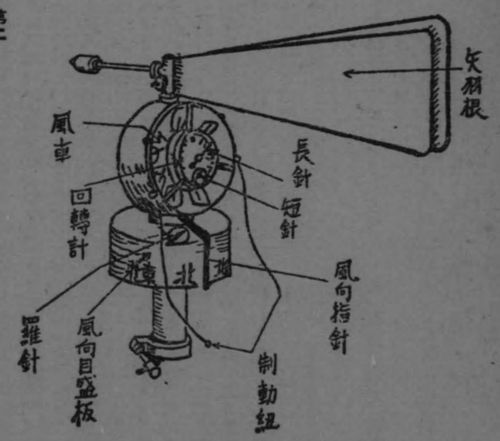
(一) 風向風速計ハ時々其ノ本體ノ外部ヲ布片ヲ以テ輕ク拭淨シ、風車内部ハ毛筆又ハ軟キ刷毛等ヲ以テ塵埃ヲ除去スルコト

(二) 使用間雨水等ニ依リ濕潤シタルトキハ乾キタル布片ヲ以テ水分ヲ除去スルコト、此ノ際特ニ回轉計内部ニ水分ヲ侵入セシメザル樣注意スルコト

(三) 雨雪中又ハ强風中ニテ使用シタル場合ハ測定後速カニ本體ヲ脚ヨリ取脫シテ軟納シ無益ニ雨雪ニ暴露シ若ハ强風ニ空轉セシメザルコト、其ノ他ノ場合ニ於テモ亦測定時以外ハ本體ヲ脚ヨリ取脫シ軟納シ置クヲ可トスルコト

(四) 風速器下端上面ノ注油孔及風車ノ回轉軸部ニハ少クモ二週間ニ一回時計油ヲ輕ク注油シ置クコト、但シ之ガ爲風速器等ヲ絶對ニ分解セザルコト

風向風速計



説明 第二

携帶溫濕計

一、構造

(一) 携帶溫濕計ハ野外ニ於テ百葉箱ヲ使用スルコトナク簡易ニ溫度及濕度ヲ測定シ得ルモノナリ

(二) 携帶溫濕計ハ本體、注水器、吊桿及屬品ヨリ成ル

(三) 本體ハ通風器、通風筒及溫度計ヨリ成ル

(四) 通風器ハ扇車及纏捲ばねアリテ一回ノ作動時間ハ七分トス

(五) 通風筒ハ溫度計ヲ保持シ且ツ外氣導通ノ用ヲ爲スモノニシテ

下端ハ叉狀ヲ爲シ象牙環ヲ介シテ二重管ヲ螺脚ス、通風筒内ノ氣溫ハ扇車ノ始動ヨリ三分以内ニ於テ一定値ニ達スルモノトス

(六) 吊桿ハ本體ヲ地物ニ懸吊スルニ用ウ

(七) 其ノ他ノ屬品ハ濕度測定用ノモノニシテ氣溫測定ニハ不用ナリ

二、操法

(一) 携帶溫濕計ヲ整置スルニハ杭柱樹木ノ如キ適宜ノ地物ヲ選定シ適當ノ高サニ吊桿ヲ螺入シ其ノ尙狀部ニ本體ヲ懸吊スルコト

(二) 氣溫ヲ測定スルニハ次ノ順序方法ニ依ルコト

(イ) 纏捲ばねヲ矢標ノ方向約二十回捲キテ扇車ヲ回轉セシメ之ヲ吊桿ニ懸グルコト

(ロ) 約三分間ノ後氣溫ヲ觀測スルコト

(三) 觀測ニ當リテハ努メテ日光ノ直射セザル地點ヲ選定スルヲ可トスルモ之ガ爲家屋ニ接シテ觀測スルガ如キハ避クルコト

三、取扱、手入及保存

(一) 運搬ニ際シテハ努メテ動搖激突ヲ避クルコト

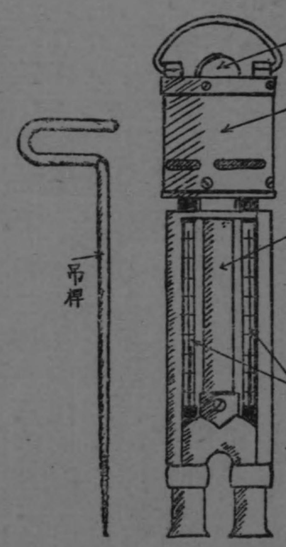
(二) 纏捲ばねヲ捲クニハ必ズ矢標ノ示ス方向ニシ且ツ過度ニ捲キテ之ヲ破損セシメザルコト

(三) 使用後ハ軟キ布片ヲ以テ輕ク其ノ外面ヲ拭淨シ鍍金部ニ發銹セシメザルコト

(四) 使用間雨水等ニ依リ濕潤シタルトキハ速ニ溫度計ヲ脫シ乾キタル布片ヲ以テ溫度計、通風器及通風筒ヲ拭淨シ水分ヲ十分ニ除去シタル後結合シ更ニ纏捲ばねヲ捲キテ通風シ置キ乾キタル後收納スルコト

(五) 風車ノ軸部ニハ一年間ニ二三回時計油ヲ注入スルヲ可トスルコト但シ之ガ爲通風器ヲ分解セザルコト

携帶溫濕計



附錄 第三

監視隊本部空地連絡要領

一、空地連絡ノ主要ナル目的ハ友軍飛行機特ニ戰鬪機ニ對シ敵機ノ所在方向ヲ指示シ其ノ索敵ヲ容易ナラシメ併セテ友軍機ノ通信ヲ受領シ之ヲ所要ノ方面ニ通知スルニ在ルコト

二、空地連絡特ニ對空布板ノ取扱ニ關スル教育ハ監視隊本部要員ノ一部ニ對シテ之ヲ行フコト

三、空地連絡ノ手段ハ其ノ目的及監視隊教育ノ狀況ニ鑑ミ特ニ簡明ヲ旨トシ徒ラニ巧妙複雜ニシテ錯誤ヲ來スガ如キコトナキヲ要スルコト、而シテ監視隊本部ヨリ飛行機ニ對スル通信ハ布板ニ依リ、(此ノ場合布板ノ發見ヲ容易ナラシムル爲煙ヲ使用スルヲ得バ有利ナリ)、飛行機ヨリ監視隊本部ニ對スル通信ハ通常通信筒ノ投下ニ依ルモノナルコト

四、空地連絡ノ位置選定ニ當リテハ左ノ事項ニ注意スルコト

(一) 監視隊本部ト近接シ在ルコト

(二) 友軍機ヨリ發見容易ナルコト

(三) 開闊ニシテ成ルベク附近ニ森林、河川、湖沼等ナク友軍機ノ侵入及通信筒ノ拾得ニ支障ナキコト

五、飛行機ニ對スル布板信號ノ要領別紙第一ノ如シ

對空布板ノ基板ハ空襲警報間常時之ヲ布置シ置クコト

六、布板ノ操作ハ飛行機ヨリノ讀解ヲ誤ラシメザル如ク正確ナルヲ要スルコト、之ガ爲左ノ事項ニ留意スルコト

(一) 布板ノ布置ハ其ノ位置、方向及相互ノ關係位置等ヲ正シクスルコト

(二) 布板ヲ布置スルニ當リ身體ヲ以テ布板ヲ蔽ヒ或ハ其ノ影ヲ布板ニ投ゼザルコト、而シテ布置セバ迅速ニ低姿勢ヲ取ルコト

(三) 使用セザル布板ハ空中勤務者ヲシテ誤認セシメザル如ク之ヲ處置スルコト

七、敵機ノ方向ヲ指示スル對空布板ハ友軍機在空ノ有無ニ拘ラズ敵機ヲ發見シ著ハ所屬監視哨ヨリノ敵機ノ報告ニ基キ之ヲ布置シ敵機我ガ監視鼻ヲ脫スレバ直ニ之ヲ撤去スルコト、而シテ不確實ナル方向指示ハ却テ友軍機ノ索敵ヲ困難ナラシムルニ到ルヲ以テ明確ニ敵機ヲ認識シ得タル場合ニ於テノミ之ヲ行ヒ、且正確ニ其ノ方向ヲ指示スルコト緊要ナルコト

八、通信筒ニ依ル連絡左ノ如シ

(一) 飛行機布板信號所ノ上空ニ於テ高度ヲ低下シ機翼ヲ左右ニ振リ或ハ旋回ヲ行ヒ又ハ信號彈ヲ發射スル等特異ノ行動ヲ認メタル時ハ直ニ「準備ヨシ」ノ信號ヲ行ヒ通信筒受領ノ準備ヲ爲スコト

(二) 通信筒ヲ受領スルカ又ハ落下地點ヲ確認セルトキハ直ニ「通信筒受領」ノ信號ヲ、受領シ得ザルトキハ「通信筒受領セズ」ノ信號ヲ行フコト

九、通信筒ニ依ル連絡ニ當リテハ特ニ飛行機ノ行動ニ注意シ飛行機ニ對スル應答ヲ迅速ナラシメ飛行機ヲシテ連絡ノ爲努メテ時間ヲ空費セシメザルヲ要スルコト、又通信内容ハ機ヲ失セズ所命ノ方面ニ通達スルコト

一〇、投下セル通信筒ノ發見ヲ容易ナラシムルニハ目視ニ依ル交會法ヲ行ハシムルヲ可トスルコト、之ガ爲拾得者二名以上ヲ少クトモ百米以上ノ間隔ニ配置シ落下地點ヲ通視セシメ次デ之ニ向ヒ行進セシムルトキハ其ノ交會點附近ニ於テ容易ニ發見シ得ルコト

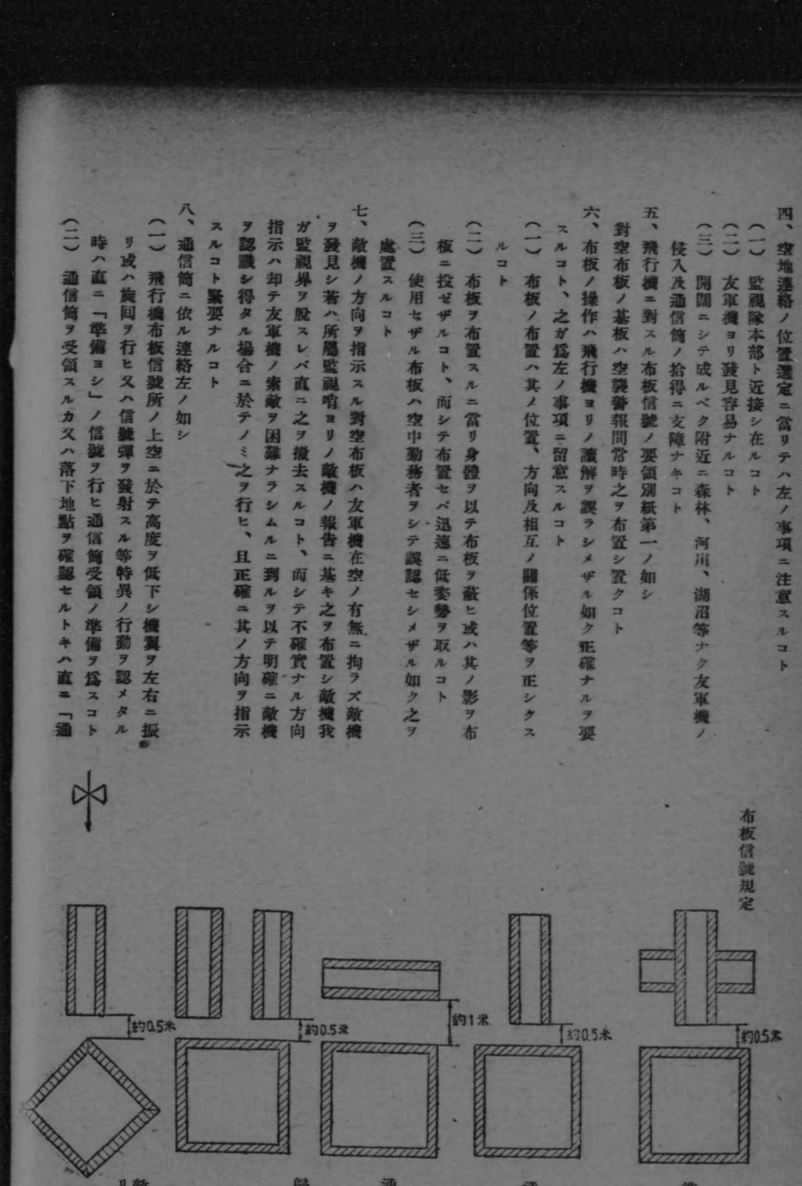
布板信號規定　備考

一、補助板ハ概ネ短邊五十糎長邊三米ノ白布トス

基板ハ概ネ一邊五米ノ正方形ノ白布トス

掌滑ヲ塩シタル部分ハ巾十五糎ノ赤色トス

二、敵機ノ方向ヲ示ス場合ニハ基板ノ對角線ノ方向ヲ概ネ敵機飛來方面ニ一致セシムルモノトス



海上漁船ニ對スル警報傳達一般指導要領

一、業態並ニ土地ノ狀況ヲ考慮シ集團漁撈ニ從事スル漁船ニハ適宜漁船群ヲ組織セシメ一漁船群毎ニ群長船及當番船ヲ定メ防空警報ノ受領及傳達ニ當ラシムルコト

二、群長船ハ全般ヲ統轄シ防空實施ノ責ニ任ズルコト

當番船ハ群長船ノ指揮ヲ受ケ吹流信號（晝間）、揭燈信號（夜間）、又ハ「ラヂオ」放送等ニ依リ警報ヲ受領シ、手廻「サイレン」等ヲ以テ之ヲ群内ノ漁船ニ傳達スルコト

三、集團漁撈ニ從事セザル漁船ハ各自吹流信號（晝間）、揭燈信號（夜間）、又ハ「ラヂオ」放送等ニ依リ警報ヲ受領セシムルコト

四、群長船並ニ吹流信號又ハ揭燈信號ニ依リ警報ヲ受領シ得ザル水面ニ出漁シ且漁船群ニ加入シ得ザル漁船ニ對シテハ「ラヂオ」受信器ヲ備ヘシムル樣勸奬スルコト

燈火管制指導要領

第一　總　則

一、燈火管制ノ主要ナル目的ハ夜間來襲スル敵機ニ對シ其ノ航路、目的地又ハ目標ノ判斷ヲ困難ナラシムル爲總テノ光ヲ全體トシテ祕匿スルニ在ルヲ以テ其ノ重要性ト國民ノ普遍的義務ナルコトヲ認識セシムルコト

特ニ官廳、工場、事業場等ニ在リテハ平時ヨリ燈火管制施設ヲ完備シ國家總力戰ノ遂行ニ遺憾ナキヲ期スルコト

二、燈管管制ノ種類、各種管制ノ目的及光ノ祕匿程度ヲ周知セシムルト共ニ業態又ハ燈火ノ種類ニ應ジ適切ナル管制方法ヲ指導スルコト

三、準備管制（第四條ノ規定ニ基ク燈火管制）ハ敵機來襲ノ虞アリト言ヒ得ザルモ警戒ヲ要スル場合ニ於テ行ハルルモノニシテ、其ノ目的ハ一般屋外燈中國民ノ日常生活上ノ必要比較的少キモノ及防空警報ニ應ジ迅速ニ處置シ得ザルモノヲ祕匿シ、都市ノ彙光ヲ減ズルト共ニ警戒管制ヘノ移行ニ速カナラシムルニ在ルコト

四、警戒管制ハ敵機來襲ノ虞アル場合ニ於テ行ハルルモノニシテ其ノ目的ハ彙光ヲ消滅シテ敵機ニ對シ航行上ノ目標ヲ與ヘズ且空襲管制ヘノ移行ヲ容易ナラシムルニ在リテ光ノ祕匿程度ハ右ノ目的ト日常生活ノ保持ノ必要トヲ考慮シテ定メラレタルモノナルコト、警戒管制ニハ其ノ祕匿程度ニ甲及乙ノ二種アリ警戒管制甲ノ程度ハ空襲判斷及地理的關係等ニヨリ特ニ嚴重ナル祕匿ヲ要スル地域ニ適用セラ

ルルモノナルコト

五、空襲管制ハ敵機來襲ノ危險アル場合ニ行ハルルモノニシテ其ノ目的ハ敵機ニ對シ航行上ノ目標及攻擊目標ノ認知並ニ攻擊實施ヲ困難ナラシムルニ在リテ光ノ祕匿程度ハ右ノ目的達成ヲ本旨トシテ定メラレタルモノナルコト

六、警戒管制ハ通常相當長期ニ亘リテ實施セラルルヲ以テ警戒管制下ニ在リテハ一般ニ就業シ日常生活ヲ保持スルヲ本旨トシ、徒ラニ休業シ、或ハ工場等ニ於テ作業能率ヲ低下スルガ如キコトナカラシムルコト、之ガ爲必要ナル燈火ハ規則ノ範圍內ニテ光ヲ有效ニ利用セシメ不必要ナル燈火ハ成ル可ク消燈スル樣指導スルコト

七、空襲管制ハ特ニ認メラレタル光ノ他ハ絕對ニ屋外ニ光ヲ漏ラサザル如ク空襲警報ニ應ジ分秒ヲ爭ヒ迅速ニ之ヲ行フコト

八、燈火管制ニ要スル設備資材ハ光ヲ發スル設備又ハ裝置ノ管理者又ハ之ニ準ズベキ者ヲシテ進ンデ整備セシムルコトヲ本旨トシ、耐火性且耐久性ノモノヲ合理的ニ施設セシメ、且使用後ノ取扱、保守、保管方法等ニ付テモ考慮ヲ拂ハシムルコト

九、燈火ノ祕匿義務者ハ個々ノ燈火及火焰ニ付管制ノ具體的處置方法及管制擔任者ヲ定メ置クト共ニ管制擔任者ヲシテ管制處置終了後ハ點檢ヲ爲サシメ、不良ナルモノハ速ニ訂正セシムルコト

一〇、燈火管制ノ指導ニ當リテハ光ノ祕匿程度及方法ヲ實際ニ示シ、又ハ戶每ニ具體的ニ說明シ、其ノ要領ヲ理解セシムルコト、特ニ空襲管制ヘノ轉移方法ヲ明確ナラシムルコト

一一、規模大ナル建築物、工場等ニ在リテハ電燈配線ハ可及的統一的管制ヲ爲シ得ル樣施設スルコト

一二、左ノ場合ニハ燈火ハ警戒管制時ヨリ豫メ空襲管制ノ處置ヲ爲シ置クコト、但シ之ガ爲燈火管制施設及警報傳達施設ヲ忽セニセザルコト

(一) 遠ニ空襲管制ヲ行フコト困難ナル場合

(二) 空襲警報ノ受領困難又ハ著シク遲延スル場合

一三、燈火管制ヲ行フ場合ハ特ニ左ノ事項ニ留意スルコト

(一) 日沒時及早曉ニ於ケル燈火管制ハ怠リ勝トナルヲ以テ注意スルコト

(二) 減光又ハ遮光方法ノ不良ナル爲火災ヲ發生スルコトアルヲ以テ注意スルコト

(三) 道路ニ面セザル箇所及天窓等ハ怠リ勝トナルヲ以テ注意スルコト

第二　一般屋外燈ノ燈火管制

一、標識燈類

(一) 標識燈類ハ防空ノ實施及訓練上必要アルヲ以テ警戒管制時、空襲管制時ヲ通ジ殘置スルコトトシ、管制方法及施設ニ付テハ特ニ注意スルコト尙重要ナル標識燈ニ對シテハ電源停止ノ場合ニ備ヘ豫備光源ニ付考慮スルコト

(二) 標識燈ノ標識ヲ示ス記號以外ノ部分ハ光ヲ透過シ難キ黑ガス毛織子等ヲ用ヒ記號ノ部分ハ規定ノ如キ減光程度ヲ保ツ樣適當ナル材料ヲ用フルコト

(三) 標識燈ノ標示記號、減光程度及減光材料ニ付テハ附錄參照ノコト

二、街路燈類

(一) 交通保安上必要ナル箇所ニハ警戒管制時街路燈類及ビ街路燈類ニ代用スル門軒燈類ヲ殘置スルコトトシ警察署長ニ於テ市町村長ト協議シ一定ノ計畫ヲ樹テ之ニ基キ市町村長又ハ燈火ノ管理者若ハ之ニ準ズベキ者之ガ整備ヲ爲スコト

(二) 街路燈類ノ管制ハ一定地域內ノモノヲ統一的ニ行フヲ理想トスルモ其ノ設備ナキモノハ個々ノ燈火ニ付管制方法管制責任者ヲ定メ置クコト

(三) 統一的ニ減光シ得ル裝置ノモノニシテ燈器ヲ固定スルモノニ付テハ燈火管制規則第五條第二號及第十條ノ規定ニ依リ遮光條件ヲ左ノ如ク緩和シ得ルコト

光減ノ下端ト遮光具ノ下端トヲ結ブ線ガ水平以上ノ上空ニ向ハザルコト

(四) 街路殘置燈ハ一般ニ低燭ノモノヲ多數分散シテ設クルヲ可トスルモ、信號燈ナキ道路ノ交叉點等交通上特ニ注意ヲ要スル箇所ニ對シテハ附近ニ於ケル殘置燈ヲ省略スルモ當該箇所ヲ明ルク照明スルヲ可トスルコト

(五) 街路殘置燈ノ設備ニ付テハ左ノ事項ヲ留意スルコト

(イ) 一定地域內ノ街路殘置燈ヲ統一的ニ管制ヲ行フ設備ナキモノハ各別ニ適當ナル點減裝置（防水型プールスイッチ等）ヲ附スルコト

(ロ) 遮光具ハ內面白色ニシテ大ナルモノヲ有利トシ取付ニ當リテハ路面ヲ成ルベク廣ク有效ニ照明スル爲輻員大ナル箇所ニハ長キ腕木又ハ張線等ニ燈器ヲ懸吊スルヲ可トスルコト

(六) 所謂鈴蘭燈ハ街路燈類ニ屬スルモ裝飾燈類ト認メラルルモノアルヲ以テ準備管制時ニ於ケル處置ニ付テハ具體的ノ場合ニ付判斷ヲ要スルモ通常裝飾燈ト認メラレザル程度ニ消燈スルヲ適當トスルコト

(七) 警戒管制乙程度又ハ甲程度ノ場合ニ於ケル燈火ノ間隔又ハ燈器ノ高サニ付テハ附錄參照ノコト

三、門軒燈類

門燈、軒燈ニシテ廣告燈又ハ看板燈ヲ兼ヌルモノハ其ノ使用目的ノ主從關係並程度ニ依リ具體的ノ場合ニ付判斷スルヲ要スルモ通常ハ廣告看板裝飾燈類トシテ取扱フコト

四、屋外作業燈類

(一) 農業上必要ナル誘蛾燈等ノ光ハ屋外作業燈ニ屬スルコト

(二) 作業ニ付テハ概ネ街路殘置燈ニ準ジ照明方法及燈具等ニ付考慮セシメ規則ノ範圍內ニ於テ成シ得ル限リ作業ヲ繼續セシムルコト

(三) 露店燈中天幕、木材等光ヲ透過セザル材料ヲ以テ上屋及三方ニ側壁ヲ設ケタルモノハ普通屋內燈トシテ取扱フコト

(四) 起重機ヲ用フル屋外作業ニ必要ナル燈火ニシテ特ニ己ムヲ得ザルモノニ付テハ燈火管制規則第五條第二號及第十條ノ規定ニ依リ船舶關係燈ノ起重機ヲ用フル荷役用船室外照明燈ノ祕匿ノ程度迄緩和ヲ認メ得ルコト

(五) 警戒管制甲ノ程度ニ於テ殘置スル作業燈ノ光源ノ燭光ト燈器ノ高サトノ關係ニ付テハ附錄參照ノコト

五、特別屋外燈類

船舶ニ對スル氣象特報又ハ暴風警報用ノ夜間信號燈、防空警報信號燈、公用標示板照明燈等ノ如ク己ムヲ得ザルモノニ付テハ燈火管制規則第五條第二號及第十條ノ規定ニ依リ警戒管制時必要ナル最少限度ニ於テ點燈セシメ得ルコト

第三　一般屋內燈ノ燈火管制

一、店先燈類

店先燈類トハ通常一階ノ戶締面ノ外部ニ在ル燈火ヲ謂フ

二、普通屋內燈類

(一) 警戒管制乙程度ノ場合ハ成ルベク減光且遮光（イ）（燈火管

制規則第二號表參照）又ハ隱蔽ノ方法ニ依ルコト

（二）警戒管制甲程度ノ場合ハ減光且遮光ノ程度ハ光度小ナルヲ以テ一般ニハ隱蔽ヲ主トスルコト

（三）一般住宅ニ在リテハ成ルベク適當ナル方法ヲ講ジテ日常生活上特ニ必要ナル室ハ之ヲ隱蔽スルコト

（四）左ノ如キ場合ニハ成ルベク適當ナル隱蔽施設ヲ整備セシムルコト

（イ）業務上高照度ヲ必要トスルモノ

（ロ）空襲管制下ニ於テ特ニ作業ノ繼續ヲ必要トスルモノ

（ハ）遠ニ作業中止ノ困難ナルモノ又ハ消燈ヲ不利トスルモノ

（五）隱蔽ヲ行フニ當リテハ左ノ事項ニ留意スルコト

（イ）既設ノ扉、雨戸ノ類ヲ成ルベク利用スルコト

但シ節穴、割レ目、合セ目等ヨリノ漏光ナカラシムル樣充分注意スルコト

（ロ）開口部ハ之ヨリ多少大ナル材料ヲ用ヒ隱蔽スルコト

（ハ）出入口ハ前號ニ依ルノ外二重ニ隱蔽設備ヲ爲シ出入ニ際シ光ノ漏レザル樣留意スルコト

（ニ）換氣通風ニ留意スルコト

（六）隱蔽材料ハ光源ノ光度ニ應ジ成ルベク光ノ透過率ノ小ナルモノヲ使用スルコトヲ要ス（附錄參照）通常布製ノモノハ黑ガス毛繻子、黑毛繻子、人絹黑繻子等ヲ、紙製ノモノハ黑羅紗紙、馬糞紙、新聞紙等ヲ使用スルヲ適當トスルモ工場等ニ於テ火氣ノ危險アル箇所ニハ金屬板ノ如キ耐火性ノモノヲ、又破損ヲ受ケ易キ箇所ニハ莚、木板、黑帆木綿等ヲ使用スルヲ適當トスルコト

尙隱蔽材料ハ成ルベク耐火處理シタルモノヲ用フルヲ可トスルコト

（七）通常用ヒラルル隱蔽材料ノ所要重ネ合セ枚數ニ付テハ附錄參照ノコト

（八）著通屋內燈ノ反射光ニ對シテハ別段ノ制限ナキモ鏡面等ニ反射シ、屋外ニ漏キ光ノ漏ルルコトナキ樣注意スルコト

（九）遮光具ニ付テハ左ノ事項ニ留意スルコト

（イ）遮光具ノ材料ハ透過率ノ可及的小ナルヲ可トスルモ大體ノ標準ハ〇•〇〇三以下卽チ紙ナラバ兩面刷新聞紙三枚ヲ重ネ合セタル程度又ハ布ナラバ黑繻子一枚、黑木綿又ハ黑新モス二枚重ネ合シタル程度以上タルコト

（ロ）遮光具ノ材料ニハ成ルベク耐火性ノモノ又ハ耐火處理シタルモノヲ用フルヲ可トスルコト

セルロイドノ如ク燃エ易キ材料ノモノ、密閉型ノモノ或ハ極メテ小型ノモノ等ハ火災ノ危險アルヲ以テ不適當ナルコト

（ハ）遮光具ノ內面ハ白色、銀色等ノ如ク光ノ反射率ノ良好ナルモノガ適當ナルコト

（ニ）使用ニ當リテハ遮光條件ニ反セザル限リ必要ナル範圍ヲ廣ク照明スル樣燈具ノ位置及深サヲ加減スルコト

（十）減光且遮光ノ場合ノ室ノ廣サト許容シ得ル電燈ノ燭光及最大光度トノ關係ニ付テハ附錄參照ノコト

第四　一般交通關係燈ノ燈火管制

一、交通信號燈類

（一）交通上必要ナルヲ以テ管制施設ヲ速ニ整備セシムルコト

（二）信號燈ハ通常深キ庇ノ燈具ヲ使用シ居ルヲ以テ此ノ種ノモノニ付テハ特ニ遮光裝置ヲ必要トセザルコト

（三）交通信號燈ノ警戒管制乙ノ場合ニモ適宜減光スルヲ適當トスルコト

二、交通標識燈類

交通標識燈類中障碍注意燈ハ管制下ニ於ケル障害ヲ防止スル爲必要ナル燈火ナルヲ以テ必要ナル位置ニハ必ズ設置スルコト

三、自動車燈類

（一）前照燈ノ光度ハ各車輛ニ依リ區々ナルヲ以テ其ノ減光方法ノ指導ニ當リテハ便宜一〇•〇〇〇燭以上ノモノト一〇•〇〇〇燭以下ノモノトニ區分シ之ヲ爲スヲ適當トスルコト（附錄參照）

（二）減光具又ハ遮光具ニ付テハ左ノ點ニ留意スルコト

（イ）前方ヲ廣ク照明シ得ルコト

（ロ）取付取外ノ便ナルコト

（ハ）動搖ニ依リ脫落セザルコト

（ニ）走行中風壓ニ耐ユルコト

（三）自動車前照燈ノ減光方法及減光材料ニ付テハ附錄參照ノコト

四、普通車輛燈類及ビ携帶燈類

携帶燈ヲ使用スル場合ニハ直射光ヲ上空ニ向ハシメザル樣注意スルコト

第五　火焰其ノ他ノ燈火管制

一、火焰類

（一）火焰ヲ發スル工場等ニテ空襲管制時ニモ作業ノ繼續ヲ必要トスルモノ又ハ遠ニ作業中斷ノ困難ナルモノハ火焰ノ隱蔽設備ヲ整備スルコト

（二）隱蔽設備ニ關シテハ左ノ事項ニ付考慮スルコト

（イ）隱蔽材料及遮光材料ハ必要ニ應ジ耐熱耐酸等ノモノヲ用フルコト

（ロ）建物內ノ換氣通風ヲ計ルコト

第六　漁業用燈火ノ燈火管制

一、集魚燈ノ設備ニ付テハ防空並ニ生產上有效適切ナル樣考慮スルコト

二、集魚燈ハ防空警報ニ應ジ速ニ消燈又ハ減光且遮光シ得ル樣遮光具ヲ備ヘ、電氣集魚燈ニ在リテハ切換裝置等ノ設備ヲ爲シ「アセチレン」瓦斯及石油集魚燈及石油集魚燈ニ在リテハ「アセチレン」瓦斯集魚燈及石油集魚燈ハ成ルベク前項ノ如キ電氣集魚燈ニ轉換セシムルヲ可トスルコト

三、「アセチレン」瓦斯集魚燈及石油集魚燈ハ成ルベク速ニ消燈又ハ減光且遮光シ得ル電燈ニ標識燈及作業燈モ亦成ルベク速ニ消燈又ハ減光且遮光シ得ル電燈ニ轉換セシムルヲ可トスルコト

四、水中集魚燈ノ遮光具ハ次ノ如キ點ニ注意スルコト

（一）遮光材料ノ透過率ハ十萬分ノ五以下ナルコト（例•金屬板、木板、ゴム引クロス、黑帆木綿）

（二）水中任意ノ深サニ於テ使用シ得ル水中集魚燈ノ遮光具ハ鐵板製等ノ如ク堅牢ニシテ變形セザル構造ノモノトシ內面ハ白色ニ外面ハ黑色又ハ鼠色ニ塗裝スルヲ可トスルコト

（三）使用中風波又ハ潮流ノ爲傾斜シ遮光條件ニ反セザル樣水中集魚燈及遮光具ニ適度ノ重量ヲ附シ更ニ必要ニ應ジ深キ遮光具ヲ用フル等適當ノ方法ヲ講ズルコト

（四）水中集魚燈用ノ遮光具ニ付テハ附錄參照ノコト

五、水上集魚燈ノ遮光具ハ次ノ如キ點ニ注意スルコト

（一）遮光材料ノ透過率ハ十萬分ノ五以下ナルコト（例•金屬板、木板、ゴム引クロス、黑帆木綿）

（二）風波ニ依リ容易ニ變形セザル構造ノモノトシ布製ノモノハ遮光具ノ下端ヨリ二〇糎每ニ竹又ハ針金製等ノ張材ヲ用フルコト

（三）遮光具ガ動搖シタル場合其ノ下端ヨリ直射光又ハ水面ヨリノ

反射光ガ外部ニ漏レザル様適當ナ方法ヲ講ズルコト、例ヘバ布製ノ場合ニハ遮光具最下端ノ張材ニ沈子ヲ兼ネシムル爲針金製等トシ且水面下二〇糎以上ノ深サニ沈下セシムルコト

(四) 布製ノ場合ハ遮光具ノ上部ニ取付紐ヲ付シ支持具ニ取付クルコト

(五) 水上集魚燈用ノ遮光具ニ付テハ附錄參照ノコト

六、流網、延縄、定置網其ノ他之ニ類スルモノノ標識燈ノ燈具及遮光具ハ特ニ風波ニ耐ヘ得ル堅牢ナルモノトシ且燈器水平ヲ保ツ構造ノモノトスルコト

標識燈用ノ遮光具ニ付テハ附錄參照ノコト

七、作業燈ヲ一隻二燈以上使用スル場合ハ之ヲ一ケ所ニ集中セザルコト

作業燈用ノ遮光具ニ付テハ附錄參照ノコト

附錄 第一

第一 一般屋外燈

一、標識燈類關係

(一) 標識燈ノ標示記號ヲ示セバ左ノ如シ

種類	記號	種類	記號
火災報知機燈	火	消防官署標識燈	▼
非常報知機燈	非	消火栓標識燈	✱
避難所防護室標識燈	ヒ	警防團標識燈	✕
救護所標識燈	十	障碍注意燈	赤色
警察官署標識燈	帀		

(二) 標識燈ノ減光程度ニ關シ透視距離三〇〇米及五〇〇米ノ明サヲ光源ノ光度ニテ示セバ左ノ如シ

透視距離	光度(燭) 白色	赤色	綠色	青色
三〇〇米	〇、〇〇一八	〇、〇〇〇五	〇、〇〇〇七	〇、〇〇〇五
五〇〇米	〇、〇〇五二	〇、〇一五	〇、〇〇二一	〇、〇〇一五

(三) 標識記號ノ部分ニ用フベキ減光材料ハ燈器ノ構造種類、光色、標識ノ形等ニ依リ一律ニハ定メ得ザルモ通常用ヒラルルモノニ付大體ノ規準ヲ示セバ左ノ如シ

赤色外球ヲ有スルモノニシテ、電球ノ大サ五燭程度ノ場合ニハ透過率約〇、一ノ材料(例、白天竺、白新モス、白キヤラコ)等二枚、電球ノ大サ一〇燭程度ノ場合ニハ同材料三枚ヲ使用スルコト、但シ標識記號ノ大サハ横一〇〇粍、縱一五〇粍、幅一〇粍程度ノモノニシテ標識燈ノ透視光度ノ最大ナル方向ヲ水平以下トナル如ク施設シタルモノトス

標識燈ニ綠色、青色ノ光源ヲ用フル場合ニハ赤色ノ場合ニ比シ幾分減光ヲ嚴ニスルコト

二、街路燈類關係

(一) 警戒管制乙程度ノ場合街路ノ幅員ト殘置シ得ル燈火ノ間隔トノ關係ヲ示セバ左ノ如シ

路幅米(A)	街路燈間隔(B)米 三燭光	八燭光	一六燭光	三五燭光
三	六七	一七八	二三七	四五五
四五	四五	一一八	二一四	一七八
五	四〇	一〇七	一一八	一〇七
六	三三	八九	九七	七一
七	二二	五九	五三	四九
八	二〇	五三	四九	三六
九	一八	四九	三六	三〇
一〇	一一	三六	三〇	二七
一一	一三	三〇	二七	二四
一二	一一	二七	二四	二一
一五	一〇	二四	二一	一八
一八	九	二一	一八	一五
二〇	八	一八	一五	一五
二五	六七	一五	一五	一三
三〇	五七	一五	一三	一二
三五	五五	一三	一二	七
三六	五〇	一二	七	
四〇	四五	七		
四四	二七			
七三				

(二) 警戒管制甲ノ場合ニ殘置スル街路燈ノ光源ノ燭光ト燈器ノ高サトノ關係ヲ示セバ左ノ如シ

電燈ノ燭光數	一燭	二燭	五燭	八燭	一〇燭
電燈ノ高サ	一、八米	二、六米	三、六米	五、八米	七、三米	八、二米

備考 燈器ニ依ル光ノ反射ハナキモノトス

三、屋外作業燈類關係

警戒管制甲ノ程度ニ於テ殘置スル作業燈ノ光源ノ燭光ト燈器ノ高サトノ關係ヲ示セバ左ノ如シ

電燈ノ燭光數	一燭	二燭	五燭	八燭	一〇燭
電燈ノ高サ	一、八米	二、六米	四、〇米	五、一米	五、八米

備考 燈器ニ依ル光ノ反射ハナキモノトス

第二 一般屋内燈

一、普通屋内燈類關係

(一) 光源ト隱蔽材料トノ光ノ透過率ノ關係ヲ示セバ左ノ如シ

光源ノ別	隱蔽材料
減光且遮光セザル場合	透過率十萬分ノ五(〇〇〇、〇〇〇五)以下
警戒管制乙程度ニ減光且遮光シタル場合	透過率千分ノ三(〇、〇〇三)以下
警戒管制甲程度ニ減光且遮光シタル場合	透過率十分ノ一(〇、一)以下

(二) 減光且遮光セザル光源ニ對シ通常用ヒラルル隱蔽材料ノ所要重ネ合セ枚數ヲ示セバ左ノ如シ

隱蔽材料 種別	名稱	所要重ネ枚數	一枚ノ透過率
金屬木板類	金屬板、木板	一	〇
	黑洋繻子、兩面ゴム引布	一	〇
	黑帆木綿		
	黑ガス毛繻子	二	〇、〇〇〇二

布類	人絹黒繻子	黒繻子	黒新モス、黒天竺木綿	馬糞紙、黒ラシヤ紙	紙類	雨面黒鞣新聞紙	雨面剛新聞紙
	二	二	四	一		二	五
	〇、〇〇〇三	〇、〇〇〇五	〇、〇五	〇		〇、〇〇〇一	〇、一四

備考　本表ハ大體ノ標準ヲ示シタルモノニ過ギズ

（二）減光且遮光ノ場合室ノ廣サト許容シ得ル電燈ノ燭數及最大光度トノ關係ヲ示セバ左ノ如シ

警戒管制別	室ノ廣サ 疊數	平方米	一燈ノ最大燭光數 (イ)	(ロ)	乙	甲
	一、	一、五	五〇	五	〇、五	〇、二五
	二	三	一〇	一五	一	〇、五
	三	四、五	二二、五	二、五	一、五	〇、七五
	四、五	六、七五	三五	三	二、五	一、二
	六	九	四〇	四	三	一、五
	八	一二	五〇	五	四	二
	一〇	一五	五〇	五	五	二五
	一二	一八	(六〇)	(六)	(七五)	(三五)

備考　表中括弧セルハ許容最大燭光ヲ超過スルヲ以テ二燈以上ヲ使用ス可モノトス

例ヘバ乙（イ）ノ場合五〇燭光ト一〇燭光、又ハ三〇燭二燈等又乙（ロ）ノ場合五燭光ト一燭光等

第三　一般交通關係燈

一、交通信號燈類關係

交通信號燈ヲ透視距離、五〇〇米ノ明サニ減光スルニハ、一〇〇

「ヴオルト」六〇「ワツト」ノ電球ヲ使用セル場合ニハ電壓ヲ二〇「ヴオルト」ニ減ズレバ可ナルヲ以テ之ニ必要ナル施設ヲ爲サシムルコト

二、自動車燈類關係

（一）自動車前照燈ノ減光方法ヲ示セバ概ネ左ノ如シ

警戒管制程度ノ區別	前照燈ノ光度	減光方法
警戒管制	一萬燭光以下	透過率〇、〇三ノ材料（例金巾、新モス、天竺、シルガ等ノ黒布一枚）ヲ用ヒ燈器ノ前面ヲ覆フコト
乙ノ場合	一萬燭光以上	透過率〇、〇一ノ材料（例ガスモス等ノ中手黒布一枚）ヲ用ヒ燈器ノ前面ヲ覆フコト
警戒管制	一萬燭以下	透過率〇、〇〇七ノ材料（例黒雲才等ノ中手黒布一枚）ヲ用ヒ燈器ノ前面ヲ覆フコト
甲ノ場合	一萬燭光以上	透過率〇、〇〇二ノ材料（例薄手黒繻子一枚又ハガスモス等ノ中手黒布二枚）ヲ用ヒ覆フコト

備考　警戒管制甲ノ場合ハ遮光具ヲ必要トス

（二）警戒管制甲程度ノ場合ニ於テ尾燈車輛番號、照明燈、停止燈等ヲ減光スルニハ電球ニ一〇燭以下ヲ用フル場合ニハ燈器ノ前面ヲ透過率〇、〇〇〇五程度ノ材料（例、黒繻子等）ヲ以テ覆フコト

（三）通常用ヒラルル減光材料ノ透過率ヲ示セバ左ノ如シ

品名	絲ノ番手	一吋當打數	透過率
シルカ（絹）	緯 21/4	経 21/4	〇、〇三
	緯 128	経 128	

第四　漁業用燈火

一、水中集魚燈用遮光具ノ標準ヲ示セバ左ノ如シ

黒天竺	黒天竺	黒ガスモス	黒雲才	全スフ（細目洋八丈）	薄手黒繻子
緯 45	経 60	緯 70	経 76	緯 80	経 80
緯 20	経 40	緯 36	経 32	緯 26	経 30
〇、〇二	〇、〇二	〇、〇一	〇、〇〇六	〇、〇〇三	〇、〇〇二

遮光具

水中集魚燈ニ付ヲタル遮光具

尙水面ニ於テ水中集魚燈ヲ使用スル場合ハ左圖ノ如ク風波等ニ依リ變形セザル樣竹又ハ木材製等ノ堅牢ナル張材ニ、濕光ノ虞ナキ蓆又ハ帆布ヲ遮光材料トシテ用ヒタル直徑一米以上ノ遮光具ヲ使用スルコトヲ得、此ノ場合ニ於テハ遮光具最下端ノ張材ハ沈子ヲ兼ネシムルコト

二、水上集魚燈用遮光具ノ標準ヲ示セバ左ノ如シ

三、標識燈燈用遮光具ノ標準ヲ示セバ左ノ如シ

標識燈

標識燈ノ點燈距離

四、作業用遮光具ノ使用方法ノ標準ヲ示セバ左ノ如シ

艘外及上空遮光ノ狀態

其ノ一

其ノ二

附錄第二

一、屋內遮光具ノ例

二、屋外遮光具ノ例

(1)
普通ノ門軒灯等ニ用フル遮光具ノ例
使用材料
亞鉛引鉄板

(2)
懸垂型
使用材料
硬質磁器又ハ琺瑯引薄鉄板

(16)
(13)
硬質磁器又ハ琺瑯引薄鉄板
厚紙
厚紙
使用材料
(17)
(15)
(14)
角度調整装置
硬質磁器又ハ琺瑯引薄鉄板
硬質磁器又ハ琺瑯引薄鉄板
硬質磁器又ハ琺瑯引薄鉄板
使用材料

(20)
(18)
屋内用防空ランプ
直射光ノ開口部ニ向ハザル様注意スルコト
角度調整装置
硬質磁器又ハ琺瑯引薄鉄板
使用材料
(19)
硬質磁器又ハ琺瑯引薄鉄板
使用材料

三、出入口ノ隱蔽方法ノ例

(2)
外屋
内屋
黒布又ハ隠蔽紙
黒布又ハ隠蔽紙
釣手
止金（ホック）
（取付取外シ自在デアル）

(3)
外屋
内屋
黒布又ハ隠蔽紙
木枠ヲ図ノ如ク黒布ニテ隠蔽ス
（平時ハ取付場所附近ニ保管ス）
(4)
内屋
定固
固定
厚手黒布
外屋
亞鉛引鉄板、波板鉄板
又ハ木板

(5)
大戸又ハ黒布
内屋
平時ハ図ノ如ク折畳ム
蝶番
外屋
釣手

(6)
屏風式折畳ノモノ
平時ハ取付場所附近ニ保管ス
黒布又ハ隠蔽紙
(7)
内屋
屋内
入口
波板又ハ薄鉄板
外屋
厚手黒布

四、窓ノ隠蔽方法ノ例

(1)
隠蔽布
引紐
止金
(2)
隠蔽布
枠(黒布又ハ木板)
止金

(3)
取付金具
止金
上ゲ下ゲ用紐
隠蔽布
横止金

(4)
窓
枠
隠蔽布
螺番
保管箱ト枠ヲ
兼ネルモノ
(5)
隠蔽布
保管箱ト枠ヲ
兼ネルモノ
枠
隠蔽布
上ゲ下ゲ
用紐

(6)
保管箱
隠蔽布
枠
隠蔽布

(10)
窓
窓
窓
隠蔽布
隠蔽用床
枠上位置
隠蔽布
枠上繰下
ハンドル

(11)
天窓鎮子
鎖番
管制板戸
引紐
天窓
管制板戸
天窓鎮子
引紐
枠
引紐
管制板戸

五、天窓ノ隠蔽方法ノ例

(7)
式通引
通風ヲ考慮セル金属板又ハ板戸
(8)
枠
枠
上金
採窓箱
隠蔽布
上金

(9)
式開雨
通風ヲ考慮セル金属板又ハ板戸

防空僞裝指導要領

第一　總　則

一、防空僞裝トハ空襲目標（爆擊目標、爆擊補助目標及誘導目標等ヲ總稱ス）トナリ易キ物件ニ對シ敵機ヨリノ發見ヲ困難ナラシメ精密ナル爆擊ヲ不可能ナラシムル爲ニ施ス處置ヲ謂フコト

二、防空僞裝ノ對象トナルベキ物件ハ概ネ視距離一〇キロメートル以上（對地角度三〇度以下）ヨリノ目視ニ依ル發見ヲ困難ナラシムレバ僞裝ノ目的ヲ達成スルモノニシテ僞裝計畫モ此ノ點ニ立脚シテ考慮スベキコト

三、物件ノ上空ヨリノ認知ハ其ノ周圍トノ形態、色彩特ニ明度（註一）ノ對比ニ依ルモノナル爲、防空僞裝ハ對象トナルベキ物件ノ明度、形態、色彩等ヲ周圍ノ夫等ニ類似セシメテ始メテ充分ナル效果ヲ發揮スルモノニシテ物件ノミヲ單獨ニ周圍ヨリ切離シテ考フベキモノニ非ザルコト

四、防空僞裝ノ對象トナルベキ物件ハ其ノ所在地ニヨリ發見ノ難易ニ相違アル爲都會地、都會地周邊帶、田園地、樹林地等其ノ所在地域ヲ充分考慮シテ僞裝ヲ計畫スルコト

五、拙劣ナル僞裝ハ却ツテ着目サレ易ク其ノ效果ヲ減殺スルモノナルヲ以テ常ニ周圍ノ物件ト充分ナル關聯ヲ保チ綜合的計畫ノ下ニ實施スルヲ要スルコト

六、防空僞裝ハ新設ノ物件ニ在リテハ設計ノ當初ヨリ其ノ敷地、配置、形態、色彩等ニ關シ僞裝的考慮ヲ拂フベキモノニシテ既設ノモノニ在リテモ平時ヨリ成ルベク恒久的ナル僞裝方法ヲ實施シ置クノ要アルコト

七、防空僞裝ハ其ノ效果消極的ナル爲重要施設ニ在リテハ僞裝ノミニ信賴ヲ置キ他ノ防空施設ヲ顧ミザルノ弊ニ陷ラザル樣注意スルコト

註一　明度トハ肉眼ニ感ズル色彩（白黑系統ヲモ含ム）ノ明ルサノ程度ヲ指スモノニシテ純白ヲ一〇〇トセル場合ノ百分率ヲ以テ示ス

第二　新設ノ場合

建物其ノ他ノ施設ノ新設ニ際シテハ物件ト其ノ所在地域トノ間ニ外觀上著シキ差異ヲ生ゼザル樣敷地ノ選定、配置、規模、形態、色彩等ノ總テニ亙リ豫メ充分ナル計畫ヲ必要トスルコト

一、一般方針

（一）敷地

（イ）重要ナル物件ニ在リテハ河川、海岸線、湖沼等特徴アル地形ニ近接スルコトヲ避ケ、用途上支障ナキ限リ谷間、山麓、起伏地森林等ヲ利用シテ秘匿シ易キ位置ヲ選定スルヲ可トスルコト

（ロ）埋立地、田園地等ノ如キ一樣ニ平坦ニシテ明度ノ比較的均一ナル地域ニ設クルコトヲ避ケ、樹林地ノ如キ明暗、陰影ノ分布複雜ナル地域ニ設クルヲ可トスルコト

（ハ）敷地ノ形狀ハ都會地、田園地、樹林地等夫々周圍ノ地形地物ニ適合スル樣道路、境界線等ヲ考慮スルコト

特ニ田園地、樹林地ノ如キ自然的地形內ニ正方形、矩形等ノ如キ整然タル輪廓ヲ有スル敷地ヲ設クルコトハ努メテ之ヲ避ケ、樹植其ノ他ニ依リ特性ヲ減殺スル樣考慮スルコト

（二）配置

（イ）形態及色彩ノ類似セル多クノ物件ヲ規則的又ハ連續的ニ配置スルコトヲ避ケ、成ルベク建物ノ大サ、建物仕上材料ノ明度等種々異ナラシメテ不規則、不連續ナル配置ト爲スコト

尙道路、附屬建物等ノ配置ニ付テモ此ノ考慮ヲ拂フコト

（ロ）樹林地、起伏地等ノ地形ノ利用、空地ノ適當ナル配分等ニ依リ成ルベク建物ノ集團的規則的、配置ヲ爲サザルコト

（ハ）形態特異ナルモノ（油槽等）ヲ數箇以上一箇所ニ集合シテ設クルコトヲ避クルコト已ムヲ得ズ數箇ヲ併置スル必要アル場合ハ特ニ其ノ配置ニ付考慮スルコト

（ニ）規模大ナル建物等ヲ隣接シテ設クル際ニハ各棟間ノ間隔ハ成ルベク建物ノ高ノ四倍以上ト爲スコト

（三）規模

（イ）出來得レバ物件ノ規模ハ其ノ視面積（註二）ヲ四〇、〇〇〇平方メートル以內ニ制限シ成ルベク小ナルヲ可トスルコト

（ロ）物件ノ視面積一〇〇平方メートル以內ノモノニ付テハ特ニ重要ナルモノノ外僞裝ヲ考慮スルノ要ナキコト

註二　視面積トハ物件ノ高ニ短邊ノ二分ノ一ヲ加ヘシモノニ長邊ヲ乘ジタルモノヲ謂フ、但シ圓筒形ノモノニ在リテハ半徑ニ高ヲ加ヘタルモノニ半徑ノ一・七倍ヲ乘ジタルモノヲ謂ヒ（第一圖參照）又コンクリート鋪裝ノ如キ平面形ノモノニ在リテハ實面積ノ二分ノ一ヲ謂フ、外部仕上ガ類似セル建物群ニシテ其ノ軒高ノ四倍未滿ニ近接シテ設ケラレタル場合ハ之ヲ一團ノ建物群トシテ其ノ視面積ヲ計算スルコト

尙建物ト同程度ノ明度ヲ有スル空地、廣場等ハ之ヲ物件ノ視面積ニ加算スルコト

（四）形態

（イ）物件ノ形態ハ成ルベク其ノ所在地域ノ有スル形態ト類似セシムルコト

（ロ）視面積一〇、〇〇〇平方メートル以上ノ物件ニ在リテハ成ルベク規則的對象的ナル形態若ハ整然タル輪廓ト爲スヲ避クルコト

（五）色彩

（イ）物件ノ色彩ハ所在地域ノ色彩ニ成ルベク類似セシムルヲ要シ特ニ兩者ノ明度ヲ類似セシムルコト最モ肝要ナルコト

（ロ）物件ノ視面積概ネ四〇〇平方メートル以上ノモノニ在リテハ其ノ明度ハ所在地域ノ明度（註三）トノ對比ヲ一・五倍以內トスルコト、但シ白色「スレート」白色「タイル」淡色「タイル」白色「モルタル」漆喰等明度高キ仕上材料ハ視面積一〇〇平方メートル以上ニ亙リ使用セザルコト

（ハ）屋根、外壁等ノ仕上材料ハ瓦、暗色「スレート」暗色「タイル」暗色「コンクリート」等ノ如キ明度低キ材料ヲ使用シ（註三）僞裝實施上ノ注意（一）迷彩（塗裝）ニ示ス要領ニ依リ物件ノ形態並ニ輪廓ガ分割又ハ變形シテ見ユル樣工夫スルコト

已ムヲ得ズ白色「スレート」白色「コンクリート」ノ如キモノヲ使用スル場合ハ迷彩僞裝ヲ施スコト

註三　所在地域ノ明度ハ概ネ第一表ニ依ルコト

第一表　地域色明度表

所在地域	地域色明度(%)	所在地域	地域色明度(%)
都會地	五—七	田園地	六—一〇
都會地周邊部	五—八	樹林地	三—五

（イ）物件ノ反射光ヲ防グ爲、物件ノ表面仕上材料ハ成ルベク光澤小ナル材料ヲ使用スルコト

（ロ）「ガラス」ノ傾斜屋根面ハ北外ニハ使用セザルコト、已ムヲ得ズ使用スル場合ハ小區劃ニ分割シテ用フルコト

二、僞裝種別

（一）物件ノ規模竝ニ所在地域ノ特性ニ從ヒ其ノ僞裝種別ヲ第二表ニ示ス如ク第一種乃至第五種ト爲スコト

第二表　僞裝種別選定基準表

物件親面積 ＼ 所在地域	都會地	都會地周邊部	田園地	樹林地
四〇、〇〇〇平方メートル以上	第一種	第一種	第一種	第一種
二〇、〇〇〇〃	第二種	第二種	第一種	第二種
一〇、〇〇〇〃	第三種	第二種	第二種	第三種
二、五〇〇〃	第四種	第三種	第三種	第四種
四〇〇〃	第五種	第四種	第四種	第五種

（二）第二表ニ掲グル僞裝種別ハ左ノ通ナルコト

第一種―第二新設ノ場合一、ノ（二）ニ依リ配置的考慮ヲ爲シ植樹僞裝ヲ併用シ且物件ニハ其ノ所在地域ノ地物中主色調ヲ爲セル二、三ノ明暗色ニ類似ヲ有スル塗料ヲ以テ物件ノ形態及輪廓ガ分割又ハ變形シテ見ユル樣有彩色分割迷彩ヲ施スコト、迷彩ヲ施シ難キモノニ在リテハ遮蔽僞裝ヲ施スコト

第二種―第一種ニ準ズルカ又ハ少クトモ有彩色分割迷彩ヲ施スコト

第三種―第二種ニ準ズルカ又ハ所在地域ノ地物中主色調ヲ爲セル二、三ノ明暗色ニ類似ノ明度ヲ有スル灰色及黑色ノ塗料ヲ以テ無彩色分割迷彩ヲ施スコト

第四種―第三種ニ準ズルカ又ハ所在地域ノ平均明度ヲ有スル塗料ヲ以テ單色迷彩ヲ施スコト、出來得レバ其ノ色調ヲモ所在地域ノ夫ニ類似セシムルコト

第五種―第四種ニ準ズルカ又ハ所在地域トノ明度比ヲ一・五以下ト爲スコト

尙特ニ重要ナル物件ハ第二表ノ基準ヲ一段ヅツ繰上グルコト

三、僞裝實施上ノ注意

（一）迷彩（塗裝）ノ場合

（イ）有彩色分割迷彩ハ左ノ點ニ留意スルコト

(1) 分割迷彩ハ不規則ナル模樣ニ爲スヲ原則トスルコト、都會地、田園地ノ如ク周圍ガ直線的形狀ヲ爲セル場合ニハ直線的模樣ニ又田園地、樹林地ノ如ク周圍ガ曲線的形狀ヲ爲セル場合ニハ曲線的模樣ニ迷彩スルコト（第二圖參照）

(2) 分割迷彩ノ單位ハ周圍ノ狀況ニ依リ異ルモ概ネ其ノ幅ハ明色ニテハ一〇メートル乃至二〇メートル、暗色ニテハ其ノ幅ヲ二〇メートル乃至四〇メートル程度ト爲スヲ可トスルコト

(3) 組合ハスベキ明暗二色ハ明度ニ於テ成ルベク一對二以上ノ對比ノモノヲ選ビ其ノ平均明度ヲ周圍ノ平均明度ニ一致セシムルコト

(4) 分割迷彩ハ屋根面ト壁面トヲ連絡シテ行ヒ、特ニ建物ノ緣邊ハ暗色ヲ以テ班狀ニ迷彩シ出角ヲ平面的ニ見セシムル樣工夫スルコト（第三圖參照）

(5) 分割迷彩模樣ノ各單位ノ形狀ハ夫々異ナラシメ、同一模樣ノ反復ハ努メテ之ヲ避クルコト、尙地上ヨリ注目サレ易キ壁面ニ特ニ奇異ナル模樣ヲ施スコトハ避クルコト

(6) 使用スベキ僞裝色ノ一例ヲ示セバ第三表ノ通ナルコト

第三表　地域別僞裝色表

僞裝色 ＼ 所在地域	都會地	都會地周邊部	田園地	樹林地
明ルキ方ノ色	灰色、暗褐色、暗綠色（明度五％ナル場合） 灰色、暗綠色（明度八―一二％）	灰色、暗褐色、暗綠色（明度八％ナル場合） 灰色、暗綠色（明度八―一二％）	暗綠色（明度八％ナル場合） 暗綠色（明度七―九％）	暗綠色（明度三％ナル場合） 暗綠色（明度三―五％）
暗キ方ノ色	黑色（明度三―四％）	黑色（明度三―五％）	暗褐色（明度三―五％）	黑色（明度二％）

（ロ）無彩色分割迷彩ノ方法其ノ他ハ（イ）有彩色分割迷彩ノ場合ニ準ズルコト

（ハ）單色迷彩ハ物件ノ屋根面及壁面等ノ外周部ヲ所在地域ノ平均明度ニ相當スル塗料ヲ以テ一樣ニ塗裝スベキモノナルモ、壁面ハ屋根面ヨリ幾分明ルク塗裝シ、特ニ北側ノ當ニ日陰トナル屋根面及壁面ハ一層明ルク塗裝スルヲ可トスルコト、尙出來得レバ其ノ色調ヲモ所在地域ノ夫ト類似セシムルコト

（ニ）迷彩ニ用フル塗料ハ概ネ左ニ依ルコト

(1) 塗料ハ耐久性大、光澤小、經費低廉且塗裝簡易迅速ニシテ而モ大量ニ生產セラルルモノナルコト

(2) 種々ナル仕上材ノ迷彩ニ適スル塗料ハ概ネ第四表ノ通ナルコト

第四表　僞裝塗料表

下地	適合塗料	下地	適合塗料
石綿スレート	コールタール アスファルトペイント 耐アルカリ性水性塗料 アスファルト乳劑 セメントペイント 耐アルカリ性油性ペイント セメント吹付色モルタル	コンクリート煉瓦、漆喰	下地石綿スレートノ場合ニ同ジ
木材	亞鉛鍍鐵 板鐵鋼		コールタール 油性ペイント アスファルトペイント アスファルト乳劑

（二）植樹ノ場合

（イ）植樹ハ其ノ僞裝效果ヲ發揮スル迄ニハ相當ノ時日ヲ要スルヲ以テ平時ヨリ實施スルノ要アルコト

（ロ）建物壁面ノ僞裝ニハ建物ニ投影スル如ク近接シ不規則ナル配列ニテ植樹スルコト

尙建物ノ影ヲ變形セシムル爲ニ其ノ投影部分ニ植樹スルコト

（ハ）建物壁面ノ僞裝ニハ纏絡植物ヲ植栽セシムルモ一方法ナルコト、但シ纏絡植物ハ一〇メートル以上ニハ達セザルモノアルニ付留意スルコト

（ニ）屋根面ノ僞裝ニハ出來得レバ瀧木、鉢綠棚ノ類ヲ適當ニ配置スルカ又ハ適當ニ屋上庭園ヲ設クルコト

（ホ）冬期落葉又ハ變色スル樹木ヲ成ルベク避ケ、丈高ク樹葉面大且成長早キモノニシテ而モ其ノ土地ニ適シタル常綠樹ヲ適當

トスルコト

通常用ヒラルルモノハ次ノ通ナルコト

(1) 南　部（近畿以南）

1　常緑闊葉樹

アカガシ、アラカシ、イチヒガシ、ウラジロガシ、シラカシ、ツクバネガシ、クス、シヒ、マテバシヒ、サカキ、タイサンボク、タラエフ、ナギ、ニツケイ、ヤブニツケイ、モクコク、モチノキ、クロガネモチ、ヲガタマノキ、ウバメガシ、カナメモチ、ケフチクタウ、サンゴジユ、シキミ、ネズミモチ、マサキ等

2　針　葉　樹

カヒズカイブキ、カヤ、クワウエフザン、サハラ、スギ、ヒノキ、ヒマラヤシーダー、マキ、カウヤマキ、アカマツ、クロマツ、ゴエフマツ、モミ等

3　纏絡植物

イタビカヅラ、イハガラミ、キヅタ（フユヅタ）、ビナンカヅラ、ムベ等（以上常緑）アケビ、ツタ（ナツヅタ）、ツルウメモドキ、フヂ等（以上落葉）

(2) 中央部（東海、關東）

概ネ南部ト同様ナリ

(3) 北部（北關東北陸以北）

1　常緑闊葉樹

局部的ニ温暖ナル地方ニカシ類、シヒ等二、三種ヲ見ルノミニシテ全體的ニ觀テ常緑闊葉樹ノ生育ニ不適ナリ

2　針　葉　樹

アスナロ、イチヰ、カヤ、サハラ、スギ、タウヒ、トドマツ、ツガ、ヒノキ、マツ類、モミ、コノデガシハ等

3　纏絡植物

ナケビ、ツタ（ナツヅタ）、ツルウメモドキ、フヂ等

(4) 北　海　道

常緑闊葉樹無ク針葉、落葉樹ノミヲ見大部分ハ落葉樹ナリ

タウヒ、ツガ、トドマツ、マツ等

(5) 海岸ニ於テ潮煙、鹽風等ニ比較的耐ヘ得ル樹種

1　常緑闊葉樹

イボタノキ、ウバメガシ、ケフチクタウ、サンゴジユ、タラエフ、ツバキ、トベラ、ネズミモチ、マサキ等

2　針　葉　樹

カヒヅカイブキ、クロマツ、コノテガシハ、シユロ、ソテツ等

3　野　芝　類

備考　針葉樹ハ防火性ニ缺ク

纏絡植物ノ内落葉性ノモノモ僞裝ニ適ス

(三) 遮蔽ノ場合

(イ) 貯水塔等ノ如ク形狀特異ナル物件ノ僞裝ニハ左ノ要領ニ依リ僞裝網ヲ以テ遮蔽スルコト

(1) 僞裝網ハ暫色ニ染ムルコト

(2) 僞裝網ノ網目ノ大サハ網ノ太サノ五倍乃至十倍ト爲シ、成ルベク五センチメートル平方乃至十センチメートル平方ノモノト爲スコト、已ムヲ得ズ大ナル網目ヲ使用スル場合ニハ之ニ「ハラ」ノ類ヲ附着セシメテ使用スルコト

(3) 僞裝網ハ出來得レバ物件ヨリ〇・五メートル乃至一メートル離シテ張ルコト

(4) 内部ノ物件明度極メテ高キモノハ僞裝網ヲ密ニスルカ又ハ「ハラ」ノ類ヲ附着セシメ、内部ノ透視度ヲ減ゼシムルコト、附着ノ方法ハ遮蔽部ノ中央部ハ密ニ周邊部ニ至ルニ從ヒ粗ニスベキコト

(5) 地上ニ落ス影ノ爲ニ注目サレ易キ物件ニ在リテハ事情ノ許ス限リ北側屋根面ヨリ地上ニ斜ニ僞裝網ヲ張リ陰影部ヲ蔽フ樣ニ爲スコト

(ロ) 嵌裝シ難キ物件ノ僞裝ハ僞裝網、僞裝幕等ニ依リ遮蔽スルコト

僞裝幕ノ遮蔽ハ左ノ要領ニ依ルコト

(1) 成ルベク强靭ナルモノヲ用フルコト

(2) 風ニヨリ剝奪セラレザル樣强固ニ取付クルコト

(3) 迷彩ノ要領ニヨリ染色シタルモノヲ用フルコト

(ハ) 「ガラス」面ノ如ク光澤多ク反射著シキ面ノ僞裝ハ僞裝網又ハ僞裝幕ニ依ルコト

(ニ) 水面ノ僞裝ハ左ニ依ルコト

(1) 沈澱池、濾過池等ニ在リテハ規則的ナル輪廓ヲ避ケ適當ニ植樹シ周隣トノ調和ヲ圖ルコト

(2) 遮蔽ヲ要スベキ水面ニハ丸太ノ類ヲ組ミ其ノ上ニ簀子ノ類ヲ渡シテ遮蔽スルカ又ハ鐵線ヲ引渡シテ遮蔽幕、僞裝網ヲ張ル等適當ナル方法ヲ講ズルコト

(3) 規模大ナル堀、池等ニシテ重要ナル場所ニ在ルモノハ浮草筏ノ類ヲ以テ水面ヲ蔽フコト

第三　既設ノ場合

既設ノ物件ニ在リテモ出來得ル限リ其ノ形態、明度、色彩等ヲ其ノ所在地域ノ夫ト類似セシメ、周隣ト融合スル樣工夫スルコト

一、一般方針

(一) 所　在　地

海岸、河川、湖沼等ノ如キ著明ナル地形ニ近接シテ所在セル物件或ハ又埋立地等ノ如ク明度ノ比較的均一ナル地形ニ所在スル物件ハ其ダ發見サレ易キモノナルニ付特ニ充分ナル考慮ヲ拂フコト

(二) 配　置

敷地外廓ノ際立テルモノ及建物配置ノ規則的又ハ連續的ナルモノハ植樹其ノ他ノ方法ニ依リ出來得ル限リ其ノ特性ヲ破壞セシメ周圍ノ自然性ニ融合セシムル樣工夫スルコト

(三) 規　模

物件ノ視面積一〇〇平方メートル以上ノモノニ在リテハ物件ノ明度、所在地等ヲ考慮シテ第五表ニ示ス如キ基準ニ依リ僞裝ノ要否ヲ決定スルコト視面積一〇〇平方メートル未滿ノモノニ付テモ特ニ重要ナルモノハ僞裝ヲ考慮スルコト

第五表　要僞裝限界視面積基準表（單位平方メートル）

物件明度% ＼ 所在地域	都會地	都會地周邊部	田園地	樹林地
四〇（白色スレート 白色タイルノ類）	四〇〇	二〇〇	一五〇	一〇〇

二〇（花崗岩、コンクリートノ類）	八〇〇	四〇〇	三〇〇	二〇〇	
一〇（アスファルトノ類）	四、〇〇〇	二、〇〇〇	一、〇〇〇	五〇〇	
五（日本瓦ノ類）	一〇、〇〇〇	五、〇〇〇	二、〇〇〇	三、〇〇〇	
二・五（コールタールノ類）	一〇、〇〇〇	五、〇〇〇	一、〇〇〇	五、〇〇〇	

備考　一、重要ナラザルモノ及都心部ニ所在スルモノノ要僞裝限界ハ該表ノ基準ヲ幾分大キク取リ得ルコト

二、特ニ集團ヲ僞セル建物群ニ在リテハ其ノ視面積ノ取方ハ註二ニ依ルコト

（四）形態　廣大ナル連續屋根面ヲ有スル工場ノ如キ規則的又ハ連續的ナルモノハ植樹、分割迷彩等ニ依リ其ノ特性ヲ破壞セシムルコト

（五）色彩及表面光澤

第二新設ノ場合一、一般方針ノ（五）、（六）ノ項ニ準ズルコト

二、僞裝種別

（一）物件ノ規模及所在地域ノ特性ニ從ヒ其ノ僞裝種別ヲ第二表ニ準ズルコト但シ左ニ示ス物件ハ第二表ノ基準ヲ一段ヅツ繰上グルコト

（イ）著名ナル地形ニ近接スル物件

（ロ）埋立地等ノ如ク一樣ニ平坦ニシテ明度ノ比較的均一ナル場所ニ孤立シテ所在セル物件

（ハ）形態ノ特異ナル物件

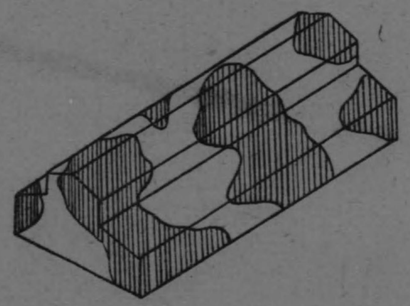
（二）視面積四〇〇平方メートル未滿ノ要僞裝物件ハ第五種ト見做スコト

第一圖

第二圖

都會地ノ場合

田園地ノ場合



第三圖

家庭防空消防指要領

第一　總　則

第二　家庭及家庭防空群ノ防火用設備及器材

一、防火用水施設

二、防火用器具

三、其　ノ　他

第三　家庭及家庭防空群ノ消防其ノ他ノ防護

一、平時ノ準備

二、防空實施發令時ノ處置

三、警戒警報發令時ノ處置

四、空襲警報發令時ノ處置

五、消　防　作　業

（一）家庭防空群ノ任務ノ限界

（二）燒夷彈ニ因ル火災發生ノ防禦

（三）其ノ他ノ原因ニ因ル火災發生ノ防禦

（四）火災發生シタル場合ノ防禦

（五）消防作業ノ要領

（六）防護監視ノ要領

六、其ノ他ノ防護活動

七、空襲警報解除後ノ處置

本書ハ茲ニ制定セル防空指導一般要領ニ基キ燒夷彈攻擊ヲ受クル虞アル重要地域ニ於ケル主トシテ輕燒夷彈ニ對スル消防指導ノ要領ヲ定メタルモノトス、其ノ他ノ地域ニ於テハ土地ノ狀況其ノ他ヲ考慮シ本要領ニ準ジ適宜指導ヲ行フモノトス

第一　總　則

一、空襲時惹起スル火災ハ同時多發ノ特異性ヲ有スルコトヲ充分認識シ木造家屋ノ密集セル我國都市ノ現狀ニ於テハ特ニ防火第一主義ヲ徹底スルコト

二、「我家は我手で護る」ノ信念ヲ堅持スルト共ニ隣保共助ノ精神ヲ涵養强化シ家庭及家庭防空群ノ總力ヲ以テ沈着勇敢且機敏ニ防火ニ從事シ以テ自衞防火ノ徹底ヲ圖ルコト

三、各種投下彈特ニ燒夷彈ノ性能ヲ充分認識シ實際ニ則シ且有效適切ナル防火方法就中敏速ナル應急防火方法ヲ體驗會得シ以テ防火ニ自信ヲ持ツコト

四、燒夷彈攻擊ト共ニ毒瓦斯攻擊ヲ受クルコトアルモ凡ユル手段ヲ講ジテ消防作業ヲ繼續シ常ニ火災防禦ニ重點ヲ置クコト

五、防火用水、防火用器具及防護用服裝ヲ整備シ且其ノ取扱方法竝ニ保存手入法ヲ修得スルコト

六、發火及延燒防止ノ爲メ竝ニ消防活動ヲ妨害セザル建物內外ノ燃エ易キモノ其ノ他ヲ整理スルコト

七、木造家屋ノ防火改修ヲ促進スルコト

八、平素ヨリ家庭及家庭防空群ニ於テ防火計畫ヲ定メ置クコト

第二　家庭及家庭防空群ノ防火用設備及器材

一、防火用水施設

（一）各戸ニハ狀況ニ依リ適宜防火用水ノ準備ヲ必要トスルコト

前項ノ防火用水ハ通常ノ町家ニ在リテハ一戸當百立（約五斗五升）以上ノ水ヲ基準トシ二階以上ノ家屋ニ在リテハ各階ニ相當量ノ水ノ準備ヲ必要トスル

（二）貯水ノ爲「バケツ」盥、桶、風呂桶等ヲ利用シ且成ルベク自

家用防火水槽、天水桶等ヲ使用ニ便ナル位置ニ設置スルコト

(三) 成ルベク水道「ホース」ヲ水道ノ水栓ニ容易ニ取付ケ得ル如ク準備シ其ノ長サハ屋内各室ニ注水シ得ル程度トスルコト

井戸「ポンプ」ハ成ルベク壓力放水ヲ爲シ得ルモノトシ之ニ前項程度ノ「ホース」ヲ準備スルコト

(四) 家庭防空群ニ成ルベク容量一立方米(約五石五斗)以上ノ防火水槽(別紙圖面參照)ヲ設置スルコト

(五) 井水、池水、清流、水路其ノ他自然水利等ヲ利用シ且必要ニ應ジ水利利用ノ設備ヲ爲シ又井戸ノ新設及保存ニ留意スルコト

前項ノ自然水利及井戸等ニシテ適當ナルモノアル場合ハ之ヲ以テ

(一)及(四)ニ代(得ルコト

二、防火用器具

(一) 各戸ニ容量八立(約四升)程度ノ注水用「バケツ」(朝顔形ヲ可トス)ヲ適宜準備スルコト

(二) 家庭防空群ニハ成ルベク放水能力毎分七〇立(約四斗)程度ノ二人押輕便「ポンプ」ノ設備ヲ爲シ之ニ長サ一五米(約五〇尺)ノ「ホース」二本以上ヲ附屬セシメ置クコト

(三) 油類、藥品等ノ發火性又ハ引火性物品ヲ貯藏スル場合ニハ泡沫消火器、四鹽化炭素消火器等ノ防火器材ヲ準備スルコト

三、其ノ他

(一) 各戸ニ約五〇立(約二斗五升)ノ砂又ハ土ヲ準備スルコト

(二) 成ルベク各戸ニ鑓、火叩キ、水桶杓ヲ準備スルコト

(三) 消防作業ノ際着用スベキ活動自由ナル被服、足袋、帽子等ヲ準備スルコト

(四) 家庭防空群内ニハ成ルベク綱、シヤベル、長棒(長サ約二米)輕便梯子ヲ備フルコト

(五) 家庭防空群内各戸ノ境界ニ通路又ハ非常口ヲ設クル等防火上相互協力ニ便ナル方法ヲ講ズルコト

第三 家庭及家庭防空群ノ消防其ノ他ノ防護

一、平時ノ準備

(一) 各戸ハ防空責任者ヲ定メ、責任者ハ空襲時活動シ得ル者(防空從事者)ノ數ニ應ジ其ノ任務ノ分擔ヲ定メ置クコト

(二) 防空責任者ハ防空從事者ノ任務ニ應ジ迅速ニ防火ニ從事シ得且成ルベク投下彈ノ破片又ハ爆風ニ對シ安全ナル待避場所ヲ選定シ置クコト

(三) 家庭防空群ニハ空襲時ノ防護監視所ヲ群内適當ノ位置ニ定メ置クコト但シ狀況ニ依リ數群ニ一ケ所ノ防護監視所ヲ設クルヲ以テ足ルコト

(四) 第二ノ防火用設備器材ハ成ルベク平素ヨリ之ヲ準備スルコト

(五) 家庭防空群長ハ群内ノ防火準備ヲ整備セシムルコト

二、防空實施發令時ノ處置

(一) 各戸防空責任者ハ防火準備ヲ點檢シ不足ノモノハ速ニ補足スルコト

(二) 揮發油、アルコール其ノ他ノ引火性危險物品ハ土中其ノ他安全ナル場所ニ收藏シ得ル準備ヲ爲シ置クコト

(三) 家庭防空群長ハ防護監視ニ從事スル者ノ順位、交代勤務方法等ヲ具體的ニ定ムルコト

(四) 家庭防空群長ハ空襲警報發令時ニ於ケル老幼病者ノ處置、空家ノ警戒等ニ付群内各戸防空責任者ト打合セ置クコト

三、警戒警報發令時ノ處置

(一) 引火性危險物品ハ所定ノ場所ニ收藏スルコト

(二) 防火用水ヲ成ルベク水槽、風呂桶其ノ他多數ノ大ナル貯水容器ニ滿水シ防火用器材ヲ所定ノ場所ニ配置スルコト

(三) 家屋内特ニ押入、戸棚等ヲ整頓シ屋根裏、床下等ニハ成ルベク可燃物ヲ置カザルコト

(四) 家庭防空群長ハ群内各戸ノ防火準備ヲ點檢シ器具ノ配置其ノ他不充分ノ點アルトキハ必要ノ注意ヲ與フルコト

四、空襲警報發令時ノ處置

(一) 防空從事者ハ豫メ定メラレタル任務分擔ニ從ヒ速ニ左ノ處置ヲ講ズルコト

(イ) 炭火、石油、電熱器其ノ他ノ火ノ仕末ヲ爲シ瓦斯ハ主要栓ヲ閉止スルコト

(ロ) 總テノ貯水容器ニ滿水シテ所定ノ場所ニ配置シ水道栓ハ開放シタル儘放置セザルコト

(ハ) 隣家ニ近接シタル雨戸、硝子戸等ハ全部閉塞スルコト但シ鍵又錠ハカケザルコト

(二) 防空從事者ハ前項ノ處置ヲ爲シタル後直ニ防護用服裝ニ改メ更ニ屋内其ノ他ヲ見廻ルコト

(三) 家庭防空群長ハ群内各戸ノ狀況ヲ巡視スルコト

(四) 防護監視者ハ防護監視所ニ於テ監視ニ從事スルコト

(五) 防空從事者ハ防護監視者ヨリ敵機發見若ハ爆音聽取ノ報知ヲ受ケタルトキ又ハ自ラ之ヲ發見シ若ハ爆音聽取シタルトキハ速ニ所定ノ場所ニ待避スルコト

五、消防作業

(一) 家庭防空群ノ任務ノ限界

(イ) 家庭防空群ハ原則トシテ他群ニ應援セザルコト但シ隣接家庭防空群ニ燒夷彈落下シ應援ヲ必要トスル場合又ハ他群内ニ火災發生シテ未ダ警防團若ハ官設消防機關ノ來着ナキ場合ニ於テ自群ノ警戒ノ要ナキトキハ之ニ應援スルコト

(ロ) 家庭防空群長ハ警防團又ハ官設消防機關來着シ消防作業ヲ開始シタルトキハ直ニ消防作業ヲ之ニ委ネ其ノ要求ニ依リ之ニ援助スルコト

(二) 燒夷彈ニ因ル火災發生ノ防禦

(イ) 燒夷彈ノ種類及爆發狀況ハ概ネ左ノ如クナルヲ以テ之ニ依リ其ノ種類ヲ識別スルコト

投下彈種類	爆發狀況
「エレクトロン」燒夷彈	發火ト同時ニ火沫ヲ飛散シ白輝光ヲ出シテ高温度ニテ燃燒ス
黄燐燒夷彈	大ナル爆音ト共ニ發火シ、多量ノ白煙ヲ出シ、火沫ヲ遠ク飛散セシメ多量ノ火點ヲ生ゼシム
油脂燒夷彈	發火ト同時ニ多量ノ黑煙ト赤色焰ヲ出シ、燃燒油脂ノ流動ニ依リ火點擴大シ或ハ燃燒物飛散シ多數ノ火點ヲ生ゼシム

(ロ) 燒夷彈ハ落下ト同時ニ發火シ忽チ火勢猛烈トナルモノナルヲ以テ之ヲ屋外ニ搬出スルコト困難ナルコトヲ認識スルコト但シ「エレクトロン」燒夷彈ノ火力衰ヘタルモノ或ハ黄燐燒夷彈、油脂燒夷彈ノ飛散セルモノノ如キハ之ヲ撤去シ得ルコトアルコト

(ハ) 燒夷彈ガ落下爆發シタルトキハ直ニ近隣ニ對シテ燒夷彈落下ヲ報知スルト同時ニ防火作業ニ從事スルコト

家庭防空群長ハ防空從事者ヲシテ直ニ最寄ノ警防團詰所又ハ消

防署ニ通報セシムルコト

(ニ) 焼夷弾ニ因ル火災ノ防禦ハ迅速ニ周圍ノ可燃物ニ多量ノ注水ヲ爲スト共ニ狀況ニ依リ濡莚類、砂、又ハ土等ヲ直接焼夷弾ニカケ其ノ上ニ注水シテ火焔ヲ抑制シ延焼防止ニ努ムルコト尙「エレクトロン」焼夷弾ノ飛沫ハ被服類ニハ點火スル虞レ少キヲ以テ成ルベク近ズキ敢然之ガ消火ニ努ムルコト

焼夷弾ノ火力衰ヘタルトキハ成ルベク速ニ之ヲ屋外ニ搬出スルコト

黄燐ハ空氣中ニ於テ自然發火スル性質ヲ有ルヲ以テ柱、襖等ニ附着シタルトキハ速ニ之ヲ除去シ又一旦消火シタル後ト雖モ之ヲ屋外ニ搬出シ安全ナル場所ニ於テ燃焼セシムルコト

(ホ) 黄燐ハ皮膚ヲ侵スヲ以テ決シテ素手、素足ニテ之ニ觸レザルコト

皮膚ニ附着セル場合ハ重曹水(五%)若ハ硫酸銅(飽和溶液)ニテ拭淨除去シ爾後上記藥液等ニテ處法シ一般火傷ノ手當ヲ行フコト

(ヘ) 焼夷弾ト共ニ爆弾、毒瓦斯ヲ併用セラルルコトアルヲ以テ防火ニ從事スル者ハ炸裂破片、爆風又ハ毒瓦斯ニ關スル防護ニ付テモ了知シ置クコト

(三) 其ノ他ノ原因ニ因ル火災發生ノ防禦

(イ) 焼夷弾以外ノ諸種ノ原因ニ因ツテ起ル火災ノ防禦ハ其ノ早期發見ニ努メ火點ニ直接注水スルト共ニ延焼防止ニ努ムルコト

(ロ) 油類、特殊藥品等ノ火災ニシテ注水危險ナルモノニ對シテハ泡沫消火器、四鹽化消化器等ノ適當ナル消火器ヲ用フルカ又ハ砂、蒲團等ヲ以テ覆ヒ消火スルコト

(四) 火災發生シタル場合ノ防禦

(イ) 火災發生シタル場合ハ直接燃焼箇所ニ注水シテ消火ニ努ムルコト

(ロ) 獨立家屋ニシテ隣接家屋ニ對シ直接延焼ノ危險少キ家屋燃エ上リ家庭防空群ニテ消火不可能トナリタル場合ハ專ラ飛火ノ警戒ニ從事スルコト

(ハ) 隣接家屋ニ延焼ノ虞アル場合ハ之ニ注水シテ延焼防止ニ努ムルコト

(ニ) 長屋ノ場合ハ未ダ燃焼セザル部分ニ對シテハ内外部ヨリ注水スルコト特ニ天井裏ヨリノ延焼ヲ防止スル如ク努ムルコト

(ホ) 火災發生シタル場合ハ風下ニ於ケル飛火ノ警戒ニ努ムルコト

(五) 消防作業ノ要領

(イ) 消防作業ニ從事スルニ際シテハ成ルベク豫メ被服ヲ水ニテ濡スコト

(ロ) 注水ニ當リテハ「バケツ」、輕便「ポンプ」、井戸「ポンプ」水道「ホース」等所有消防器具ヲ集中使用スルコト

(ハ) 「バケツ」ニ依ル注水ハ片手ニ「バケツ」ノ蓋ト緣トヲ合セ持チ他ノ手ヲ以テ底部ノ緣ヲ持チ「バケツ」容量ノ二分ノ一乃至十分ノ七ノ水ヲ入レ委勢ヲ低クシ調子ヲ付ケ羅メテ勢ヨク注水スルコト

(ニ) 「バケツ」手送式ヲ以テ送水ヲ行フ場合ハ水ヲ零サザル如ク注意シ送水者ノ間隔ハ大凡一米五〇(約五尺)トシ「バケツ」返送ニハ之ヨリ幾分間隔ヲ大ナラシムルコト

「バケツ」手送式ヲ以テ二階、屋根等ノ高所ニ送水スル場合ノ「バケツ」返送ニハ成ルベク綱ヲ利用スルコト

(ホ) 砂、土ハ成ルベク容量二立程度(約一升)ノ袋ニ入レ火點ヲ覆フ如クカケルコト

(ヘ) 火叩キ、水柄杓ハ主トシテ高所ノ飛火警戒ニ使用スルコト

(ト) 長棒ハ主トシテ天井、床等ノ破壞又ハ焼夷弾ノ移動ニ使用スルコト

(六) 防護監視ノ要領

(イ) 防護監視ハ空襲警報發令中一監視所ニ付一名宛勤務シ概ネ三十分毎ニ順次交代スルコト

(ロ) 防護監視者ハ敵機ヲ發見シ若ハ其ノ爆音ヲ聞キタルトキ又ハ敵機飛去シタルトキハ大聲ニテ群内ニ報知シ焼夷弾ノ落下ヲ發見シタルトキハ「バケツ」金盥等金屬性器具ヲ連打シツツ大聲ニテ群内ニ報知スルコト

六、其ノ他ノ防護活動

(一) 死傷者アリタル場合ハ防空從事者ハ直ニ警察署、消防署警防團又ハ救護所ニ通知スルコト

(二) 殘火ハ再ビ燃エ出スコト無キ樣完全ニ鎭滅セシメ鎭火後若干時間警戒スルコト

(三) 不發ノ投下弾ヲ發見シタルトキハ標識ヲ立テ人ノ觸レザル樣周圍ニ繩張ヲ行ヒ速ニ警察署、消防署又ハ警防團ニ通報スルコト

七、空襲警報解除後ノ處置

空襲警報解除後各戸防空責任者ハ被害狀況ヲ點檢シ各々應急處置ヲ講ジ再度ノ空襲ニ備フル爲必要ナル準備ヲ整ヘ置クコト

木造建物防空指導要領

第一 總則

一、市街地ニ於ケル一般木造建物ハ防空建築規則適用ノ有無ニ拘ラズ本指導要領ニ依リ防空施設ヲ爲スコト

二、木造建物ノ防空施設ハ防火、待避及燈火管制ヲ主眼トシ且平常時ノ利用ヲ考慮スルコト

三、防火

建物ハ各戸ノ外周乃可及的ニ其ノ内部ノ要所ヲモ防火的構造ト爲スト共ニ各種ノ自衛防火ノ施設ヲ爲スコト

四、待避

各戸ニ適當ナル待避ノ施設ヲ爲スカ又ハ平常ノ際應急的ニ之ヲ設ケ得ル如ク準備シ、特ニ防空重要都市ニ在リテハ成ルベク恒久的ナルモノヲ平素ヨリ施設スルコト

五、燈火管制

適當ナル燈火秘匿ノ設備ヲ爲スコト、少クトモ日常生活上特ニ必要ナル室ニハ隱蔽ノ設備ヲ爲スコト

第二 新築ノ場合

一、建物ノ配置

(一) 敷地内ニハ防空壕ノ設置等ヲ考慮シ充分ナル空地ヲ保有スルコト

(二) 敷地内ニ於ケル空地割合ハ敷地面積ニ對シ一般住宅ニ付テハ六割乃至七割程度、小店舗等ニ付テハ五割乃至六割程度ヲ標準トスルコト

(三) 建物ノ壁面ハ成ルベク隣地境界線ヨリ之ヲ後退セシムルコト特ニ開口多キ壁面ノ前面ニハ建物ノ軒高ニ等シキ幅員ノ空地(道

路ヲ含ム）ヲ存セシムルコト

二、防火構造

（一）建物ノ周圍及屋根

防空建築規則第四條及第五條ノ規定（註）竝ニ左ノ各號ニ依ルコト

（イ）外壁、軒、庇、軒蛇腹ノ類又ハ出格子、肘掛、戸袋其ノ他建物ノ突出部

(1) 「モルタル」塗ノ場合ニハ間隙、龜裂ヲ生ザルヤウ少クトモ二回塗以上ト爲シ、且隣家ニ接近セル鎧羽ノ如キ特ニ防火上重要ナル部分ハ塗厚三センチメートル程度ト爲スコト

「モルタル」塗ノ下地ニハ防水紙布ヲ用ヒ、柱ノ下部及土臺等ノ木部ニハ「クレオソート」又ハ「コールタール」ヲ塗布スル等適當ナル防腐方法ヲ施スコト

(2) 土塗眞壁造ト爲ス場合ニハ其ノ厚ヲ八センチメートル程度ト爲シ且裏返塗ヲ爲スコト

柱、梁等ト壁トノ接着部分ハ間隙ヲ生ズル虞ナキ構造ト爲スコト（第一圖參照）

土塗壁ハ堅固ナル小舞竹ヲ用ヒ堅牢ナル構造ト爲シ、上塗ハ油漆噴ヲ用フル等防水的ニ仕上グルコト

(3) 耐火木材ハ外壁、軒先等多量ノ雨雪ヲ受クル場所ニ使用スルコトヲ避ケ、已ムヲ得ズ之ヲ用フル場合ニハ必ズ防水塗裝ヲ施スコト

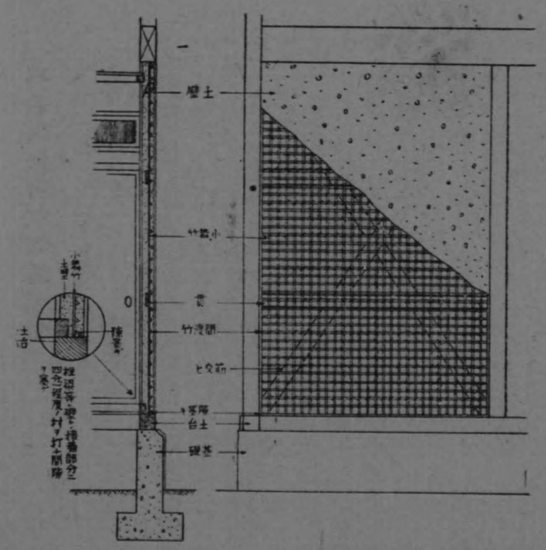
耐火木材ハ厚一センチメートル以上ノモノヲ使用スルコト

（ロ）窓、出入口等ノ開口

(1) 前面ニ適當ナル空地又ハ防火上有效ナル墻塀等在ル場合ノ外隣地疆界線ヨリ一メートル未滿ノ位置ニハ隣家ニ面スル開口ヲ設ケザルコト（前面ニ適當ナル空地又ハ防火上有效ナル墻壁ノ在ル場合等ヲ除ク）

(2) 緣側ノ如キ大ナル開口ハ隣地疆界線ヨリ二メートル未滿ノ位置ニ設ケザルコト

(3) 戸ニ用フル耐火木材ハ厚一センチメートル以上ノモノナルコト



第一圖　土塗眞塗ノ一例

尙亞鉛鐵板ヲ以テ被覆スル場合ニハ防錆ノ爲防水紙ノ類ヲ張リ耐火木材ト絶緣スルコト

(4) 綱入「ガラス」戸ニ付テハ框、組子ノ構造及「ガラス」板ノ取付ハ特ニ堅固ナルモノト爲スコト

(5) 雨雪ヲ受クル箇所ニ用フル耐火木材ノ建具ニハ防水塗裝ヲ施スコト

（ハ）屋　根

(1) 主要ナル屋根ハ成ルベク金屬板葺ト爲サザルコト

(2) 瓦葺ノ場合ニハ土居塗ヲ爲シ、且成ルベク漆噴卷ヲ施スコト

(3) 火ノ粉ノ溜トナル虞アル内樋、谷樋等ノ凹所ハ成ルベク之ヲ設ケザルコト、已ムヲ得ズ之ヲ設クル場合ニハ下地ニ耐火木材ノ板ヲ用フルコト

（ニ）物干、廣告物、看板ノ類

木造ノ物干、廣告物、看板ノ類ハ成ルベク屋上ニ設ケザルコト已ムヲ得ズ屋上ニ設クル場合又ハ建物ニ接續シテ設クル場合ハ建物ト防火的ニ絶緣スルカ又ハ之ニ近接セル建物ノ部分ヲ防火的構造ト爲スコト

尙防空建築規則第四條ノ規定ニ依リ防火構造ト爲スヲ要セザル場合ニ於テモ左ノ點ニ留意スルコト

（イ）一般ニ外壁ハ成ルベク木板張ト爲サザルコト

（ロ）輻員大ナル道路ニ面ニル部分モ成ルベク防火構造ト爲スコト

（ハ）前項ニ掲ゲタル（ハ）、（ニ）ノ各號ハ成ルベク之ヲ爲スコト

註　防空建築規則第四條及第五條

第四條　木造（鐵骨木造ヲ含ム以下之ニ同ジ）建物ニシテ隣地疆界線又ハ輻員四メートル未滿ノ道路ノ中心線ヨリノ水平距離三メートル未滿ノ位置ニ在ル部分ニ付テハ左ノ構造ト爲スベシ

一　外壁、軒、庇、軒蛇腹ノ類又ハ出格子、肘掛、戸袋其ノ他建物ノ突出部ハ準耐火構造ト爲シ又ハ左ニ掲グルモノヲ以テ構成若ハ被覆スルコト

水平距離二米未滿ノトキ	水平距離二米以上ノトキ			
イ	鐵網「モルタル」ニシテ厚二糎以上ノモノ	「鐵網モルタル」	石綿盤又ハ金屬板ニシテ木部ト適當ニ隔離セルモノ（水平距離〇・五米未滿ノトキヲ除ク）	其ノ他地方長官前各號ニ準ズト認ムルモノ
ロ	塗土漆噴等ニシテ厚二糎以上ノモノ	塗土、漆噴等	耐火木材	同上
ハ	耐火木材ニシテ厚一糎以上ノモノ（水平距離〇・五米未滿ノトキヲ除ク）	耐火木材	石綿盤又ハ金屬板	

二　窓又ハ出入口ニハ防火戸又ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル戸ヲ設ケ其ノ周圍部ハ前號ニ規定スル構造ト爲スコト

イ　耐火木材ハ金屬板、石綿盤又ハ綱入「ガラス」ノ類ヲ以テ構成シタルモノ

ロ　其ノ他地方長官前號ニ準ズト認ムルモノ

三　金屬板ヲ以テ被覆シタル屋根ノ野地ハ適當ナル厚ノ不燃材料又ハ耐火木材ヲ以テ之ヲ構成スルコト

地盤面ヨリノ高四メートルヲ超ユル木造建物ノ部分ニシテ隣地境界線又ハ幅員六メートル未滿ノ道路ノ中心線ヨリノ水平距離五メートル未滿ノ位置ニ在ルモノニ付テハ前項ノ規定ヲ適用ス

同一敷地内ニ於テ隣接スル木造建物ニ在リテハ互ニ相面スル外壁間ノ中心線ヲ以テ隣地境界線ト看做シ前二項ノ規定ヲ適用ス但シ建築面積ノ合計六百平方メール以下ノ建物ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

第五條　左ノ各號ノ一ニ該當スルモノニ付テハ地方長官前條ノ制限ヲ輕減又ハ免除スルコトヲ得

一　建物ノ屋階及地階ヲ除キタル部分ノ床面積ノ敷地面積ニ對スル割合ノ限度十分ノ五以下ノ空地々區内ニ在ル建物

二　床面積四平方メートル以下ノ平家建ノ建物

三　公園、廣場、河、海ノ類ニ面スル建物ノ部分

四　擁壁、防火壁又ハ防火上有效ナル塔塀ノ類ニ面スル建物ノ部分

五　防火上有效ナル袖壁ノ類ヲ設ケタル場合ニ於ケル其ノ後方ノ建物ノ部分

六　適當ニ「ドレンチャー」ヲ設備スル建物ノ部分

七　前條第一項第一號ニ規定スル構造ヲ有スルモノニ依リ絶縁セラルル建物ノ突出部

八　柱、桁其ノ他大材ヲ使用スル建物ノ部分

九　其ノ他地方長官防火上支障ナシト認ムル建物又ハ建物ノ部分

(二)　建物ノ内部

(イ)　屋内ニハ成ルベク多クノ土壁ノ類ヲ設クルコト

(ロ)　天井ハ不燃材料又ハ耐火木材ヲ以テ構成又ハ被覆スルコト

(ハ)　襖、障子等ノ建具類ヲ成ルベク耐火藥液ニテ處理シ置クコト

(ニ)　押入等ノ天井及周壁ハ成ルベク不燃材料等ヲ以テ被覆スルコト

(ホ)　屋根裏ニハ物置ノ類ヲ設ケザルコト

(三)　長　屋

防空建築規則第六條ノ規定（註）ニ依ルコト

（註）防空建築規則第六條

第六條　木造ノ長屋ニアリテハ地盤ヨリ屋根ニ達スル迄土壁又ハ金屬板ノ類ヲ以テ各戸ヲ區劃スベシ

木造ノ長屋ニシテ其ノ建築面積百五十平方メートルヲ超ユルモノハ百五十平方メートル以内毎ニ準防火壁ヲ設クベシ

三、防火施設

(一)　成ルベク各戸ニ井戸ヲ設ケ且之ニ防火用水トシテ使用スルニ便ナル設備ヲ爲スコト

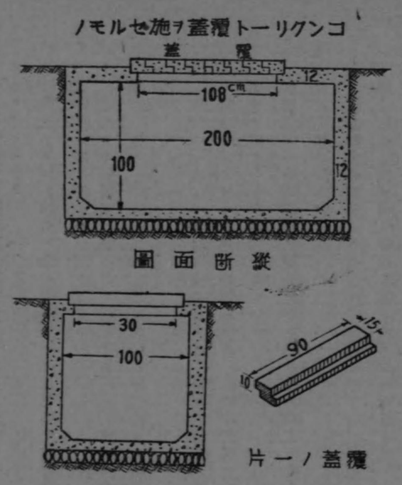
(二)　防火上便利ナル位置ニ防火用水桶ヲ設クルコト

二階建以上ノモノニ在リテハ第二階以上ノ各階ニ貯水桶ノ類ヲ設備スルコト

(三)　屋上ニ昇リ得ル設備ヲ爲スコト

(四)　隣保班内各戸ノ境界ニ通路又ハ非常口ヲ設クル等防火上相互協力ニ便ナル方法ヲ講ズルコト

第二圖（一）



(五)　引火性又ハ發火性物品類ヲ取扱フ店舗等ニ在リテハ其ノ藏置場所ヲ耐火構造ト爲スコト

(六)　非常時ニ於ケル重要物品ノ防火庫ニ充ツル爲簡易ナル地窖ノ類ヲ設ケ之ニ防火上有效ナル覆蓋ヲ備フルコト（第二圖參照）

(七)　隣地境界ニハ椎、樫、「サンゴ」樹等ノ防火效力アル常綠灌藥樹ヲ植栽スルコト

四、待避施設

(一)　成ルベク防空建築規則第十四條又ハ第十五條（註）ニ定ムル防護室若ハ準防護室ヲ設クルコト防護室又ハ準防護室ハ前項ノ規則ニ定ムルモノノ外左ノ標準ニ依ルコト

(イ)　床面積ハ居住者一人當リ、一平方メートルヲ標準ト爲スコト

(ロ)　準防護室ノ天井ハ左ノ各號ノ一ノ構造ト爲スコト

(1)　厚十二センチメートル以上ノ鐵筋「コンクリート」造

(2)　右ト同等以上ノ耐彈效力アルモノ

(ハ)　準防護室ノ周壁ハ左ノ各號ノ一ノ構造ト爲スコト

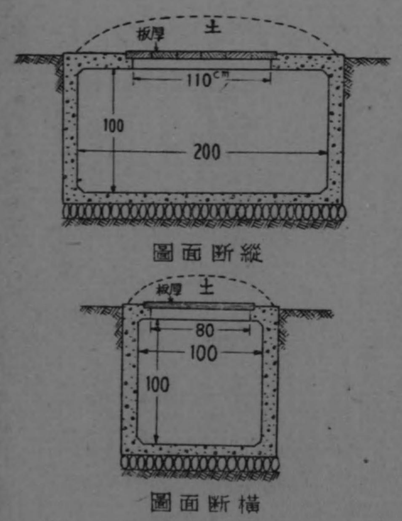
(1)　厚十五センチメートル以上ノ鐵筋「コンクリート」造

(2)　厚二十センチメートル以上ノ「コンクリート」造

(3)　厚一枚半以上ノ煉瓦造

(4)　右ト同等以上ノ耐彈效力アルモノ

第二圖（二）



(ニ) 出入口ハ成ルベク屋外ニ面セシメザルコト、屋外ニ面スルモノハ其ノ前面ニ土嚢、角材等ヲ以テ堅牢ナル防護塀ヲ設ケ又ハ臨時ニ設ケ得ル設備ヲ爲スコト

防護塀ハ成ルベク出入口ニ接近セシメ其ノ高ハ出入口ノ高程度トシ、幅ハ出入口ノ兩端ヨリ出入口ト防護塀トノ間隔ダケ廣カラシムルコト

(ホ) 出入口ニシテ防護上支障ナキ位置ニ在ルモノニハ防護扉又ハ防毒扉ヲ設クルコト

防毒扉ハ鐵製又ハ厚板戸ニ薄鐵板或ハ不滲透性ノ紙布ヲ張付ケタル氣密扉ニシテ出入口枠トノ接着部分ニハ羅紗、「フエルト」ノ類ヲ用フルコト

(ヘ) 防護ヲ要スル開口ハ左ノ各號ノ一ニ示ス如キ防破片ノ設備ヲ爲シ又ハ之ヲ爲シ得ル如ク設備スルコト

(1) 兩面ヨリ鐵扉又ハ厚板戸ヲ取付ケ其ノ間ニ砂嚢、土嚢ヲ充塡シ一體トシテ爆風ニ耐エ得ルヤウ取付クルコト（第三圖參照）

(2) 兩面ニ丸太又ハ角材ヲ積ミ重ネ之ヲ堅固ニ緊結スルコト

(3) 開口外面ヲ板ニテ塞ギ外側ニ土嚢、土砂ヲ充塡セル箱等ヲ崩壞ノ虞ナキヤウ積ミ上グルコト

(二) 防護室又ハ準防護室ヲ設ケ得ザル場合ニハ適當ナル大サノ地下室又ハ地窖ノ類ヲ設クルコト

註 防空建築規則第十四條及第十五條

第十四條 防護室ノ構造設備ハ左ノ規定ニ依ルベシ

一 收容室ト前室トニ區劃シ又ハ臨時區劃ノ設備ヲ爲シ得ルモノト爲スコト但シ地方長官防護室ノ位置其ノ他ノ狀況ニ依リ支障ナシト認ムルトキハ此ノ限ニ在ラズ

二 收容室ノ床面積ハ百平方メートルヲ超エザルコト但シ地方長官建物ノ用途其ノ他ノ狀況ニ依リ已ムヲ得ズト認メ又ハ支障ナシト認ムルトキハ此ノ限ニ在ラズ

三 上部ノ床又ハ屋根ハ耐彈構造ト爲スコト但シ防護室ノ上部ニ二以上ノ版アル場合ニ於テ地方長官支障ナシト認ムルトキハ耐彈構造ノ條件ヲ輕減スルコトヲ得

四 周壁ハ鐵筋「コンクリート」造ト爲スコト但シ建物ノ

第三圖 板戸ト砂嚢ニ依ル窓ノ防護

外壁ニ接シ且第一階以下ノ階ニ防護室ヲ設クル場合ニハ其ノ部分ノ周壁ハ特ニ堅固ナル構造ト爲スベシ

五 防護ニ際シ使用スル出入口ニハ防護扉ヲ設クルコト

六 外壁ニ設クル開口ハ其ノ面積ヲ三平方メートル以下ト爲シ且第二階以上ノ階ニ在ルモノニ付テハ防護扉ノ類ヲ設ケ又ハ之ニ代ル臨時設備ヲ爲シ得ルモノト爲シ其ノ他ノ階ニ在ルモノニ付テハ耐彈設備ヲ爲シ又ハ之ニ代ル臨時設備ヲ爲シ得ルモノト爲スコト

七 外壁ニ非ザル周壁ノ開口ニシテ面積四平方メートルヲ超ユルモノニハ防護扉ノ類ヲ設クルコト

八 出入口一ナル場合ニ於テハ適當ナル位置ニ非常脫出口ヲ設クルコト

九 防毒上有效ナル構造ト爲スコト

第十五條 準防護室ノ構造設備ハ左ノ規定ニ依ルベシ

一 收容室ノ床面積ハ五十平方メートルヲ超エザルコト但シ地方長官建物ノ用途其ノ他ノ狀況ニ依リ已ムヲ得ズト認メ又ハ支障ナシト認ムルトキハ此ノ限ニ在ラズ

二 上部ノ床又ハ屋根及周壁ハ鐵筋「コンクリート」造又ハ之ト同等以上ノ耐彈效力アルモノト爲スコト

三 防護ニ際シ使用スル出入口ニハ防護上支障ナキ位置ニ在ルモノヲ除クノ外防護扉ヲ設クルコト

四 外壁ニ設クル開口ハ其ノ面積ヲ三平方メートル以下ト爲シ且防護扉ノ類ヲ設ケ又ハ之ニ代ル臨時設備ヲ爲シ得ルモノト爲スコト

五 外壁ニ非ザル周壁ノ開口ニシテ面積四平方メートルヲ超ユルモノニハ防護扉ノ類ヲ設クルコト

六 出入口一ナル場合ニ於テハ適當ナル位置ニ非常脫出口ヲ設クルコト

七 防毒上有效ナル構造ト爲スコト

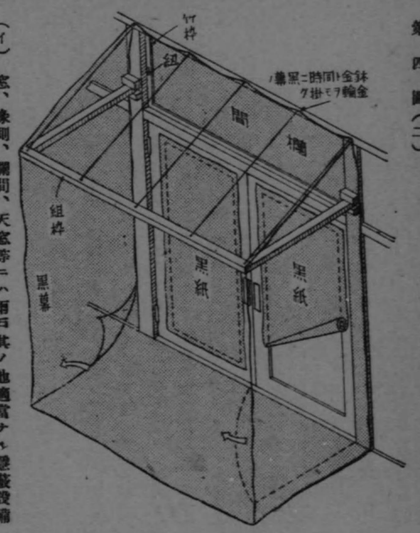
五、燈火管制施設

(一) 迅速ニ適切ナル燈火管制ヲ爲シ得ルヤウ電燈ノ配線等ヲ考慮シ、特ニ店舗ニ在リテハ長期ニ亘リ確實ナル燈火管制ヲ爲シ得ルヤウ減光、遮光又ハ隱蔽ノ設備ヲ爲スコト

(二) 開口ノ隱蔽設備ハ左ニ揭グル要項ニ依ルコト（第四圖參照）

第四圖（一） 住宅ニ於ケル出入口ノ隱蔽施設

第四圖(二)



(イ) 窓、縁側、欄間、天窓等ニハ雨戸其ノ他適當ナル隠蔽設備ヲ爲スコト

(ロ) 出入口ニハ出入ニ際シ光ノ漏光セザルヤウ隠蔽シ得ル設備ヲ爲スコト

(ハ) 隠蔽ヲ爲シタル室ニシテ多人數在室スルカ又ハ換氣不良ナルモノニ在リテハ適當ナル換氣設備ヲ爲スコト

第三　既存建物ノ場合

一、既存ノ建物ニ付テハ成ルベク第二「新築ノ場合」ニ準據スルコトトシ、少クトモ左ノ各號ノ事項ハ努メテ整備スルコト

二、防　火　改　修

隣家ニ近接セル建物ノ外周部ハ左ニ依リ防火的ニ改修スルカ又ハ不燃材料ヲ用ヒタル墻塀、袖壁ノ類ヲ設ケ火焔ノ傳播ヲ遮斷スル方法ヲ講ズルコト

(一) 外壁、軒、庇、軒蛇腹ノ類

防空建築規則第四條及第五條ノ規定(前掲參照)並ニ左ノ各號ニ依ルコト

(イ) 土塗眞壁ニシテ壁厚薄キモノ、火焔侵入ノ虞アル龜裂、間隙等アルモノハ適當ニ塗增、裏返塗等ノ補修ヲ爲スコト

隣接建物ト密接セル場合ハ其ノ部分ヲ建物ノ内部ヨリ補修スルコト

(ロ) 木造ノ庇ニ在リテハ本屋トノ取付部分ノ周圍ヲ「モルタル」等ノ不燃材料ヲ以テ入念ニ補修スルコト

雨雪ヲ受クルコト少キ部分ニ在ルモノハ成ルベク除去スルコト

(二) 窓、出入口、其ノ他ノ開口

防空建築規則第四條及第五條ノ規定(前掲參照)並ニ左ニ依ルコト

隣接建物ニ極メテ近接セル部分ニ在ルモノハ採光及通風上支障ナキ限リ防火的ニ閉塞スルコト

(三) 長　屋

建築面積百五十平方メートルヲ超ユルモノハ概ネ百五十平方メートル以内毎ニ地盤ヨリ屋根ニ達スル迄土塗壁又ハ金屬板ノ類ヲ以テ區劃スルコト

三、防　火　施　設

(一) 成ルベク既存ノ井戸ハ之ヲ保存シ、井戸ナキ場合ハ成ルベク之ヲ新設スルコト

(二) 非常時ニ於ケル重要物品ノ防火庫ニ充ツル爲簡易ナル地雷ノ類ヲ設ケ之ニ防火上有效ナル覆蓋ヲ備フルコト

(三) 隣地境界ニハ成ルベク椎、柾、「サンゴ」樹等防火效力アル常綠濶葉樹ヲ植栽スルコト

四、待　避　施　設

防護室、準防護室ノ設備ナク且防空壕ヲ設クルニ要スル適當ナル空地ナキ場合ハ已ムヲ得ザル處置トシテ實情ニ應ジ左ニ示ス如キ適當ナル處置ヲ考慮シ必要ナル材料及工具ヲ用意シ置クコト

(イ) 「防空壕構築指導要領」ニ準ジ土嚢等ノ材料ヲ衝擊震動ニ依リ崩壞セザルヤウ室ノ周圍ニ適當ニ積ミ上グルコト

(ロ) 疊ヲ上ゲ床下ニ「防空壕構築指導要領」ニ準ジタル待避場所ヲ設クルコト

五、燈火管制施設

第二「新築ノ場合」ニ準ズルコト

附　圖

住宅、商店ニ於ケル防護室ノ例

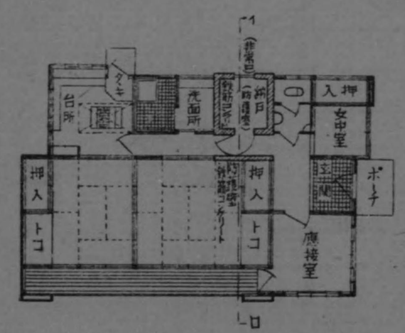
防火改修ノ一例

待避場所ノ例

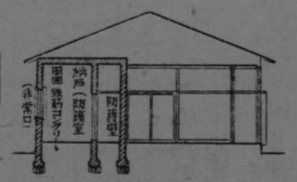
住宅ニ於ケル防護室ノ一例

納戸ヲ防護室ニ充ツル例ニシテ出入口前面ニ防護壁ヲ設ケ窓ヲ非常脱出口トシテ利用ス

壁天井ヲ鐵筋コンクリート造又ハ之ト同程度ノ防彈效力アル構造トナシ窓ニ防破片ノタメ厚板戸等ヲ設備ス



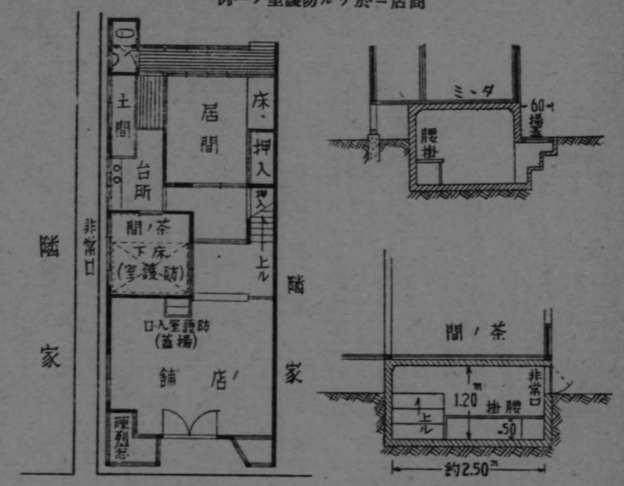
平面圖



イーロ斷面圖

例一ノ室護防ルケ於ニ店商

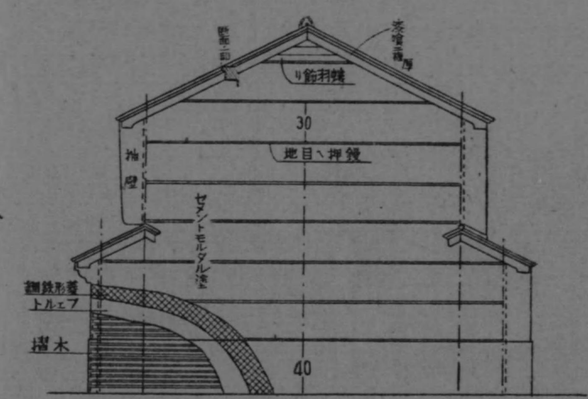
平時ハ物置其ノ他ニ利用シ戰時防護室トシテ利用ス
疊、床等ヲ取除キ周圍ノ基礎ヨリ適當ニ離シ約九十糎程度堀下ゲ
出入口ニ通ズル階段ヲ設ク
堀終レバ厚十糎以上ノ「コンクリート」ヲ打ツ、要スレバ適當ニ
鐵筋ヲ入レル
出入口ニハ揚蓋ヲ用ヒ平時ノ利用ニ便ナラシム
內部ニハ腰掛ヲ設ケ非常口ノ踏臺ニモ利用ス



商店一階平面圖

防護室斷面圖

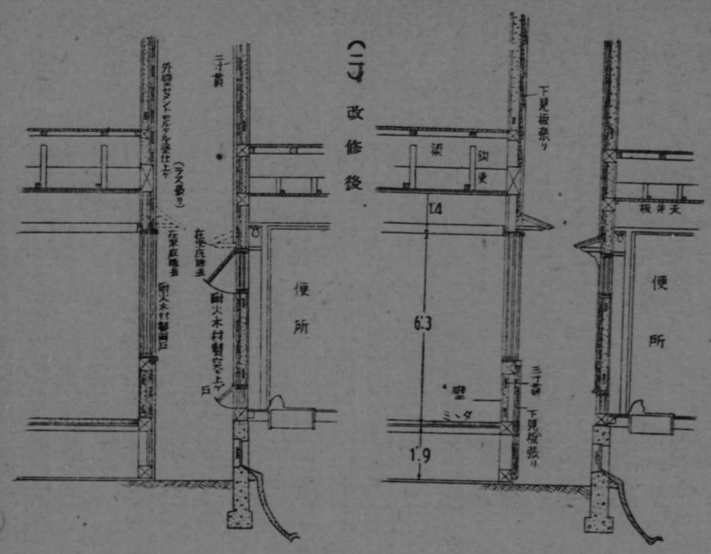
例一ノ修改火防ノ壁妻



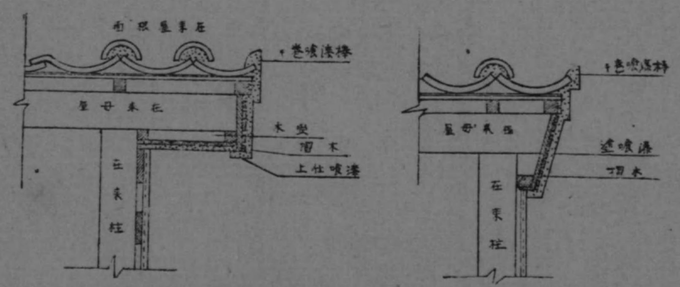
(二) 改修後

(一) 改修前

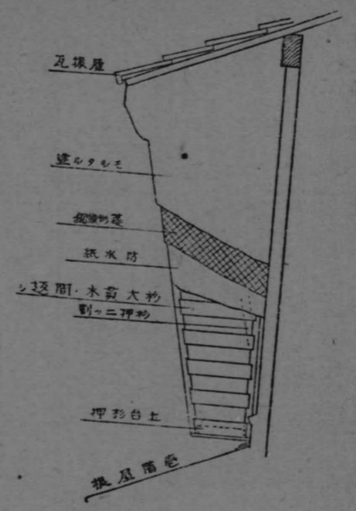
閉口便所等ノアル外壁ノ防火改修



例ノ修改火防羽蟻

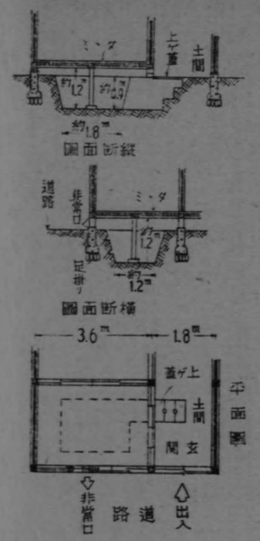


貳階袖壁ノ一例

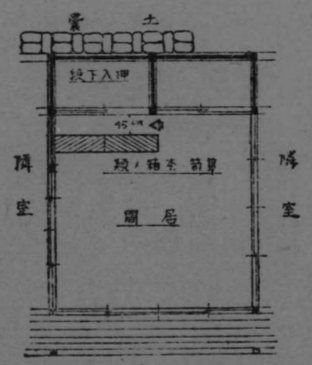


床下利用ノ防空壕

周壁ヲコンクリート打トスルモ可ナリ堀取リタル土ハ空箱等ニ詰メ外壁外側ノ防護等ニ利用ス



室内待避場所ノ一例



押入下段ヲ待避場所ニ充ツルル例ニシテ外側ニハ土嚢ノ類ヲ積ミ上ゲ模前ニハ簡單ニ本箱等ヲ並ベ破片防止ニ利用ス

防空壕構築指導要領

第一 總則

一、防空壕ハ投下彈ノ破裂ニ基ク彈片、破片、爆風等ニ因ル危害更ニ出來得レバ毒瓦斯ニ因ル危害ヲ防止スルコトニ留意シテ構築スルコト

二、防空壕ハ應急的待避施設ナルモ防護活動ニ便ナル如ク其ノ位置、規模、構造等ヲ決定スルコト

三、防空壕ハ成ルベク各戸ニ其ノ敷地内空地ニ設クルヲ原則トスルコト、但シ敷地ノ狀況ニ依リテハ近隣共同シテ設クルモ妨ゲナキコト

敷地内空地ニ防空壕ヲ構築シ得ザルトキハ管理者ノ承認ヲ受ケ公共用地其ノ他ニ之ヲ設クルヲ得ルコト

四、防空壕ハ成ルベク小規模ノモノヲ分散シテ設クルコト、大規模ノモノニ在リテモ二十人程度ヲ限度トスルコト

五、本書ニ於テ小型防空壕ト稱スルハ一般家庭ノ用ニ供スベキ收容人員五人程度ノモノヲ、大型防空壕ト稱スルハ作業場集合住宅等ノ用ニ供スベキ收容人員二十人程度ノモノヲ謂フ

第二 位置

一、防火、其ノ他ノ積極的防護活動ニ便ナルト共ニ家屋ノ崩壞、火災等ノ場合速ニ安全地帶ニ脱出シ得ル位置ニ設クルコト

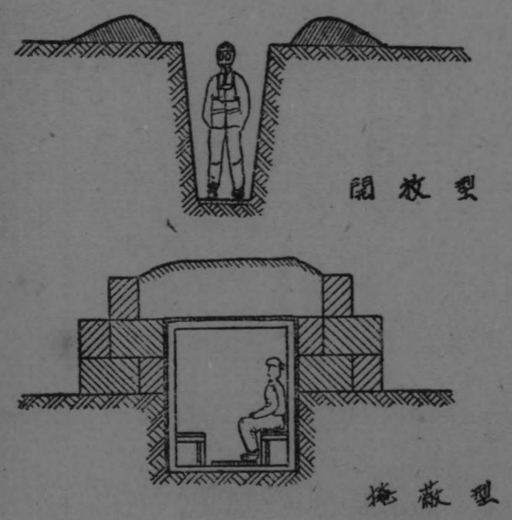
二、成ルベク分散シテ配置シ各防空壕間ノ間隔ハ大型防空壕ニ在リテハ一〇米(五間五分)以上、小型防空壕ニ在リテハ五米(二間八分)以上トスコト

三、危險物貯藏庫、瓦斯「タンク」、石油「タンク」等ノ附近ヲ避クルコト

四、石造、煉瓦造等崩壞ノ虞アル建物、塀其ノ他ノ工作物ノ附近ヲ避クルコト、已ムヲ得ズ之等ニ近接シテ構築スル場合ニ在リテハ崩壞ニ因ル危害ノ防止ニ留意スルコト

第三 型式及規模

一、防空壕ハ成ルベク掩蔽型ト爲シ已ムヲ得ザル場合ニハ開放型ト爲スヲ妨ゲザルコト



二、防空壕ハ地下式ヲ原則トスルコト、湧水其ノ他特別ノ事情アル場合ニ於テモ成ルベク半地下式ト爲シ已ムヲ得ザル場合ニ限リ地上式ト爲スコト

三、大型防空壕ハ成ルベク兩側席ト爲スコト

四、收容室ノ內法寸法ハ左ノ標準ニ依ルコト

種類		幅	高	長
防空壕 小型	片側席	七〇糎（約二尺三寸）	一四〇糎（約四尺六寸）	腰掛長一人當四五糎（約一尺五寸）ヲ標準トシテ決定スルコト
	兩側席	一〇〇糎（約三尺三寸）		
防空壕 大型	片側席	八〇糎（約二尺六寸）	一五〇糎（約五尺）	
	兩側席	一二〇糎（約四尺）		

防空壕ヲ防毒的構造ト爲ス場合ハ收容室ノ空氣容積ヲ一人當〇・六五立方米（約二三立方尺）以上ト爲スヲ要スルヲ以テ概ネ左ノ標準ニ依ルコト

種類	幅	高	長
片側席	八〇糎（約二尺六寸）	一五〇糎（約五尺）	腰掛長一人當五〇糎（約一尺七寸）ヲ標準トシテ決定スルコト

兩側席	一四〇糎（約四尺六寸）	同ヲ標準トシテ決定スルコト
	一六〇糎（約五尺三寸）	五五糎（約一尺八寸）

注意 一、腰掛張ハ一人當リ四十五糎ヲ標準トスル但シ兩側席防空壕ヲ防毒的構造ト爲ス場合ハ五十糎トナスヲ要ス

二、幅ハ腰掛面附近ヲ以テ測ル

五、腰掛ハ奥行三〇糎（約一尺）高三六糎（約一尺二寸）ヲ標準ト爲スコト

六、出入口ノ幅ハ六〇糎（約二尺）ヲ標準ト爲スコト

七、防空壕ノ敷地面積ハ概ネ一人當一・五平方米（約〇・四五坪）ヲ標準トシテ決定スルコト

例

收容人員	敷地面積
五人	七・五平方米（約二・三坪）
二〇人	三〇平方米（約九坪）

第四 構造

一、地下式防空壕ノ構造ハ左ニ依ルコト

（イ）壁體

地質軟弱ナル場合ニハ土留壁ヲ設クルコト、土留壁ノ杭ニハ丸太又ハ角材ヲ用ヒ土留板ニハ板、波型鐵板（坐子板）等ヲ用フルコト

（ロ）掩蓋

（一）掩蓋ハ梁及板ニテ天井ヲ設ケ其ノ上部ニ厚五〇糎（約一尺七寸）程度ノ土砂ヲ盛リ又ハ厚三〇糎（約一尺）程度ノ土嚢ヲ積ムコト、但シ土嚢、土砂ノ厚ヲ不必要ニ增加セザルコト

（二）天井板ニハ成ルベク勾配ヲ附シ防水紙布ノ類ヲ敷キ雨水ノ滲入ヲ防グコト

（三）土留板及天井板ノ厚及杭、梁ノ太サ間隔ハ左ノ標準ニ依ルコト

板ノ厚（正味）	杭、梁ノ間隔	杭、梁用丸太ノ直徑（正味）	角材ノ邊長（正味）
一・二糎（約四分）	三六糎（約一尺二寸）	七・五糎（約二寸五分）	

一・八糎（約六分）	五四糎（約一尺八寸）
二・四糎（約八分）	七二糎（約二尺四寸）
	九糎（約三寸）

（ハ）床面

床面ニハ排水溝及溜桝ヲ設ケ必要ニ應ジ板、砂利、藁等ヲ敷クコト

（ニ）出入口

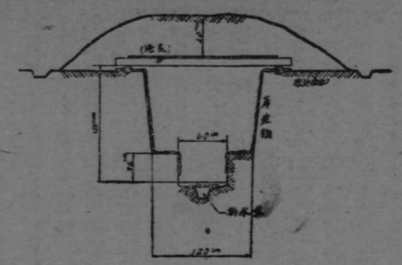
（一）出入口ハ成ルベク二箇所ニ之ヲ設クルコト、出入口一箇所ナル場合ハ之ト距リタル位置ニ非常口ヲ設ケルコト

（二）收容室ニ彈片、破片、爆風等ノ直接侵入セザル如ク出入通路ヲ屈折シテ設クルカ又ハ防護塀ヲ設クルコト

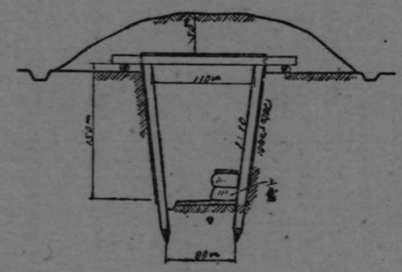
（三）出入通路ハ斜路又ハ階段ト爲シ雨水ノ流入セザル如ク降口ヲ昇上シ又ハ溝ヲ設クルコト

（ホ）非常口

非常口、梯子、足掛リ等ヲ設ケ脫出ニ便ナル構造ト爲スコト



地下式（大型兩側席）
素堀、地質良好ナル處



地下式（大型片側席）

二、地上式防空壕ノ構造ハ左ニ依ルコト

（イ）壁　體

壁體ハ其ノ内側ニ板壁、支柱等ヲ設ケ衝撃、震動ニ依リ崩壊セザル如ク左ノ何レカニ依リ堅固ニ構築スルコト

（一）外側ニ土砂ヲ盛上ゲタルモノ

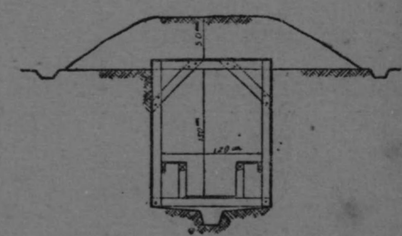
厚　一〇〇糎（約三尺三寸）以上

（二）外側ニ土砂ヲ充塡セル箱又ハ土嚢ヲ組積トスルモノ

厚　七〇糎（約二尺三寸）以上

（三）二重壁ノ間ニ土砂ヲ充塡セルモノ

厚　七〇糎（約二尺三寸）以上



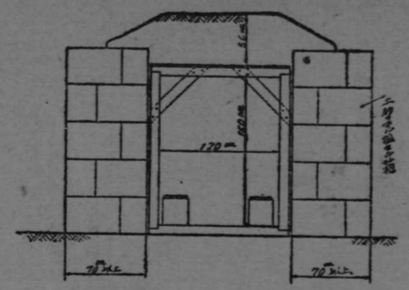
地下式Ⅰ（大型兩側席）

（四）二重壁ノ間ニ煉瓦、石等ヲ充塡セルモノ

厚　五〇糎（約一尺七寸）以上

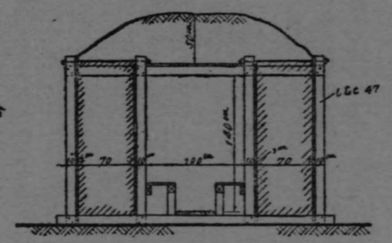
（ロ）捲蓋其ノ他

地下式防空壕ノ場合ニ準ズルコト



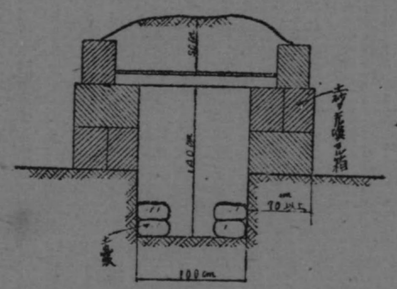
地上式（大型兩側席）

土砂ヲ充塡セル場合
70cm 以上
煉瓦、石等ヲ充塡セル場合
50cm 以上

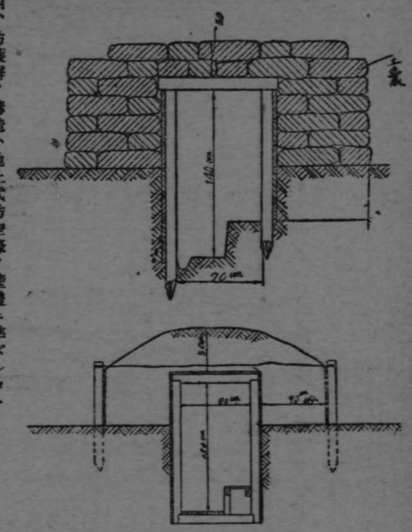


地上式（小型兩側席）

三、半地下式防空壕ノ構造ハ地下式及地上防空壕ニ準ズルコト



半地下式（小型兩側席）



半地下式（小型片側席）　半地下式（大型片側席）

四、防護塀ノ構造ハ地上式防空壕ノ壁體ニ準ズルコト

第五　防毒的構造

一、出入口、非常口ニハ氣密扉ヲ取付ケ且成ルベク其ノ後方一米（三尺三寸）以上ノ處ニ更ニ氣密扉又ハ防毒幕ノ類ヲ設クルコト

氣密扉ハ爆風ノ直接當ラザル如ク出入通路ヲ屈折シテ設クルカ又ハ防護塀ヲ設クルコト

（イ）氣密扉

氣密扉ハ板戸ニ薄鐵板（トタン板）又ハ不滲透性紙布ノ類ヲ張附ケタルモノトシ其ノ取附ハ枠木ニ切込ヲ設ケ摺合セニハ羅紗「フエルト」ノ類ヲ用フルコト

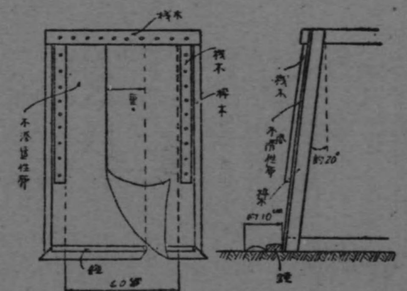
（ロ）防毒幕

（一）排開式

排開式防毒幕ハ不滲透性ノ布ヲ左右二枚用ヒ中央二〇糎（約七寸）以上重ネ合セタルモノトシ其ノ取附ハ出入シ得ル程度ニ於テ桟木ヲ以テ枠木ニ充分打附クルコト

枠木ハ備ニ傾斜セシムルヲ可トスルコト

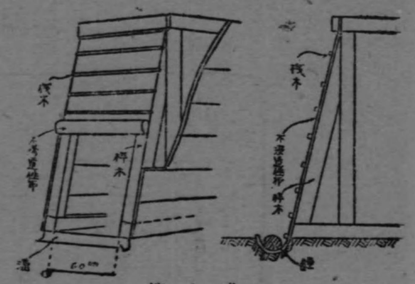
幕ノ裾ニハ砂等ノ錘ヲ附シ床ト密着スルヤウ工夫スルコト



排開式

（二）捲上式

捲上式防毒幕ハ不滲透性ノ布ノ表ニ桟木ノ横骨ヲ附シタルモノトシ傾斜セル枠木ニ沿ヒ捲キ上ゲ得ルヤウ取附クルコト（圖參照）



捲上式

二、天井、板壁ノ隙間ハ不滲透性ノ紙布ノ類ヲ用ヒテ目貼リスルカ又ハ「パテ」、粘土等ヲ用ヒテ充塡シ氣密ニスルコト

三、不滲透性ノ紙布ニハ「ゴム」引布、防水布、毛布、厚織布、「セロファン」紙、「パラフイン」紙、「ハトロン」紙等ヲ用ヒ毛布、厚織布等ハ使用ニ際シ水又ハ油ヲ以テ濕スコト

四、換氣及彩光ノ爲ノ開口又ハ監視孔等ヲ設クル場合ハ臨時之ヲ閉塞シ得ル構造ト爲スコト

第六　施工

一、防空壕ノ構造ニ當リテハ概ネ左ノ順序方法ニテ施行スルコト

（イ）収容人員、形式、位置及大サヲ決定スルコト

（ロ）掘鑿ヲ行ヒ其ノ土砂ヲ施工ノ支障トナラザル位置迄運搬シ置クコト

（ハ）杭ヲ打込ミ支柱ヲ組立ツル等骨組拵ヲ爲スコト

（ニ）板ヲ張リ土ヲ盛リ又ハ土ヲ充塡スル等周壁及掩蓋ヲ設クルコト

（ホ）腰掛等ノ設備ヲ爲スコト

（ヘ）盛土又ハ充塡土ハ二〇糎（約七寸）ノ各層毎ニ充分搗キ固メテ盛上グルコト

二、防空壕ノ構築ニ要スル材料及器具ハ成ルベク平素ヨリ之ヲ準備シ置クコト

附錄　設計例

（一）小型地下式防空壕（兩側席）

（二）小型地下式防空壕（片側席）

（三）大型地上式防空壕（兩側席）

（四）大型地下式防空壕（片側席）

（五）大型半地下式防空壕（兩側席）

（六）防毒的大型地下式防空壕（兩側席）

（七）防空壕構築用材料及器具調査表

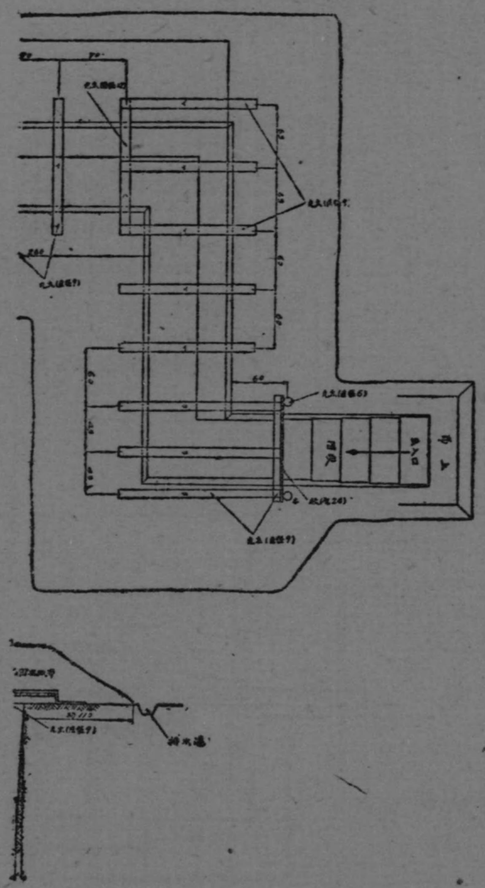
（一）小型地下式防空壕（兩側席）

（二）小型地下式防空壕（片側席）

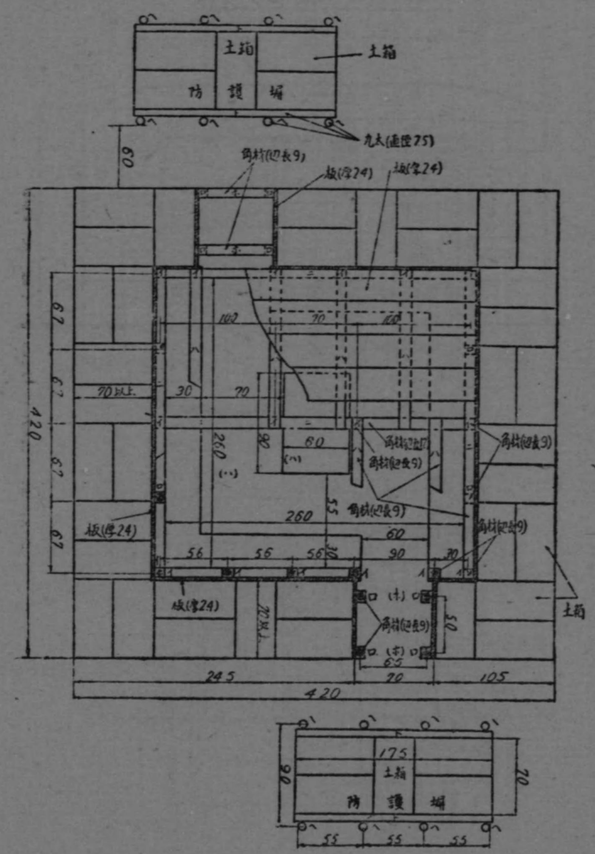
(三) 大型地上式防空壕(兩側席)

(二) 小型地下式防空壕(片側席)

（四）大型地下式防空壕（片側席）

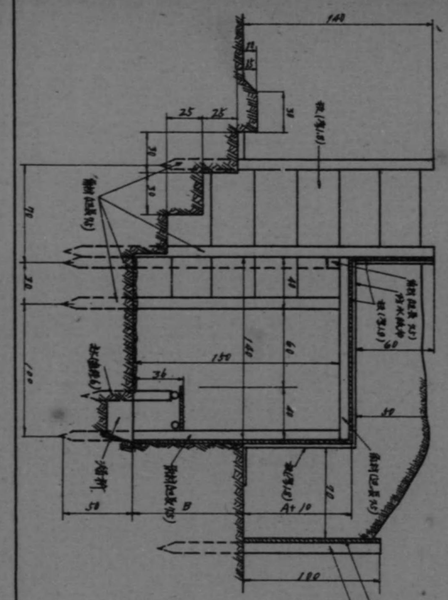


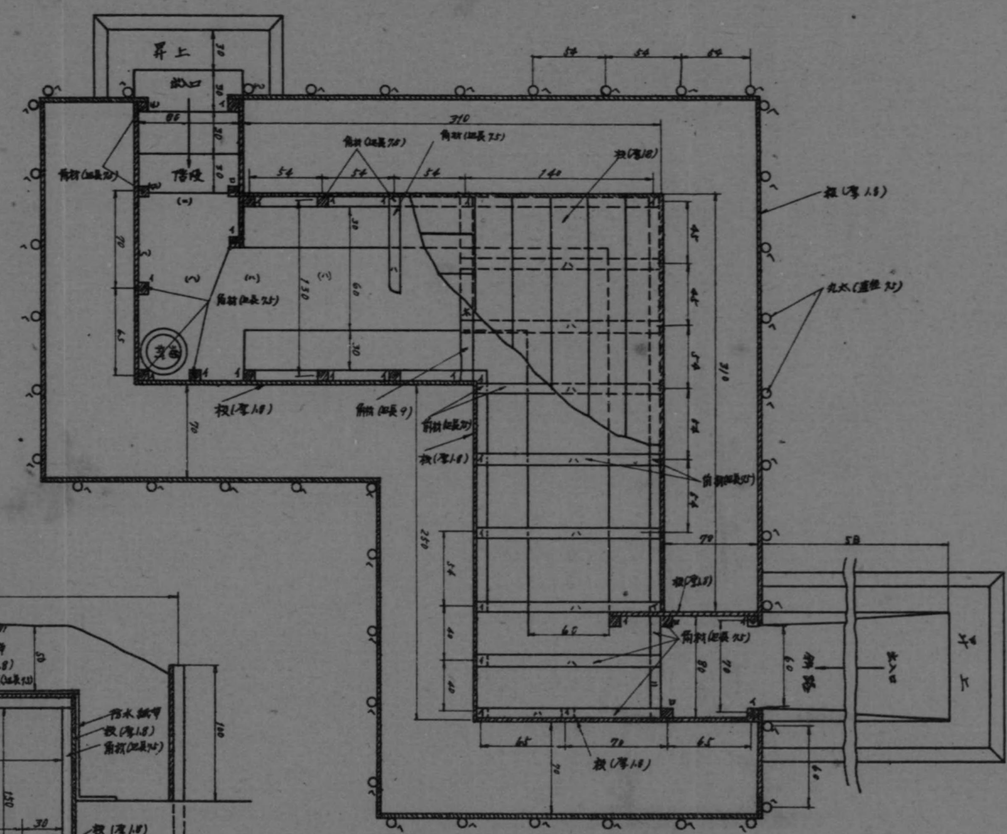
（三） 大型地上式防空壕（兩側席）

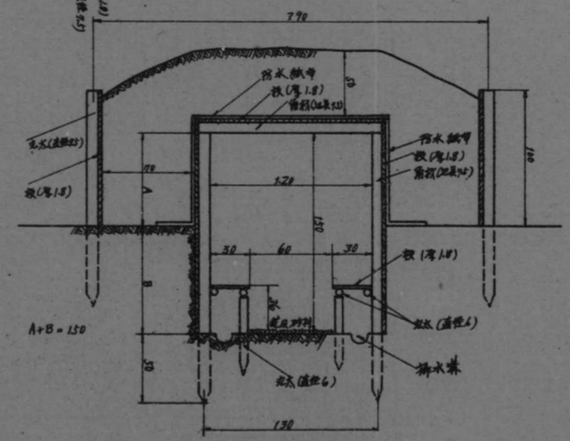


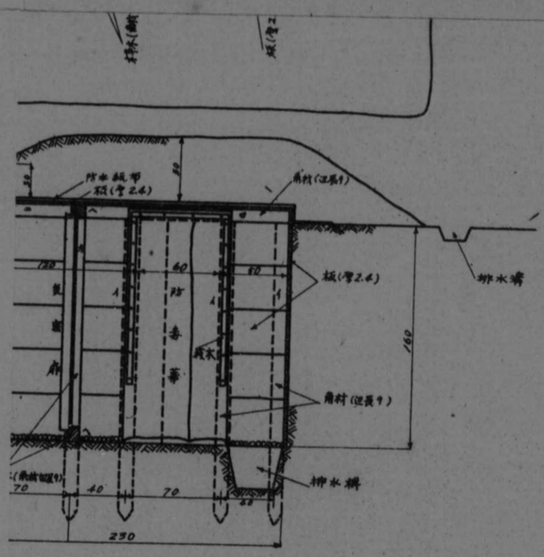
（四）大型地下式防空壕（片側式）

（五）大型半地下防空壕（兩側席）

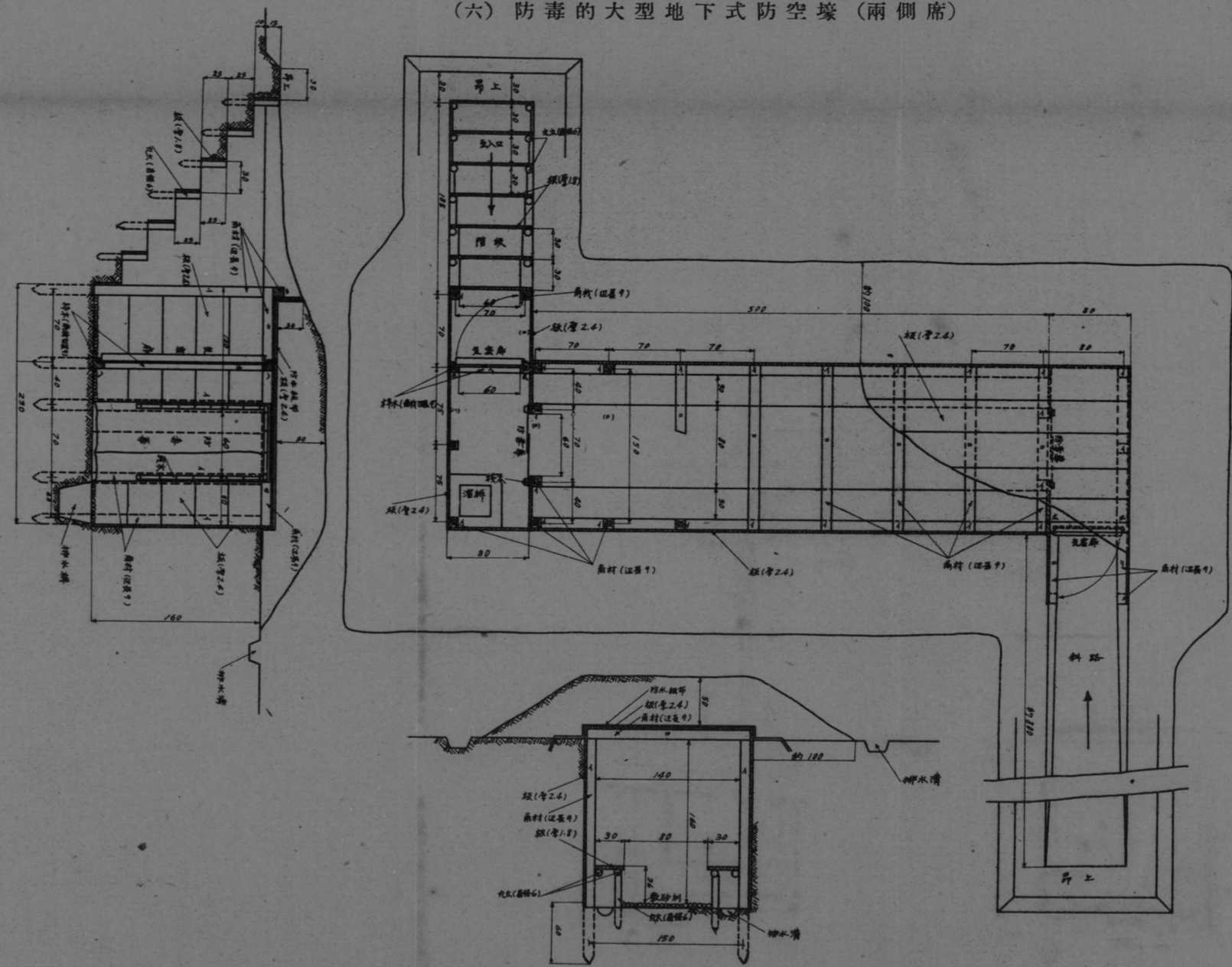







防水鋼帯
板(厚2.6)
角材(10×10)
板(厚2.6)
角材(10×10)
排水溝
排水溝
160
10
40
10
120
40
70
230
70
40
70
10

(六) 防毒的大型地下式防空壕 (兩側席)



材料及器具調査表

器具調査表

板	側壁	1.8	14.7 (4.4坪)	木井	1.8
	土留	1.8	2.7 (0.5坪)	掩蓋	1.8
	非常口	3.0以上		腰掛	1.8
				非常口	3.0以上

	名称	大サ(糎)	数量	名称	大サ(糎)
其ノ他	防水紙巾		65平米 (20坪)	防水紙布	
	梯子	170	1.	鋸	
	箱(腰掛)		5人分	釘	38
	鋸	6	50本		
	釘	38	0.5瓩		

		掘鑿土量(立米)	埋戻土量(立米)	員数(人)	搬鑿土量(立米)	埋戻土量(立米)
人夫	土工全	8.2	7.6	計128 (25坪) 11	3.7	3.5
	交工			5		
	桁打			4		
	運搬					
	其他			2		
	計			22		

器具	スラップ及ショベル	3	2
	鉄杭	1	1
	掛矢	1	
	鋸		1
	金槌	1組	1
	巻尺		1
	バケツ		1
	蛸		
	鑿		
	巻		

(七) 防空壕構築用材料及器具調査表

材料及器具調査表

小型防空壕（片側扉）

敷地面積 16.1 平米（4.9坪）

種別		使用個所	巾長×直径(糎)	長(糎)	本数
角材及丸太	イ	側壁	7.5	190	15
	ロ	仝	7.5	180	2
	ハ	天井	7.5	90	8
	ニ	仝	9.0	180	1
	ホ	非常口	7.5	160	2
	ヘ	仝	6.0	100	2
	ト	仝	6.0	80	1
	チ	掩蓋	6.0	100	5

板	使用個所	厚(糎)	面積(平米)
	側壁	1.8	14.7 (4.4坪)
	土留	1.8	1.7 (0.5坪)
	非常口	3.0以上	

その他	名称	大サ(糎)	数量
	防水紙布		63平米 (20坪)
	桶 ヲ	12φ	1
	箱(腰掛)		5人分
	鎹	6	50本
	釘	3.8	0.5瓩

小型防空壕（面側扉）

敷地面積 12.5平米

使用個所	巾長×直径(糎)	長(糎)	本数
天井	7.5	170	6
掩蓋	9.0	130	1
仝	6.0	90	2
非常口	6.0	90	6

板	使用個所	厚(糎)	面積(平米)
	天井	1.8	4.6 (1.4坪)
	掩蓋	1.8	1.7 (0.5坪)
	腰掛	1.8	0.9 (1.3坪)
	非常口	3.0以上	

その他	名称	大サ(糎)	数量
	防水紙布		20平米 (14坪)
	鎹		12本
	釘	3.8	0.2瓩

大型地上式防空壕（面側扉）

敷地面積 23.3平米（7.0坪）

使用個所	巾長×直径(糎)	長(糎)	本数
側壁	9.0	210	16
仝	9.0	220	12
天井	9.0	145	8
仝	9.0	280	5
仝	9.0	70	4
防毒塀	9.0	270	16
仝	9.5	180	20
腰掛	6.0	60	27
仝	6.0	270	2
仝	6.0	230	2
仝	6.0	180	2
仝	6.0	150	2

板	使用個所	厚(糎)	面積(平米)
	側壁	2.4	21.8 (6.6坪)
	天井	2.4	8.9 (2.7坪)
	掩蓋	2.4	0.6 (0.2坪)
	腰掛	1.8	3.0 (0.9坪)

その他	名称	大サ(糎)	数量
	防水紙布		51平米 (15.4坪)
	土箱	35×40×70	230ヶ
	鎹	9.0	120ヶ
	仝	6.0	100ヶ
	釘	3.8	1瓩

大型地下式防空壕（片側扉）

敷地面積 43.0平米（13.0坪）

使用個所	巾長×直径(糎)	長(糎)	本数
天井	9	140	12
仝	4	170	6
仝	12	140	2
仝	9	110	2
土留	6	87	4

板	使用個所	厚(糎)	面積(平米)
	天井	2.4	10.5 (3.2坪)
	土留	2.4	0.4 (0.1坪)
	腰掛	1.8	2.9 (0.9坪)

その他	名称	大サ(糎)	数量
	防水紙布		16平米 (4.8坪)
	鎹		30.0ヶ
	釘	3.8	0.3瓩

大型半地下式防空壕（面側扉）

敷地面積 288平米（87坪）

使用個所	巾長×直径(糎)	長(糎)	本数
内側壁	7.5	200	31
仝	7.5	270	4
天井	7.5	140	14
仝	7.5	80	2
仝	9.0	140	1
外側壁	7.5	160	41
腰掛	6.0	50	24
仝	6.0	180	2
仝	6.0	210	2
仝	6.0	270	2
仝	6.0	300	2

板	使用個所	厚(糎)	面積(平米)
	内側壁	1.8	29.0 (8.8坪)
	天井	1.8	9.0 (2.7坪)
	掩蓋	1.8	1.8 (0.5坪)
	外側壁	1.8	21.0 (6.3坪)
	腰掛	1.8	2.9 (0.9坪)

その他	名称	大サ(糎)	数量
	防水紙布		40.0平米 (12.1坪)
	鎹	6.0	100本
	釘	3.8	1瓩

防毒的大型地下式防空壕（面側扉）

敷地面積 47.8平米（14.5坪）

使用個所	巾長×直径(糎)	長(糎)	本数
側壁	9	220	28
天井	9	160	8
仝	9	230	2
仝	9	80	4
柱木	9	160	4
仝	9	80	4
桟木			
階段	6	50	12
腰掛	6	50	18
仝	6	30	4
仝	6	250	1

板	使用個所	厚(糎)	面積(平米)
	側壁	2.4	33.3 (10.1坪)
	天井	2.4	11.9 (3.6坪)
	階段	1.8	1.4 (0.4坪)
	腰掛	1.8	3.0 (0.9坪)

その他	名称	大サ(糎)	数量
	防水紙布		20平米 (6.1坪)
	気窓扉	150×70	2ヶ
	防毒幕	200×50	4枚
	鎹	9.0	100本
	釘	3.8	0.5瓩
	蝶金具		4ヶ

労力

	掘鑿土量(立米)	埋戻土量(立米)	員数(人)
土工 仝	8.2	7.6	計15.8 (2.5坪) 11
大工			5
杭打			4
運搬			
其他			2
計			22

	掘鑿土量(立米)	埋戻土量(立米)	員数(人)
土工 仝	3.7	3.5	計7.2 (2.2坪) 5
大工			2
杭打			
運搬			
其他			1
計			8

	土持充填(立米)	盛土量(土場間平均一)	員数(人)
土工 仝	17.7	48	23
大工			20
杭打			12
運搬			8
其他			2
計			65

	掘鑿土量(立米)	盛土量(立米)	員数(人)
土工 仝	14.6	14.4	計29 (4.8坪) 20
大工			3
杭打			
運搬			
其他			2
計			25

	土工量(立米)	員数(人)
土工 仝	29 (4.8坪)	20
大工		5
杭打		12
運搬		4
其他		2
計		43

	掘鑿土量(立米)	埋戻土量(立米)	員数(人)
土工 仝	32.2	20.1	計52.3 (8.7坪) 35
大工			8
杭打			6
運搬			4
其他			2
計			55

器具

	名称	数量
	スコップ又ハシヨベル	3
	鉞	1
	掛矢	1
	鋸	1組
	金鎚	
	巻尺	
	バケツ	
	出桁	
	鑿	
	鑢	

器具	小型防空壕(片側扉)	小型防空壕(面側扉)	大型地上式防空壕(面側扉)	大型地下式防空壕(片側扉)	大型半地下式防空壕(面側扉)	防毒的大型地下式防空壕(面側扉)
スコップ又ハシヨベル	3	2	2	6	4	6
鉞	1	1		2	1	2
掛矢	1		1	1	2	1
鋸	1組	1	3組	1	2組	2組
金鎚		1		3		
巻尺		1	1	1	1	1
バケツ		1				
出桁			1		1	1
鑿			3			2
鑢						

防空待避施設指導要領

第一　總　則

一、本指導要領ニ於ケル待避施設トハ投下彈ノ破裂ニ基ク彈片及爆風並ニ之ニ基因スル落下物、破片等ニ因ル危害ヨリ人命ヲ防護スル爲建物ノ内又ハ外ニ設クル應急的施設ヲ謂フ

二、待避施設ノ位置及構造ハ前號ノ目的ヲ達シ得ルト共ニ爆撃ヲ受ケダル際待避者ガ迅速ニ出動シテ自衛防空活動ニ從事シ得ルコトヲ目的トスルコト

三、損害ヲ局限スルタメナルベク規模ヲ小ナラシメ且分散シテ配置スルコト

四、待避施設ノ構築ニ當リテハ形式ニ拘泥セズ適當ナル既存施設、手持材料等ノ利用ニ努ムルコト

五、利用シ得ル適當ナル既存施設ナキ場合ニ於ケル待避施設ハナルベク低キ位置ニ設ケ掩體トシテ土ノ利用ヲ圖ルヲ可トスルコト

六、待避ハ長時間ニ亘ルモノニ非ザルコトニ留意シ待避施設ノ規模、設備等ハナルベク簡易ニシテ構築容易ナルモノトシ資材及勞力ノ節約ヲ圖ルコト

第二　一般木造建物ノ場合（住宅、店舗等）

一、位　置

イ、各戸毎ニ設クルヲ原則トスルコト

ロ、自家ニ落下スル燒夷彈ノ監視並ニ應急防火ノ爲ノ速ナル出動ニ便ナル位置ヲ選ブコト

ハ、雨水ノ流入、夜間又ハ嚴寒時ノ使用、應急防火等ノ見地ヨリ概ネ屋内地下ニ設クルヲ可トスルコト

ニ、鐵筋「コンクリート」造、土藏等ノ如キ堅固ナル周壁ヲ有スル室又ハ地下室、地窖等アル場合ハ之ヲ利用スルコト

ホ、規模大ナル建物ニ在リテハナルベク二ケ所以上ニ設クルコト

ヘ、屋内ニ設クル場合ニ在リテハ家屋損壞ノ際脱出容易ナル位置ヲ選ブコト

ト、崩壞ノ虞アル石造、煉瓦造等ノ建物、塀其ノ他ノ工作物ニ近接シテ構築スル場合ニ在リテハ特ニ之ガ崩壞ニ因ル危害ノ防止ニ留意スルコト

二、規　模

イ、面積ハ概ネ待避者四人ニ付半坪（疊一枚）程度トナスコト

但シ床下ニ設クル場合等充分ノ天井高ヲ得ラレザル爲、伏臥シテ待避スルモノニ在リテハ二人ニ付半坪（疊一枚）ノ程度トナスコト

ロ、居住者全員ヲ收容シ得ルコト但シ一箇所ノ收容人員五人程度ノ小規模ノモノヲ分散シテ設クルコトヲ本則トシ大規模ノモノニ在リテモ二十人程度ヲ限度トスルコト

三、構築要領

イ、周　壁

(1)　地下ニ設クル場合

1　地質强固ナル場合ハ適當ナル勾配ヲ付シタル素堀ノマヽニテ可ナルモ床下等ニ設クル場合ハ建物ノ基礎ヨリ少クモ三〇糎以上離スコト

2　地質軟弱ナル場合ニハ周圍ニ土留壁ヲ設クルコト、土留壁ハ概ネ丸太、角材ノ類ヲ杭トシ之ニ板（四分板ノ場合ニハ二枚以上重ネテ使用ス）ヲ渡シテ作ルコト

3　堀上ゲダル土ハ之ヲ周壁ニ利用スルコト

(2) 地上ニ設クル場合

1 成ルベク手持材料又ハ得易キ材料ニシテ破片防止ニ有效ナルモノ（概ネ重量ノ大ナルモノヲ可トスノヲ用ヒ衝撃、震動ニ依リ崩壞セザル如ク堅固ニ構築スルコト

2 破片防止ニ必要ナル壁厚ハ概ネ左ノ標準ニ依ルコト

	壁體構築	厚
イ	土砂ヲ盛上ゲタルモノ	八〇糎（約二尺六寸）
ロ	土嚢、土箱等ヲ組積トセルモノ	七〇糎（約二尺三寸）
ハ	堰板間ニ砂ヲ充塡セルモノ	五〇糎（約一尺七寸）
ニ	堰板間ニ煉瓦、石等ヲ充塡セルモノ	五〇糎（約一尺七寸）
ホ	角材ヲ積ミ上ゲルモノ	五〇糎（約一尺七寸）
ヘ	疊ヲ重ネタルモノ	九〇糎（約三尺）
ト	瀋闕ヲ積ミ上ゲルモノ	一〇〇糎（三尺三寸）
チ	書籍、書類等ヲ充塡セルモノ	四〇糎（約一尺三寸）

(3) 半地下ト爲ス場合

1 地下ノ部分ハ(1)ニ準ジ構築スルコト

2 地上ノ部分ハ(2)ニ準ジ構築スルコト

ロ、掩蓋

(1) 屋内床下ニ設クル場合ニハナルベク床束ノ周圍ヲ堀殘スカ又ハ床束ヲ長キモノト取換ヘ床ヲ其ノマヽ掩蓋トシテ利用スルコト

(2) 屋内床上ニ設クル場合ニハナルベク厚板又ハ疊一枚程度ノ簡易ナル掩蓋ヲ設クルコト

(3) 屋外ニ設クル場合ハ出來得レバ掩蓋ヲ設クルコト其ノ構造ハ梁ヲ渡シ板ヲノセ其ノ上ニ土砂（厚五〇糎程度）又ハ土嚢（厚三〇糎程度）ヲ積ムコト、此ノ場合天井板ニハ勾配ヲ附シ防水紙布ノ類ヲ敷ク等雨水ノ漏入防止ニ留意スルコト

ハ、床

(1) 坐式又ハ伏臥式ノモノハナルベク板張ノ床ヲ設クルカ又ハ蓆子、藁、蓆等ヲ敷クコト

(2) 屋外ニ設クルモノニ在リテハ排水溝、溜桝等ノ排水設備ヲ設クルコト

ニ、出入口

(1) 出入口ハナルベク二箇所ニ設クルカ又ハ一方ニ非常口ヲ設クルコト

出入口ハ焚夷彈ノ監視竝ニ應急防火ノ爲ノ迅速ナル出動ニ便ナル構造トナスコト

非常口ハ脱出ニ便ナル構造トナスコト（梯子、足掛リ等ヲ設クル等）

(2) 直接彈片及爆風ノ侵入セザル様出入通路ヲ屈曲セシムルカ又ハ前面ニ防護壁ヲ設クルコト

防護壁ノ構造ハ周壁ニ準ズルコト

(3) 屋外ニ設ケ地下式又ハ半地下式ト爲ス場合ニ在リテハ雨水ノ流入セザル如ク出入口ヲ一段高クシ且周圍ニ溝ヲ設クルコト

四、待避施設ノ例

イ、床下ニ設ケタル待避施設（第一圖）

ロ、床下ニ設ケタル待避施設（第二圖）

ハ、屋内床上ニ設ケタル待避施設（第三圖）

ニ、屋外ニ設ケタル待避施設（防空壕構築指導要領參照）

（第一圖）

（第二圖）

（第一圖）ノ二

（第三圖）

空襲防空待避所平面図

第三　鐵筋「コンクリート」造建物ノ場合

一、位　置

イ、鐵筋「コンクリート」造建物ハ常時執務シ居ル各室ヲ待避施設ニ充ツルコトヲ原則トスルコト

ロ、五階以上ノ高層建築物ニ在リテハ左ニ掲グル室ハ直撃彈ヲモ考慮スレバ比較的安全度低キヲ以テ狀況ニ依リテハ安全ナル他ノ室ヘ待避スルヲ可トス

(1) 上層ヨリ一及二層目ノ室

(2) 半地階、地階ノ外壁ニ接スル室

(3) 地面又ハ隣接建物ノ屋根ニ近キ階ノ外壁ニ接スル室

(4) 狹キ中庭ニ面スル室

(5) 特ニ大ナル室

ハ、一室ニ多數集團シテ待避スルコトハ一般ニハ不適當ナルモ已ムヲ得ズ集團待避ヲ爲スノ要アル場合ハ左ニ掲グル室ハ比較的安全ナルヲ以テ之ヲ利用スルコト

(1) 第二階以上ノ階（上層ヨリ一及二層目ヲ除ク）ニ於ケル外氣ニ面セザル部分、例ヘバ中廊下

(2) 地階ニ於ケル外壁ニ接セザル室

二、規　模

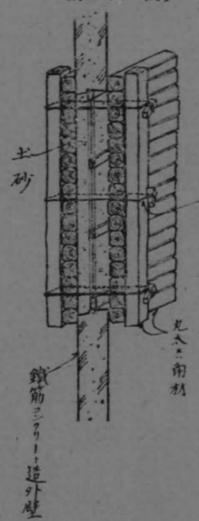
集團シテ待避スル場合ニ於ケル一箇所ノ收容人員ハナルベク五〇人以下トシ、已ムヲ得ザル場合ニ在リテモ一〇〇人ヲ超過セザルコト

三、構築要領

イ、第二階以下ノ階（隣接建物アルトキハ其ノ屋根面ニ近キ階）ノ室ニ於ケル外氣ニ面スル開口ハ床面ヨリノ高サ一・五メートル程度マデ左ノ方法ニ依リ防護設備ヲナスコト

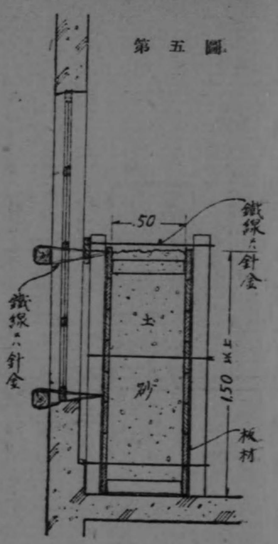
(1) 兩面ヨリ丸太又ハ角材ヲ並べ之ヲ堅固ニ緊結シ其ノ中ニ土砂等ヲ充塡スルコト（第四圖）

（第四圖）



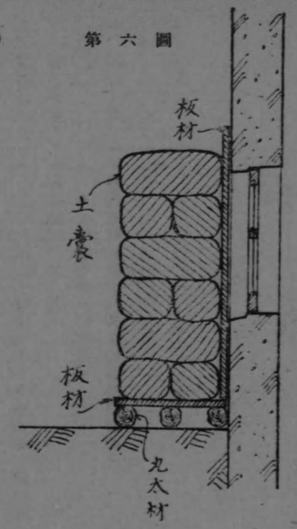
(2) 堰板間ニ土砂ヲ充塡セル防護壁ヲ內側ニ設ケ壁ニ緊結スルコト（第五圖）

第五圖



(3) 外側ニ土嚢、土砂ヲ充塡セル箱等ヲ崩壞ノ虞ナキ如ク積ミ上グルコト（第六圖）

第六圖



(4) 出入口ノ前面ニハ防護室ヲ設クルコト

ロ、(イ)、ノ室ノ開口ニシテ隣室若ハ廊下ヲ隔テヽ外氣ニ面スルモノハ其ノ開口又ハ隣室若ハ廊下ノ開口ノ何レカニ(イ)ノ方法ニ依リ防護設備ヲ爲スコト

ハ、直接又ハ廊下ヲ隔テヽ外氣ニ面スル防護設備ナキ開口ノ「ガラス」ハ內側ニ扉、幕ノ類ヲ設ケ小破片ノ飛散ニ因ル危害ヲ輕減スルコト

ニ、破片防止ニ有效ナル書類戸棚ノ類アルトキハ成ルベク之等ヲ以テ室內ヲ區劃スル如ク配置ヲ考慮スルコト

ホ、一室ノ待避人員少數ナル場合ニ在リテハ其ノ人員ノ待避ニ必要ナル限度ニ於テ室ノ一部分ニ付前各號ニ掲グル防護設備ヲ爲スコト

第四　工場ノ場合

一、位置及規模

イ、持場ヨリ遲クトモ二十秒程度ヲ以テ待避シ得ル位置ヲ選ブヲ原則トシ遠ク離レタル場所ニ多人數收容ノ待避施設ヲ設クルコトヲ避ツルコト

ロ、破壞ニ依リ周圍ニ危害ヲ及ボス虞アル施設ヨリハナルベク距リタル位置ニ設クルコト

ハ、成ルベク小人數每ニ分散シテ待避スルコトヲ本則トシ一ケ所ノ待避人員ハ二十人程度ヲ限度トスルコト

二、構築要領

イ、鐵筋「コンクリート」造ノ作業場ニ在リテハ第三鐵筋「コンクリート」造建物ノ場合ニ準ズルコト

ロ、鐵筋「コンクリート」造以外ノ構造ノ建物內部又ハ外部ニ設クル場合ハ第二「一般木造建物ノ場合」ニ準ズルコト

ハ、前各號ニ依ルノ外左ニ留意シ危害豫防ノ方途ヲ講ズルコト

(1) 原料、材料、器械等ニシテ堅牢ナルモノ、鐵筋「コンクリート」造ノ腰壁、棚若ハ臺、器械防護用ノ防護壁等ヲ利用スルコト

(2) 「ピット」地下倉庫、地下道ノ類アルトキハ之ヲ利用スルコト

(3) 屋根ノスレート、高所ノ窓ガラス等ノ落下ノ虞アル場合ハ特ニ掩蓋ヲ設クルコト

三、待避施設ノ例

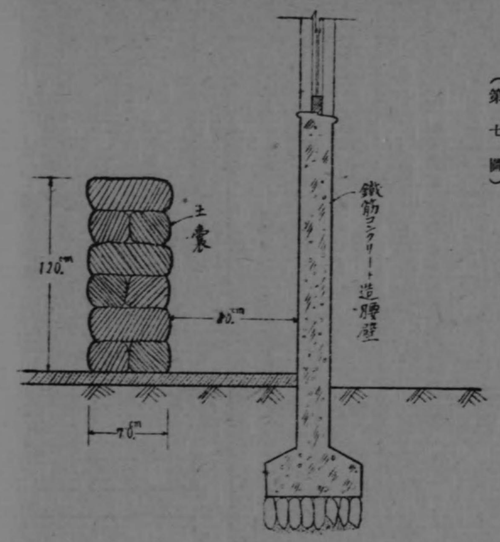
イ、鐵筋「コンクリート」造ノ腰壁ヲ利用シタル待避施設（第七圖）

ロ、棚ヲ利用シタル待避施設（第八圖）

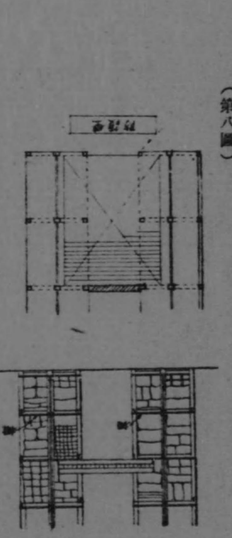
ハ、「ピット」ヲ利用シタル待避施設（第九圖）

ニ、屋外ニ設ケタル待避施設（防空壕構築指導要領參照）

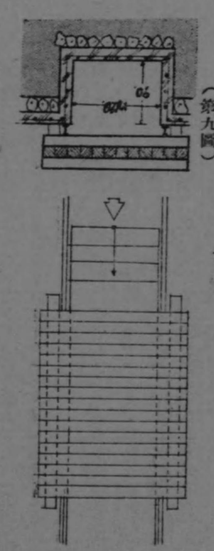
（第七圖）



（第八圖）



（第九圖）



防空待避施設附圖說明

第一圖　床下ニ設ケタル待避施設

本例ハ住宅ノ座敷床下ニ設ケタルモノニシテ其ノ構築要領ハ疊ヲ上ゲ床下ヲ約一米堀下ゲタル後床ヲ支ヘル束ヲ長キモノ（在合セノ丸太等ニテ可）ト取換ヘ、周圍ニハ古材（例ヘバ板塀ノ取毀材）等ヲ用ヒテ簡單ナル土留ヲ爲ス、堀取リタル餘土ハ床下ノ周圍ニ積ミ疊ヲ元ニ復ス、土質良キ場合ニハ取敢ズ素堀ノマヽトシ材料ヲ得タル後逐次土留ヲ爲スモ可ナリ、床ハ蓆敷ニテヨク必シモ簀子敷トナス必要ナシ

出入口ハ床ノ間ノ床板ヲ上ゲテ之ヨリ出入スルモノトシ別ニ縁側ニ向ケテ非常口ヲ設ケ、踏石ヲ掩體ニ利用ス

本例ハヤヽ大型ナルモノノ例ニシテ通常ハコノ二分ノ一程度ノ大サニテ可ナリ

第二圖　床下ニ設ケタル待避施設

本例ハ住宅床下ニ設ケタル伏臥式ノ待避施設ニシテ床下ヲ淺ク約三〇糎堀下ゲソノ土ヲ周圍ニ積ム、但シ床束ノ周圍ハ堀殘スモノトシ蓆ヲ敷ク、出入口ハ押入ノ床カタハ座敷ノ疊一枚ヲ桔上ゲ置キ之ヨリ出入スルモノトス

本例ハ低濕地ニ於テモ實行スルコト可能ニシテ構築ニハ殆ド特別ノ資材ヲ要セズ

第三圖　屋内床上ニ設ケタル待避施設

押入下段及其ノ前面座敷内一部ヲ待避施設トシテ利用セルモノニシテ其ノ周圍ニ土嚢、土ヲ充塡セル箱、箪笥、布團、書棚等ヲ押入中段ノ高マデ積上ゲ、押入内ハ主トシテ老幼者ノ待避ニ充テ應急防火ニ從事スルモノハ其ノ前方ニ待避スルモノトス

第七圖　鐵筋コンクリート造ノ腰壁ヲ利用シタル待避施設

工場ノ鐵筋コンクリート造腰壁ヨリ距離八〇糎ヲ離シテ屋内ニ土嚢ヲ積ミ腰壁ト土嚢トノ間ヲ待避施設トナシタルモノナリ、土嚢ノ代リニ適當ナル原料、材料ノ類ヲ用フルモ可ナリ

第八圖　棚ヲ利用シタル待避施設

材料又ハ製品ヲ格納スル棚ヲ利用スルモノナリ

第九圖　ピットヲ利用シタル待避施設

車輛工場等ニ於ケルピットヲ利用セルモノニシテ、上部掩體トシテ手持ノ枕木ヲ用ヒタルモ板又ハ無蓋ニテモ支差ナシ

防毒指導要領

第一　總　則
第二　毒瓦斯ノ種類、性能、使用法及防毒具ノ種類、性能
第三　一般人ノ防護要領
第四　防毒機關ノ業務要領
第五　防毒具取扱要領
第六　飲食物其ノ他ノ物ノ防護要領

本書ハ曩ニ制定セル防空指導一般要領ニ基キ毒瓦斯攻撃ヲ受クル虞アル重要地域ニ於ケル防毒ニ關スル指導要領ヲ定メタルモノトス

第一　總　則

一、防毒ハ主トシテ敵航空機ノ使用スル毒性ノ瓦斯、煙霧、液體等（以下之等ヲ毒瓦斯ト稱ス）ニ對シ機宜ノ防護處置ヲ講ジ以テ被害ヲ防止シ又ハ輕減スルニ在ルコト

二、毒瓦斯防護ハ最モ迅速且適確ナル處置ヲ要スルヲ以テ平時防毒知識ノ涵養及必要ナル防毒資材ノ整備ニ努ムルト共ニ防毒訓練ノ徹底ヲ圖リ有事ニ際シテハ徒ニ恐怖狼狽スルコトナク確固タル氣魄ヲ持シ機宜ノ措置ヲ誤ラザルコト

三、重要地域ニ於テハ官公署、警防團等ニ防毒機關ヲ設ケ毒瓦斯ノ檢知、消毒、毒瓦斯警報ノ發令、被毒地域ノ交通制限、被毒物件ノ使用制限等ノ防毒業務ニ當ラシムルコト

四、重要地域ニ於テハ一般國民ニハ防毒面ヲ所持セシメ各自ニ防毒ノ方法ヲ採ラシムルヲ主眼トスルコト但シ防毒面ナキ場合ニ於テハ已ムヲ得ズ應急對策トシテ縱令完全ヲ期シ得ザルモ無キニ優ル意味ニ於テ主トシテ致命的傷害ヲ被リ易キ呼吸器ノ防護ニ着意シ應急處置ヲ講ゼシムルコト

五、焼夷彈攻撃ト共ニ毒瓦斯攻撃ヲ受ケタル場合ハ消防作業ニ重點ヲ置クコト

第二　毒瓦斯ノ種類、性能、使用法及防毒具ノ種類、性能

一、現在各國ニ於テ周知セル主要ナル毒瓦斯ノ分類、名稱、形態及性能ハ概ネ左表ノ通ナルコト

（毒瓦斯表）

分類	名稱	形態		色相		特臭	毒作用
			作用時	常態	作用時		
一	鹽素	氣體	常態	帶黃綠色	白色乃至帶黃綠色	刺戟臭	刺戟性强ク呼吸器ヲ侵シ窒息致死セシム
	ホスゲン	液體	氣體	無色乃至帶黃色	無色乃至白色	腐敗堆肥臭	刺戟性少キモ呼吸器ヲ侵シ窒息致死セシム
	ヂホスゲン			無色乃至淡黃色	無色	刺戟性胡椒臭	
	鹽化ピクリン						
	臭化ベンジル	液體	氣體	黃褐色	無色乃至白色	芳香性	極メテ微量ニテモ眼ヲ刺戟シテ催涙セシメ濃厚ナルトキハ一時視力ヲ害フ
	鹽化アセトフェノン	固體	微粒子（煙）氣體	白色乃至黃褐色	無色乃至淡白色	刺戟性	
	ヂフェニルクロルヂフェニルクロル砒素	固體又ハ半融狀態	微粒子（煙）	白色乃至褐色	無色乃至白色	刺戟性青草臭	極メテ微量ニテモ氣道ヲ侵シ「クシャミ」ヲ發セシメ更ニ刺戟ノ爲鼻汁、唾液ノ分泌甚シク嗽嗽、胸痛等ノ苦痛ヲ起サシム
	ヂフェニルシアン化砒素			綠色	無色乃至淡綠色	無臭	神經系統又ハ血液ニ作用シ中毒致死セシム
	青酸	液體	氣體	無色	無色	苦扁桃油臭	
	アダムサイト	固體	液體	黃褐色乃至褐色	液體ハ黑褐色乃至無色氣體ハ無色	芥子油臭	皮膚ヲ火傷ノ如ク侵シ水疱ヲ生ジ糜爛セシム眼、呼吸器及消化器等ヲ激烈ニ侵シ重症ノ場合ハ致死セシム
持久性	イペリット	液體	液體	淡黃褐色	液體ハ黑褐色乃至無色氣體ハ無色乃至白色	刺戟性天竺葵臭	
	ルイサイト						

二、現在各國ニ於テ周知セル毒瓦斯使用法ハ主トシテ各種ノ毒瓦斯ヲ單獨ニ又ハ混合シテ彈體ニ裝塡シ投下スル方法ナルモ場合ニ依リテハ持久性毒瓦斯ヲ單獨ニ又ハ混合シテ雨下撒布スルコトアルベキコト

三、毒瓦斯ノ效力ハ其ノ種類及使用法ニ依リ差異アルハ勿論季節、氣象、地勢等ニ依リ著シク影響セラルルヲ以テ此等ノ事項ニ留意スルコト

（例）

（一）氣狀毒瓦斯ハ風速適當（約二―三米程度ノ場合）ナルトキハ遠距離ニ亘リ流動シ風速之ヨリ小ナルトキハ滯留シ易ク大ナルトキハ迅散シ易シ

液狀毒瓦斯ハ風速小ナルトキハ發散緩慢、持久度大ニシテ風速大ナルトキハ發散迅速ナリ

（二）日光ニ照射セラレタルトキノ如キ上昇氣流ヲ生ズル場合ニハ氣狀毒瓦斯ハ上方ニ擴散スル傾其ノ風下ハ效力ヲ減少スルモ拂曉、薄暮、夜間等ノ如キ上昇氣流ナキ場合ハ地上ニ低ク擴散シ效力大ナリ

（三）地皮溫氣溫ヨリ著シク低ク且地上風靜穩ナルトキハ氣狀毒瓦斯ハ低迷スルモ時ニ地面ヨリ隔離スルコトアリ

（四）氣溫高キトキハ液狀毒瓦斯ハ氣化シ易ク低キトキハ之ニ反ス

（五）霧ハ氣狀毒瓦斯ヲ抑止シテ其ノ效力ヲ持久セシム

細雨ハ毒瓦斯ノ效力ニ及ス影響比較的僅少ナルモ大雨ハ氣狀毒瓦斯ヲ吸收分解シ又液狀毒瓦斯ヲ流洗シ其ノ種類ニ依リテハ之ヲ分解セシム

（六）積雪上ノ液狀毒瓦斯ハ其ノ效力ヲ發揮ス
積雪ニ蔽ハレタル液狀毒瓦斯ハ其ノ效力ヲ發揮シ得ザルモ依然其ノ性能ヲ保持ス
（七）窪地、路地、空壕又ハ繁茂セル樹叢等ノ如キ風ヲ障蔽スル場所ニ在リテハ毒瓦斯ヲ滯留セシム
（八）建築物ノ錯綜セル場所ニ於テハ特殊ノ渦流ヲ生ジ意外ノ箇所ニ毒瓦斯流動滯留シ又高所ニ上昇スルコトアリ

（防毒具表）

四、防毒具ノ種類、名稱及性能ハ概ネ左表ノ通ナルコト

種類	名稱	性能
第一種 防毒面 隔離式 閘用（一號） 甲		顏面ニ裝着シ眼及呼吸器ヲ防護スルモノニシテ顏面ヲ覆フ（覆面隔離式ニ在リテハ連結管ヲ有ス）及毒瓦斯ヲ吸收濾去スル吸收罐ヨリ成ル
第一種 防毒面 隔離式 閘用（一號） 乙		閘用一號ハ濃厚ナル毒瓦斯中ニテ防空業務ニ從事スル者ノ使用ニ適シ閘用二號ハ之ニ準ズ
第一種 防毒面 隔離式 小兒用		家庭用ハ家庭防護或ハ避難等ニ際シ短時間毒瓦斯中ニテ使用ス
第一種 防毒面 直結式 閘用（二號） 甲		甲、乙ノ別ハ防毒面ノ構造ノ精疎及吸收罐ノ耐久時間ノ長短ニ依リ區分ス
第一種 防毒面 直結式 閘用（二號） 乙		防毒口覆ハ鼻及口ヲ覆フ口覆ニ小型ノ吸收罐ヲ連結シ簡易ニ呼吸器ヲ防護スルニ使用ス
第一種 防毒面 直結式 家庭用 甲		吸收罐ノ耐久時間（閘用一號甲百二十時間、乙百時間、閘用二號甲七十時間、同乙五十時間、家庭用甲五時間、同乙三時間、小兒用隔離式百時間、防毒口覆三時間ヲ通常トス）ハ毒瓦斯中ニテ使用スル場合ノ時間ニシテ毒瓦斯ナキ場合ハ殆ド性能ノ低下ヲ來サズ
第一種 防毒面 直結式 家庭用 乙		外氣ト隔絕シ發生セシムル酸素ニ依リ呼吸シ得ルモノニシテ特ニ濃厚ナル毒瓦斯中又ハ火災等ノ場合一酸化炭素濃厚ニシテ酸素ノ缺乏セル際ニ使用ス
第一種 酸素呼吸器		液狀毒瓦斯ニ對シ防毒面ト併用シテ身體ノ防護ニ使用ス
第一種 防毒衣		毒瓦斯ヲ濾去シテ空氣ヲ清淨ナラシムル性能ヲ有シ、通風裝置ト連結シテ防護室等ノ換氣ニ使用ス
第二種 防毒眼鏡		氣密ニ裝着シ得ル眼鏡ニシテ毒瓦斯ニ對シ眼ヲ防護スルニ使用ス
第二種 防毒手袋		紙、「セロフアン」、「ゴム」布等ノ氣密紙布ヨリ成ル紋帳ニシテ毒瓦斯ノ浸入ヲ防止スルニ使用ス
第二種 防毒靴		

種類	名稱	性能
第二種 防毒面		毒瓦斯ヲ濾去シテ空氣ヲ清淨ナラシムル性能ヲ有シ、通風裝置ト連結シテ防護室等ノ換氣ニ使用ス
第二種 防毒眼鏡		氣密ニ裝着シ得ル眼鏡ニシテ毒瓦斯ニ對シ眼ヲ防護スルニ使用ス
第二種 防毒手袋		紙、「セロフアン」、「ゴム」布等ノ氣密紙布ヨリ成ル紋帳ニシテ毒瓦斯ノ浸入ヲ防止スルニ使用ス
第二種 防毒靴		

五、應急處置ノ一例左ノ通ナルコト

（一）底ヲ拔キタル硝子瓶又ハ底ニ孔ヲ穿チ蓋ニ口金ヲ附シタル罐若ハ箱等ニ米粒大ノ木炭粒及綿ヲ充塡シ瓶ノ口又ハ罐若ハ箱ノ口金ヲ衞ヘ鼻ハ針金ニテ作レル鼻挾ニヨリ抑ヘテ口ヨリ呼吸ス
更ニ效力劣ルモ手拭其ノ他布片ニ「ヘキサメチレンテトラミン」液（一〇%）ヲ浸シタルモノ、已ムヲ得ザレバ單ニ水デ濡ラシタルモノ（洗濯「ソーダ」溶液ヲ用フレバ尙可トス）鼻及口ニ當テ呼吸ス

（二）眼ニハ氣密ニ裝着シ得ル眼鏡ヲ用フルヲ可トス

第三　一般人ノ防護要領

一、毒瓦斯ハ概シテ特異ノ臭氣又ハ刺戟アルヲ以テ平素ヨリ試臭器等ニ依リ之ヲ熟知シ置クコト
二、毒瓦斯ノ徵候ヲ知リ又ハ毒瓦斯警報ヲ聞キタルトキハ左ノ如ク措置スルコト
（一）防毒面ヲ有スル場合ハ速ニ裝着シ之ヲ有セザル場合ハ呼吸器等ニ對シ應急防護ヲ講ズルコト
（二）防空動作ニ從事セザル者ハ速ニ風上等ノ無毒地帶ニ避クルカ又ハ防護室、準防護室若ハ防毒設備ヲ施セル防空壕ニ避クルコト
（三）液狀持久性毒瓦斯ナル場合ニハ被毒地域ノ風下ニモ相當濃度ノ氣狀毒瓦斯ノ流動持續スルヲ以テ危險ナル範圍ノ者ハ防空機關ノ指示ニ從ヒ避難等ノ處置ヲ講ズルコト
（四）液狀ノ持久性毒瓦斯ハ其ノ毒效力ガ永ク持續スルヲ以テ已ムヲ得ズ被毒地域ヲ通過スルトキハ「ゴム」靴、高下駄、「ゴム」底履物等ヲ使用シ毒液ノ身體、被服等ニ附着セザル樣注意スルコト
（五）液狀ノ持久性毒瓦斯ニ被毒セル個所又ハ物ニ觸ルルトキハ防毒手袋又ハ「ゴム」手袋ヲ使用シ已ムヲ得ザル場合ニ於テモ手袋等ヲ用ヒ裸手ニテ觸レザルコト
（六）持久性毒瓦斯雨下ニ際シ屋外ニ在ル者ハ液狀毒瓦斯ヲ避クル爲直ニ屋蓋下若ハ適當ナル掩護下ニ避クルカ又ハ傘、「マント」、外套、布片、紙（油紙、包裝紙等ヲ可トス）等ニテ身體ヲ防護スルコト

上記ノ箇所ニ避ケ得ザルトキハ防毒室ニ避クルコト
風上等ノ無毒地帶ニ避クル場合ハ防空機關ハ風向、建物、地勢等ヲ考慮シ方向其ノ他必要ナル事項ヲ指示スルコト

三、防護室、準防護室、防毒設備ヲ施セル防空壕又ハ防毒室ノ設置使用等ニ關シテハ左ノ事項ニ留意スルコト

（一）防護室、準防護室

（イ）防護室及準防護室ノ位置、構造、大サ等ハ防空建築規則及防空建築指導要領ニ據ルコト

（ロ）豫メ收容定員及收容者ヲ定メ收容定員ハ之ヲ表示シ置クコト

（ハ）收容人員ハ床面積一人當リ一平方米程度ヲ標準トシ、〇、六平方米以下トセザルコト

收容者ノ滯室許容時間ハ濾過換氣設備ナキ場合ハ一人一立方米ニ付二時間ヲ限度トシ成ルベク夫レ以下トスルコト

（ニ）防護室衞生上換氣ヲ要スル場合又ハ毒瓦斯ノ侵入セザル樣室内ヲ過壓ニスル場合或ハ防護室内ニ漏入シタル毒瓦斯ヲ換氣排出スル必要アル場合ノ爲濾過換氣裝置ヲ設備スルコト

濾過空氣量ハ室ノ構造、大サ及收容人員ニ依リ差異アルモ通常一人當リ毎分五〇立ヲ標準トシ室内ノ過壓ハ水柱三粍以上ナルヲ可トスルコト

濾過換氣裝置ハ出入口ヨリ遠ザカリタル個所ニ設ケ、吸氣管ハ爆彈等ニ依ル破壞ヲ考慮シテ取付ケ且吸氣口ハ成ルベク高所ニ設クルコト

尙防護室ニハ多少ノ間隙アルコト多キヲ以テ濾過換氣ヲ行フ場合モ通常排氣口ヲ設クルノ要ナキコト

（ホ）入室者ハ左ニ留意スルコト

(1) 管理者ノ指示ニ從ヒ秩序正シク行動スルコト

(2) 出入ニ際シ毒瓦斯ノ室内ニ侵入スル虞アル場合ハ前室ト收容室トノ出入口ヲ同時ニ開カザルコト

(3) 被毒者ハ管理者ノ指示ニ從ヒ消毒其ノ他必要ナル處置ヲ爲シタル後收容室ニ入ルコト

（二）防空壕

防空設備ヲ施セル防空壕ノ位置、構造、大サ等ハ防空壕設置指導要領ニ依ルコト

（三）防毒室

（イ）位置ハ成ルベク直接外氣ニ面セザル室ヲ選ビ且前室ヲ設クルコト

（ロ）戸、障子、襖、壁、天井、床等ノ隙間ハ「セロフアン」紙、「パラフイン」紙、「ハトロン」紙等ノ「テープ」ヲ用ヒテ目貼スルカ又ハ「パテ」、粘土等ヲ用ヒテ氣密ニシ出入口ニハ防毒幕又ハ氣密扉ノ類ヲ設クルヲ可トスルコト

（ハ）收容人員ハ三平方米（一坪）ニ付四人ヲ標準トシテ其ノ滯室許容時間ハ概ネ一人一立方米ニ付二時間ヲ限度トスルコト

（ニ）防毒蚊帳ヲ併用スレバ尙效果的ナルコト

（ホ）附近ニ投下彈落下シタルトキハ爆風壓等ノ爲防毒室ノ用ヲナサザルコトアルベキヲ以テ防毒面或ハ呼吸器等ニ對スル應急防護ノ手段等ヲ準備シ置クコト

四、被毒セル場合ハ左ノ如ク應急處置ヲ爲スコト

（一）一時性毒瓦斯ノ場合

（イ）眼、鼻、口等ニ刺戟ヲ感ジタル場合ハ速ニ重炭酸「ソーダ」液（二%）又ハ清水ニテ洗滌若ハ含嗽スルコト

（ロ）中毒ノ疑アル場合ハ成ルベク安靜ニシ激動ヲ避ケ治療ヲ受クルコト此ノ場合人工呼吸等ノ處置ハ之ヲ爲サザルコト

（ハ）家屋内ニ毒瓦斯侵入セル場合ハ戸、障子、窓、扉等ノ開口部ヲ開放シ換氣スルコト

（二）持久性毒瓦斯ノ場合

（イ）皮膚ニ毒液附着セル場合ハ成ルベク速ニ紙又ハ布片ニテ被毒面ヲ擦ゲザル樣之ヲ吸取リタル後晒粉粉末、晒粉泥（晒粉三、水二ノ程度トス）又ハ「クロラミン」液（一〇―二〇%）ニテ拭淨若ハ洗滌スルコト

（ロ）眼、鼻、口ハ重炭酸「ソーダ」液（二%）ニテ洗滌又ハ含嗽スルコト

（ハ）衣類等ニ毒液附着セル場合ハ速ニ脫除スルカ晒粉ニテ應急消毒シタル後防毒機關ノ指示ニ從ヒ消毒スルコト

（ニ）履物類ニ毒液附着セル場合ハ晒粉粉末ニテ拭淨スルカ又ハ晒粉乳劑（晒粉一水一ノ程度トス）ニテ洗滌スルコト

（ホ）家屋被毒セル場合ハ戸、障子、窓、扉等ノ開口部ヲ開放シテ換氣スルト共ニ防毒機關ニ通知シ其ノ處置ヲ受クルコト

（ヘ）其ノ他第四ノ二、ノ（五）毒瓦斯消毒ノ（ハ）別表參照ノ上處置スルコト

第四　防毒機關ノ業務要領

一　防毒機關トシテ防毒部（班）ヲ設クルコト

防毒部（班）ノ各班ノ編成、管掌業務、裝備ハ概ネ左ニ據ルコト

	編成	業務	人員	裝備
防毒班	總務係	班内ノ統制 防毒資材ノ整備 各部トノ連絡	班長一名 係員二名	防毒面、防毒衣 防毒手袋、防毒靴 毒瓦斯檢知資材
	警戒係	毒瓦斯檢知及被毒地域ノ標示 毒瓦斯警報ノ發令及傳達 毒瓦斯避難ノ誘導整理	班長一名 係員九名	消毒材料 警報器材 被毒地域標示材料
	消毒係	被毒セル地域及物料等ノ消毒	班長一名 係員五名	

（編成人員ニ付テハ大體ノ基準ヲ定メタルモノニシテ土地ノ實情及被毒ノ程度等ニ依リ之ヲ行フコト

二、防毒機關ノ業務ハ左ニ依リ之ヲ行フコト

（一）毒瓦斯檢知

（イ）毒瓦斯檢知ハ嗅覺、視察又ハ器材ニ依ルコト而シテ通常嗅覺及視察ヲ併用シ所要ニ應ジテ器材ヲ用フルコト

（ロ）毒瓦斯檢知ニ付テハ左ニ留意スルコト

(1) 毒瓦斯檢知ハ適切ナル防毒處置ヲ講ズルニ肝要ナルヲ

以テ迅速且正確ニ行フコト

(3) 嗅覺及視察ニ依リ毒瓦斯ヲ檢知センガ爲ニハ平素試臭器、模型等ニ依リ各種毒瓦斯ノ特臭、形態、色相等ヲ知得シ之ガ識別ニ慣熟シ置クコト

(3) 嗅覺ハ稀薄ナル毒瓦斯ヲモ感知シ得ル最モ重要ナル檢知手段ニシテ一時性毒瓦斯ハ主トシテ嗅覺ノミニ依リ檢知スルヲ通常トスルコト

嗅覺ニ依ル檢知ハ之ヲ連續繰返ストキハ痲痺シテ漸次無覺トナリ臭氣ヲ感知シ難キニ至ルコトアルヲ以テ連續實施ヲ避ケ又ハ數人相互ニ行フ如ク注意スルコト

防毒面ヲ裝着セル場合ノ嗅覺檢知要領ハ食指ヲ覆面ト頰トノ間ニ挿入シ又ハ覆面ノ頸部ヲ脱シテ口ヲ閉ジ吸氣ヲ短ク且淺ク行ヒテ臭氣ヲ檢知シ然ル後覆面ノ頸部ヲ舊ニ復シ呼氣ヲ行ヒ覆面内ノ含毒空氣ヲ排出セシムルコト

(4) 視察檢知ヲ行フ場合ハ板、襷面等ノ汚點、變色或ハ樹葉ノ變色等ニ注意スルコト

(5) 器材ニ依ル檢知ハ毒瓦斯ノ種類ノ判別、被毒セル地域及物料ノ確認等之ヲ化學的ニ判定シ得ル手段ニシテ通常持久性毒瓦斯ニ對シ行フコト

器材檢知ヲ行フ場合ハ當該器材ノ使用方法ヲ熟知シ置クコト

(ハ) 檢知員毒瓦斯ヲ檢知シタルトキハ其ノ種類、被毒ノ範圍程度、被毒物料ノ種類等ヲ防毒部(班)長又ハ警戒係長ニ報告スルコト、但シ急ヲ要スルヲ以テ分明シタル事項ノ概要ノミニテモ逐次報告スルコト

一、毒瓦斯警報

(イ) 毒瓦斯警報(同解除ヲ含ム以下之ニ同ジ)ハ概ネ警察官吏、警防團長、同副團長、同分團長、防毒部(班)長又ハ警戒係長所要ノ區域ニ對シ之ヲ發スルコト

他ノ警察署又ハ警防團ノ區域ニ對シ毒瓦斯警報ヲ發スルノ要アリト認メタルトキハ當該警察官吏又ハ防毒部(班)長ニ傳達シ毒瓦斯警報ノ發令ヲ依頼スルコト

(ロ) 警報員毒瓦斯警報ヲ受領シタルトキハ防空警報傳達員ト協力シ速ニ所命ノ範圍ニ警報ヲ傳達スルコト

(ハ) 毒瓦斯警報ノ信號方法ハ左ノ如ク區別シ豫メ一般ニ周知セシメ置クコト

一時性毒瓦斯ナル場合又ハ一時性、持久性ノ區別判明セザル場合……太鼓又ハ柏子木ヲ亂打シツツ成ルベク口頭ニテモ其ノ旨傳達ス

持久性毒瓦斯ナル場合……太鼓又ハ柏子木ヲ三點班打シツツ成ルベク口頭ニテモ其ノ旨傳達ス

毒瓦斯警報ノ解除ハ其ノ旨口頭ニテ傳達スルコト

(三) 被毒地域ノ交通整理

毒瓦斯警報發令地域ハ適宜交通制限ヲ行ヒ特ニ持久性毒瓦斯ノ被毒箇所ニ對シテハ檢知員ハ速ニ左ノ如ク標示シ立入ヲ禁止スルコト

(標示方法ノ例)

繩張リ等ヲ以テ區劃シ赤旗ヲ立テ夜間ハ障碍注意燈ヲ用フルコト

(四) 毒瓦斯避難者ノ誘導

(イ) 警戒員ハ關係機關ト協力シ毒瓦斯警報發令地域内ノ避難者ノ誘導ニ當ルコト

(ロ) 避難誘導ニ當リテハ風向、地勢、建物等ヲ考慮シ方向ヲ定メ誘導スルコト

(五) 毒瓦斯消毒

(イ) 防毒部(班)長又ハ警戒係長檢知員ヨリ毒瓦斯ノ通報ヲ受領シタルトキハ必要ニ應ジ直ニ消毒係員ヲシテ消毒ヲ行ハシムルコト

(ロ) 一時性毒瓦斯ハ容易ニ擴散スルヲ以テ通常消毒ノ必要ナキモ持久性毒瓦斯ハ其ノ效力持續スルヲ以テ特ニ重要ナル道路、建物等ノ所要箇所ハ速ニ消毒ヲ行フコト

(ハ) 持久性毒瓦斯ノ消毒ニ當リテハ左ニ留意シ左表ニ依リ適切ナル消毒法ヲ選定シ實施スルコト

(1) 急ヲ要スル場合ハ先ヅ應急ノ處置ヲ施シタル後必要ニ應ジ完全ナル消毒ヲ行フコト

(2) 被毒輕微ナル場合又ハ危害發生ノ虞少キ場合ハ自然放置又ハ日乾、水洗ノ如キ簡易ナル消毒ヲ行フコト

(3) 消毒資材特ニ晒粉ノ使用節約ニ努メ成ルベク日乾消毒、水洗消毒、掩覆等ヲ應用スルコト

(例)

1 日射良好、温度高キトキハ日乾消毒

2 水利便ナルトキハ水洗消毒

3 土壌、板、莚等ノ掩覆材料ノ利用

4 被毒箇所ノ除土、除雪

(4) 被毒物料ノ性質ヲ考慮シ消毒ニ因ル損傷ヲ防止輕減スルコト

(5) 被毒物料ノ毒瓦斯浸透ノ難易、被毒ノ程度及經過時間ヲ考慮シ之ニ適應スル消毒法ヲ選定スルコト

(6) 身體ニ直接觸レ又ハ觸ルル虞アル物ハ必ズ完全ナル消毒ヲ行フコト

(7) 被毒甚シク消毒困難ニシテ危害ノ虞多キモノハ狀況ニ依リテハ燒却スルコト

此ノ場合燒却時發散スル毒瓦斯ニ注意スルコト

區分	應急處置	爾後處置（完全消毒）
人體 皮膚	紙又ハ布片デ被毒部ヲ抑ヘ毒液ヲ吸取リタル後晒粉ヲ末、晒粉泥又ハ一クロラミン液（一〇—二〇%）ニテ拭淨又ハ洗滌スルコト（五分間以内ニ行フコト）	石鹸ヲ用ヰ温湯ニテ洗滌シ醫師ノ治療ヲ受クルコト
人體 眼	洗眼スルコト（即刻）	醫師ノ治療ヲ受クルコト
衣服 被服	速ニ脱衣スルカ又ハ晒粉ニテ消毒スルコト（但シ地質ヲ損傷ス）	一、熱湯ニ入レ又ハ煮沸シテ消毒スルコト 二、減菌釜等ニ依ツテ蒸氣消毒スルコト（多數集積シテ消毒シテ差支ヘナシ） 三、被毒輕微ニシテ且急ヲ要セザルトキハ日乾消毒ニ依ルコト 四、被毒甚シキモノハ燒却スルコト
衣服 靴（革製）	晒粉ニテ消毒スルコト（但シ地質ヲ損傷ス）	撫氏七〇度以下ニテ加熱消毒スルコト（長時間ヲ要ス）
衣服 防毒面 防毒衣	拭淨及晒粉消毒ヲ行フコト	晒粉乳劑ニテ消毒シタル後日乾スルコト
家屋	一、直ニ立入禁止スルコト 二、外面ヲ水洗スルコト（被毒後未ダ毒物ガ滲透セザル時期ニ行フコト）	晒粉乳劑又ハ晒粉泥ニテ消毒スルコト 急ヲ要セザルモノハ日乾消毒ニ依ルコト
道路及空地 裸地 砂利道 草地	直ニ交通及立入ヲ禁止スルコト	一、晒粉ヲ撒布シテ土ト混和スルコト 二、急ヲ要セザルモノハ自然ニ放置スルコト
道路及空地 鋪裝道路	即刻通過ヲ要スルトキハ	一、晒粉乳劑ニテ消毒スルコト 二、急ヲ要セザルモノハ水洗後自然ニ放置スルコト
器具機械	一、布片ニテ毒液ヲ拭ヒ取ルコト（被毒後未ダ毒物ガ滲透セザル時期ニ行フコト） 二、「ガソリン」、石油等ヲ浸シタル布ニテ拭淨スルコト 三、晒粉デ消毒スルコト（但シ材質ニ依リテハ相當損傷ス）	一、先ヅ布片デ毒液ヲ拭ヒ取リタル後「ガソリン」、石油等ヲ浸シタル布デ拭ワカ又ハ「ガソリン」、石油等ニテ數回繰返ヘシテ洗フコト 二、熱湯消毒、煮沸消毒又ハ蒸氣消毒ヲ行フコト 三、差支ヘナキモノハ局部的ニ火デ焙ルコト 四、不用又ハ再使用困難ノモノ及被毒甚シキモノハ燒却スルコト 五、晒粉ニ浸サレサルモノハ晒粉乳劑ニテ消毒スルコト 六、急ヲ要セザルモノハ日乾消毒スルコト

消毒法ノ種類	實施要領	主要用途	注意事項
自然放置	瓦斯ノ臭氣ヲ感ゼザルニ至ル迄開閉地ニ於テ日乾又ハ風乾スルコト所要時間ハ氣溫、天候及被毒物料ノ種類並被毒程度ニ依リ大差アルモ其ノ標準概ネ左ノ通ナルコト 暑熱時 一——二日 溫暖時 數日 寒冷時 一週間以上	一、被毒急ヲ要セザル物料 二、交通、立入ヲ一時禁止スルモ差支ヘナキ道路、空地、建物外面等 三、他ノ消毒處置實施後ノ補助ノ手段	一、被毒ノ程度大ナル爲又ハ諸種ノ狀況ニ依リ消毒ニ甚シク長時間ヲ要スル爲本消毒法ハ不適當ナル場合アルコト（斯ル場合物料ニ依リテハ自然放置消毒ハ地質ヲ損傷スルコトアルヲ以テ注意ヲ要ス） 二、成ル可ク通風良好ナル場所ニテ日乾スルコト 三、一旦臭氣ヲ感ゼザルニ至リタルモノモ溫度上昇スルトキハ再ビ毒瓦斯ヲ發散スルコトアルヲ以テ注意スルコト
加熱消毒	加熱シテ液狀毒瓦斯ノ發散ヲ迅速ナラシム所要時間ハ加熱ノ狀況及被毒物料ノ種類並ニ被毒ノ程度ニ依リ大差アルモ其ノ標準概ネ左ノ通ナルコト 攝氏五〇—七〇ニテ二—六時間 局部的ニ焙ル約三〇分—被毒物料ヲ燒却	一、上記程度ノ加熱ニ耐フル物料（革製品ハ絶對ニ七〇度ヲ超ヘザルコト） 二、金屬製工具類 一、不用又ハ再使用困難ナルモノ	一、發生スル蒸氣ニ觸レ又ハ之ヲ吸入セザルコト通風良好ニシテ附近ニ人無キ場所ヲ選ビ作業員ハ風上ニ位置シ實施スルコト 二、焙リ又ハ燒却セントスル場合ハ火力ヲ强クシ毒物ヲ充分燃燒セシムルコト（石油等ヲ注グヲ有利トスル）コトアリ
乾布、拭淨消毒	表面ノ毒液ヲ乾布ヲ以テ拭ヒ取ルコト （滲透量ヲ減ジ爾後ノ消毒ヲ容易ナラシム）	一、被毒後未ダ毒液ガ滲ミ込マザル時期特ニ金屬燦料「タイル」、堅木等ノ如ク毒液ノ滲透ヲ少キ物料 二、他ノ消毒處置實施前ノ豫備ノ手段	一、毒液量少キカ又ハ既ニ内部滲透シテ表面ニ液滴ヲ存セザルトキハ效果ナキコト 二、乾布拭淨ノミニテハ多クノ場合消毒尙不完全ナルコト 三、拭淨シタル布片ハ燒却又ハ埋沒スルコト 四、布片ナキトキハ土砂等ヲ用フルコト
ガソリン消毒	「ガソリン」ヲ浸シタル布ヲ以テ拭淨シ毒液ヲ溶解除去スルコト 小器材類ハ「ガソリン」中ニ浸シ數回洗滌スルモ可ナルコト	一、前項一ニ同ジ 二、油、「グリース」等ニテ汚レタル機械、工具等	一、不注意ニ被毒部ヲ擴大セザル如ク實施スルコト 二、拭淨シタル布片及「ガソリン」ハ燒却スルコト 三、石油其ノ他ノ有機溶劑ニテモ可ナルコト

水洗消毒	水ヲ表面ニ流シ又ハ刷毛ニテ擦リ毒液ヲ洗ヒ去ルコト	一、前項一ニ同ジ 二、鋪装道路、建物外面等 三、他ノ消毒處置實施前ノ豫備手段	一、毒液量少キカ又ハ既ニ内部ニ滲透シテ表面ニ液滴ヲ存セザルトキハ效果ナキコト 二、水洗ノミニテハ多クノ場合消毒尙不完全ナルコト 三、洗滌水ノ排水溝ハ更ニ消毒スルコト	晒粉消毒	晒粉泥又ハ乳剤消毒	晒粉泥状又ハ乳剤トシテ被毒表面ニ擦リ付ケ成ルベク長ク（數時間）其ノ儘放置シタル後洗ヒ流スコト
晒粉末消毒	晒粉末ノ儘表面ニ撒布シ其儘放置スルコト所要量ハ被毒ノ程度ニ依リ異ルモ概ネ一平方米二〇〇〇瓦ヲ基準トシ被毒甚シキトキハ一平方米五〇〇〇瓦―一、〇〇〇瓦ノ場合ニ使用スルコト 鋪装道路及器材ノ場合ニハ表面ヲ充分擦リ毒液トノ接觸ヲ良好ナラシムルコト	一、即刻毒瓦斯ノ發散ヲ防止スルヲ要スル裸地、短草地 二、毒液深ク滲透シタル「アスファルト」鋪装又ハ「ピッチ」固メ木煉瓦道路 三、即刻表面消毒ヲ必要トスル器材	熱湯又ハ煮沸消毒	熱湯中ニ浸シ又ハ煮沸シテ毒液ヲ加水分解セシムルコト 所要時間ノ標準概ネ左ノ通ナルコト 摂氏七〇―九〇度ニテ三〇分―一時間 煮沸ノ場合一五分―三〇分間	被服、織布、金屬、「ガラス」製品等 （革製品ヲ除ク）	一、被毒ノ程度著シク大ナルトキハ成ルベク煮沸スルカ數回熱湯ヲ更新スルコト 二、被毒物料ノ種類ニ依リ熱湯ヲ其ノ表面ニ灌注スルコトアルモ此ノ場合ハ多量ノ熱湯ヲ使用スルコト
蒸氣消毒	蒸氣釜ニ入レ生蒸氣ヲ三〇分間通スルコト	一、土壌ヲ以テ約五糎以上ノ厚サニ掩覆スルコト 掩覆土上ニ更ニ粉末晒粉ヲ撒布スレバ毒瓦斯ノ發散ヲ防止シ得ルコト	多數ノ被服等ヲ集積消毒スル場合（革製品ヲ除ク）	一、即刻通過スルヲ要スル裸地 二、短草地、鋪装道路ニ對シ晒粉水等ヲ得ラレザル場合	一、減菌釜等ヲ利用スルコト 二、被毒甚シキトキハ綿、麻ハ地質ヲ損傷サレ易キコト	一、狀況ニ依リ雪、板、蓆、藁等ヲモ利用スルコト 二、毒瓦斯ノ發散ニ對シ防護スルコト 三、掩覆ニ使用シ被毒セル器具ハ消毒スルコト

三、防毒機關ノ毒瓦斯ニ對スル身體ノ防護

（一）一時性毒瓦斯ノ場合

必ズ防毒面ヲ裝着スルコト

（二）持久性毒瓦斯ノ場合

（イ）防毒面及防毒服ヲ裝着スルコト、但シ特別ノ場合ハ頭巾若ハ防毒上衣ヲ脱シ又ハ防毒手袋及防毒靴ヲ各別ニ使用シ又ハ併用スルモ差支ヘナキコト

（ロ）稀薄ナル氣狀ノ持久性毒瓦斯ニ對シ短時間ノ防護ヲ爲スニハ通常防毒面ノミニテ足リ又液狀ノ持久性毒瓦斯ノ停溜少キ鋪装道路等ヲ單ニ通過スル場合ノ如キハ防毒面ノ外防毒靴ヲ使用シ又ハ「ゴム」靴、高下駄、「ゴム」底履物等ヲ使用シ通過後ハ消毒シ置クコト

第五　防毒具取扱要領

一、防毒面、酸素呼吸器、防毒衣、防毒手袋、防毒靴及防毒遮函ニハ内務省防空研究所又ハ陸軍科學研究所ノ檢定證印アルヲ以テ購入上注意スルコト

二、防毒面吸收罐ハ其ノ性能ニ依リ標識色及記號ヲ異ニシ防空用吸收罐ハ標識色樺色記號「ヨ」ナルコト

火災等ノ場合ニ發生スル一酸化炭素又ハ特殊化學工場ノ災害等ニ發生スル特殊ノ有毒瓦斯ニ對シテハ之ニ適應スル吸收罐ヲ用フルコト

三、防毒面ノ取扱ニ付テハ左ニ留意スルコト

（一）携帶法

（イ）隔離式防毒面ノ携帶法ハ通常左ニ依ルコト

(1) 携帶姿勢ハ平常ノ場合ノ携帶法ニシテ負紐ヲ右肩ヨリ左腋下（狀況ニ依リテハ左肩ヨリ右腋下）ニ懸ケ胴紐ハ携帶袋ノ周圍ニ纏ヒ必要アル場合ハ腰帶ニ結着スルコト

(2) 待機姿勢　毒瓦斯攻撃ヲ受クル虞アル場合ノ携帶法ニシテ必要ニ際シ直ニ覆面ヲ取出シ裝着シ得ル如ク負紐ヲ頸ニ懸ケ其ノ長サヲ適度ニ短縮シテ携帶袋ヲ胸前ニ在ラシメ且胴紐ヲ腹帶ニ結着スルコト

携帶袋ノ高サハ覆面シタル際連結管ノ長サニ餘裕ヲ存シ頸部ノ運動ヲ妨ゲザル程度ニシ且袋ノ下部ヲ概ネ臍部附近ニ在ラシムルコト

（ロ）直結式防毒面ノ携帶法ハ携帶姿勢及待機姿勢共ニ負紐ヲ右肩ヨリ左腋下（狀況ニ依リテハ左肩ヨリ右腋下）ニ懸クルコト

（ハ）防毒面ヲ携帶スル場合ハ濠メ覆面ノ最下部ノ締紐（以下單ニ締紐丙ト稱ス）ヲ緩メ最上部ノ締紐（以下單ニ締紐甲ト稱ス）及中間部ノ締紐（以下單ニ締紐乙ト稱ス）ハ顏面ニ適合スル如ク調節シ置キ且呼氣鼻ノ機能ノ完否等所要ノ點檢ヲ行ヒ裝面ニ當リ支障ナキ樣準備スルコト、尙待機姿勢ノ場合ニ於テハ通常吸收罐「ゴム」底栓ヲ脱シ置クコト

（二）裝着方法

裝面ハ通常停止シテ行ヒ待機姿勢ヨリ裝面スルニハ左ノ順序、方法ニ依ルコト

（イ）呼吸ヲ止メ、眼ヲ閉ヂ、着帽セル場合ハ脱帽スルカ又ハ頸紐ヲ懸ケタル儘後方ニ脱スルコト

（ロ）携帶袋ノ蓋ヲ開キ左手ヲ以テ携帶袋ノ底ヲ握リ右手ヲ以テ呼吸器室ヲ握リテ覆面（直結式ニ於テハ防毒面）ヲ取出スコト

（ハ）覆面ヲ擴ゲ兩手ヲ以テ兩側ノ締紐乙及丙ヲ握リ兩拳ノ内

方間隔ヲ略々顎幅ニ等シカラシメ顎ヲ稍々前方ニ出シ同時ニ覆面ヲ顎ニ著ケ顎ヨリ裝シ此ノ部ヲ支點トシテ兩手ニテ締紐ヲ上後方ニ引張リツツ頭部ニ被リ締紐ヲ放チタル後締紐丙ノ端末ヲ後上方ニ引キテ之ヲ締メ締紐ノ工合ヲ修正シテ其ノ緊度ヲ適當ニスルコト

(ニ)裝着ヲ終リタルトキハ呼氣ヲ行ヒ覆面內ニ在ル毒瓦斯ヲ呼出シ、隔離式ニ在リテハ連結管ヲ强ク握リ之ヲ閉塞シタル後吸氣ヲ行ヒ其ノ吸氣ノ逼迫ニ依リ裝面ノ氣密ヲ點檢シ覆面ノ顎面ニ膚接スル工合ヲ修正スルコト

裝面確實ナルトキハ顎ハ覆面內ニ良ク嵌入シ眼ハ眼鏡ノ中央ニ在リ各締紐ハ何レモ正位置ニ在リテ平等ニ緊張シ、つむじ板ハ概ネ後頭部ノ中央ニ位置シ且覆面ノ周緣ハ毫モ空隙ヲ生ズルコトナク顎面ニ密着シ其ノ締度ハ容易ニ一指ヲ挿入シ得ル程度トシ締メ過ギザルコト

(ホ)裝面ヲ終リタル後ハ帽子アル場合ハ着帽シ携帶袋ノ蓋ヲ閉グルコト

(三)脫面方法

(イ)脫面ニ際シテハ嗅覺檢知ヲ行ヒ毒瓦斯ノ有無ニ注意スルコト

(ロ)着帽セル場合ハ之ヲ脫シタル後携帶袋ノ蓋ヲ開クコト

(ハ)覆面ノ締紐丙ヲ充分緩メ左手ヲつむじ板ノ附近ニ當テ右手ヲ以テ呼吸器室ヲ握リ之ヲ前上方ニ引張リ顎ヨリ脫シ兩手ヲ以テ脫面シ次ニつむじ板ヲ覆面ノ三叉點上ニ重ネ締紐ヲ其ノ上ニシ兩手ヲ以テ頰部ヲ僅ニ內方ニ折返シテ重ネタル後覆面ノ內側ヲ自己ノ方向ニシテ携帶袋ニ挿入シ(直結式ニ於テハ吸收罐ヲ携帶袋ノ底ニ置ク如ク正シク收納ス)其ノ蓋ヲ閉グルコト

(ニ)覆面ヲ携帶袋ニ入ルル場合ハ覆面ノ皺又ハ變形ヲ來シテ氣密ノ不良若ハ裝着ノ不工合等ノ原因ヲ生ゼザル樣注意シ且眼面シタルトキハ成ルベク乾キタル布片ヲ以テ其ノ內部特ニ呼吸器室等ヲ能ク拭淨シタル後收納スルコト

此ノ場合呼氣鼾ノ變形ヲ來シ又ハ嵌裝ヲ不工合ナラシメザル樣注意スルコト

(ホ)防毒面ノ使用ヲ終リタルトキハ吸收罐ノ底孔ヲ底栓ニテ密塞スルコト

(四)防毒面ノ裝着訓練

(イ)裝面ハ待機委勢ヨリ十秒以內、携帶委勢ヨリ二十秒以內ニ確實ニ實施シ得ル樣訓練スルコト、特ニ夜間ニ於テモ晝間ト同樣ニ裝面シ得ル樣習熟スルコト

(ロ)防空業務ニ從事スル者ハ勿論一般ノ者ト雖モ長時間ノ裝面及裝面シテ行フ活動ニ慣熟スルコト

(ハ)裝面ハ音聲ノ傳達ヲ不良ニシ視界ヲ狹少ニシ諸動作ヲ不便ナラシムルヲ以テ裝面シテ行フ指揮連絡其ノ他ノ動作ニ特ニ訓練スルコト

(ニ)裝面ノ訓練ハ左記目的ノ爲ニハ成ルベク瓦斯室內ニテ之ヲ行フコト

(1) 防毒面ノ氣密ノ點檢

(2) 裝面ノ確否ノ點檢及締紐ノ適否ノ體得

(3) 毒瓦斯內ノ裝面及行動ノ慣熟

(4) 防毒面ノ效果ノ信賴

瓦斯室ハ毒瓦斯ノ漏洩セザル樣處置ヲ施シ其ノ廣サ數名自由ニ運動シ得ル程度トシ天幕、小屋又ハ空室等ヲ利用スルコト

毒瓦斯トシテハ通常催淚線香、催淚筒等ノ催淚毒瓦斯ヲ使用スルコト

(ホ)裝面ノ場合殊ニ裝面シテ行フ活動ニ際シテハ成ルベク整、齊緩除ナル呼吸ヲ行ヒ又ハ逼迫セル呼吸ヲ調整スル樣訓練スルコト

(五)使用上ノ注意

(イ)裝面セル場合ニ於ケル過度ノ運動ハ往々喝病(日射病、熱射病及其ノ類似疾患ノ總稱以下之ニ同ジ)ノ如キ症狀ヲ呈シ夏季ハ特ニ甚シキヲ以テ脈搏數概ネ一五〇—一六〇程度ヲ運動續續ノ限度ト爲シ適宜休憩ヲ行フカ又ハ緩除ナル運動ヲ交ヘ疲勞ノ增加ヲ小ナラシムルコト

(ロ)裝面時ニ裝面ノ不完全、吸收罐ノ故障等ノ爲毒瓦斯漏入シ刺戟ヲ感ズルコトアルモ(殊ニ「クシヤミ」瓦斯ニ對シ)周章狼狽シテ脫面スルコトナク其ノ儘沈着平靜ニ呼吸ヲ續ケ所要ノ裝面修正ヲ行フコト

(ハ)防毒面ハ「ゴム」ヲ主材料トセルヲ以テ火氣ヘノ接近、油類ニ依ル汚染又ハ不必要ナル脈縮伸張ヲ避クルコト、

(ニ)防毒面吸收罐ハ吸水ニ依リ效力ヲ失フヲ以テ雨、雪其ノ他ニ依ル吸收罐內ヘノ浸水ヲ充分注意スルコト

(ホ)防毒面濕潤セル場合ハ乾燥セル布片ヲ以テ之ヲ拭淨シ各部ノ水分ヲ充分除去シタル後「ゴム」部ハ空氣ノ流通良好ナル場所ニ蔭乾シ尙携帶袋濕潤セル場合ハ日乾スルコト

(ヘ)寒地ニ於テハ防毒面眼鏡ノ曇ルコトアルヲ以テ其ノ內側ニ曇止劑又ハ石鹼等ヲ塗布シ又極寒期ニハ曇止板ヲ嵌裝併用シテ之ヲ防止スルコト、又極寒期ニ於テハ汗、唾液等ノ水分ニヨリ呼氣鼾凍結シ其ノ作用不鋭敏トナルコトアルヲ以テ豫メ呼氣鼾ノ內面ニ不凍液又ハ「グリセリン」等ヲ塗布シ使用後モ速カニ乾布ニテ拭淨シ水分ヲ除去シ置クコト

(ト)覆面顏部ニ密着セザル場合ハ覆面ニ豫メこめかみ「ゴム」ヲ貼布シ置クコト

(チ)眼鏡ヲ使用スル者ハ防毒面用眼鏡ヲ用フルコト

(リ)携帶袋ニハ所定外ノ物品ヲ入レザルコト

(ヌ)防毒面ノ覆面ヲ衞生上消毒スルニハ「アルコール」(六〇—七〇%)又ハ「クレゾール」水ヲ浸セル布片ヲ以テ摩擦拭淨シ又呼氣鼾部ノ唾液等ニ依ル汚染ハ「アルコール」ヲ浸セル布片ニテ拭淨スルコト

(六)保存上ノ注意

(イ)常用ノモノニ在リテハ各部ノ手入後携帶袋ニ入レ日光ノ直射セザル乾燥セル場所ニ負紐ニ依リ懸吊シ置クコト

(ロ)相當期間格納スルモノニ在リテハ各部手入後吸收罐ノ連結管又ハ覆面ヨリ脫シ之ニ底栓及「ゴム」製、「コルク」製又ハ金屬製ノ蓋栓(「コルク」栓ハ「パラフイン」ニ浸スヲ可トス)ヲ施シテ防濕シ覆面ハ內面ニ保形紙器又ハ拳大ノ紙塊ヲ入レタル後携帶袋ニ入レ日光ノ直射セザル乾燥セル場所ニ重疊セザル樣密閉格納スルコト

四、防毒服ノ取扱ニ付テハ左ニ留意スルコト

(一)裝脫方法

(イ)防毒服ハ防毒袴—防毒靴—防毒上衣(頭巾ヲ除ク)—(防毒面)—頭巾—防毒手袋ノ順序ニ依リ成ルベク衣服ノ

上ヨリ裝着シ暑熱時衣服ヲ脱スル場合ト雖モ少クトモ襦衣、「ズボン」下及靴下ノ類ハ必ズ之ヲ着用スルコト

(ロ) 防毒服ヲ脱スルニハ概ネ裝着ト反對ノ順序ニ行フコト

(二) 使用上ノ注意

(イ) 防毒服ヲ裝着スルトキハ發汗、心身ノ疲勞等ヲ來スヲ以テ之ヲ裝用シテ行フ運動ニ慣熟スルコト

(ロ) 防毒面ト防毒服トヲ併用シタル場合ニ於ケル過度ノ運動ハ往々喘病ノ如キ症狀ヲ呈シ夏季ハ特ニ甚シキヲ以テ脈搏ニ留意シ脈搏數概ネ一五〇—一六〇程度ヲ運動繼續ノ限度ト爲シ適宜休憩ヲ行フカ又ハ緩徐ナル運動ヲ交ヘ疲勞ノ增加ヲ小ナラシムルコト

(ハ) 炎熱下ニ在リテハ防毒服熱シ爲ニ身體ノ疲勞著シク增大スルヲ以テ成ルベク防毒服ノ上ヨリ屢々水ヲ注ゲカ又ハ適宜ノ物料ヲ利用シ日覆トナシ之ニ水ヲ注ギ使用スルコト

(ニ) 防毒面ヲ裝着セル場合ニ於テモ不必要ニ毒液ニ觸ルルコトヲ避クルコト

(ホ) 被毒セル防毒服ハ左ニ依ル消毒ヲ行フコト

(1) 防毒衣ハ被毒箇所ニ晒粉粉末ヲ撒布シ布ニテ充分摩擦シタル後濕布拭淨ニ依リ晒粉ヲ除去シ裏面ハ濕布（衞生上消毒ノ必要アル場合ハ「アルコール」ニテ拭淨スルヲ可トス）次デ乾布ニテ拭淨シ表裏兩面ヲ日乾スルコト

(2) 防毒靴ハ晒粉粉末ニテ摩擦消毒（被毒甚シキトキハ晒粉乳劑ニ——晒粉一、水一ノ程度——三十分以上浸漬消毒）シタル後水洗シ乾布ニテ拭淨シ（內面濕潤セル場合ハ乾布ニテ拭淨ス）日乾スルコト

(3) 防毒手袋ハ晒粉乳劑ニテ摩擦消毒（被毒甚ダシキトキ

ハ晒粉乳劑ニ三十分以上浸漬消毒）シタル後水洗シ乾布ニテ拭淨シ表裏兩面ヲ日乾スルコト

(ヘ) 防毒服ノ保存上ノ注意ハ防毒面ニ準ズルコト

第六　飲食物其ノ他ノ物ノ防護要領

一、飲食物其ノ他ノ物ノ防護ハ通常持久性毒瓦斯ニ對シテ行フモノニシテ一時性毒瓦斯ニ對シテハ大ナル考慮ヲ要セザルコト

二、飲食物、被服、器具類等ニ付テハ豫メ左ノ如ク措置スルコト

(一)「セロハン」紙、油紙、「パラフイン」紙等ヲ以テ密塞包裝シ又ハ「ブリキ」罐、木箱等ノ容器若ハ戶棚等ニ密閉保存スルコト

(二) 飲用ニ供スル井戶等ニハ成ルベク完全ニ覆蓋ヲ施シ置クコト

(三) 毒瓦斯雨下ニ依ル被毒ヲ防止スル爲ニハ成ルベク屋蓋下ニ置クコト

三、持久性毒瓦斯ニ被毒シ又ハ被毒ノ疑アルモノハ左ノ如ク措置スルコト

(一) 飲食物ハ飲食用ニ供セザルヲ原則トスルモ已ムヲ得ザル場合ハ充分煮沸消毒（充分ニ水洗ス）ヲ行フコト、但シ「ルイサイト」等ノ如キ砒素ヲ含有スル毒瓦斯ハ假令煮沸等ノ消毒處置ヲ施スモ其ノ毒性ヲ失ハザルヲ以テ飲食用ニ用ヒザルコト

(二) 罐詰其ノ他包裝物ハ成ルベク日乾又ハ風乾消毒ヲ行ヒ狀況ニ依リテハ晒粉消毒ヲ行フコト屯ノ場合ニ於テハ消毒後晒粉ノ除去ニ注意スルコト

四、飲食物ハ一時性毒瓦斯ニ被毒スルモ濃厚ナルモノヲ被リタル場合ノ外ハ通常其ノ儘食用ニ供シ得ルコト、但シ瓦斯臭アル場合ハ煮沸又ハ日乾等ニ依ル消毒ヲ行フコト

退去、避難及待避指導要領

第一　總則

一、退去、避難及待避ハ主トシテ防空上ノ重要地域ニ於テ之ヲ行フコト

二、退去又ハ避難トハ危險ノ場所ヨリ退去シテ生命身體等ニ對スル危難ヲ避クルヲ謂ヒ、待避トハ自己ノ持場ヲ守リツツ生命身體等ニ對スル危難ヲ避クルヲ謂フコト

三、退去、避難又ハ待避ニ付テハ我國都市ノ狀況ニ照シ自衞防空ノ重要性、施設ノ現況ニ適應スル如ク豫メ周到ナル計畫ヲ樹立シ之ニ基キ指導スルヲ要スルコト、特ニ計畫施設ノ伴ハザル退去避難ノ害ヲ充分認識スルコト

四、退去、避難又ハ待避ニ際シテハ往々混亂ニ因リ甚大ナル災害ヲ生ジ又ハ流言蜚語等ニ迷ハサレ人心動搖スルヲ以テ指導者ノ指導統制力ヲ强化スルト共ニ指導者ノ指導ニ對シ絕對服從ノ觀念ヲ徹底セシムルコト

第二　退去及避難

一、退去及避難ノ原則

(一) 空襲時ニ於テハ一般住民ハ自衞防空ノ精神ニ依リ各々自己ノ持場ヲ守リ防空其ノ他ノ業務ニ從事スルヲ本則トスルコト

(二) 退去トハ特ニ認メラレタル者空襲ニ因ル危難ヲ避クル爲空襲危險區域外ノ地ニ退去スルヲ謂フコト

(三) 避難トハ

(イ) 特ニ認メラレタル者空襲ニ因ル危難ヲ避クル爲豫メ附近ノ防護室等ニ避難スルヲ謂ヒ（事前避難）

(ロ) 或ハ空襲ニ因ル火災、毒瓦斯等ノ被害發生ノ爲已ムヲ得ザル者空地其ノ他ノ地域ニ避難スルヲ謂フコト（緊急避難）

(四) 退去及事前避難ヲ認ムル者ハ左ノ各號ニ該當スル者ニ限ルコト

(イ) 老幼者、病者、不具者、妊婦等ニシテ防空活動困難ナル者

(ロ) 前號ニ掲グル者ノ保護ノ爲必要ナル者

(五) 退去及避難ニ付テハ平時ヨリ豫メ周到ナル計畫ヲ樹立シ置クコト

(六) 退去ノ時期ハ地方長官ノ指示ニ依ルコト

(七) 退去ハ空襲時其ノ他混亂ヲ惹起シ易キ時ヲ避クル等其ノ實施時期ノ選定ニ注意シ且逐次ニ之ヲ行ヒ戰時重要ナル交通機關ノ活動ヲ妨害セザル如ク指導スルコト

(八) 事前避難ハ計畫ニ基キ空襲警報ノ發令ト共ニ之ヲ開始シ空襲警報ノ解除迄之ヲ行フコト

(九) 退去及避難ハ地方長官又ハ警察署長ノ指導統制ニ從ヒ之ヲ行フコト

二、退去及避難ノ場所

(一) 退去ノ場所ハ私人ニ於テ其ノ緣故等ニ依リ自ラ選定スルヲ本則トシ自ラ選定シ得ザル者ノ爲ニハ地方長官又ハ市町村長之ヲ設置又ハ準備スルコト

(二) 事前避難ノ場所ニハ防護室、準防護室、堅固ナル建物、地下室、防空壕其ノ他此等ニ準ズルモノヲ以テ之ニ充テ前號ニ準ジ之ヲ設置又ハ準備スルコト

(三) 緊急避難ノ場所ニハ主トシテ公園、運動場、緑地其ノ他ノ空地ヲ以テ之ニ充ツルコト但シ事情ノ許ス限リ前號ニ掲グル場所

ヲ之ニ充ツルコト

(四) 市町村長ハ關係警察署長ト協議シ平時ヨリ左ノ事項ニ付調査計畫ヲ爲シ置クト共ニ所要ノ退去又ハ避難ノ場所ヲ設置又ハ準備シ置クコト

(イ) 退去者又ハ事前避難者ノ數

(ロ) 退去又ハ避難ノ場所及收容能力

(ハ) 退去又ハ避難ノ場所ノ割當(自ラ退去先ヲ選定シタル者ニ付テハ其ノ退去先)

(ニ) 退去又ハ避難ノ場所ノ管理

(ホ) 其ノ他必要ナル事項

(五) 地方長官又ハ市町村長ハ當該道府縣内又ハ市町村内ニ適當ナル退去ノ場所ナキトキ或ハ退去者ノ收容困難ナル場合ニ於テ他ノ道府縣又ハ市町村ヘ退去セシメントスルトキハ地方長官ハ關係地方長官ト、市町村長ハ關係市町村長及關係警察署長ト豫メ協議シ適當ナル退去ノ場所ヲ定メ置クコト

(六) 地方長官必要アリト認ムルトキハ防空法第五條及同施行令第三條ノ規定ニ依リ退去若ハ避難ノ場所ニ供用シ得ベキ施設ノ管理者又ハ所有者ニ對シ退去若ハ避難ニ必要ナル設備若ハ資材ノ整備ヲ爲サシメ又ハ退去若ハ避難ニ必要ナル設備若ハ資材ノ供用ヲ命ズルコトアルコト

市町村長ハ退去若ハ避難ノ場所ノ設置又ハ準備ノ爲必要アリト認ムルトキハ前項ノ措置ヲ地方長官ニ申請スルコトヲ得ルコト

三、退去及避難ノ方法

(一) 警察署長ハ地方長官ノ指示ニ基キ市町村長ト協議シ二、ノ(四)ノ調査計畫ニ應ジ左ノ各號ノ事項ニ付實情ニ即シタル具體的計畫ヲ定メ置クコト

(イ) 退去又ハ避難ノ場所ニ至ル交通機關、道路及豫備路線

(ロ) 退去者又ハ避難者ノ誘導、輸送及收容ノ方法

(ハ) 退去者又ハ避難者ノ誘導、收容及退去又ハ避難ノ場所ノ警備ニ必要ナル警察官吏若ハ警防團員ノ數及配置

(ニ) 其ノ他必要ナル事項

(二) 地方長官退去ヲ命令スル場合ハ警察署長ヲシテ退去者ニ對シ證明書ヲ交付セシメ退去ノ場所及之ニ至ル交通機關、通路其ノ他必要ナル事項ヲ具體的ニ指示セシムルコト

(三) 警察署長ハ警察官吏又ハ警防團員ヲシテ退去者又ハ避難者ノ誘導ニ當ラシムルコト

(四) 地方長官又ハ警察署長其ノ管内ノ退去者ヲ他ノ道府縣又ハ他ノ警察署管内ヘ退去セシムルトキハ關係地方長官又ハ警察署長效ニ輸送機關等ト協議シ置クコト

(五) 退去又ハ避難ニ際シテハ左ノ事項ニ留意スルコト

(イ) 誘導者ノ指示ニ從ヒ秩序整然ト行動スルト共ニ言動ヲ慎ミ他ニ迷惑ヲ與ヘザルコト

(ロ) 少量ノ重要物品及食料品ノ外他ノ物品ハ之ヲ携帶セザルコト

四、退去及避難ノ場所ノ管理

(一) 市町村長其ノ設置又ハ準備シタル退去又ハ避難ノ場所ノ管理ヲ爲スコト、但シ他ノ市町村ノ區域内ニ設置又ハ準備シタル退去ノ場所ノ管理ハ當該市町村長ニ委託スルコトヲ得ルコト

(二) 市町村長ハ警察署長ト協議シ警防團ニ指示シテ退去又ハ避難ノ場所ノ管理ヲ爲サシムルヲ得ルコト

(三) 退去又ハ避難ノ場所ニ充テラレタル施設ノ管理者又ハ所有者ハ防空實施ノ開始後何時ニテモ之ヲ使用シ得ル樣諸般ノ準備ヲ爲スコト

(四) 市町村長ハ適時警察署長ト協力シ其ノ設置又ハ準備シタル退去又ハ避難ノ場所及諸設備資材ノ準備狀況ヲ點檢シ退去者又ハ避難者ノ收容ニ遺憾ナキヲ期スルコト

(五) 市町村長ハ防空實施ノ開始後直ニ避難ノ場所ニ其ノ出入口ヲ標示(夜間ハ之ヲ明瞭ナラシムル手段ヲ講ズ)スルト共ニ避難者ノ見易キ場所ニ收容定員及注意事項ヲ掲出スルコト

(六) 市町村長ハ必要ニ應ジ退去者ニ給與スベキ物資ノ配給ニ付具體的ニ計畫シ置クコト

第三　待　避

一、待避ノ原則

(一) 待避ハ敵航空機視界若ハ聽音界ニ在ル間又ハ軍防空機關ノ戰鬪中投下彈其ノ他ニ因ル危難ヲ避クル爲防空機關ノ防護活動ヲ阻害セザル爲之ヲ行フコト

(二) 待避ハ一時的ニ行フモノニシテ危險去リトキ又ハ燒夷彈ノ落下等アリタルトキハ直ニ出動シテ自衞防空ニ任ズルコト

(三) 待避ハ一般國民ガ努メテ自發的ニ之ヲ行フヲ本旨トシ防空機關ト雖任務ニ支障ナキ限リ之ヲ行ヒ無益ノ損害ヲ避クルコト

(四) 待避ノ場所ニハ最寄ノ防護室、準防護室、堅固ナル建物、地下室、防空壕其ノ他之等ニ準ズル施設ヲ以テ之ヲ充ツルコト待避施設ナキトキト雖モ地形地物ヲ利用シ且努メテ低キ姿勢ヲ採リ被害ノ輕減ニ努ムルコト

二、待避施設

(一) 待避施設ハ各戸(家)ニ之ヲ設クルヲ原則トスルコト但シ狀況ニ依リテハ近隣共同シテ設クルモ妨ゲナキコト

(二) 市町村長ハ自家用待避施設ヲ設ケ得ザル者、屋外通行者等ノ待避ノ用ニ供スル爲必要ナル公共防空壕其ノ他ノ待避施設ヲ設クルコト

(三) 地方長官必要アリト認ムルトキハ防空法第五條及同施行令第三條ノ規定ニ依リ待避ニ供用シ得ベキ施設ノ管理者又ハ所有者ニ對シ待避ニ必要ナル設備若ハ資材ノ整備ヲ爲サシメ又ハ待避ニ必要ナル設備若ハ資材ノ供用ヲ命ズルコトアルコト

市町村長ハ待避場所ノ設置又ハ準備ノ爲必要アリト認ムルトキハ前項ノ措置ヲ地方長官ニ申請スルコトヲ得ルコト

(四) 工場、學校、劇場、市場等ノ施設ノ管理者又ハ所有者ハ從事者又ハ收容者ノ待避施設ヲ設クルコト

(五) 地方長官ハ平時ヨリ一般ニ對シ永久的待避施設ノ整備ヲ奬勵スルト共ニ戰時又ハ事變ニ際シ所要ノ待避施設ヲ完備シ得ル樣計畫準備セシムルコト

(六) 市町村長ハ防空實施ノ開始後直ニ公共用待避施設ニ其ノ出入口ヲ標示(夜間ハ之ヲ明瞭ナラシムル手段ヲ講ズ)スルト共ニ見易キ場所ニ收容定員及注意事項ヲ掲出スルコト

三、待避ノ方法

(一) 待避ハ防火其ノ他ノ積極的防護活動ニ便ナル樣最寄ノ待避施設ニ之ヲ行フコト

(二) 屋外通行者ハ最寄ノ公共用待避施設又ハ其ノ他ノ待避施設ニ待避スルコト

(三) 車輛ニ乘車中ノ者ハ通常下車シテ最寄ノ公共用待避施設又ハ其ノ他ノ待避施設ニ待避スルコト

車輛ハ道路ノ交叉點、曲角、隧道、橋梁等ヲ避ケ其ノ左側端ニ交通ノ妨害トナラザル如ク疎開停止スルコト

(四) 防毒設備ナキ待避施設ニ入ルトキハ成ルベク防毒面ヲ携帶ス

警防團救護指導要領

第一　警防團救護部（班）員心得

一、空襲時ニ於ケル救護部（班）員ノ沈着ニシテ有效適切ナル行動ハ啻ニ傷者救護上良成績ヲ齎スノミナラズ又市民ノ信頼ヲ博シテ其ノ精神ヲ平靜ナラシムル上ニ至大ノ好影響ヲ與フル所以ナルヲ以テ部（班）員ハ平素ヨリ其ノ業務ノ研究ニ努メ實務ニ習熟シテ有事ノ際ニ於ケル任務ノ完遂ヲ期スベキコト。

二、部（班）員ハ各種傷者ノ應急處置ニ熟達スルコトノ必要ナルハ勿論ナレドモ特ニ直接毒瓦斯圏内又ハ其ノ附近ニ於テ行動シ且被毒者ヲ取扱フ場合アルベキヲ以テ毒瓦斯ノ一般性狀、防毒竝ニ除消毒ノ方法ニ通曉シ置クコト。

三、空襲下ニ於テ各種傷者ニ適切ナル應急處置ヲ爲スコトハ相當困難ナル業務ナルヲ以テ成ルベク關係醫師ノ指示ヲ受ケ傷者ノ處置ニ誤ナキヲ期スルコト。但シ危急ノ際ニハ自ラノ判斷ヲ以テ時期ヲ逸セズ處置ヲ爲スコト。

第二　警防團救護部（班）ノ任務竝ニ裝備

一、警防團救護部（班）ハ空襲ニ因リ各種ノ傷者發生セル場合直ニ現場ニ急行シテ救護ノ業務ニ從ヒ人命ヲ救助スルヲ以テ其ノ任務トス。之ガ爲ニハ工作班、防毒班及防火班等ト密接ナル連絡ヲ保チテ行動シ且隣接救護部（班）相互ノ協力ニ努ムルコト。

二、警防團救護部（班）ノ裝備ハ概ネ次ノ通ナルコト。

繃帶　材料
副木

砂嚢
懐爐又ハ湯「タポン」、毛布
携帶用酸素吸入器
自動呼吸器
救急治療劑
一時瓦斯傷者治療用藥劑及器材
持久瓦斯除毒劑
防毒具
擔架
擔架用油布又ハ「ゴム」引布
傷者運搬用自動車
自轉車
携帶用燈火
更衣材料
其ノ他

第三　傷者救護ノ一般原則

一、被害現場ニ於ケル救護作業ハ傷者ノ收容竝ニ運搬ヲ爲スヲ以テ主眼トスルコト。

二、傷者ニシテ大出血アル者ハ直ニ應急止血ヲ爲シテ失血死ヲ防止スルコト。

應急止血ヲ終リタルトキハ可及的速ニ救護所ニ運搬シテ外科手術ヲ受ケシムルコト。

三、創傷、骨折、火傷及「ショック」等ノ傷者ニシテ救護所ニ送致スルヲ必要トシ且短時間内ニ運搬シ得ラルルトキハ繃帶、副木、藥劑等ノ使用ニ時間ヲ費スコトヲ避ケ無處置ノ儘速ニ救護所ニ送致スル

ヲ寧ロ可トス。但シ骨折傷者ノ運搬ニ際シテハ砂嚢等ヲ適當ニ使用シ傷者ノ運搬途中ニ於ケル疼痛ヲ輕減スル如ク工夫スルコト。

四、糜爛瓦斯ニ被毒セル者ニ對シテハ被毒者各自ニ應急除毒ヲ爲サシムルコト。

必要アル場合ハ更ニ除毒所（除毒所トハ共同浴場等ヲ改造シ多數ノ灌水裝置ヲ設ケタルモノヲ指ス）ニ誘導シテ洗身、含嗽、吸入、洗眼及更衣等ヲ行ハシムルコト。

五、窒息瓦斯傷者ハ擔送患者トシテ取扱ヒ運搬ニ際シテハ安靜ト保溫ニ留意シ傷者ノ自力ニ依ル動作ハ努メテ之ヲ禁ズルコト。

又窒息瓦斯ヲ吸入セル疑アル者ニ對シテハ一旦醫師ノ診察ヲ受ケシメタル後假令異常ヲ認メザル場合ト雖モ少クトモ數時間内安靜ヲ守ラシムルコト。

六、催涙瓦斯及「クシャミ」瓦斯傷者ハ原則トシテ救護所ニ送致スル必要ナキコト。

七、中毒瓦斯傷者ハ速ニ瓦斯圏外ニ搬出シ人工呼吸及酸素吸入ヲ爲スコト。

八、外傷ト重キ瓦斯傷ト合併セル場合ハ瓦斯傷ニ對スル處置ヲ先ニ爲スヲ原則トスルコト。但シ外傷重キ場合ハ此ノ限ニ在ラズ。

第四　救護法ノ要領

一、創傷

創傷大ナル者、特ニ内臓ニ著シキ傷害ヲ蒙リタル者ノ處置ハ困難ナルヲ以テ成ルベク關係醫師ノ指示ヲ受ケ適當ナル處置ヲ爲シ救護所ニ運搬スルコト。

已ムヲ得ザル場合ニハ消毒「ガーゼ」、昇汞「ガーゼ」等ヲ當テ繃帶ヲ施スコト。此ノ際手ヲ直接創口又ハ創面ニ觸レ或ハ彈片若ハ布片等ヲ拔取ル等ノコトヲ爲サザルコト。

創傷比較的小ナル場合ニハ次ノ諸法ニ依リ應急止血ヲ爲スヲ主眼トスルコト。

（イ）創傷壓迫繃帶法

創傷ニシテ小出血アルモノハ消毒「ガーゼ」、昇汞「ガーゼ」其ノ他清潔ナル「ガーゼ」ヲ以テ少時創口ヲ輕ク壓迫シテ止血シ繃帶ヲ施スコト。

出血稍多キ場合ニハ固ク繃帶ヲ施スコト。頭部、顏面ノ出血ハ此ノ方法ニテヨク止血シ得ラルルコト。

（ロ）手指壓迫法

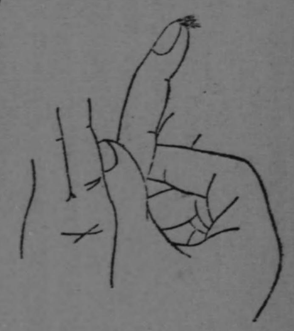
動脈ヨリノ大出血ハ直ニ生命ニ危險ヲ及ボスヲ以テ先ヅ手指ヲ以テ壓迫止血スルコト。

手指ヲ以テ止血スルニハ創口ヨリモ心臓ニ近キ部分ニ於テ動脈ヲ骨ニ向ヒ壓迫スルコト。

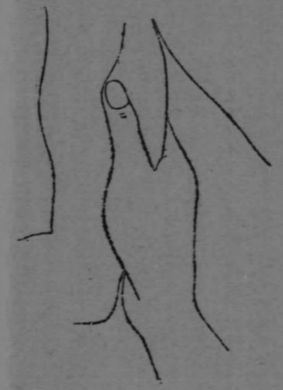
上肢又ハ下肢ヨリ出血スル場合ハ骨折ナキ限リ先ヅ其ノ部ヲ高クシタル後止血操作ヲ行フコト。

〔注意〕手指壓迫法ヲ練習スルニハ動脈淺在セル部分ニ於テハ脈搏ヲ觸ルルヲ以テ初メハ其ノ局所ヲ露出シテ行ヒ慣ルルニ從ヒ被服ノ上ヨリ行ヒ脫衣セシムル暇ナキ場合ノ止血法ヲ修得スルコト。

第一圖



第二圖



(1) 手指ヨリ出血スル場合

出血スル指ノ根部ノ兩側ニ撮指ト示指ノ腹ヲ當テ指背ヲ緊張スル如クシテ指動脈ヲ强ク壓迫スル事。（第一圖參照）

(2) 手又ハ前膊ヨリ出血スル場合

第二圖傷者ヲ仰臥セシメ術者ハ傷側ニ位置シテ傷者ニ向ヒ跪キ、傷肢ト反對側ノ手ヲ以テ傷肢ノ一端ヲ持チ上ゲ傷肢ト同側ノ手ノ掌ヲ傷肢上膊ニ內後方ヨリ當テ撮指ノ腹ヲ以テ力瘤ノ內側ヲ走ル上膊動脈ヲ强ク骨ニ向ヒ壓迫スルコト。

此ノ際前膊ニ於テ壓迫スルコトハ無效ナルニ付注意スルコト。（第二圖參照）

第三圖

第四圖

(3) 上膊又ハ腋窩ヨリ出血スル場合

傷者ヲ仰臥セシメ術者ハ傷側ニ位置シテ傷者ニ向ヒ跪キ傷側

ト反對側ノ手ノ撮指ヲ傷者ノ鎖骨下動脈ニ當テ他ノ四指ハ肩ニ廻ヒテ背部ニ當テタル上撮指ヲ鎖骨ノ內下方第一肋骨ニ向ヒ深ク押シ込ム如クシテ該動脈ヲ壓迫スルコト。（第三圖參照）

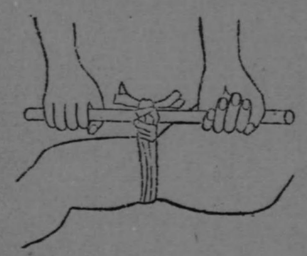
(1) 足、下腿又ハ大腿ヨリ出血スル場合

傷者ヲ仰臥セシメ術者ハ傷肢ノ反對側ニ位置シテ傷者ニ向ヒ跪キ鼠蹊部ノ中央ニ在ル股動脈ニ兩撮指ヲ重ネテ當テ自己ノ體重ヲ懸ケテ强ク壓迫スルコト。（第四圖參照）

（八）緊縛法

手指ヲ以テ動脈ヲ壓迫スル方法ハ長時間持續スルコト困難ナルヲ以テ稍々長時間ニ亘リ止血ノ必要アルトキハ次ノ(1)(2)ノ二法ノ何レカニヨリ緊縛ヲ爲スコト。

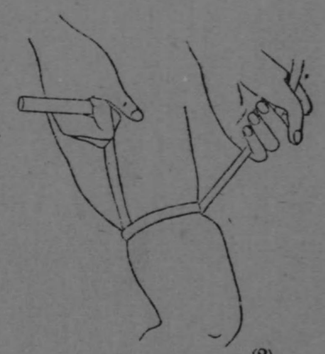
第五圖（大腿）



(1) 創口ヨリ上方ニテ上肢ナラバ上膊ヲ、下肢ナラバ大腿ヲ疊ミタル三角巾或ハ數枚重ネタル卷軸繃帶等ニテ卷キ緩ク兩端ヲ結ビ、之ニ棒ノ類ヲ挿シ込ミ引キ上ゲツツ廻シテ緊メ出血止ムニ至リテ挿シタル棒ノ端ヲ適宜留メ置クコト。（第五圖參照）

(2) 「ゴム」管ヲ以テ緊縛スルニハ指大ノ「ゴム」管ヲ撓メ引キ延シ置キ上肢ナラバ上膊ヲ、下肢ナラバ大腿ヲ二回程卷キ出血止ムニ至リ充分締メテ結ブコト。（第六圖參照）

第六圖（大腿）



(2)

〔注意〕

(1) 肢體緊縛ニ際シ締メ方緩ク動脈搏動ヲ有スルトキハ靜脈血ノ鬱滯ヲ來シ止血ノ目的ヲ達シ得ザルヲ以テ斯ル場合ハ締メ直シヲ必要トスルコト。

(2) 四肢ノ緊縛ハ末梢部ヲ壞疽ニ陷ラシメ肢體切斷手術ヲ行フノ已ムナキニ至ル危險ヲ伴フヲ以テ濫ニ行フコトナク極メテ大ナル出血ノ場合ニ限リ行フコト。（動脈出血ト雖モ自然ニ止血スル場合アリ）

(3) 緊縛其ノ他ノ方法ニ依リ應急止血ヲ爲シタルトキハ傷者ヲ可及的速ニ救護所ニ送リ必ズ二時間以內ニ外科手術ヲ受ケシムルコト。

之ガ爲ニハ救護所ニ於テ出血傷者タルコトヲ容易ニ識別シ得ル如ク適當ナル標識（例ヘバ赤キ布片）ヲ傷者ニ附シ傷者票

ニハ止血セル時刻ヲ記入スルコト。

(4) 繃帶ヲ爲サザル場合ハ手指ニテ壓迫シタル儘（場合ニ依リテハ傷者各自ニ爲サシム）救護所ニ運搬スルコト。

二、骨　折

(イ) 症　狀

上肢又ハ下肢等ノ骨折ニ於テハ其ノ部ノ周圍腫脹シ疼痛アリ。傷者ハ自ラ肢ヲ動カスコト能ハズ。該肢ノ一端ヲ持チテ之ヲ動カセバ甚シキ疼痛ヲ訴ヘ又骨折部ヲ壓スルモ疼痛ヲ訴フ。

(ロ) 傷者處置法

骨折ニ對シテハ疼痛ノ輕減及骨折部固定ノ目的ヲ以テ副木ヲ當ツルコト。此ノ際骨折箇所ノ上下ノ關節ヲモ併セ固定スルヲ原則トスルコト。

副木ニ正規ノモノ無キ場合ニハ棒ノ類、「ボール」紙、板切レ等ヲ用フルモ可ナルコト。

副木ノ使用ニ當リテハ豫メ綿又ハ柔キ布ニテ之ヲ卷キ出來得レバ二個ヲ用ヒ患部ノ內外兩側ニ當ツルヲ例トスルモ外側ノミニテモ可ナルコト。副木ヲ當テタル後上ヨリ繃帶ヲ强キニ過ギザル程度ニ卷クコト。

〔注意〕

(1) 骨折アリヤ否ヤ明カナラザル場合ニ於テモ疼痛ヲ訴フルトキハ骨折アルモノトシテ取扱フコト。

(2) 骨折アル場合ハ其ノ部ノ皮膚ニ創アルヤ否ヤニ注意シ創傷アル場合ハ先ヅ昇汞「ガーゼ」、「アクリノールガーゼ」又ハ滅菌「ガーゼ」等ヲ局所ニ當テテ繃帶ヲ施シタル後骨折ノ處置ヲ爲スコト。

(1) 上肢ノ骨折

上肢ノ骨折ニ於テハ一般ニ肘關節ヲ約九〇度ニ屈シ掌ヲ上方ニ向ケ副木ヲ當テテ固定シ三角巾ヲ以テ頸ニ釣リ又ハ健側ノ手ヲ以テ支ヘシムルコト。

骨折部位肘關節ニ近キ場合ハ特ニ肘關節ヲ屈スルコトヲ爲サズ成ルベク其ノ儘ノ位置ニテ固定ヲ行フヲ可トスルコト。

金網製副木ヲ有スル場合ハ之ヲ適當ナル角度ニ曲ゲ上肢ノ外側ニ沿ヒテ當テ上膊ト前膊トヲ同時ニ固定スレバ一層可ナルコト。（第七圖參照）

第七圖

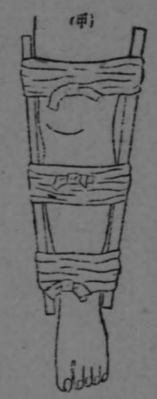
(2) 下肢ノ骨折

下肢ノ骨折ニ於テハ一般ニ膝關節ヲ伸シタル位置ニテ固定スルコト。

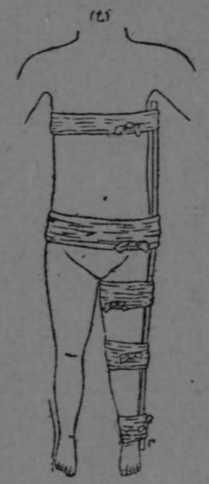
下腿骨折ハ單ニ副木ヲ當テテ固定スレバ充分ナルモ（第八圖（甲）參照）大腿ノ骨折ハ骨折端ノ移動甚シキ場合多キヲ以テ取扱ニ注意ヲ要シ、疼痛ヲ輕減セシムル爲ニ股關節及膝關節ニ於テ多少屈曲セル儘固定スルヲ可トスル場合アルコト。

然レ共一般ニ足部ヨリ腋窩ニ達スル副木ヲ外側ニ當テ繃帶ヲ數ケ所ニ施スヲ必要トス。（第八圖（乙）參照）

第八圖



第八圖



第八圖

健側ノ下肢ヲ副木ノ代用トシテ用ヒ兩下肢ヲ繃帶ニテ卷キ第八圖（丙）參照）又ハ運搬臺上ニ於テハ骨折部ノ兩側ニ數個ノ砂囊ヲ置キ固定スルモ可ナルコト。

三、「ショック」

(イ) 症　狀

甚シキ外傷ヲ蒙リタル際ニハ突然虛脫狀態ニ陷ルコトアリ。之ヲ「ショック」ト謂フ。其ノ症狀ハ急ニ卒倒シ、顏面蒼白或ハ「チアノーゼ」（紫菫色）ヲ呈シ、冷汗ヲ流シ、四肢厥冷、瞳孔散大、眼ハ凝視シ、脈搏ハ微弱ニ或ハ不整トナリ、體溫低下シ呼吸ハ淺表トナル。意識ハ混濁スルコトアリ、其ノ他吃逆、嘔吐、糞便ノ失禁等ヲ起シ、心力恢復セザル時ハ死亡ス。時ニハ又之ト反對ニ興奮シテ輾轉反側シ苦悶狀ヲ呈スル場合モアリ。

(ロ) 傷者處置法

重症外傷者ハ傷者ヲ慰メ外界ノ刺戟ヲ去リ、骨折アル者ニハ副木等ヲ用ヒテ疼痛ノ緩解ヲ圖リ、出血アル者ハ止血ヲ行ヒ、又溫カキ茶、「コーヒー」等ヲ與ヘ、出來得レバ鎭痛劑及强心劑ノ注射ヲ行ヒ、創口ニハ滅菌「ガーゼ」或ハ昇汞「ガーゼ」等ヲ當テ繃帶ヲ施シタル後可及的速ニ救護所ニ送ルコト。

運搬ニ際シテハ頭部ヲ低ク下ゲ保溫ニ注意シ毛布等ヲ以テ溫ク身體ヲ包ミ懷爐又ハ湯「タンポ」等ヲ以テ溫メツツ靜ニ輸送スルコト。

四、火　傷

(イ) 救　出　法

人ヲ火中ヨリ救出セントスルトキハ先ヅ自己ノ着衣ヲ水ニ濡ラシ頭部ト頸部トニハ濡レタ布ヲ纏フコト。

着衣ノ燃燒シツツアル者ヲ發見シタルトキハ速ニ之ヲ地上ニ倒シ被服或ハ布團等ヲ以テ覆ヒ消スベク、疾走セシメザルコト。

（ロ）傷者處置法

消火シタル後ハ着衣ヲ更メシメ火傷ノ感染ヲ防ク

皮膚ニ衣類膠著シテ脱却困難ナル箇所ハ强テ之ヲ剝離スルコト。但

重大傷ヲ負ヒタル者ハ火傷部ニ達ルベク「ガーゼ」ヲ當テ繃帶

繃帶ヲ施シ速ニ救護所ニ送致スルコト。此ノ際消又ハ風ハ一本毎ニ

ベク、水疱ヲ發生セル者ハ之ヲ破ラザル樣注意スルコト

繃帶ヲ施シタル後「オレーフ」油等ノ油

剤ヲ塗布シタル後「ガーゼ」及油紙ニ「ガーゼ」ヲ當テ繃帶

ヒ繃帶ヲ施スコト。

附――燒ニ因ル火傷

（イ）症狀

燒ニ因ル火傷ハ通常ノ火傷症狀ノ他ニ特ニ後術法シキヲ特徴トス。

（ロ）傷者處置法

先ヅ燃燒スル衣類ヲ速ニ脱セシメ、皮膚ニ附着シテ燃燒スル燒

ハ土砂、鹽附ノ類ヲ以テ消止ムルコト。此ノ際水ヲ用ヒテ消火

シ又ハ素手ニテ燒ニ觸レザル樣注意スルコト。

消火後ヲ以テ局所ヲ温キ重曹水（五%）ヲ以テ充分洗滌シツツ

「ピンセット」等ヲ以テ燒片ヲ除去シタル後温潤ノ火傷ニ到ス

ル處置ヲ爲スコト。

五、瓦斯部

（一）毒瓦斯

甲「イペリット」

（イ）作用及ビ症狀

「イペリット」ハ液狀及ビ氣狀ニ於テ作用ス。

液狀ハ皮膚ニ接觸シ直ニ作用スレバ皮膚ニ附着スルモ

其子油樣臭ヲ有スルモ潜效性ナル上ニ皮膚ニ附着スルモ

容却ハ何等ノ刺戟性ヲ以テ即刻發見スルコト困難ナル

場合アリ。

液狀「イペリット」ハ皮膚ニ直接附着シタル場合ハ勿論衣

服ニ附着シタル場合ニモ之ヲ透過シテ皮膚ニ達シ數時間ヲ

經テ局所ニ紅斑ヲ發生ス。紅斑ハ時ノ經過ト共ニ漸次著

明トナリ十數時間ノ後ニ於テ水疱ニ變ズ。紅斑發生ノ

前後ヨリ局所ニ樣々ナ感ジ次第ニ灼熱感ト後術ヲ伴フニ至

ル。水疱ハ治癒後慢ナル上ニ設法シ易キヲ以テ二次感染ヲ

起シ易ク感染スレバ更ニ治癒ヲ困難ラシム。

治癒スレバ傷痕ニ暗褐色ノ色素沈著ス。

小滴眼ニ入レバ數十分ヲ經テ灼熱感起リ眼瞼腫脹シ後術ヲ

發ス。更ニ進メバ眼ノ强度ノ浮腫、結膜ノ腫脹充血ヲ來

シ角膜ハ混濁シ眼ヨリ多量ノ分泌物ヲ流出スルニ至リ强度

ノ羞明ト眼瞼痙攣ヲ伴フ。早期ニ治療ヲ施サザレバ失明ス

ベシ。

胃腸モ亦傷害ヲ蒙リ惡心、胃部ノ後術、嘔吐等ヲ起ス。

陰部ニ附着スレバ浮腫ヲ生ジ、排尿不能ニ陷ルコトアリ。

氣狀「イペリット」ノ作用ハ液狀ノ場合ニ比シテ劣ルレド

モ略々類似シテ皮膚ニ潮紅ヲ來シ時ニ水疱ヲ形成スルコ

トアリ。皮膚ノ潤潤セル部位、特ニ頸部、腋窩、陰嚢部等

侵サレ易シ。

眼ニ作用スレバ液狀ノ場合ト似タル症狀ヲ呈シ作用後二一

三時間ヲ經テ一時視力ヲ失スルコトアリ。

呼吸器ニ對シテ作用スレバ咳嗽、嗄聲、胸部緊迫感等ヲ起

シ甚シキ場合ハ肺ニ傷害ヲ與フ。胃腸モ亦記ノ胃腸症狀

ヲ呈ス。

（ロ）判　　斷

前記ノ諸症狀ニ依ル。

「ルイサイト」傷トノ判別ハ「ルイサイト」ノ項參照ノコト。

（ハ）防　禦　法

眼、明頭及脚ニ對シテハ防毒面ヲ、皮膚ニ對シテハ防毒衣、防

毒手袋及防毒靴ヲ着用スルコト。

〔注意〕

(1) 右ノ防毒具ヲ總テ着用シテ防禦ヲ爲スヲ完全防毒ト稱シ其

ノ一部ヲ裝着シテ防禦ヲ爲スヲ略防毒ト稱ス。

防禦法トシテハ完全防毒ヲ爲スヲ原則トスルモ情況ニヨリ略

防毒ヲ用フルコトヲ得。

(2) 「イペリット」汚毒ノ虞アル作業ニ從事シタル後排尿ヲ爲ス

場合其他手指ヲ皮膚ニ觸ルル場合ニハ兼メ必ズ晒粉泥（晒粉

三水二ノ程度ニ混合セルモノ）ヲ以テ手指ヲ除毒スルコト。

(3) 汚毒物品ハ後來更ニ汚毒ノ源泉トナルヲ以テ適宜ナル除毒

法ヲ施スカ或ハ焼却スベキコト。

（ニ）傷者處置法

「イペリット」ノ除毒ハ可及的速ナルコトヲ要スルヲ以テ原則

トシテ被害者各自ニ未ノ除毒法（註）ヲ行ハシメ衛員ハ必要ナ

ル際ニ除毒所ニテ行フ處置ヲ施ズスルコト。但シ除毒ハ被害後

一――二時間迄ハ何等ノ有害ヲ輕減スル效果アルヲ以テ之ヲ行フコ

ト。即チ傷害ヲ蒙リタル度アル者ハ窒息瓦斯傷者ト同樣猛毒者

トシテ取扱ヒ救護所ニ運搬スルコト。

重キ眼傷害ヲ蒙リタル者及皮膚ニ水疱ヲ發生セル者ハ救護所ニ

於テ治療ヲ受ケシムルコト。

〔註〕除毒法

除毒ハ成ルベク五分間以内ニ行フヲ原則トスルコト。

被毒セル被服ハ速ニ之ヲ脱却スルコト。

液狀「イペリット」皮膚ニ附着セル場合ハ速ニ吸水紙或ハ

綿布等ニテ拭ラザル樣ニシテ吸取ルコト。拭ル時ハ却テ被

毒面ヲ擴大スル虞アリ。之等汚毒物品ハ凡テ除毒後中ニ投

ズルカ又ハ危險ナキ場所ニ埋沒或ハ焼却スルコト。

此ノ際素手ニテ取扱ハザルコト。

毒液ヲ吸取リタル後次ノ處置ハ何レカヲ爲スコト。

(1) 晒粉泥ヲ約十分間摩擦セズニ塗布シ置キ、次デ水ヲ以テ洗

滌スルコト。

(2) 「クロラミン液」（一〇―二〇%）ヲ以テ充分洗滌スルコト。

(3) 過「マンガン酸カリ」四分、瓦性「マグネシア」六分ニ少

量ノ水ヲ混ジタルモノヲ塗布シ五分間放置シタル後、水又ハ

温湯ヲ以テ洗滌シ（石鹸ヲ使用スレバ更ニ可ナリ）反覆消拭

スルコト。

多量ニ被毒セル場合ニハ石鹸ノ他ニ更ニ除毒所ニ至リ「カ

リ」石鹸ヲ使用シ「シャワー」又ハ流水ニテ完全ニ洗滌ス

ルコト。（温湯ヲ用フレバ更ニ可ナリ）

晒粉泥等ヲ使用シ得ザル際ニハ局所ヲ「カリ」石鹸ノミニテ

洗滌スルカ或ハ石油「ベンヂン」、「アルコール」等ヲ以テ拭

浄スルモ相當效果アリ。

眼ハ大量ノ重曹水（二%）又ハ過「マンガン酸カリ」液（四

千倍水溶液）ヲ以テ反覆洗滌スルコト。其ノ後爲シ得レバ「アルカリ」性眼軟膏（催涙瓦斯ノ項參照）ヲ塗布スレバ更ニ可ナルコト。

鼻、口腔等ハ重曹水（二%）ヲ以テ洗滌又ハ含嗽スルコト

〔注意〕晒粉ハ決シテ眼ニ使用セザルコト。

氧狀「イペリット」ニ侵サレタル場合ニモ概ネ右ニ準ジテ處置スルコト。

乙「ルイサイト」

（イ）作用並ニ症狀

「ルイサイト」ノ作用ハ「イペリット」ニ似タレドモ「イペリット」ニ比シ症狀ノ發現速ニシテ經過亦稍々短シ。「イペリット」ト同樣液狀及氧狀ニテ作用ス。

「ルイサイト」ハ刺戟性强ク天竺葵樣ノ特臭ヲ放チ液狀ノモノ皮膚ニ作用スレバ直ニ局所ニ灼熱感若ハ疼痛ヲ發シ間モナク皮膚ハ潮紅ヲ呈シ凡ソ十時間以内ニハ水疱ヲ發生ス。早期ニ除毒ヲ行ハザレバ壞疽ノ吸收中毒ヲ招タ虞アリ。

眼ニ入レバ直ニ灼熱感ヲ伴フ刺戟症狀ヲ現シ間モナク流涙、羞明、疼痛、眼瞼浮腫等ヲ來サシメ除毒ノ時期ヲ失スレバ失明スルコトアリ。

鼻、咽喉、肺、胃腸其他ニ對シテモ早期ニ「イペリット」ト同樣ノ作用ヲ現ス。

氧狀「ルイサイト」ニ因ル傷害モ略々前記ト類似ニシテ其ノ度稍々輕シ。

（ロ）判　斷

前記ノ諸症狀ニ依ル。

〔註〕「ルイサイト」ハ刺戟性强キガ故ニ「ルイサイト」傷ヽ「イペリット」傷ニ對比シテ次ノ特徴ヲ有ス。

(1) 特異ノ刺戟性天竺葵樣臭氣アルコト。

(2) 被毒部ニ灼熱的疼痛ヲ伴フコト。

(3) 症狀ノ發現速ナルコト。

（ハ）防　禦　法

「イペリット」ト同樣ナリ。

（ニ）傷者處置法

「イペリット」ニ於ケルト同樣被毒者各自ニ除毒ヲ爲サシムルヲ以テ原則トス。

其他凡テ「イペリット」ニ準ジテ行フコト

〔註〕除　毒　法

「イペリット」ニ於ケルト殆ド同樣ニ爲スコト。但シ「イペリット」ニ於ケルヨリモ一層迅速ニ行フ必要アルコト。

又晒粉泥及水等ニテ除毒シタル後更ニ苛性「ソーダ」溶液（三%）又ハ硼酸銀溶液（一%）ニテ拭淨スレバ一層效果アルコト。

（二）窒息瓦斯

（イ）作用並ニ症狀

窒息瓦斯ハ氧體トシテ作用シ氣管粘膜殊ニ肺胞ヲ刺戟シテ炎症ヲ起サシメ肺水腫ヲ來シテ窒息死ニ至ラシムル作用ヲ有ス

「ホスゲン」及「ヂホスゲン」ハ其ノ代表的ナルモノニシテ鹽化「ピクリン」ハ窒息性ト同時ニ强キ催涙性アリ。

「ホスゲン」及「ヂホスゲン」ハ濃度稀薄ナルトキハ刺戟性少ク遲效性ニシテ之ヲ吸入スルモ長時間何等障害ヲ自覺セザル場合アリ。此ノ潛伏期ヲ經テ激シキ咳嗽、胸内苦悶等ヲ訴ヘ次デ呼吸促迫且淺表トナリ惡心、嘔吐起リ口ヨリ泡沫性漿液ヲ出シ顏貌蒼白、脈搏亦頻數トナリ强度ノ呼吸困難、心臟衰弱ニ陷リ屢々卒然トシテ死亡ス。

反之濃厚ナルモノヲ吸入セル時ハ速效性ニシテ前記ノ症狀急速ニ發現シ傷者ハ早期ニ虚脱ニ陷リテ數時間ニシテ死亡ス。

鹽素及鹽化「ピクリン」ハ粘膜ニ對スル刺戟性ヲ有スル爲吸入ヲ制限セラレ從テ潛後ハ比較的良好ナリ。其ノ症狀ハ前記ト大ナル差異ナシ。

（ロ）判　斷

鹽素ハ晒粉樣ノ刺戟臭アルコト及烈シク咽喉ヲ刺戟シテ咳嗽發作ヲ起スコトニヨリ、又鹽化「ピクリン」ハ燃ゲ臭キ特有ノ刺戟臭アルコト、咳嗽ヲ發セシムルコト及催涙作用强キコトニ依リテ判斷スルコトヲ得。

「ホスゲン」ハ腐レル林檎又ハ堆肥樣ノ特臭アリ、又「ヂホスゲン」ハ酢梅樣ノ甘キ酸性ノ刺戟臭アルモ共ニ弱ク低濃度ニ於テ作用シタル場合ハ認知困難ニシテ不識ノ間ニ多量ニ吸入サル虞アリ。斯ル場合ニハ症狀ノ發現モ遲キガ故ニ早期ニ判斷スルコト困難ナリ。

（ハ）防　禦　法

防毒面裝著ニ依リテ防禦シ得。

（ニ）傷者處置法

窒息瓦斯傷者ニトリテ最モ必要ナルハ安靜ナルヲ以テ本瓦斯ヲ吸入セルコト明カナルトキハ未ダ元氣アリト雖モ傷者自ラ大聲ヲ發シ或ハ自力歩行又ハ疾走シテ救護所ニ至ルガ如キコトハ嚴ニ之ヲ禁ジ必ズ救護班ニ於テ擔架其他ノ運搬具ヲ以テ靜ニ輸送スベキコト。

運搬時ニ於ケル傷者ノ姿勢ハ原則トシテ仰臥位ヲトラシメ、口鼻ヨリ漿液流出スル場合ハ流出ヲ容易ナラシムル樣顏面ヲ側方ニ向ケシムルコト。若シ仰臥位運搬不可能ナル場合ハ已ムヲ得ザル處置トシテ坐位ヲトラシムルコト。

次ニ傷者ノ保溫ニ注意シ運搬ニ際シテハ毛布等ヲ以テ身體ヲ包ミ懷爐、湯「タンポ」等ヲ入レ更衣等ハ寧ロ行ザルヲ可トスルコト。其他溫キ飲料ヲ與フルコトモ大ニ效果アリ。

傷者ハ結局呼吸困難ヲ伴フヲ以テ常ニ顏面ニ注意シ「チヤノーゼ」發現ノ徴アルニ至ラバ携帶用酸素吸入器ヲ以テ酸素吸入ヲ行ヒ速ニ醫師ノ治療ニ委託スルコト。

窒素瓦斯特ニ「ホスゲン」及「ヂホスゲン」ヲ吸入セル疑アル者ト雖モ爾後測リ難キヲ以テ自宅其ノ他適當ナル場所ニ於テ臥床セシメ保溫ニ注意シ少クトモ數時間ハ經過ヲ觀察スル必要アルコト。而シテ若シ肺傷害ノ徴發現シタル際ハ酸素吸入ヲ行ヒ醫師ノ治療ヲ受クルコト。

窒息瓦斯傷者ニ對シ人工呼吸ヲ行フハ禁忌トス。

（三）催涙瓦斯

（イ）作用並ニ症狀

催涙瓦斯ハ極メテ微量ニテ直ニ眼ヲ刺戟スル作用ヲ有シ稀薄ナルトキハ暫時流涙ヲ催スノミナレドモ濃度大ナルトキハ眼痛、眼瞼痙攣、結膜充血等ヲ起シテ一時的ニ視力障碍ヲ來サシメ更ニ咽喉痛、胸内灼熱感等輕度ノ呼吸器傷害ヲモ起スコトアリ。然レドモ其ノ作用ハ卽效的ナルト共ニ一

時的ニシテ人體ニ對シ永久的傷害ヲ與ヘズ。故ニ瓦斯圏内ヲ脱出スレバ一—二時間ニシテ症狀自然ニ消失ス。

本瓦斯ノ種類中鹽化「アセトフエノン」ハ皮膚ヲ刺戟シテ輕度ノ潮紅ヲ來サシムルコトアリ。

（ロ）判　斷

瓦斯ノ作用ナクシテ直ニ流涙其他ノ眼症狀ヲ呈スルコトニ依リ判斷容易ナリ。但シ他ノ瓦斯ト混合使用セラルル場合アルヲ以テ注意ヲ要ス。

（ハ）防禦法

防毒面ヲ著用スレバ豫防シ得。

（ニ）傷者處置方

單ナル催涙瓦斯攻擊タルコト明カナル場合ハ特別ナル處置ヲ要セザレドモ、必要アラバ應急處置所ニ於テ重曹水（二%）、生理的食鹽水等ヲ以テ洗眼スルコト。

已ムヲ得ザル場合ハ單ナル清水ヲ以テ洗眼スルモ可ナルコト。

能フレバ洗眼後硝子棒ヲ以テ「アルカリ」性眼軟膏ヲ結膜ニ塗布スレバ更ニ可ナルコト。

「アルカリ」性眼軟膏處方

重硼砂	一•〇
重曹	二•〇
脱水ラノリン	一〇•〇
水	一〇•〇
ワセリン	八〇•〇

（四）「クシヤミ」瓦斯

（イ）作用並ニ症狀

「クシヤミ」瓦斯ハ鼻、咽喉部等ノ上部氣道及ビ眼ノ粘膜ヲ刺戟スル作用ヲ有シ作用後症狀發現ニ至ル迄ニ數分間ノ潛伏期アリ。故ニ防毒面ヲ裝備シタル後ニ症狀發現若ハ増惡スル場合アリ。

其ノ症狀ハ鼻、咽喉部ノ灼熱的疼痛ニ始リ、嗅嚏頻發シ鼻汁、唾液ノ分泌増加シ顔ニ「クシヤミ」ヲ發ス。又前頭部ノ疼痛及ビ頭部ノ壓迫感、胸内苦悶等ヲ起シ或ハ耳ノ壓迫感、顎部及ビ齒牙ノ疼痛等ヲ發スルコトアリ。又時ニハ初期ヨリ嘔吐ヲ起ス場合アリ。傷者ハ著シキ苦悶狀ヲ呈ス。

然レドモ之等ノ諸症狀ハ凡ソ一時間後ニハ殆ド全ク消失シ人體ニ永久的傷害ヲ貽サズ。

（ロ）判　斷

症狀發現迄ニ多少ノ潛伏期アルコト。前期ノ諸症狀及ビ特異ノ刺戟臭アルコトニ依リ判斷容易ナリ。

（ハ）防禦法

防毒面ヲ著用スルコト。

著シキ苦悶狀ヲ呈スルモ瓦斯圏内ニ在ル間又ハ身體被服ニ附著セル瓦斯ヲ發散セシムル迄ハ防毒面ヲ脱セザルコト。

（ニ）傷者處置法

應急處置所ニ於テ重曹水（二%）ヲ以テ吸入、洗眼、含嗽ヲ行フコト。

「メントール」或ハ「オイカリプツス」油ヲ混ジタル蒸氣ノ吸入、熱キ「コーヒー」ノ飲用又ハ小量（湯呑ミ一杯位）ノ晒粉ヲ嗅グコトモ有效ナルコト。

次ノ嗅劑ノ使用ハ最モ效果的ナルコト。

嗅劑處方

アルコール	四〇•〇
クロロホルム	四〇•〇
エーテル	一五•〇
アンモニア	五•〇

右ヲ脱脂綿ニ浸シテ嗅グコト。

（五）中毒瓦斯

甲　一酸化炭素

（イ）作用並ニ症狀

一酸化炭素ハ無色、無臭、無刺戟性ノ瓦斯ニシテ之ヲ吸入スレバ血液中ニ入リ血色素ト結合シ其ノ量一定度ヲ超ユレバ中毒ヲ起ス。

本瓦斯ハ甚ダ稀薄ナルトキハ長時間吸入スルモ殆ド危險ナク、從テ屋外ニ於テハ中毒ノ危險少シ。

又日本家屋ノ火災ニ於テハ完全燃燒ノ爲一酸化炭素ヲ發生スルコト少キガ故ニ中毒ノ危險少シ。

反之「ビルヂング」等ノ屋内又ハ特ニ多量ノ一酸化炭素ノ發生スル場合ハ危險大ナリ。例ヘバ爆彈炸裂セル「ビルヂング」等ノ屋内、火災ヲ發セル右屋内、熔鑛爐ヲ有スル工場内、石炭瓦斯爆發時ノ炭坑内及可燃性窒眞「フイルム」燃燒時等ニ於テハ中毒ノ危險大ナリ。

其ノ症狀ハ極メテ輕症ニ於テハ單ニ頭痛ヲ訴フルノミナレドモ夫以上ノ場合ニ於テハ頭痛、耳鳴、眩暈、心悸亢進、四肢ノ脱力、惡心、嘔吐等ヲ來シ起立又ハ歩行困難トナル更ニ進メバ嗜眠或ハ意識不明ノ狀態ニ陥リ呼吸ハ緩徐且不規則トナリ、特ニ痙攣ヲ伴フコトアリ、皮膚殊ニ顔面、胸部等ノ皮膚ハ紅潮ヲ呈スルコト多シ。

重症ナル者ハ右ノ如キ假死ノ狀態ヨリ漸次死ニ移行スルモ輕症者ハ新鮮ナル空氣中ニ搬出スレバ漸次覺醒ス。

（ロ）判　斷

前記諸症狀ノ外、一酸化炭素中毒ノ發生シ得ベキ四圍ノ狀況、眼結膜及上氣道ノ刺戟症狀ヲ缺除スルコト等ニ依ルコト。但シ實際ノ場合ニ於テハ他ノ刺戟性ノ煙ヲ伴フコト多キヲ以テ刺戟症狀ヲ呈スルコトアリ。

（ハ）防禦法

酸素呼吸器ヲ裝著スルコト。普通ノ防毒面ニテハ濾過不充分ナリ。

（ニ）傷者處置法

傷者ハ直ニ之ヲ瓦斯圏内ヨリ新鮮ナル空氣中ニ搬出スルコト。

搬出シタル後ハ傷者ヲ空氣ノ流通ヨク且能フレバ温キ場所ニ臥床セシメ、毛布等ヲ以テ保温シ速ニ人工呼吸ヲ施シテ呼吸ノ恢復ニ努ムルコト。尚能フレバ酸素吸入ヲ行フコト（自動呼吸器ヲ使用スレバ一層可ナリ）同時ニ醫師ニ通報シテ治療ヲ受クルコト。

其ノ他意識ヲ覺醒セシムル爲ニハ「アンモニア」ノ嗅氣、足裏ノ摩擦、顔面ニ對スル冷水灌注等ヲ試ミルコト。

乙　青　酸

（イ）作用並ニ症狀

青酸瓦斯ハ無色ニシテ巴旦杏又ハ苦扁桃油ニ似タル弱キ臭ヲ有スル甚ダ揮發シ易キ氣體ニシテ主トシテ肺ヨリ吸收セ

ラレ全身細胞ニ作用シ呼吸麻痺ニ陥ラシムルモノナリ。
低濃度ニ於テ作用スレバ頭痛、眩暈、胸部緊迫感、脱力感、悪心、嘔吐、呼吸困難、痙攣等ヲ起シ、脈搏頻数、意識不明トナリ一時間乃至数時間ニシテ死亡ス。
濃度大ナル場合ハ傷者ハ叫聲ヲ發シテ痙攣ヲ起シ殆ド瞬間ニ死シ、死斑ハ紅色ヲ呈ス。
本瓦斯ハ斯ク猛毒ナレ共甚ダ稀薄ナルモノハ一酸化炭素ト同樣長時間吸入スルモ何等ノ障碍ヲ來タサザル特殊ノモノナリ。
（ロ）判　斷
前記諸症狀ニ依ルコト。
（ハ）防　禦　法
防毒面裝著ニ依リテ防禦シ得。
（ニ）傷者處置法
一酸化炭素ノ場合ト同樣傷者ヲ直ニ瓦斯圏外ニ搬出シ人工呼吸、酸素吸入其ノ他ノ處置ヲ行フコト。

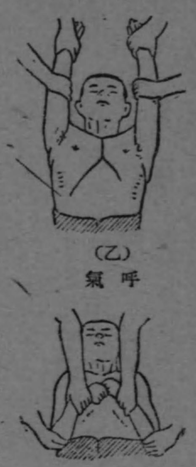
附　人工呼吸法

（イ）準備操作
人工呼吸法ヲ行フニハ通風ヨク且成ルベク温キ場所ヲ選ブコト。毛布、蒲團等アラバ之ヲ敷キ其ノ上ニ患者ヲ仰臥セシムルコト。患者ノ着用スル衣類洋服ナル場合ハ上衣、チョッキ、襯衣等ノ釦ヲ外シ、必要アラバ之ヲ脱シ、洋袴ツリ、ベンド等ハ外シ或ハ弛メ、和服ナル場合ハ帶ヲ解キ、和服ノ上半身ヲ脱ガシムル等凡デ呼吸運動ヲ妨グルモノヲ除去スルコト。但シ常ニ患者ノ保温ニ留意シ、過度ニ身體ヲ裸出スルコトヲ避ケ、假令胸部ヲ露出スルモ下半身ハ被服、毛布等ヲ以テ包ム樣注意スルコト。

第九圖（甲）吸氣
（一人ニテ行フ場合）

次ニ脱シタル被服又ハ蒲團等ヲ疊ミテ高サ約十糎、幅約二十糎以上ノ枕ヲ作リ之ヲ脊ノ下ニ心窩ヲ中心トシテ置キ胸部ヲ高ク頭部ヲ低クスルコト。
失神セル患者ニ在リテハ患者ノ口ヲ開キ（兩手ノ示指、中指ヲ患者ノ下顎ノ角ニ、拇指ヲ頤ノ兩側ニ當テ兩拇指ヲ以テ下顎ヲ喉ノ方ニ押シテ）木片ノ類ヲ口角ヨリ入レテ奥齒ニ咬マシメ置キ、示指ト拇指トニ手拭ノ類ヲ捲キテ舌ヲ操ミ出シ、布片、紐等ニテ頤ニ括リ附ケ、或ハ舌ヲ簪ノ如キ二本ノ棒ニテ挾ミ、兩側ヲ縛リ、棒ノ端ニテ頬ニ支ヘ口ヨリ出シ置クコト。
（ロ）人工呼吸操作
救助者ハ患者ノ頭ノ端ニ跪キ兩手ヲ以テ患者ノ前膊ヲ夫々肘關節ノ近クニテ外側ヨリ掴ミ上方ニ開ク如クシ救助者ノ兩脚外側ニ持チ來リ患者ノ胸廓ヲ開カシメ此ノ位置ニテ約二秒間休ムコト。（吸氣運動　第九圖（甲）參照）

第十圖
（甲）吸氣



次ニ擧ゲタル上肢ヲ患者ノ胸ノ上ニ卸シ患者ノ上膊ニテ胸廓ヲ强ク壓迫スルコト。（呼氣運動　第九圖（乙）參照）
救助者二人アルトキハ交代ニ之ヲ行ヒ又ハ患者ノ兩側ニ坐リ其ノ側ノ上肢ヲ掴ミ此ノ運動ヲ行フモ可ナルコト。（第十圖（甲）（乙）參照）
以上ノ動作ヲ一分間約十二回ノ割合ヲ以テ繰返シ續行シ自然ノ呼吸運動恢復シ來ル迄三十分乃至一時間持續スルコト。暫キ自然ノ呼吸運動起リ來ラバ注意シツツ手柔ニ之ヲ補助シ略々正常ノ呼吸ニ復スルニ至リテ止ムコト。

六　傷者ノ運搬

傷者ノ運搬ハ運搬距離及周圍ノ狀況等ニ應ジ自動車、擔架及手運ビ等ノ方法ニ依ルコト。
擔架及手運ビニ依ル運搬ハ近距離ノ運搬ニ限リ、遠距離ノ運搬ニハ自動車ニ依ルコト。
運搬ニ際シテハ傷者ニ別表樣式ニ依ル傷者票ヲ附スルコト。
（一）擔架ニ依ル法
擔架ハ一個二名ノ擔當トシ之ニ豫備擔架手一名ヲ附スルコト。豫備擔架手ハ傷者用防毒面、携帶用酸素吸入器等ヲ携行シ必要ノ際之ヲ傷者ニ裝着スルコト。
又進路上ノ障碍物ヲ除去シテ擔架ノ進行ヲ容易ナラシムルニ努ムルコト。
傷者ハ足部ヲ前方ニ、頭部ヲ後方ニシテ擔架上ニ仰臥セシメ、運搬中後部擔架手ハ絶エズ傷者ノ顔貌及全身狀態ニ對シ注意ヲ怠ラザルコト。
糜爛瓦斯傷者運搬ノ際ニハ豫メ擔架ニ油布又ハゴム引布等ヲ敷クコト。
使用後ハ其ノ都度敷キタル布及擔架ノ除毒ヲ行フ樣注意スルコト。
（二）手運ビ法
甲　一人ニテ運ブ法
(1) 負ヒ方

第十一圖

運搬者ハ傷者ノ前ニ脊ヲ向ケテ片膝ヲ地ニ著ケ傷者ヲシテ兩上肢ヲ自己ノ肩ニ掛ケシメ兩手ニテ傷者ノ腿ヲ支ヘ負フコト。（第十一圖參照）
〔注意〕帶、卷脚袴等ノ長キ布片ヲ傷者ノ腰ニ纏ヒ其ノ端ヲ自己ノ胸部ニテ結ビ扶ケ支フレバ運搬容易ナルコト。
(2) 抱キ方
運搬者ハ傷者ニ向ヒテ其ノ一側ニ立チ傷者ノ足ニ近キ方ノ